

久上
々原
戸Ⅲ
遺遺
跡跡
(3)(2)

上原Ⅲ遺跡(2) 久々戸遺跡(3)

ハ ッ 場 ダ ム 建 設 工 事 に 伴 う
埋 蔵 文 化 財 発 掘 調 査 報 告 書 第 50 集

埋 蔵 文 化 財 発 掘 調 査 報 告 書 第 50 集
ハ ッ 場 ダ ム 建 設 工 事 に 伴 う

二〇一七

国 土 交 通 省
公 益 財 団 法 人 群 馬 県 埋 蔵 文 化 財 調 査 事 業 団



2017

国 土 交 通 省
公 益 財 団 法 人 群 馬 県 埋 蔵 文 化 財 調 査 事 業 団

上原Ⅲ遺跡(2) 久々戸遺跡(3)

ハッ場ダム建設工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書第50集

2017

国 土 交 通 省
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団



1 上原Ⅲ遺跡 全景(調査区東部から中央部にかけて) 上から



2 久々戸遺跡 遠景(写真中央が調査地点、調査地の左側に国道145号線、右側に吾妻川とJR長野原草津口駅) 東から

口絵 2



1 久々戸遺跡 1号住居 全景 北から



2 久々戸遺跡 天明泥流下畑 B区全景 南東から

序

八ツ場ダムは、治水・利水・発電を行う多目的ダムとして計画され、吾妻郡長野原町を中心に関連工事が進められています。八ツ場ダム関連の建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査は、当事業団が平成6年度から実施し、本年度で23年目を迎えました。

本書で報告します上原Ⅲ遺跡はダムができる吾妻川の左岸に位置し、平成27年度に発掘調査を実施した遺跡です。以前には、隣接する北・南側を長野原町教育委員会が平成23年度、西側を当事業団が平成25年度に発掘調査を実施し、平安時代の集落が発見されています。今回の調査でも、縄文時代から古代にかけての住居や土坑が発見されました。

久々戸遺跡は吾妻川右岸に位置し、平成27年度から平成28年度に発掘調査を実施した遺跡です。これまでも、平成7年度から平成15年度にかけて数次の発掘調査を実施し、天明三年(1783年)の浅間山大噴火に伴う泥流に埋まった畑や草津路等を報告してきましたが、今回の調査でその全体像がほぼ明らかとなりました。本地域における近世の畑作農耕を知る上で、貴重な資料として今後の研究に役立つものと確信しております。また、縄文時代、弥生時代、そして古代の遺構も新たに発見されていますが、特に、縄文時代の柄鏡形敷石住居はその遺存状態が極めて良好で、移築保存されることとなりました。

発掘調査から報告書の刊行に至るまで、国土交通省八ツ場ダム工事事務所、群馬県教育委員会、長野原町教育委員会をはじめ、関係する機関や地元関係者の皆様には、多大なご指導・ご協力を賜りました。本報告書の上梓にあたり、関係者の皆様に心から感謝申し上げますと共に、本書が歴史研究の資料として広く活用されますことを願い、序といたします。

平成29年3月

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
理事長 中野 三智男

例 言

1. 本書は、八ッ場ダム建設工事に伴い発掘調査された、上原Ⅲ遺跡・久々戸遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 上原Ⅲ遺跡は、群馬県吾妻郡長野原町大字林字上原1269、1270、1271に所在する。
久々戸遺跡は、群馬県吾妻郡長野原町大字長野原字久々戸1327-1、1341-3、1342-1、1342-2、1342-3、1343-1、甲1343-3、1343-4、1343-5、1345-1、1345-4、丁1346、1346-15、甲1347、乙1347、丙1347、1347-4、1348、1354-1、丁1360、乙1355、甲1355、1360-14、1358に所在する。
3. 事業主体は、国土交通省関東地方整備局である。
4. 調査主体は、公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団である。
5. 各遺跡の発掘調査期間と調査面積、調査体制は、次の通りである。

上原Ⅲ遺跡

調査委託契約履行期間	平成27年4月1日～平成28年3月31日
発掘調査期間	平成27年9月1日～平成27年9月30日
発掘調査面積	380㎡
発掘調査担当	麻生敏隆(上席専門員)、大西雅弘(上席専門員)
遺跡掘削工事請負	測研・技研コンサル・瑞穂建設吾妻地区埋蔵文化財遺跡掘削工事経常共同企業体
地上測量委託	株式会社 測研

久々戸遺跡

調査委託契約履行期間	平成27年度 平成27年4月1日～平成28年3月31日 平成28年度 平成28年4月1日～平成29年3月31日
発掘調査期間	平成27年度 平成27年7月1日～平成27年12月31日 平成28年度 平成28年4月1日～平成28年4月30日、平成28年7月1日～平成28年7月30日
発掘調査面積	9,522㎡ 平成27年7月1日～平成28年4月30日調査：9,040㎡ 平成28年7月1日～平成28年7月30日調査：482㎡
発掘調査担当	平成27年度 関 俊明(主任調査研究員)、小林茂夫(主任調査研究員) 平成28年度 関 俊明(主任調査研究員)、千明 隼(調査研究員)
遺跡掘削工事請負	平成27年7月～平成27年12月：シン技術・毛野・山下吾妻地区埋蔵文化財遺跡掘削工事経常共同企業体 平成28年4月～平成28年7月：シン技術・毛野・山下吾妻地区埋蔵文化財遺跡掘削工事経常共同企業体
地上測量委託	株式会社 測研

6. 整理事業の期間と体制は、次の通りである。

上原Ⅲ遺跡

整理委託契約履行期間	平成28年4月1日～平成29年3月31日
整理期間	平成28年4月1日～平成28年5月31日
整理担当	佐藤元彦(専門調査役)

久々戸遺跡

整理委託契約履行期間	平成28年4月1日～平成29年3月31日
整理期間	平成28年4月1日～平成28年9月30日
整理担当	津島秀章(資料2課長)、谷藤保彦(上席専門員)

7. 本書作成の担当者は、次の通りである。

編集担当 佐藤元彦、津島秀章、谷藤保彦

本文執筆 上原Ⅲ遺跡：佐藤元彦、久々戸遺跡：谷藤保彦

遺物写真・観察表 石器・石製品：津島秀章(資料2課長)、縄文土器・弥生土器：石坂 茂(専門調査役)、土師器・須恵器：神谷佳明(専門調査役)、陶磁器：大西雅広(上席専門員(総括))、金属器：関 邦一(補佐(総括))

デジタル編集 齋田智彦(主任調査研究員)

保存処理 関 邦一

8. 石材の同定は、飯島静男(地質学者・群馬地質研究会)に依頼した。
9. 発掘調査および報告書の作成にあたり、群馬県教育委員会事務局文化財保護課、長野原町教育委員会事務局のご指導とご助言を得た。
10. 発掘調査の記録資料と出土遺物は、群馬県埋蔵文化財調査センターで保管している。

凡 例

1. 本書で使用した座標値および方位は、日本測地系、平面直角座標系第IX系を用い、座標北で示した。調査対象範囲は、上原Ⅲ遺跡においてはX=61068～61096、Y=-103476～-103532の範囲、久々戸遺跡においてはX=60624～60744、Y=-105600～-105820の範囲に収まる。
2. 等高線・遺構断面図等に記した数値は、海拔標高を示す。
3. 遺構図・遺物図については、各挿図中にスケールを添付したが、原則下記の縮尺で掲載した。また、遺物写真の縮尺は、実測図と同一の縮尺を原則とした。

遺構図： 遺構全体図1/150 1/500 1/1000 住居1/60 炉・カマド1/30 土坑・ピット1/30 1/40
畑1/200 1/30 円形平坦面 1/80 石垣1/100 道1/50 1/100 1/200 1/400
溝1/40 1/200 ヤックラ1/60 1/200

遺物図： 縄文・弥生土器1/3 1/4 1/6 土師・須恵器1/3 石器・石製品1/1 1/3 1/4 1/8
陶磁器1/2 1/3 1/4 金属製品類1/1 1/2

4. 遺物の掲載は、種別に限らず遺構毎に通し番号とした。
5. 図中で使用したスクリーントーンおよびマークは、各図毎に表示を示した。

赤色塗彩



石器磨面



6. 遺構の計測は、全容が計測できない遺構について残存値()で表記してある。
なお、畑の計測では、畝間から隣の畝間までの間を畝間間隔として計測した。
7. 本遺跡で検出された畑の畝間を埋めているAs-A(浅間A軽石)は、天明三(1783)年の浅間山噴出軽石の略である。また、「天明泥流」あるいは「泥流」は、天明三年新暦8月5日の浅間山噴火に伴う泥流堆積物の略称である。
8. 遺物観察表での表現および記載法は、以下の通りである。
 - ・遺物観察表は遺構毎とし、その章の後ろに纏めて掲載した。
 - ・遺物計測位置の表現は、陶磁器類は口径：口、底径：底、器高：高、高台径：台と略記し、他の遺物についても長さ：長、幅：厚さ：厚、高さ：高、外径：径、孔径：孔、重さ：重と略記した。
 - ・計測値の単位はcmとし、重量はgで表記している。
 - ・欠損した遺物の計測値には、()で現存値を記した。
9. 本書で使用した地形図は下記の通りである。
国土地理院：地形図 1:50,000「草津」(平成11年発行)

目次

口絵

序

例言

凡例

目次

挿図目次・表目次・写真目次

第1章 ハッ場ダム発掘調査の 経緯・方法と歴史的環境

- 第1節 ハッ場ダム発掘調査の経緯…………… 1
- 第2節 調査の方法—調査区の設定—…………… 2
- 第3節 歴史的環境…………… 4

第2章 上原Ⅲ遺跡

- 第1節 調査に至る経緯と経過…………… 10
 - 第1項 調査に至る経緯
 - 第2項 調査の経過
- 第2節 調査の方法…………… 10
 - 第1項 調査区とグリッドの設定
 - 第2項 発掘調査の方法
- 第3節 遺跡の立地と基本土層…………… 12
 - 第1項 遺跡の立地
 - 第2項 基本土層
- 第4節 検出された遺構と遺物…………… 14
 - 第1項 遺跡の概要
 - 第2項 遺構と遺物
 - 1 竪穴住居 2 竪穴遺構 3 土坑・ピット
 - 4 埋設土坑 5 焼土遺構 6 溝
 - 7 遺構外出土の遺物
- 第5節 調査の成果(総括)…………… 27

第3章 久々戸遺跡

- 第1節 調査に至る経緯と経過…………… 29
 - 第1項 調査に至る経緯
 - 第2項 調査の経過

- 1 発掘調査の経過 2 整理事業の経過
- 第2節 調査の方法…………… 30
 - 第1項 調査区とグリッドの設定
 - 第2項 発掘調査の方法
- 第3節 遺跡の立地と基本土層…………… 34
 - 第1項 遺跡の立地
 - 第2項 基本土層
- 第4節 検出された遺構と遺物…………… 37
 - 第1項 縄文時代～古代(第2面調査)
 - 1 概要 2 竪穴住居 3 土坑
 - 4 ピット 5 遺構外出土遺物
 - 第2項 天明泥流下の遺構と遺物(第1面調査)
 - 1 概要 2 畑 3 円形平坦面
 - 4 段差・石垣 5 道遺構 6 溝
 - 7 ヤックラ 8 遺構外出土遺物
- 第5節 調査の成果(総括)…………… 138
 - 第1項 柄鏡形敷石住居について
 - 第2項 天明泥流下の遺跡全体像
 - 第3項 まとめ

報告書抄録

写真図版

挿図目次

第1図	遺跡位置図	1	第42図	土坑 平・断面図7	62
第2図	調査区の設定	3	第43図	土坑 平・断面図8	63
第3図	周辺遺跡位置図	9	第44図	土坑 平・断面図9	64
〈上原Ⅲ遺跡〉					
第4図	上原Ⅲ遺跡調査範囲・周辺地形図	11	第45図	土坑出土遺物1	65
第5図	基本土層模式図	12	第46図	土坑出土遺物2	66
第6図	上原Ⅲ遺跡全体図	13	第47図	遺構外出土遺物1	70
第7図	1号竪穴住居1	14	第48図	遺構外出土遺物2	71
第8図	1号竪穴住居2と出土遺物1	15	第49図	第1面(As-A泥流下)遺構全体図	78
第9図	1号竪穴住居出土遺物2	16	第50図	第1面(As-A泥流下)畑区画(境)図	79
第10図	1号竪穴遺構と出土遺物	17	第51図	第1面(As-A泥流下)道、段差・石垣配置図	80
第11図	2号竪穴遺構	18	第52図	畑 平面図割図	81
第12図	3号竪穴遺構	18	第53図	畑 平面図1・断面図	100
第13図	4号竪穴遺構	19	第54図	畑 平面図2	101
第14図	11、12号土坑と11号土坑出土遺物	19	第55図	畑 平面図3	102
第15図	13～15号土坑	20	第56図	畑 平面図4	103
第16図	16～18号土坑	21	第57図	畑 断面図	104
第17図	19～21号土坑	22	第58図	畑 平面図5	105
第18図	22～25号ピット	23	第59図	畑 平面図6	106
第19図	1号埋設土坑と出土遺物	24	第60図	畑 平面図7	107
第20図	1、2号焼土遺構、2号溝、遺構外出土遺物1	25	第61図	畑 断面図	108
第21図	遺構外出土遺物2	26	第62図	畑 断面図	109
第22図	6区1号住居合成図	27	第63図	畑 平面図8	110
第23図	上原Ⅲ遺跡遺構分布全体図	28	第64図	畑 平面図9	111
〈久々戸遺跡〉					
第24図	久々戸遺跡位置図・周辺地形図	31	第65図	畑 平面図10・断面図	112
第25図	年次別調査範囲図・グリッド設定図	33	第66図	畑 平面図11・断面図	113
第26図	基本土層およびトレンチ配置図	36	第67図	畑 土層断面図1	114
第27図	第2面(縄文・弥生時代) 遺構全体図	39	第68図	畑 土層断面図2	115
第28図	1号住居 全体図・土層断面図	41	第69図	円形平坦面 平・断面図1	121
第29図	1号住居 本体部詳細図	43	第70図	円形平坦面 平・断面図2	122
第30図	1号住居 張出し部詳細図	44	第71図	1号石垣 平面・立面・断面図1	123
第31図	1号住居 使用別礎設置状況図	45	第72図	2号石垣 平面・立面・断面図2	124
第32図	1号住居 炉微細図(上)敷石下部柱穴土層断面図(下)	46	第73図	1・2号道 平面図	126
第33図	1号住居 敷石下部構造平・断面図	47	第74図	3号道 平・断面図	127
第34図	1号住居 出土遺物1	48	第75図	4・5号道 平・断面図	128
第35図	1号住居 出土遺物2	49	第76図	1・2号溝 平・断面図	130
第36図	土坑 平・断面図1	56	第77図	ヤックラ 平・断面図	132
第37図	土坑 平・断面図2	57	第78図	遺構外出土遺物	133
第38図	土坑 平・断面図3	58	第79図	周辺遺跡における中期後葉～後期前葉の住居変遷(1)	140
第39図	土坑 平・断面図4	59	第80図	周辺遺跡における中期後葉～後期前葉の住居変遷(2)	141
第40図	土坑 平・断面図5	60	第81図	周辺遺跡における中期後葉～後期前葉の住居変遷(3)	142
第41図	土坑 平・断面図6	61	第82図	長野県小諸市三田原遺跡7号竪穴住居	143
			第83図	久々戸遺跡における道と畑作地	145
			第84図	明治6年の久々戸遺跡周辺絵図	146

表目次

〈上原Ⅲ遺跡〉		第12表	7号土坑出土遺物観察表	74
第1表	ハッ場ダム建設に伴う調査遺跡一覧	第13表	9号土坑出土遺物観察表	74
第2表	周辺遺跡一覧表	第14表	12号土坑出土遺物観察表	74
第3表	1号竪穴住居出土遺物観察表	第15表	16号土坑出土遺物観察表	74
第4表	1号竪穴遺構出土遺物観察表	第16表	33号土坑出土遺物観察表	75
第5表	11号土坑出土遺物観察表	第17表	57号土坑出土遺物観察表	75
第6表	1号埋設土坑出土遺物観察表	第18表	遺構外出土遺物観察表(縄文～古代)	75
第7表	遺構外出土遺物観察表	第19表	畑一覧表	134
〈久々戸遺跡〉		第20表	円形平坦面一覧表	135
第8表	土坑一覧表	第21表	道一覧表	136
第9表	ピット一覧表	第22表	ヤックラ一覧表	136
第10表	1号住居出土遺物観察表	第23表	遺構外出土遺物観察表(近世)	137
第11表	4号土坑出土遺物観察表			

写真目次

口絵 1	1	上原Ⅲ遺跡	全景(調査区東部から中央部にかけて)	上から
	2	久々戸遺跡	遠景(写真中央が調査地点、調査地の左側に国道145号線、右側に吾妻川とJR長野原駅)	東から
口絵 2	1	久々戸遺跡	1号住居	全景 北から
	2	久々戸遺跡	天明泥流下畑	B区全景 南東から
〈上原Ⅲ遺跡〉				
				7 1号住居 P-1(敷石際)南から
				8 1号住居 P-1(敷石下)南から
				9 1号住居 P-1(掘り方)南から
PL. 1	1	上原Ⅲ遺跡遠景	南東上空から	
	2	1号竪穴住居全景	南西から	PL. 13 1 1号住居 P-2(敷石際)南西から
	3	1号竪穴住居カマド全景	南西から	2 1号住居 P-2(敷石下)南西から
	4	1号竪穴住居カマド土層断面B-B'	南西から	3 1号住居 P-2(掘り方)南西から
	5	1号竪穴遺構全景	南東から	4 1号住居 P-3(敷石際)北西から
PL. 2	1	2号竪穴遺構全景	北東から	5 1号住居 P-3(敷石下)北西から
	2	3号竪穴遺構全景	東から	6 1号住居 P-3(掘り方)北から
	3	4号竪穴遺構全景	南西から	7 1号住居 P-4(敷石際)東から
	4	11号土坑全景	南から	8 1号住居 P-4(敷石下)東から
	5	12号土坑全景	南東から	9 1号住居 P-4(掘り方)北東から
	6	13号土坑全景	南東から	10 1号住居 P-5(敷石際)東から
	7	14号土坑全景	南から	11 1号住居 P-5(敷石下)南東から
	8	15号土坑全景	南東から	12 1号住居 P-5(掘り方)南東から
PL. 3	1	16号土坑全景	南西から	13 1号住居 P-6 南から
	2	17号土坑全景	南東から	14 1号住居 P-7 南から
	3	18号土坑全景	南東から	15 1号住居 P-7(掘り方)南から
	4	19号土坑全景	南東から	PL. 14 1 A区2面 土坑群全景 東から
	5	20号土坑全景	南東から	2 B区2面北側 土坑群全景 南東から
	6	21号土坑全景	南東から	PL. 15 1 1号土坑 南東から
	7	22号ピット土層断面	南西から	2 2号土坑 南西から
	8	23号ピット全景	南から	3 3号土坑 南西から
PL. 4	1	24号ピット全景	南から	4 4号土坑 南東から
	2	25号ピット全景	南東から	5 5号土坑 西から
	3	1号埋設土坑遺物出土状態	南東から	6 6号土坑 西から
	4	1号埋設土坑全景	南東から	7 7号土坑 北西から
	5	1号焼土遺構全景	南東から	8 8号土坑 南から
	6	2号焼土遺構全景	東から	9 9号土坑 南東から
	7	2号溝全景	南西から	10 12号土坑 遺物出土状態 南西から
PL. 5		上原Ⅲ遺跡出土遺物		11 12号土坑 西から
〈久々戸遺跡〉				
PL. 6	1	調査区 遠景	北から	12 13号土坑 南から
	2	調査区 遠景	西から	13 14号土坑 南西から
PL. 7	1	B区2面 調査区全景	北西から	14 15号土坑 東から
	2	B区2面 1号住居全景	北から	PL. 16 1 16号土坑 遺物出土状態 東から
PL. 8	1	1号住居 全景	北東から	2 16号土坑 東から
	2	1号住居 全景	南東から	3 18号土坑 南西から
PL. 9	1	1号住居 全景	北西から	4 20号土坑 東から
	2	1号住居 全景	南西から	5 21号土坑 西から
PL. 10	1	1号住居 床敷石除去後	南西から	6 22号土坑 南西から
	2	1号住居 下部構造全景	南西から	7 24号土坑 西から
PL. 11	1	1号住居 敷石状況と石棒出土状態	東から	8 25号土坑 南から
	2	1号住居 土器出土状態	西から	9 26号土坑 北から
	3	1号住居 張出し部西側壁(崩落状況)	東から	10 27号土坑 北から
	4	1号住居 張出し部西側壁(床石除去前)	東から	11 28号土坑 西から
	5	1号住居 張出し部西側壁状況	南東から	12 42号土坑 礫出土状態 南西から
	6	1号住居 張出し部先端壁状況	南から	13 43号土坑 南西から
	7	1号住居 張出し部西側壁(床石除去後)	北から	14 46号土坑 北東から
	8	1号住居 張出し部西側壁(床石除去後)	南から	PL. 17 1 47号土坑 南から
PL. 12	1	1号住居 張出し部から続く入口部石列	北西から	2 48号土坑 北東から
	2	1号住居 張出し部から続く入口部石列	北から	3 51号土坑 北から
	3	1号住居 張出し部先端と入口部石列	東から	4 52号土坑 北西から
	4	1号住居 入口部石列	南東から	5 53号土坑 西から
	5	1号住居 炉	東から	6 54号土坑 東から
	6	1号住居 副炉	東から	7 55号土坑 南西から
				8 56号土坑 北西から
				9 57号土坑 南西から

	10	58号土坑	南から		9	6号円形平坦面	東から			
	11	60号土坑	東から		10	7号円形平坦面	北東から			
	12	61号土坑	南から		11	12号円形平坦面	北東から			
	13	62号土坑	南から		12	13号円形平坦面	北東から			
	14	63号土坑	北から		13	19号円形平坦面	西から			
	15	64号土坑	西から		14	21号円形平坦面	東から			
PL. 18	1	A区1面	調査区全景	北から	15	22号円形平坦面	南西から			
	2	A区1面	As-A泥流下畑全景	上空から	PL. 25	1	23号円形平坦面	南東から		
PL. 19	1	B区1面	調査区全景	北から	2	26号円形平坦面	東から			
	2	B区1面	As-A泥流下畑全景	上空から	3	27号円形平坦面	東から			
PL. 20	1	C区1面	As-A泥流下畑全景	北西から	4	28号円形平坦面	東から			
	2	C区1面	As-A泥流下畑全景	上空から	5	32号円形平坦面	西から			
PL. 21	1	9号畑	検出状況	北東から	6	33号円形平坦面	南から			
	2	15号畑	畝(畝間)端部	北から	7	35号円形平坦面	東から			
	3	上段畑(20~24号畑)検出状況	南東から	8	36-1号円形平坦面	北西から				
	4	上段畑(20号畑)・下段畑(27号畑)検出状況	北から	9	43号円形平坦面	南西から				
	5	20号畑	土層断面	南西から	10	46号円形平坦面	北東から			
	6	K8-5・21号畑	検出状況	南から	11	49号円形平坦面	北西から			
	7	37・38号畑	畑境	南西から	12	K8-5号円形平坦面	南西から			
	8	44・45号畑	検出状況	北東から	PL. 26	1	上段畑(1・4・5号畑)と下段畑(6~9・16号畑)との段差	北東から		
PL. 22	1	47号畑	作業痕	北西から	2	上段畑と下段畑との段差	東から			
	2	48号畑	検出状況	南西から	3	段差石垣状況(1号石垣)	北東から			
	3	K8-1・51号畑境	検出状況	東から	4	段差に伴う柵列(2号柵列)	西から			
	4	K8-2・51・52号畑境	検出状況	東から	PL. 27	1	上段畑(20・24・26・4号畑)と下段畑(27・28・33・30・16・6号畑)との段差	西から		
	5	K8-5・22号畑	検出状況	南東から	2	上段畑と下段畑との段差	東から			
	6	K8-5・22号畑	畑境	南西から	3	段差石垣状況(2号石垣)	北東から			
	7	5号畑	畝・畝間土層断面	南から	4	2号石垣状況(東側)	北東から			
	8	6号畑	畝・畝間土層断面	北から	5	2号石垣状況(西側)	北東から			
	9	8号畑	畝・畝間土層断面	北から	PL. 28	1	3号道	東から		
PL. 23	1	9号畑	畝・畝間土層断面	北から	2	4号道	北東から			
	2	10号畑	畝・畝間土層断面	東から	3	5号道	北東から			
	3	12号畑	畝・畝間土層断面	北から	4	21・23号畑	畑境	北東から		
	4	22号畑	畝・畝間土層断面	西から	5	1・2号溝	南西から			
	5	23号畑	畝・畝間土層断面	南西から	6	1・2号溝に伴う杭列	南西から			
	6	26号畑	畝・畝間土層断面	東から	7	2号ヤックラ	西から			
	7	29号畑	畝・畝間土層断面	南西から	8	3号ヤックラ	南から			
	8	30号畑	畝・畝間土層断面	西から	PL. 29	1	H28年度調査	1面	As-A泥流下畑全景	西から
	9	31号畑	畝・畝間土層断面	西から	2	H28年度調査	1面	As-A泥流下畑全景	上空から	
	10	32号畑	畝・畝間土層断面	南から	PL. 30	1	36・54号畑	検出状況	南東から	
	11	35号畑	畝・畝間土層断面	東から	2	50号畑	検出状況	東から		
	12	37号畑	畝・畝間土層断面	西から	3	36・52・53号畑	検出状況	南東から		
	13	38号畑	畝・畝間土層断面	東から	4	55号畑	検出状況	東から		
	14	45号畑	畝・畝間土層断面	東から	5	36-2号円形平坦面	南東から			
	15	46号畑	畝・畝間土層断面	東から	6	52号円形平坦面	南東から			
PL. 24	1	47号畑	畝・畝間土層断面	西から	7	3号道・3号ヤックラ	東から			
	2	48号畑	畝・畝間土層断面	東から	8	第2面遺構確認トレンチ	東から			
	3	K8-5号畑	畝・畝間土層断面	南東から	PL. 31	久々戸遺跡出土遺物				
	4	1号円形平坦面	東から	PL. 32	久々戸遺跡出土遺物					
	5	2号円形平坦面	東から	PL. 33	久々戸遺跡出土遺物					
	6	3A号円形平坦面	北東から	PL. 34	久々戸遺跡出土遺物					
	7	3B号円形平坦面	東から							
	8	4号円形平坦面	北東から							

第1章 ハッ場ダム発掘調査の経緯・方法と歴史的環境

本報告書は、群馬県吾妻郡長野原町に所在する上原Ⅲ遺跡、久々戸遺跡の発掘調査報告書である。両遺跡ともハッ場ダム建設に関連する発掘調査によるもので、上原Ⅲ遺跡は長野原町林地区、久々戸遺跡は同町長野原地区にある。ここでは、両遺跡に共通する調査に至る経緯と周辺遺跡、調査区の設定方法を述べる。各遺跡の調査経過や調査方法については、各章で遺跡ごとに記載する。

第1節 ハッ場ダム発掘調査の経緯

ハッ場ダム建設に伴う埋蔵文化財の発掘調査は、建設省関東地方建設局(現国土交通省関東地方整備局)と群馬県教育委員会、長野原町教育委員会、吾妻町教育委員会(現東吾妻町教育委員会)が協議し、平成6年3月18日「ハッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財調査の実施に関する協定書」を建設省関東地方建設局と群馬県教育委員会の両者で締結し、発掘調査事業の実施計画が決定された。同年4月1日、関東地方建設局長と群馬県教育委員会教育長との間で発掘調査受託契約を締結し、同日同教育長と群馬県埋蔵文化財調査事業団理事長の両者で発掘

調査委託契約が締結され、調査が開始された。

調査当初は、工事用進入路建設に先立つ小規模調査が先行したが、平成10年度以降、工事用進入路が徐々に整い、住民の生活再建の施設としての学校建設や住宅地造成、国道・県道建設工事に伴う発掘調査が増加し、広大な面積が対象となった。長野原久々戸遺跡や尾坂遺跡などでは江戸時代の天明泥流の下一面に広がる畑が、また長野原一本松遺跡や横壁中村遺跡などでは縄文時代中・後期の大集落が発掘調査されてきた。

また、平成26年度以降は、水没地区の発掘調査が対象となり、再度、広域な面積を対象とした発掘調査が進められている。

本書に記載する2遺跡は、小規模な町道や造成地を対象とし、上原Ⅲ遺跡は平成27年度、久々戸遺跡は平成27・28年度の発掘調査である。



第1図 遺跡位置図 (国土地理院5万分の1地形図「草津」使用)

第2節 調査の方法—調査区の設定—

平成6年から始まったハッ場ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査においては、遺跡名称の略号やグリッドの設定などについて「ハッ場ダム関連埋蔵文化財発掘調査方法」に基づき進められている。

1. 遺跡名称の略号(遺跡番号)

ハッ場ダムの略称はYD、次に長野原町の大字5地区に、1：川原畑地区、2：川原湯地区、3：横壁地区、4：林地区、5：長野原地区と区分し、さらに各地区に所在する遺跡の調査順に番号を付すこととなっている。したがって、林地区での調査である上原Ⅲ遺跡はYD4-24となり、長野原地区の調査である久々戸遺跡はYD5-03となる。

2. グリッドの設定

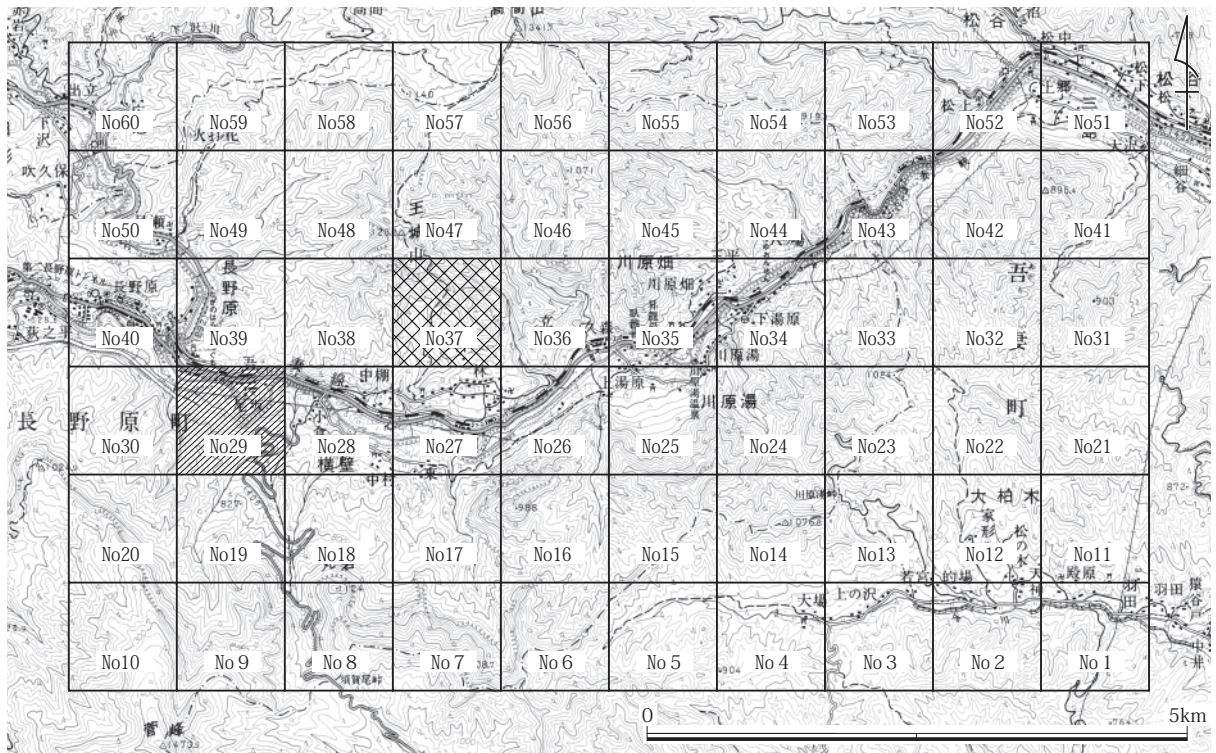
グリッドの設定は、平面直角座標系(昭和四十三年十月十一日建設省告示第三千五十九号)第Ⅸ系を使用し、東吾妻町大字大柏木付近を基点(座標値: X=58000.0、Y=-97000.0)として、北西方向に60区画の1km方眼を設定し大グリッド(地区)としている。久々戸遺跡は29地区・上原Ⅲ遺跡は37地区とした大グリッドに位置する。

大グリッド(地区)内を100m方眼により100分割して中グリッド(区)とし、大グリッドの南東隅を基点とし中グリッドの番号を付与している。さらに、この中グリッド(区)内を4m方眼により625分割し、中グリッドの南東隅を基点として、東西軸に対し東から西へA～Y、南北軸に対し南から北へ1～25を付し、最小グリッドとした。また、大グリッドの境界が調査区を通らないときは、大グリッドの番号を省略し、中グリッドと小グリッドを「6区H-20」のように表記した(第2図)。遺構名称については、中グリッド毎の遺構名称を基本としている。

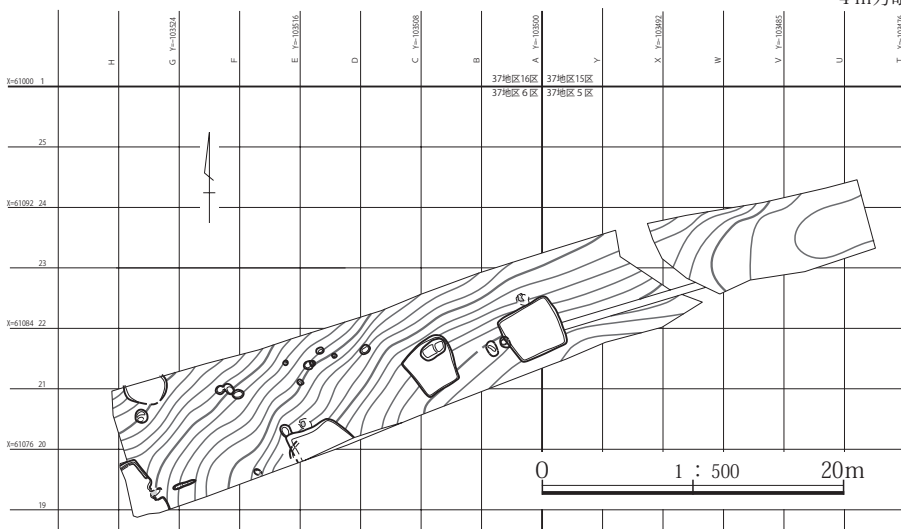
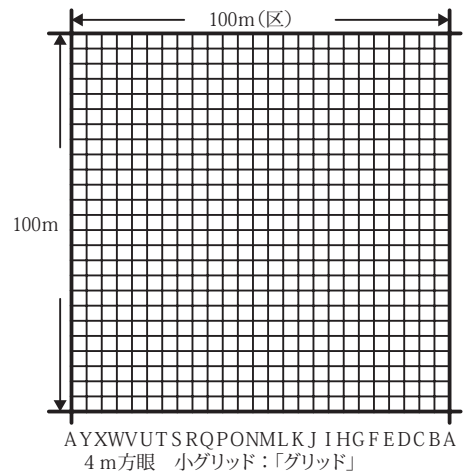
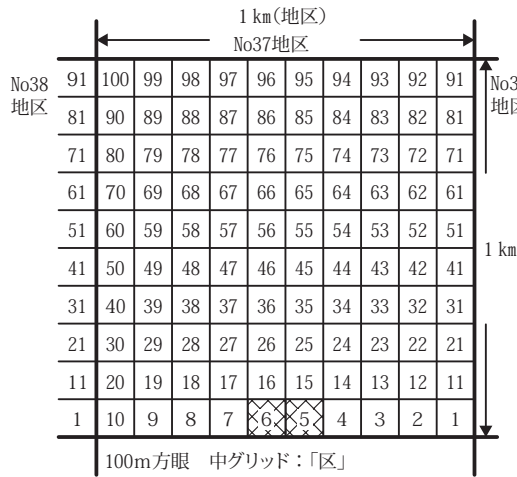
なお、調査区の設定方法については、「第2章 第2節発掘調査方法」『長野原一本松遺跡(1)』2002(財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団)に詳しい。

第1表 ハッ場ダム建設に伴う調査遺跡一覧

所在大字	YD番号	遺跡名	調査年度(平成)
川原畑	YD 1 01	—	
	YD 1 02	東宮	9、19～21、26～28
	YD 1 03	石畑	10
	YD 1 04	三平Ⅰ	16、17、24、25
	YD 1 05	二社平	10、28
	YD 1 06	三平Ⅱ	16
	YD 1 07	上ノ平Ⅰ	18、19、28
	YD 1 08	西宮	20、26～28
	YD 1 09	西宮岩陰	26
川原湯	YD 2 01	川原湯勝沼	9、15、16、28
	YD 2 02	西ノ上	14、27
	YD 2 03	石川原	20、26～28
	YD 2 04	下湯原	27、28
横壁	YD 3 01	横壁勝沼	
	YD 3 02	西久保Ⅰ	10、12
	YD 3 03	横壁中村	8～18
	YD 3 04	山根Ⅲ	13、18
	YD 3 05	西久保Ⅳ	21、23
林	YD 4 01	下田	7、25、26、28
	YD 4 02	—	
	YD 4 03	上原Ⅰ	24
	YD 4 04	—	
	YD 4 05	花畑	10～12
	YD 4 06	楡木Ⅲ	10
	YD 4 07	中棚Ⅱ	11～13、16、17、28
	YD 4 08	下原	12、13、15、16
	YD 4 09	楡木Ⅱ	11～13、16、17
	YD 4 10	二反沢	12
	YD 4 11	立馬Ⅰ	13、14、17
	YD 4 12	立馬Ⅱ	14
	YD 4 13	上原Ⅳ	15、21
	YD 4 14	林中原Ⅰ	16、19～21
	YD 4 15	林中原Ⅱ	16、20、21
	YD 4 16	上原Ⅱ	16
	YD 4 17	林の御塚	
	YD 4 18	立馬Ⅲ	19
	YD 4 19	東原Ⅰ	20
	YD 4 20	東原Ⅱ	20
	YD 4 21	東原Ⅲ	20、21
	YD 4 22	楡木Ⅰ	21
	YD 4 23	林宮原	24、27
	YD 4 24	上原Ⅲ	25、27
長野原	YD 5 01	長野原一本松	6～10、12～17、19、20
	YD 5 02	尾坂	11、18～22、25、26、28
	YD 5 03	久々戸	7、9～11、15、27、28
	YD 5 04	幸神	8、9、14、17
	YD 5 05	長野原城跡	23
	YD 5 06	町遺跡	23～25
三島	YD 6 01	上郷B	13、14
	YD 6 02	上郷岡原	13～15、17、18
	YD 6 03	上郷A	15、19、20
	YD 6 04	上郷西	19
大柏木	YD 6	三島大沢	
	YD 7 01	廣石A	13
松谷	YD 7	大柏木上ノ沢	
	YD 8	松田前田	
岩下	YD 9	—	



No29地区 久々戸遺跡
 No37地区 上原Ⅲ遺跡
 1 km方眼 「地区」設定



第2図 調査区の設定

1 km方眼で区画された大グリッド(地区)の37地区に上原Ⅲ遺跡が、同じく29地区に久々戸遺跡が位置している(上段の図)。上原Ⅲでたとえば、37地区の5区と6区が今回の調査対象地点となる(中段左の図)。中段左図の100m方眼で区切られた中グリッド(区)の中を、中段右図のように4 m方眼で区切ったものが小グリッドとなる。下段に、上原Ⅲ遺跡を例にグリッドの設定例を示した。

第3節 歴史的環境

長野原町における遺跡調査の先駆けは、昭和29年に行われた勘場木遺跡であり、縄文時代中期後半の竪穴住居1軒が調査され、翌昭和30年に「勘場木石器時代住居跡」として県指定史跡となっている。

その後、昭和30年代後半から40年代にかけて分布調査が行われ、昭和53年には川原畑地区に所在する石畑岩陰遺跡で鉄道工事に伴う発掘調査が行われている。昭和62年からはハッ場ダム建設に関する埋蔵文化財詳細分布調査が、県および長野原町教育委員会(以下町教育委員会)によって行われ、183カ所の遺跡(包蔵地)が報告されている。

一方、町教育委員会による発掘調査が進められる中、平成6年からは、当事業団によるハッ場ダム建設に伴う発掘調査が開始され、長野原一本松遺跡(23)や、対岸の横壁中村遺跡(12)、久々戸遺跡(2)等々、これまでに多くの遺跡の発掘調査が実施されてきた。

周辺遺跡を概観するにあたり、第3図に周辺の主な遺跡位置を示し、第2表に一覧をまとめた。

1. 旧石器時代

吾妻郡内での旧石器時代の遺跡調査事例は極めて少なく、高山村に所在する新田西沢遺跡¹が知られているのみで、長野原町では柳沢城跡(25)²で細石器文化に伴うスクレイパーが出土しているに止まっている。

2. 縄文時代

吾妻川およびその支流沿岸の段丘面、特に中・上・最上位河岸段丘、丘陵部に遺跡が多く分布し、集落が展開する。

まず、草創期末から早期初頭にかかる遺跡として、表裏縄文・撚糸文土器を出土させた石畑I岩陰³がある。この石畑I岩陰は、該期土器研究の著名な遺跡であると共に、長野県湯倉洞窟との比較が興味深い。

早期前半では、撚糸文期の集落が確認された榆木II遺跡(30)⁴が知られ、他にも立馬I遺跡(49)⁵や立馬III遺跡(51)⁶等で撚糸文期・沈線文期の住居が検出されている。早期後半の条痕文系土器群の時期としては、立馬III

遺跡に住居がある。また、尾坂遺跡(3)¹⁹からも鶴ヶ島台式土器が出土している。

前期になると、初頭の花積下層I式期の集落として坪井遺跡⁷や上原I遺跡(40)^{8・13}、林中原II遺跡(44)⁹等があり、花積下層I式土器と共に長野県に標識遺跡をもつ塚田式土器が多量に共伴している。前葉の遺跡には暮坪遺跡¹⁰、長畝II遺跡¹¹、榆木II遺跡⁴等が知られ、二木式期～有尾式・黒浜式期の住居跡が検出されている。後葉の諸磯式期の住居跡を検出した遺跡には、林中原I遺跡(43)¹²、榆木II遺跡⁴等がある。

中期になると大集落が形成され、その活動は一段と増す傾向にある。初頭の五領ヶ台式期には榆木II遺跡⁴、上原II遺跡(41)¹³、立馬II遺跡(50)¹⁴、林中原II遺跡^{9・13}等があり、多くの土器が出土している。中葉から後葉にかけての集落遺跡には、横壁中村遺跡¹⁵、林中原II遺跡^{9・13}、幸神遺跡(24)¹⁶、上ノ平I遺跡(52)¹⁷等があり、阿玉台式・勝坂式土器や長野県で設定された焼町式土器が出土している。また、中期後半になると列石を伴う拠点集落が出現し、長野原一本松遺跡¹⁸、横壁中村遺跡¹⁵、林中原II遺跡^{9・13}、尾坂遺跡¹⁹、坪井遺跡²⁰等に代表され、加曽利E式土器と共に、長野県の郷土式土器を主とし、さらには近年再認識された新潟県から長野県にかけての栃倉式土器が共伴し、多量に出土している。特に、久々戸遺跡と尾坂遺跡は、吾妻川を挟んだ対岸の同一段丘面上に位置する。

後期の遺跡には、先の中期末から続く後期初頭・前葉の遺跡として、長野原一本松遺跡¹⁸、横壁中村遺跡¹⁵、林中原II遺跡⁹が代表され、列石や(柄鏡形)敷石住居、掘立柱建物、配石墓等の遺構が検出されている。また、上郷岡原遺跡(22)²¹では、柄鏡形敷石住居に後期初頭の称名寺II式土器と新潟県を主体とする三十稲場式土器が伴出。林中原I遺跡²²では、柄鏡形敷石住居に後期前葉堀之内2式の特異な釣手付き注口土器が出土している。一方、後期中葉以降の遺跡は少なく、横壁中村遺跡に住居が検出されているに止まり、他遺跡からの例は遺物のみの出土である。

晩期においても遺構の検出例は少なく、末葉の住居が検出されている遺跡に、立馬I遺跡⁵、横壁中村遺跡¹⁵が挙げられ、立馬I遺跡では長野県松本盆地に分布する女鳥羽川式土器が、川原湯勝沼遺跡(15)²³の土坑の1基

は壺棺再葬墓であることが知られている。なお、遺構外ではあるが、該期出土土器には長野県の氷式土器、東北地方の大洞式土器等も知られている。

3. 弥生時代

近年の調査で、中期前半までの遺跡が増加し、丘陵上や最上位河岸段丘に立地する傾向が強い。

中期前半までの遺跡には、坪井遺跡²⁴や林中原Ⅱ遺跡²⁵で住居や土坑が、長野原一本松遺跡¹⁸・尾坂遺跡¹⁹・上原Ⅰ遺跡¹³・向原遺跡(6)²⁷で土坑(再葬墓を含む)、横壁中村遺跡では東海地方の檜王式土器の甕が出土している。また、遺構外ではあるが、上ノ平遺跡からは纏まった資料が出土している。中期後半の遺跡としては、立馬Ⅰ遺跡⁵で住居と土坑(土器棺墓を含む)が検出されている。一方、後期の遺跡は、石畑遺跡(20)²⁸で土坑1基が検出されているのみである。

本書の久々戸遺跡においても、弥生時代中期初頭の土坑が検出されており、吾妻川を挟んだ対岸の尾坂遺跡との関係も興味深い。

4. 古墳時代

平成15年度以降の調査で、最上位段丘や中位段丘面に立地する集落の存在が明らかとなってきた。

上原Ⅰ遺跡¹³では、前期と考えられる住居が検出されている。5世紀後半から6世紀前半の住居は、林宮原遺跡(39)^{8・29}、下原遺跡(13)³⁰、上原Ⅳ遺跡(42)¹³で検出されている。また、川原湯勝沼遺跡²³からは、遺構外ではあるが剣形模造品が出土している。

5. 奈良・平安時代

奈良時代の遺跡としては、羽根尾Ⅱ遺跡が知られているのみで、近年の調査でも増加していない。その後の平安時代の遺跡は、調査によって数多く知られるところとなった。町教育委員会による調査では、坪井遺跡⁷、向原遺跡²⁷、長畝Ⅰ遺跡³²、長畝Ⅱ遺跡¹¹、林宮原遺跡^{8・29}、東原Ⅰ遺跡(46)³³、田通Ⅱ遺跡³⁴、上原Ⅰ遺跡¹³、上原Ⅲ遺跡(1)¹³、上原Ⅳ遺跡¹³、中棚Ⅰ遺跡(33)¹³、山岸Ⅱ遺跡³⁶といった各遺跡で、住居や土坑等の遺構が検出されている。また、八ッ場ダム関連で当事業団が調査した遺跡では、横壁勝沼遺跡(38)³⁷、花畑遺跡(45)³⁸、横壁中

村遺跡³⁹、西久保Ⅳ遺跡(10)⁴⁰、長野原一本松遺跡¹⁸、尾坂遺跡¹⁹、立馬Ⅰ遺跡⁵、楡木Ⅰ(29)⁴⁰・Ⅱ遺跡⁴¹、下原遺跡³⁰、三平Ⅰ遺跡(54)⁴²、上ノ平Ⅰ遺跡¹⁷、川原湯勝沼遺跡²³、上郷岡原遺跡⁴³の各遺跡、さらに本書の上原Ⅲ遺跡で、住居や掘立柱建物・土坑等の遺構が検出されている。なお、町教育委員会による上原Ⅲ遺跡¹³の調査は、本書上原Ⅲ遺跡の南北両側に位置し、数多くの遺構が検出されると共に、鍛冶遺構を伴う住居が検出されている。これら多くの遺跡は、9世紀後半から10世紀前半に位置づけられる住居が主体をなし、三平Ⅰ遺跡や尾坂遺跡においても鍛冶工房や鍛冶関連遺物を伴う住居がある。中でも楡木Ⅱ遺跡は、住居38棟および竪穴遺構3基が検出され、「長」・「三家」の墨書土器、刻字「称」の石製紡錘車が出土している。また、上ノ平Ⅰ遺跡からは、皇朝十二銭「貞観永寶」が出土して注目されている。

6. 中世

吾妻川流域は、中世城館跡が多い地域として、県内でも知られている。著名な城郭には、吾妻川と利根川の合流点に位置する白井城、東吾妻町の吾妻川左岸に位置する岩櫃城とその周辺に内出城、稲荷城、高野平城、岩下城、根小屋城等の城跡が点在する。さらに、長野原町には羽根尾城、長野原城(8)¹²、林城¹²、丸岩城、柳沢城²といった城跡が吾妻川の両側に点在する。なお、林中原Ⅰ遺跡として調査された範囲内に、掘立柱建物群を含む林城の一部が検出されている。

一方、城郭とは別に、掘立柱建物や土坑、土坑墓といった遺構も近年の調査で明らかとなってきている。これらの遺構が検出された主な遺跡には、上郷岡原遺跡⁴³、楡木Ⅱ遺跡⁴¹、三平Ⅱ遺跡(55)⁴²、東原Ⅲ遺跡(48)⁴⁴、横壁中村遺跡³⁹、長野原一本松遺跡¹⁸等が挙げられ、横壁中村遺跡からは屋敷跡が確認されている。

7. 近世

まず、天明三年(1783年)の浅間山噴火に伴う泥石流被害を受けていない遺跡として、近年の八ッ場ダム関連の調査において、最上位段丘面に立地する泥石流被害を受けていない江戸時代の遺構を検出している。長野原地区に位置する長野原一本松遺跡¹⁸で掘立柱建物9棟、幸神遺跡¹⁶で畑が検出されている。林地区では、楡木Ⅰ

第1章 ハッ場ダム発掘調査の経緯・方法と歴史的環境

遺跡⁴⁰で礎石建物や石垣をもつ屋敷跡が、東原Ⅲ遺跡⁴⁴で江戸時代後期の礎石建物、二反沢遺跡(32)⁴⁵で天明三年以降の畑が検出されている。さらに、川原畑地区では、上ノ平Ⅰ遺跡¹⁷に16基の墓塚が検出されている。

次に、泥流被害を受けた遺跡であるが、長野原町内では、昭和55年に吾妻川右岸でのグラウンド造成中に日待供養塔・石臼・農具等が泥流中から出土し、旧新井村跡(5)⁴⁷の痕跡が確認された。町教育委員会による調査では、平成14年度に当時の分限者小林助右衛門の屋敷である小林家屋敷跡(4)⁴⁸が調査され、礎石建物・土蔵・石垣が検出されている。また、平成16年には、標高602m、吾妻川との比高差34mにある嶋木Ⅰ遺跡(9)⁵¹の調査で、泥流下に畝間が浅間A軽石で埋もれた畑が検出されている。同年、長野原市街地における下水工事で、建築部材・薬缶・鉄釜・石臼、他に青面金剛塔が泥流中から出土し、旧長野原村が壊滅的な被害を受けた一端を垣間見せている。平成19年には標高596mにある久々戸遺跡⁵⁰の調査で畑が、平成23年にはJR羽根尾駅の南側に位置し、標高667mにある小滝Ⅱ遺跡⁴⁹の試掘調査で畑が検出されている。

さらに、ハッ場ダム関連の調査では、吾妻川左岸に位置する町遺跡(7)⁵⁰で、泥流下の建物と泥流下に畝間が浅間A軽石で埋もれた畑、町遺跡に近接する白砂川右岸に位置する長野原城A区とした地点¹²でも同様の畑が検

出されている。こうした泥流下の建物や屋敷は、同じ左岸の尾坂遺跡^{46・52}、下田遺跡(14)⁵⁵、西宮遺跡(17)、東宮遺跡(18)⁵⁶で検出されており、右岸に位置する石川原遺跡(16)では寺院と想定される遺構も確認されている。そして、泥流下に畝間が浅間A軽石で埋もれた畑が検出されている遺跡には、吾妻川左岸に位置する尾坂遺跡^{46・52}、中棚Ⅱ遺跡(11)^{53・54}、下原遺跡⁵³、下田遺跡⁵⁵、東宮遺跡⁵⁶、石畑遺跡²⁸、右岸に位置する本書の久々戸遺跡^{53・54}、西久保Ⅳ遺跡、横壁中村遺跡⁵³、川原湯勝沼遺跡⁵⁷、石川原遺跡、西ノ上遺跡(19)⁵⁴等が挙げられる。これらの各遺跡は、旧長野原村、旧林村、旧横壁村、旧河原畑村、旧川原湯村にあたる位置にあり、そのほとんどが下位・中位段丘面に立地する遺跡である。

吾妻川沿いの吾妻溪谷を隔てた東吾妻町内においても、ハッ場ダム関連の調査で泥流下の遺跡が調査されている。上郷西遺跡(21)⁵⁸では、畝間が浅間A軽石で埋もれた畑。上郷岡原遺跡⁴³では、建物を伴う屋敷、畑、道等が数多く検出されている。両遺跡の位置は、旧三島村にあたる。

なお、ハッ場ダム関連の調査は現在も継続され、林地区では下田遺跡、中棚Ⅱ遺跡、川原畑地区では西宮遺跡、東宮遺跡、川原湯地区では下湯原遺跡(56)、川原湯勝沼遺跡、石川原遺跡等の発掘調査が進行している。

第2表 周辺遺跡一覧表

No.	遺跡名	所在地	主な時代	概要	備考	文献
1	上原Ⅲ遺跡	長野原町林	縄文	平安時代の住居、鍛冶遺構、陥し穴群。	平25年度事業団調査	8・13
2	久々戸遺跡	長野原町長野原	近世	天明三年泥流下の畑、建物、縄文時代晩期の土器片。	平7・9～11・15・26年度事業団調査	50・53・54
3	尾坂遺跡	長野原町長野原	縄文・弥生・平安・中・近世	天明三年泥流下の畑・建物。中世の掘立柱建物。縄文時代の住居、土坑。弥生時代の再葬墓、土坑。平安時代の住居、土坑等。	平6・7・11・18～23・25・26年度事業団調査。平23・26に長野原草津口駅舎整備に伴う調査として一部調査。	19・46・52
4	小林家屋敷跡	長野原町長野原	近世	天明三年泥流に埋没した屋敷、礎石建物2、土蔵1、石垣等。分限者小林助左衛門屋敷の一部。	平成14年度町教委調査	48
5	旧新井村跡	長野原町与喜屋	近世	昭和55年、自衛隊による町民グラウンド造成中に泥流で埋没した屋敷が発見された。日待供養塔、石臼、農具などが出土。	「長野原町誌」上巻	47
6	向原遺跡	長野原町長野原	縄文・弥生・平安	縄文時代中期後半～後期の住居3軒・敷石住居2軒、土坑群。弥生時代中期の土坑、平安時代の住居10軒を検出。	平5年度町教委調査	27
7	町遺跡	長野原町長野原	近世	天明三年泥流下の畑。	平23～25年度事業団調査	59
8	長野原城跡	長野原町長野原	中世	土塁や堀切・物見台などが残る。長野原合戦の舞台となる。	平23年度事業団調査	12
9	嶋木Ⅰ遺跡	長野原町長野原	近世	天明泥流下の畑跡、中・近世の陶磁器片。	平16年度町教委調査	51
10	西久保Ⅳ遺跡	長野原町横壁	縄文・近世	天明泥流下の畑。縄文時代の土坑等。	平21・23年度事業団調査	40
11	中棚Ⅱ遺跡	長野原町林	近世	天明三年泥流下の畑、および安永九年と考えられる埋没畑等。	平11～13・15年度事業団調査	53・54
12	横壁中村遺跡	長野原町横壁	縄文・弥生・平安・中世	縄文時代中期後半から後期後半を中心とする集落跡、縄文時代晩期、弥生時代の土器片、平安・中世の遺構・遺物。	平8～17年度事業団調査	15・39・53
13	下原遺跡	長野原町林	古墳・近世	天明三年泥流下の畑、中世の畑、古墳時代の住居、弥生時代の土器片等。	平12・15・16年度事業団調査	30・53
14	下田遺跡	長野原町林	平安・近世	天明三年泥流下の畑。江戸・中世の建物。平安時代の住居、陥し穴。	平25・26年度事業団調査	55
15	川原湯勝沼遺跡	長野原町川原畑	縄文・平安・近世	縄文時代晩期の埋設土器、古墳時代の遺物、平安時代の住居、天明三年泥流下の畑。	平15・16年度事業団調査	23・57
16	石川原遺跡	長野原町川原湯	縄文・平安・近世	天明三年泥流下の畑。縄文時代中期の住居、列石、配石。平安時代の住居、陥し穴。近世の畑。	平20・25・26年度事業団調査	
17	西宮遺跡	長野原町川原畑	平安・近世	天明三年泥流下の建物複数、酒蔵、道、石垣、井戸、畑等。	平20・26年度事業団調査	

第3節 歴史的環境

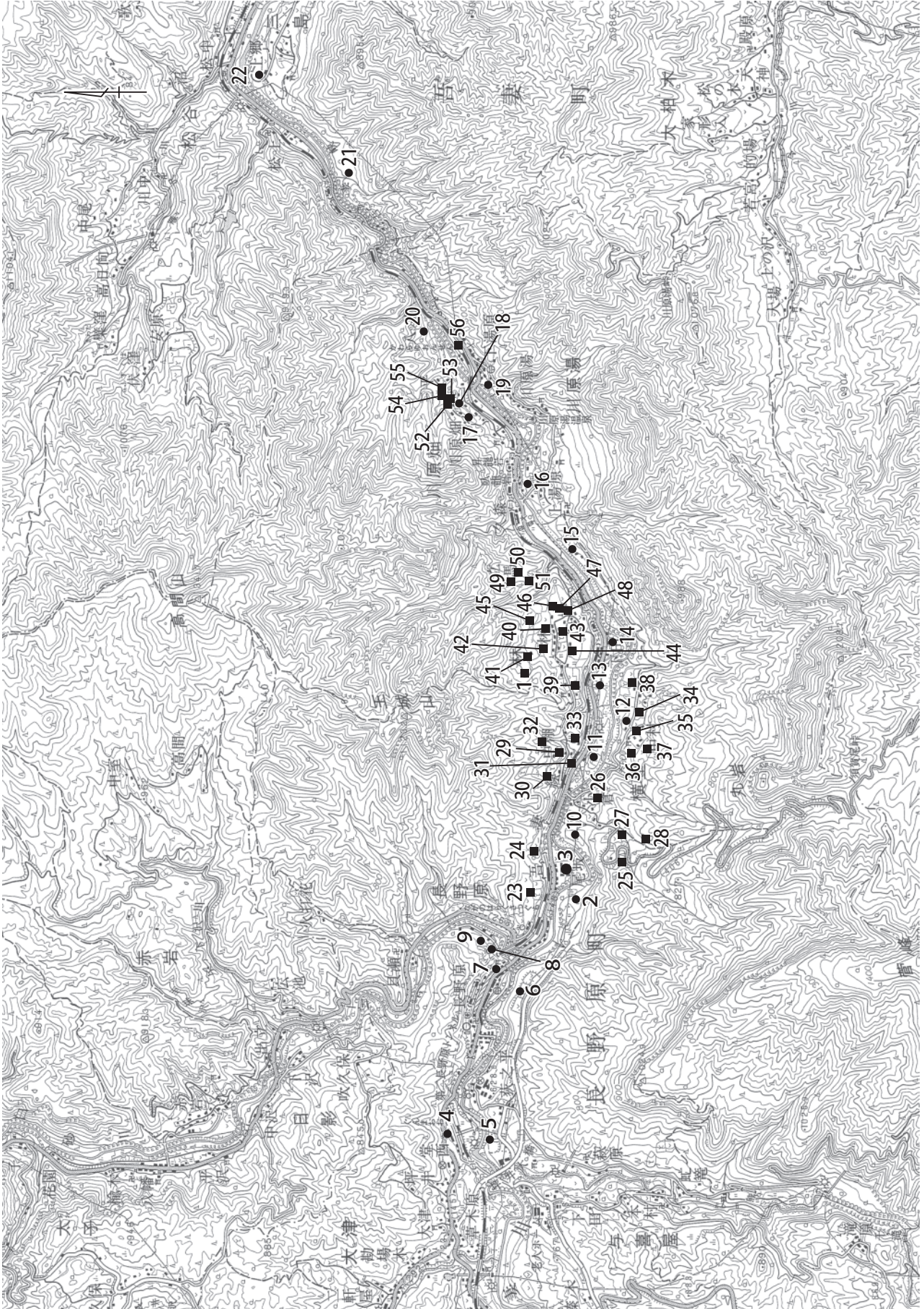
No.	遺跡名	所在地	主な時代	概要	備考	文献
18	東宮遺跡	長野原町川原畑	近世	天明三年泥流下の屋敷。大形の建物が良好な状態で検出、土台、大引、床板等多くの建築材が残る。また、下駄や団扇、石臼等の当時の道具類も多く出土。	平7・9・19～21・26年度事業団調査	56
19	西ノ上遺跡	長野原町川原湯	近世	天明三年泥流下の畑。平安時代の陥し穴、弥生時代の土坑等。	平14年度事業団調査	54
20	石畑遺跡	長野原町川原畑	縄文		平9・10年度事業団調査	28
21	上郷西遺跡	東吾妻町	平安・近世		平19年度事業団調査	58
22	上郷岡原遺跡	東吾妻町	縄文・近世	天明三年泥流下の畑、水田、礎石建物等。近世の墓坑。平安時代の住居、縄文時代の住居、土坑。	平14・15・17～19年度事業団調査	21・43
23	長野原一本松遺跡	長野原町長野原	縄文・平安	縄文時代中期～後期にかけての集落跡、大形の掘立柱建物、敷石住居などを検出、平安時代の住居、中世の掘立柱建物や多くの土坑等が検出されている。	平6～17・19・20年度事業団調査	18
24	幸神遺跡	長野原町長野原	縄文	縄文時代中期の住居・土坑、陥し穴。	平8・9・14・17・18年度事業団調査	16
25	柳沢城跡	長野原町横壁	中世	別城一郭付随と呼ばれる特殊な構造、曲輪、堀、土居などを検出、常滑、瀬戸、美濃、珠洲焼、さらには中国陶磁などが出土。	平5年度町教委調査	2
26	西久保Ⅰ遺跡	長野原町横壁	縄文	縄文時代後期の住居、水場を検出。中近世の礎石建物。	平6・10・12年度調査	31
27	西久保Ⅱ遺跡	長野原町横壁	平安	散布地。		
28	西久保Ⅲ遺跡	長野原町横壁	縄文	散布地。		
29	楡木Ⅰ遺跡	長野原町林	縄文	縄文時代の土坑、散布地。	平10・21年度事業団調査	40
30	楡木Ⅱ遺跡	長野原町林	縄文	縄文時代早期の集落、前期、中期の住居、平安時代の住居。	平11～13・16・17年度事業団調査	4・41
31	楡木Ⅲ遺跡	長野原町林	縄文・弥生	縄文時代前期・後期、弥生時代の包含層。	平9年度事業団調査	35
32	二反沢遺跡	長野原町林	中世・近世	中世の石垣を伴う造成跡、近世水路、畑。(旧大乘院堂跡)	平12年度事業団調査	45
33	中棚Ⅰ遺跡	長野原町林	縄文・平安	縄文時代早期の遺物、平安時代の住居。		13
34	山根Ⅰ遺跡	長野原町横壁	縄文・平安	散布地、磨製石斧、石鏃、石棒などの石器類出土。		
35	山根Ⅱ遺跡	長野原町横壁	平安・近世	平安時代の散布地。		
36	山根Ⅲ遺跡	長野原町横壁	縄文・近世	縄文時代中期後半の住居、土坑等。	平10・13・18年度事業団調査	16・26
37	山根Ⅳ遺跡	長野原町横壁	縄文・近世	縄文～平安時代の散布地。		
38	横壁勝沼遺跡	長野原町横壁	縄文	縄文時代中期～後期の土器片、槍先形尖頭器出土。	平6・7年度事業団調査	37
39	林宮原遺跡	長野原町林	古墳・平安	古墳時代の住居1、平安時代の住居6、土坑6。	平15年度町教委、平24年度事業団調査	8・29
40	上原Ⅰ遺跡	長野原町林	縄文	縄文時代前期初頭の住居、中期の住居。平安時代の住居、陥し穴等。	平15年度町教委、平24年度事業団調査	8・13
41	上原Ⅱ遺跡	長野原町林	縄文	縄文時代中期の住居。	平16年度事業団調査	13
42	上原Ⅳ遺跡	長野原町林	縄文・近世	縄文時代後期の敷石住居、配石遺構。	平15・21年度事業団調査	13・16・40
43	林中原Ⅰ遺跡	長野原町林	縄文・弥生・中・近世	縄文時代前期～後期住居、配石等。中・近世の掘立柱建物。	平19～21年度事業団調査	12・22
44	林中原Ⅱ遺跡	長野原町林	縄文・弥生・中・近世	縄文時代後期の集落跡。敷石住居、晩期の土器片。弥生時代中期の住居、土坑。中・近世の掘立柱建物。	平15・20・21年度町教委調査	9・13・25
45	花畑遺跡	長野原町林	縄文・平安	平安時代の住居、陥し穴群。	平9～12年度事業団調査	38
46	東原Ⅰ遺跡	長野原町林	縄文	縄文時代土器片、陥し穴。	平6・9・20・21年度事業団調査	33・44
47	東原Ⅱ遺跡	長野原町林	縄文	縄文時代後期土器片、石器出土。	平10・20・21年度事業団調査	44
48	東原Ⅲ遺跡	長野原町林	平安・近世	縄文時代早期～後期の包含層。中・近世の掘立柱建物。内耳鍋、古瀬戸等出土。江戸時代の礎石建物。	平20・21年度事業団調査	44
49	立馬Ⅰ遺跡	長野原町林	縄文	縄文時代早期・晩期の住居。弥生時代中期後半の土器棺墓。	平13・14・17年度事業団調査	5
50	立馬Ⅱ遺跡	長野原町林	縄文	縄文時代草創期・早期の土器・石器。中期初頭～前半の住居9軒、中期後半の住居1軒。平安時代前後の陥し穴等。	平14・15年度事業団調査	14
51	立馬Ⅲ遺跡	長野原町林	縄文・平安	縄文時代後期の集落、前期、中期の住居、平安時代の陥し穴。	平19年度事業団調査	6
52	上ノ平Ⅰ遺跡	長野原町川原畑	縄文・平安	縄文時代中期の集落、平安時代の住居、陥し穴。	平18・19年度事業団調査	17
53	上ノ平Ⅱ遺跡	長野原町川原畑	縄文・平安	縄文、平安時代の散布地。		
54	三平Ⅰ遺跡	長野原町川原畑	縄文・弥生・平安	縄文時代早期～前期の集落。弥生時代中期の土坑、平安時代の陥し穴。	平16・17・24・25年度事業団調査	42
55	三平Ⅱ遺跡	長野原町川原畑	縄文・平安	縄文時代早期～前期の包含層、掘立柱建物等。	平16年度事業団調査	42
56	下湯原遺跡	長野原町川原湯	縄文・平安・中・近世	縄文時代の土坑、平安時代の住居、中近世の墓地、近世の畠・道路。	平27年度事業団調査	

文献(報告書等)

- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2004『新田西沢遺跡・新田平林遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第334集
- 長野原町教育委員会 1995『柳沢城跡』長野原町埋蔵文化財調査報告第4集
- 巾隆之 1979『石畑遺跡概報』長野原町教育委員会・高崎鉄道管理局
- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2009『楡木Ⅱ遺跡(2)』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第458集
- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2006『立馬Ⅰ遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第388集
- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2009『立馬Ⅲ遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第457集
- 長野原町教育委員会 2000『坪井遺跡Ⅱ』長野原町埋蔵文化財調査報告第7集
- (公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2015『上原Ⅰ遺跡・上原Ⅲ遺跡・林宮原遺跡』(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第604集
- (公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2016『林中原Ⅱ遺跡(1)』(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第617集
- 長野原町教育委員会 2001『暮坪遺跡』長野原町埋蔵文化財調査報告第8集
- 長野原町教育委員会 1992『長畝Ⅱ遺跡 坪井遺跡』長野原町埋蔵文化財調査報告第3集
- (公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2014『長野原城 林中原Ⅰ遺跡』(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第586集
- 長野原町教育委員会 2015『林地区遺跡群』長野原町埋蔵文化財調査報告第30集
- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2006『立馬Ⅱ遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第375集
- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2005『横壁中村遺跡(2)』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第355集
- 同 2006『横壁中村遺跡(3)』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第368集
- 同 2006『横壁中村遺跡(4)』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第381集
- 同 2007『横壁中村遺跡(5)』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第406集
- 同 2008『横壁中村遺跡(6)』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第436集
- 同 2007『横壁中村遺跡(7)』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第439集

第1章 ハッ場ダム発掘調査の経緯・方法と歴史的環境

- 同 2009『横壁中村遺跡(8)』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第462集
- 同 2009『横壁中村遺跡(9)』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第466集
- 同 2010『横壁中村遺跡(11)』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第492集
- 同 2012『横壁中村遺跡(12)』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第526集
- 同 2013『横壁中村遺跡(13)』(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第559集
- 同 2014『横壁中村遺跡(14)』(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第587集
- 16 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2008『山根Ⅲ遺跡(2) 上原Ⅳ遺跡 幸神遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第429集
- 17 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2008『上ノ平Ⅰ遺跡(1)』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第440集
- 18 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2002『長野原一本松遺跡(1)』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第278集
- 同 2007『長野原一本松遺跡(2)』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第408集
- 同 2008『長野原一本松遺跡(3)』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第433集
- 同 2008『長野原一本松遺跡(4)』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第441集
- 同 2009『長野原一本松遺跡(5)』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第461集
- 同 2013『長野原一本松遺跡(6)』(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第554集
- 同 2014『長野原一本松遺跡(7)』(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第578集
- 19 (公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2016『尾坂遺跡(2)』(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第618集
- 20 長野原町教育委員会 2002『第2章2.坪井遺跡Ⅳ』『町内遺跡Ⅰ』長野原町埋蔵文化財調査報告第9集
- 同 2003『第2章1.坪井遺跡Ⅴ』『町内遺跡Ⅱ』長野原町埋蔵文化財調査報告第10集
- 21 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2009『上郷岡原遺跡(3)』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第471集
- 22 長野原町教育委員会 2010『林中原Ⅰ遺跡Ⅳ』長野原町埋蔵文化財調査報告第20集
- 23 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2005『川原湯勝沼遺跡(2)』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第356集
- 24 長野原町教育委員会 2013『坪井遺跡Ⅷ』『町内遺跡Ⅻ』長野原町埋蔵文化財調査報告第25集
- 25 長野原町教育委員会 2011『林中原Ⅱ遺跡Ⅻ』『町内遺跡Ⅹ』長野原町埋蔵文化財調査報告第21集
- 26 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2002『第6章 山根Ⅲ遺跡』『ハッ場ダム発掘調査集成(1)』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第303集
- 27 長野原町教育委員会 1996『向原遺跡』長野原町埋蔵文化財調査報告第5集
- 28 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2002『第2章 石畑遺跡』『ハッ場ダム発掘調査集成(1)』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第303集
- 29 長野原町教育委員会 2004『林宮原遺跡Ⅱ』『町内遺跡Ⅳ』長野原町埋蔵文化財調査報告第13集
- 30 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2007『下原遺跡Ⅱ』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第389集
- 31 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2002『第5章 西久保Ⅰ遺跡』『ハッ場ダム発掘調査集成(1)』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第303集
- 32 長野原町教育委員会 2004『h.長畝Ⅰ遺跡Ⅱ』『町内遺跡Ⅳ』長野原町埋蔵文化財調査報告第13集
- 33 長野原町教育委員会 2006『3.東原Ⅰ遺跡』『町内遺跡Ⅵ』長野原町埋蔵文化財調査報告第16集
- 34 長野原町教育委員会 2011『2.田通Ⅱ遺跡』『町内遺跡Ⅺ』長野原町埋蔵文化財調査報告第13集
- 35 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2002『第9章 榎木Ⅲ遺跡』『ハッ場ダム発掘調査集成(1)』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第303集
- 36 山岸Ⅱ遺跡は、平成24年度に長野原町教育委員会が調査し、現在、整理作業が進められている。
- 37 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2002『第4章 横壁勝沼遺跡』『ハッ場ダム発掘調査集成(1)』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第303集
- 38 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2002『第8章 花畑遺跡』『ハッ場ダム発掘調査集成(1)』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第303集
- 39 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2010『横壁中村遺跡(10)』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第488集
- 40 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2012『榎木Ⅰ・上原Ⅳ遺跡(2)・西久保Ⅳ遺跡』(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第549集
- 41 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2008『榎木Ⅱ遺跡(1)』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第432集
- 42 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2007『三平Ⅰ・Ⅱ遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第401集
- 43 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2007『上郷岡原遺跡(1)』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第410集
- 同 2008『上郷岡原遺跡(2)』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第438集
- 44 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2010『東原Ⅰ遺跡・東原Ⅱ遺跡・東原Ⅲ遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第502集
- 45 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2006『上郷Ⅱ遺跡・廣石Ⅰ遺跡・二反沢遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第379集
- 46 (公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2012『尾坂遺跡』(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第546集
- 47 長野原町教育委員会 1990『長野原町の遺跡』長野原町埋蔵文化財調査報告第1集
- 48 長野原町教育委員会 2005『小林家屋敷跡』長野原町埋蔵文化財調査報告第12集
- 49 長野原町教育委員会 2013『第3章a.小滝Ⅱ遺跡』『町内遺跡Ⅻ』長野原町埋蔵文化財調査報告第25集
- 50 長野原町教育委員会 2009『第3章e.久々戸遺跡』『町内遺跡Ⅷ』長野原町埋蔵文化財調査報告第18集
- 51 長野原町教育委員会 2005『第2章1.嶋木Ⅰ遺跡』『町内遺跡Ⅴ』長野原町埋蔵文化財調査報告第15集
- 52 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2002『第10章 尾坂遺跡』『ハッ場ダム発掘調査集成(1)』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第303集
- 53 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2003『久々戸遺跡・中棚Ⅱ遺跡・下原遺跡・横壁中村遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第319集
- 54 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2004『久々戸遺跡(2)・中棚Ⅱ遺跡(2)・西ノ上遺跡・上郷Ⅰ遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第349集
- 55 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2002『第7章 下田遺跡』『ハッ場ダム発掘調査集成(1)』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第303集
- 56 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2011『東宮遺跡(1)』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第514集
- 同 2012『東宮遺跡(2)』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第536集
- 57 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2002『第3章 川原湯勝沼遺跡』『ハッ場ダム発掘調査集成(1)』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第303集
- 58 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2008『上郷西遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第448集
- 59 (公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2015『町遺跡』(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第593集



第3図 周辺遺跡位置図(国土地理院5万分の1地形図「草津」使用)

第2章 上原Ⅲ遺跡

第1節 調査に至る経緯と経過

第1項 調査に至る経緯

上原Ⅲ遺跡(以下本遺跡)の調査は平成25年度の調査に引き続くものであり、八ッ場ダム建設に伴う町道建設予定地の発掘調査である。年度当初の調査計画には含まれていなかったが、下湯原遺跡調査の進捗等や町道工事計画の進展により平成27年度中の発掘調査が可能となり、国土交通省八ッ場ダム工事事務所、群馬県教育委員会文化財保護課、当事業団とで協議・調整を行い、前回調査時に未着手となっていた部分に対し発掘調査を実施することとなった。今回の調査対象面積は380㎡である。

調査区の北側および南側は、土地改良事業に伴って長野原町教育委員会による調査が平成23年度から24年度にかけて実施され、平安～縄文時代の竪穴住居、土坑等が多数検出されている(「第2編 上原Ⅲ遺跡」『長野原町埋蔵文化財調査報告 第30集、林地区遺跡群、水源地域整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第1集』2015、長野原町教育委員会)。今回の調査に際しても、調査対象地以外は圃場整備事業が終了しており、また南側については2m以上の段差もあり、排土処理や治水に配慮を要する事は前回同様である。

第2項 調査の経過

発掘調査は平成27年9月1日から9月30日にかけて実施したが、通常発掘調査手順の一環として、発掘調査に先立ち、事前に調査対象区域を委託者側立ち会いの下で範囲および上物等の確認を行った。今回の発掘調査予定範囲の東側が既に破壊されていることが確認された。

なお、調査期間中は天候不良に災いされ、台風に伴う大雨対策など水処理に苦慮した。

作業日誌(抄録)

8月27日(木)国土交通省・群馬県教育委員会文化財保護課・事業団・宮下工業、現況確認。遺構確認作業。

9月1日(火)雨のため作業中止。作業施設設置。

9月2日(水)重機搬入、表土掘削開始。

9月3日(木)表土掘削継続。遺構確認作業開始。

9月7日(月)遺構確認作業継続。竪穴住居・土坑調査開始。

9月10日(木)作業開始するも、午後からの雨のため作業中止。

9月11日(金)発掘作業再開。竪穴住居等調査継続。

9月21日(月)発掘作業再開。竪穴住居調査継続。

9月24日(木)航空写真撮影。引渡。作業施設撤去。器材撤収。

9月25日(金)測量委託関係事務。

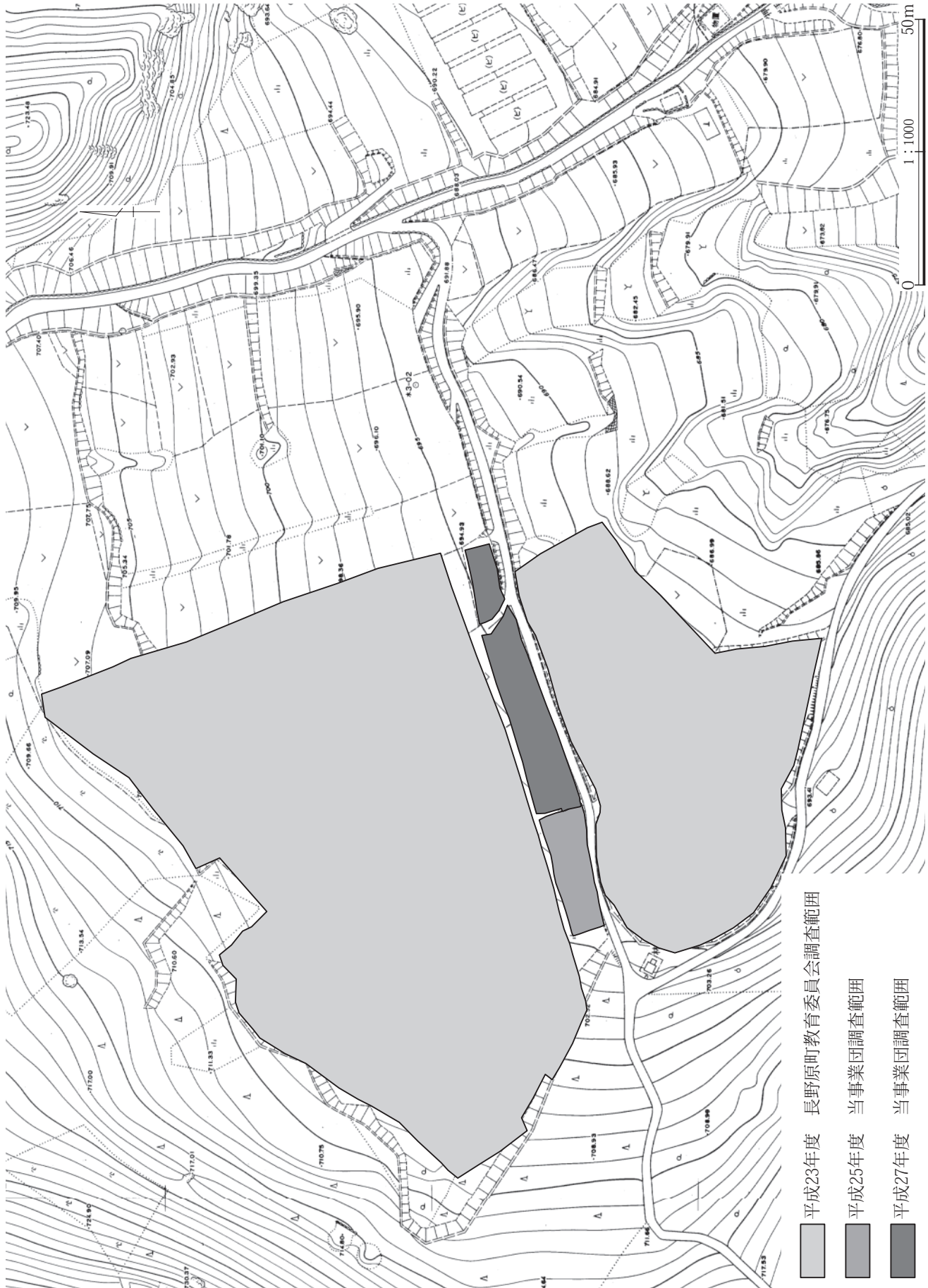
9月28日(月)長野原警察署に発見届提出。

第2節 調査の方法

第1項 調査区とグリッドの設定

本遺跡の発掘調査にあたっては、第1章第2節「調査の方法—調査区の設定—」に記述したように、調査区全体を覆う形でのグリッド設定を行った。1km方眼の大グリッドを「地区」とし、さらにこの中を100m方眼に区分した中グリッドを「区」とした。この区が調査区を表す名称として使用されている。本遺跡は37地区の5区と6区に帰属する。

中グリッド「区」の中をさらに4m方眼で細分したものを小グリッドとして使用している。この小グリッドの呼称は、中グリッドの南東隅を起点とし、北方向(東西軸)に1から順次25まで、西方向(東西軸)へはAから順次Yまでの名称を付与する。こうして設定した小グリッドの呼称は中グリッド「区」に、小グリッドの南東交点(例えばA-1)を付け○区A-1と呼ぶ。なお今回の調査区は狭小であるために、確認された遺構は概ね37地区(大グリッド)内の6区(中グリッド)の中に収まる。今回の調査範囲は前回調査範囲と同一区内にあるため、住居、土坑等の遺構番号については、前回調査を踏まえ継続する番号を付与した。



第4図 上原Ⅲ遺跡調査範囲・周辺地形図(事業団604集第51図に加筆)

第2項 発掘調査の方法

調査に際しては、委託者である国土交通省の担当官と調査範囲、調査期間等の事前打ち合わせを行い、調査範囲を確定した後、伐採、表土の掘削を開始した。

発掘調査は、事前に行った遺構確認作業と前回調査の知見に基づき、重機を使用して表土除去を行い遺構確認面を確定した。表土除去後の各作業は発掘作業員により実施した。遺構確認作業はジョレンを用いて行い、面的な遺構の把握に努めた。

遺構確認作業後、手作業により各遺構の掘削に着手した。性格の把握が難しい遺構については随時確認トレンチをいれるなど精査した。調査期間が短いこともあり、測量作業と記録写真の撮影をほぼ並行して進める状況であった。

第3節 遺跡の立地と基本土層

第1項 遺跡の立地

本遺跡は、群馬県北部の吾妻郡長野原町林に所在する。長野原町林地区は長野原町の北東部にあり、町を横切り東流する吾妻川の左岸に位置する。本遺跡は吾妻川の最上位段丘面の後背をなす山地斜面が、南の溪谷に向かい扇状に開けた扇の付け根に占地する集落遺跡である。調査地の標高は693～697mである。

本遺跡の南、下位の段丘面に占地する林花畑遺跡、林中原Ⅰ・Ⅱ遺跡、上原Ⅳ遺跡などからは、縄文時代を中心とした遺構密度の濃い集落遺跡が確認されている。(1章3節「周辺遺跡一覧表」)

第2項 基本土層

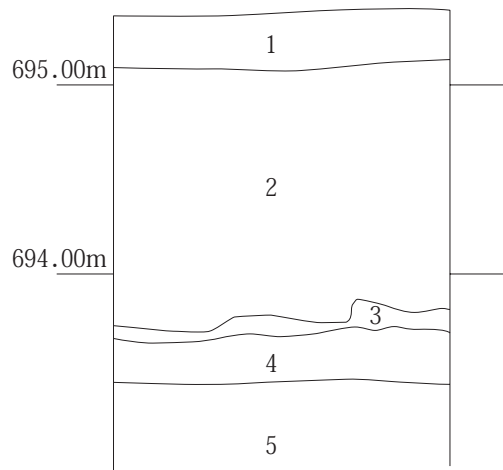
調査区内は北西から南東に下る傾斜がみられ、前回調査同様に層厚が場所により相違する様相が続いている。基本土層は調査区東半の北壁を基準とした。前回調査の基本土層は今回の調査区から最も遠い地点に存在するためか、若干の異同が生じている。ロームの二次堆積と想定される層の上位より平安時代以降の遺構が検出される点は共通する。



北方上空より調査地を望む



調査地遠景(西から)



基本土層

- 1 暗褐色土(7.5YR3/1)締り弱く、表土。耕作土。
- 2 暗褐色土(7.5YR3/3)締りやや弱く、白色・黄色粒を少量含む。
- 3 黄色砂礫(2.5Y8/6)砂礫主体。山からの崩れ。
- 4 黒褐色土(7.5YR3/1)白色・黄色粒を僅かに含む。上面が平安時代の遺構検出面。
- 5 黄橙色土(7.5YR7/8)礫を少量含む。ロームの二次堆積。

0 1:40 1m

第5図 基本土層模式図



第6図 上原Ⅲ遺跡全体図

第4節 検出された遺構と遺物

第1項 遺跡の概要

本遺跡は吾妻川左岸最上位段丘面に形成された、扇状地形の山側最奥部に位置する。北に山がそびえ、南に開けた傾斜面に集落が形成されている。調査区周辺は平成23年度から24年度にかけて圃場整備事業に伴う発掘調査として、長野原町教育委員会により、広範囲に調査が行われ、平安時代の集落が確認されている。今回の調査区は、平成25年度に当事業団によるハッ場ダム開発関連事業に伴う発掘調査が実施された地点に続く部分であり、前回同様に遺跡を東西に横切る段差の上側端部に位置している。(「第3章 上原Ⅲ遺跡」『公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書 第604集、上原Ⅰ遺跡、上原Ⅲ遺跡、林宮原遺跡、ハッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第46集』2015、公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団)

調査の結果、竪穴住居1軒、竪穴遺構4基、土坑12基、焼土遺構2基、溝1条、ピット4基が検出された。住居からは平安時代の椀、羽釜、甕が出土し、竪穴遺構からは縄文土器が、また土坑からは弥生土器が出土している。

遺構分布は調査区の西半に集中し、沢状の地形と思しき東半からは検出されなかった。竪穴遺構は西半に点在するが、土坑・ピットは調査区の西側1/3の範囲に集中している。

第2項 遺構と遺物

1 竪穴住居

1号竪穴住居(第7～9図、PL. 1, 5)

位置：6区G-18・19。調査区西辺に接する。

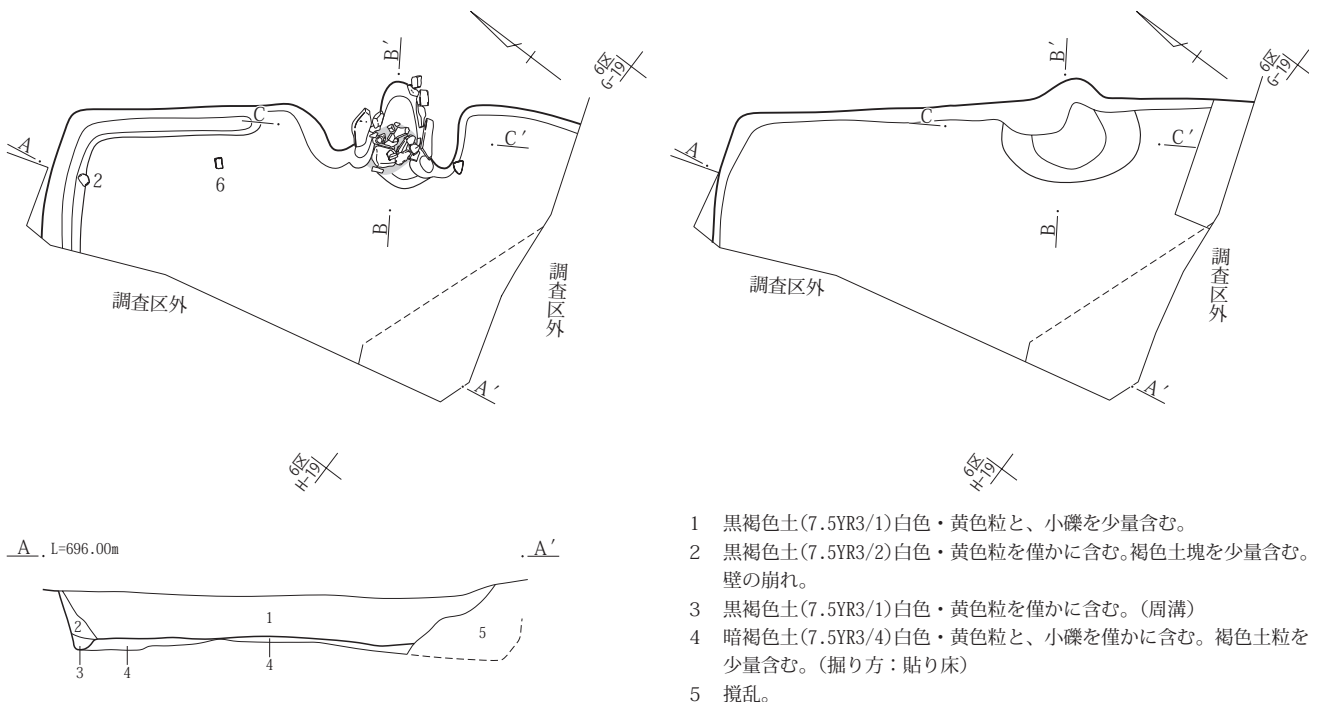
形状・規模：カマドを含み住居全体の1/3程度(検出長は主軸方向2.25m、交差方向4.05m)が検出された。面積(5.28)m²。昨年度調査された6区1号竪穴住居の未調査部分であるが、いまだ南壁は確認されていない。

主軸方位：N-55°-E

埋没土：遺構全体が軽石粒、小礫を含む黒褐色土で覆われている。また、壁沿いには小礫を含まない黒褐色の崩落土が認められる。

壁溝：幅20cm、深さ8cmほどの溝が住居の北側部分で確認されたが、カマドの南側では確認されなかった。

カマド：両袖とも住居内に突出するが、南側に位置する袖部の残り具合の方が良好である。燃烧部は住居内に位置し、焼土が確認されている。また、燃烧部周辺に残された石材から石組と推測される。長軸方位はN-57°-



- 1 黒褐色土(7.5YR3/1)白色・黄色粒と、小礫を少量含む。
- 2 黒褐色土(7.5YR3/2)白色・黄色粒を僅かに含む。褐色土塊を少量含む。壁の崩れ。
- 3 黒褐色土(7.5YR3/1)白色・黄色粒を僅かに含む。(周溝)
- 4 暗褐色土(7.5YR3/4)白色・黄色粒と、小礫を僅かに含む。褐色土粒を少量含む。(掘り方：貼り床)
- 5 攪乱。

第7図 1号竪穴住居 1

0 1:60 2m

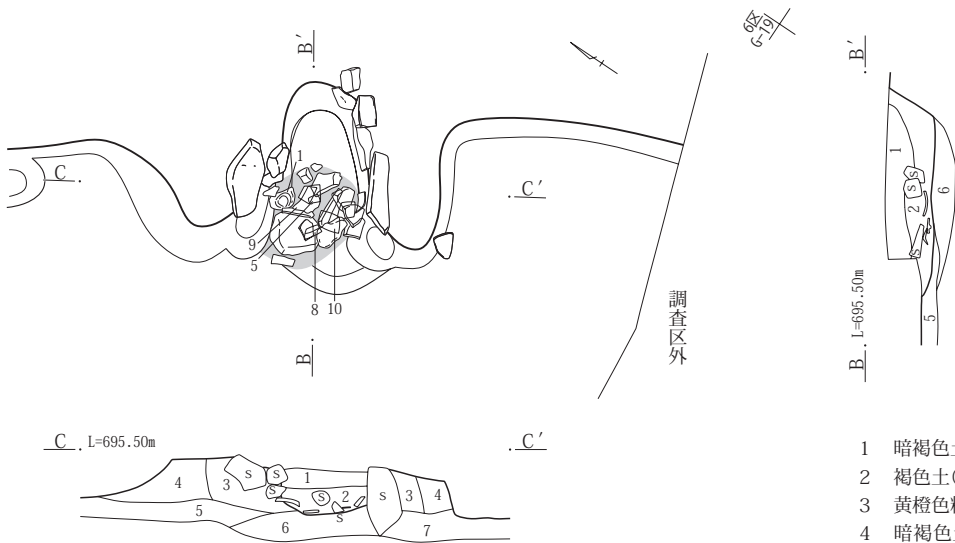
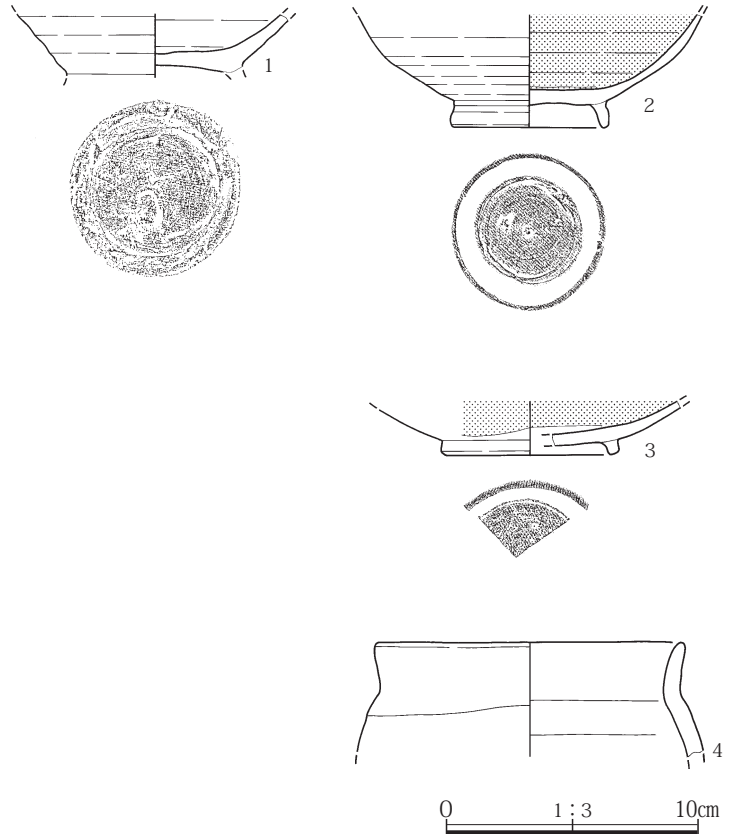
Eであり、住居の軸方位と概ね合致する。

掘り方：既報告部分と相違し、カマド側の住居東半からは厚さ5cmから9cm程度と不均質に敷きつめられた暗褐色土による貼り床が確認された。

重複遺構：なし。

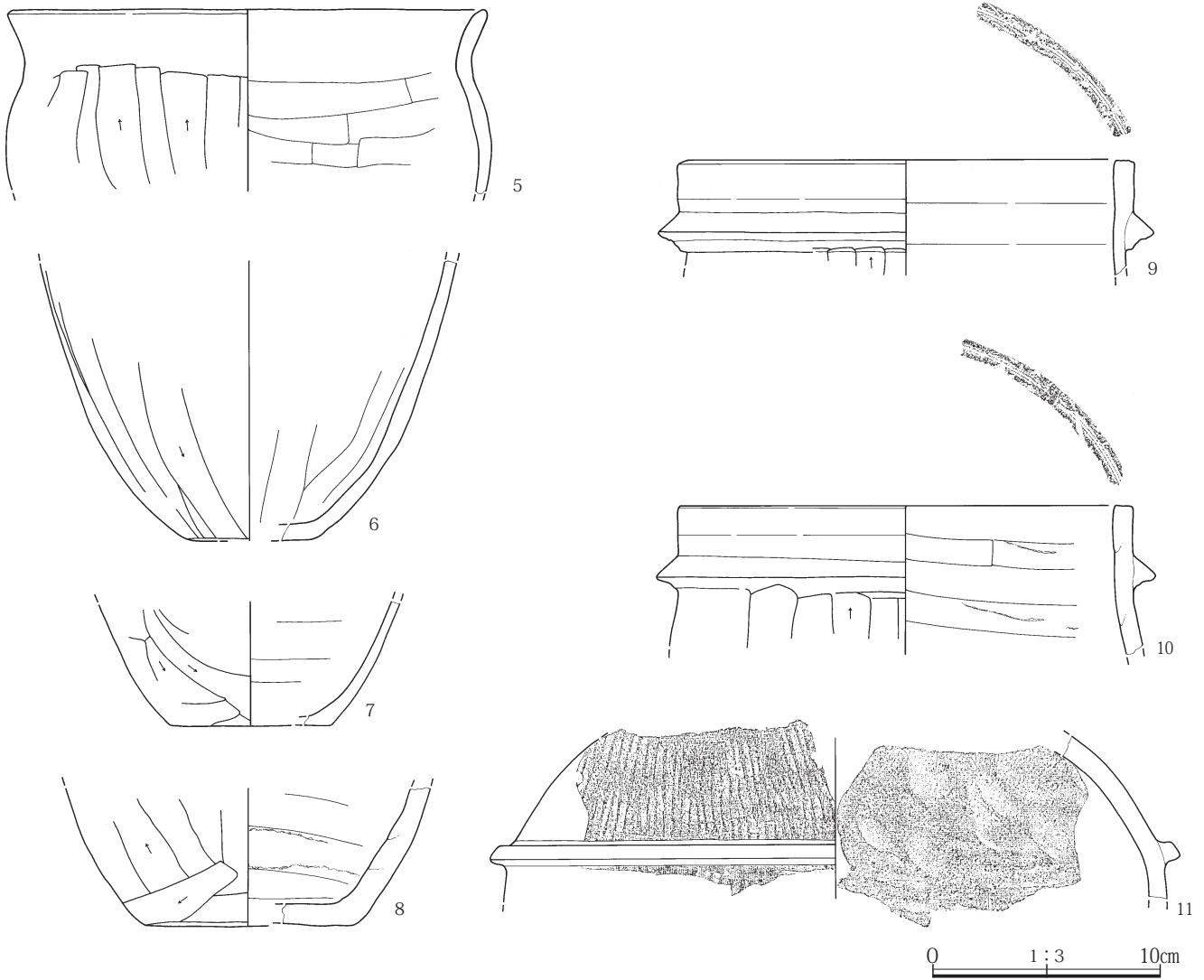
遺物：床面から灰釉陶器椀(2)、土師器甕(6)、カマド内より須恵器椀(1)、土師器甕(4, 5)、須恵器羽釜(8, 9, 10)が、また覆土内より灰釉陶器椀(3)、土師器甕(7)、須恵器凸帯付四耳壺(11)が出土しているほか、土師器、須恵器、灰釉陶器などの破片54片(872g)が出土している。なおカマド北側の袖脇からスラグ片1点(14.45g)が出土しているが、2号溝が住居を横切って形成された際に上流よりもたらされた混入品と考えられる。

所見：本住居の年代は出土遺物から10世紀の前半代に比定される。



- 1 暗褐色土(7.5YR3/4)赤褐色焼土粒を少量含む。
- 2 褐色土(7.5YR3/1)赤褐色焼土粒を多量に含む。
- 3 黄橙色粘質土を少量含む。袖。
- 4 暗褐色土(7.5YR3/4)白色・黄色粒を僅かに含む。袖。
- 5 暗褐色土(7.5YR3/3)白色・黄色粒と、赤褐色焼土粒を僅かに含む。(掘り方)。
- 6 褐色土(7.5YR3/1)赤褐色焼土粒を少量含む。白色・黄色粒を僅かに含む。(掘り方)。
- 7 黒褐色土(7.5YR3/1)締りやや弱く、白色粒を少量含む。黄色粒を僅かに含む。(掘り方)。

第8図 1号竪穴住居2と出土遺物1



第9図 1号竪穴住居出土遺物2

第3表 1号竪穴住居出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第8図 PL.5	1	須恵器 碗	カマド内+2 底部～体部下 半	底	7.0	細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付、糸切痕はナデ消されている。	高台は打ち欠か れている。
第8図 PL.5	2	灰釉陶器 碗	北壁際+0 底部～体部片	底台	6.0 5.8	微砂粒、底部に径 2mmの礫/還元焰/ 灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。施釉方法は漬け掛けか。	大原2号窯式 期
第8図 PL.5	3	灰釉陶器 碗	埋没土 底部～体部下 位片	底台	7.0 6.6	微砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。施釉方法は漬け掛けか。	大原2号窯式 期
第8図 PL.5	4	土師器 小型甕	カマド埋没土 口縁部～胴部上 位片	口	12.0	細砂粒/良好/明黄 褐	口縁部から頸部は横ナデ。胴部はナデ。内面胴部はヘラナデ。	ロクロ土師器 甕か。
第9図 PL.5	5	土師器 甕	カマド内+2 口縁部～胴部上 位片	口	20.6	細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第9図 PL.5	6	土師器 甕	東壁寄り+0 底部～胴部下 位片	底	5.6	細砂粒/良好/にぶ い黄橙	底部はヘラ削り、胴部は縦位のヘラ削り。内面は縦位のヘラナデ。	
第9図	7	土師器 甕	埋没土 底部～胴部下 位片	底	7.0	細砂粒/良好/にぶ い黄橙	底部と胴部はヘラ削り。内面はヘラナデ。	
第9図 PL.5	8	須恵器 羽釜	カマド内+0 底部～胴部下 位片	底	9.0	細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい黄 褐	内面胴部に輪積痕が残る。底部は器面剥落のため成形不鮮明、胴部はヘラ削り。内面はヘラナデ。	

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口 罅	20.0 21.6			
第9図 PL.5	9	須恵器 羽釜	カマド内+1 口縁部～胴部上 位片	口 罅	20.0 21.6	細砂粒/酸化焰/浅 黄	ロクロ整形。罅は貼付。胴部は下方から罅へ向けてのヘラ 削り。	
第9図 PL.5	10	須恵器 羽釜	カマド内+1 口縁部～胴部上 位片	口 罅	19.8 21.0	細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/暗灰黄	ロクロ整形。罅は貼付。胴部は下方から罅へ向けてのヘラ 削り。内面はヘラナデ。	
第9図 PL.5	11	須恵器 凸帯付四耳 壺	埋没土 胴部上位片	凸	30.0	細砂粒/還元焰/灰	凸帯は貼付。胴部外面はナデであるが平行叩き痕が残る、 内面はヘラナデであるが無文のアテ具痕が残る。	

2 竪穴遺構

1号竪穴遺構(第10図、PL. 1, 5)

位置：6区G-20・21。調査区西部(北辺西端)に位置する。

形状・規模：調査区北辺に接するため全体を把握できなかったが隅丸方形と考えられる。底面は地形なりに傾斜し、南東隅は確認面との境界が判然としない。長軸方向2.84m、短軸方向(2.04)m、深さ0.35m、面積(3.22)m²。

長軸方位：N-79°-W

埋没土：軽石粒と黄褐色土粒を僅かに含み、黒色土塊を少量含む暗褐色土に覆われる。

重複遺構：なし。

遺物：底面から縄文時代中期後半の土器片1片、また底面から約9cm浮いた覆土内より縄文時代中期後半の土器片1片が出土している。

所見：遺構の年代は出土した土器片から縄文時代中期後半の加曾利E式期に比定される。

2号竪穴遺構(第11図、PL. 2)

位置：5区Y-21・22、6区A-21・22。調査区中央部に位置する。

形状・規模：西辺がやや短い方形、底面は地形なりに傾斜する。長軸方向3.81m、短軸方向3.41m、深さ0.36m、面積10.69m²。

長軸方位：N-64°-E

埋没土：軽石粒を僅かに含む締りのやや弱い黒褐色土に覆われる。山側となる北半の底面には軽石粒を僅かに含む暗褐色土が存在する。

重複遺構：15号土坑。

遺物：覆土内より土師器や須恵器などの破片11片(126g)が出土しているが、資料化にいたらなかった。

所見：遺構確認時の名称は2号住居。近接する1号焼土との関係から住居と想定された。1号焼土との間を精査

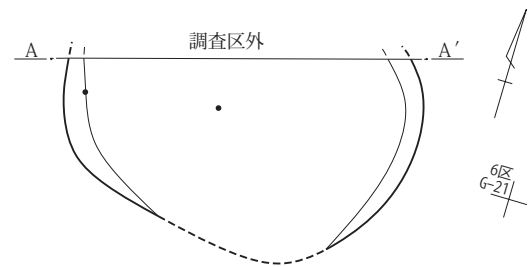
したが、なんらかの関連を認めることはできなかった。重複する15号土坑より新しいと考えられるが、掘削の前後関係は見極め難い。遺構の年代は出土遺物から平安時代に比定される。

3号竪穴遺構(第12図、PL. 2)

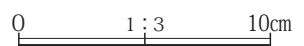
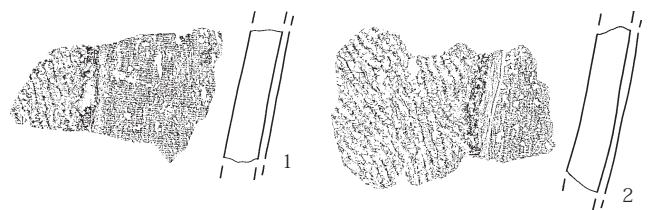
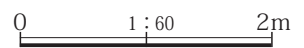
位置：6区B-20・21、6区C-21。調査区中央部に位置する。

形状・規模：北東隅が隅丸となる方形。長軸方向3.34m、短軸方向3.26m、深さ0.35m。面積8.39m²。

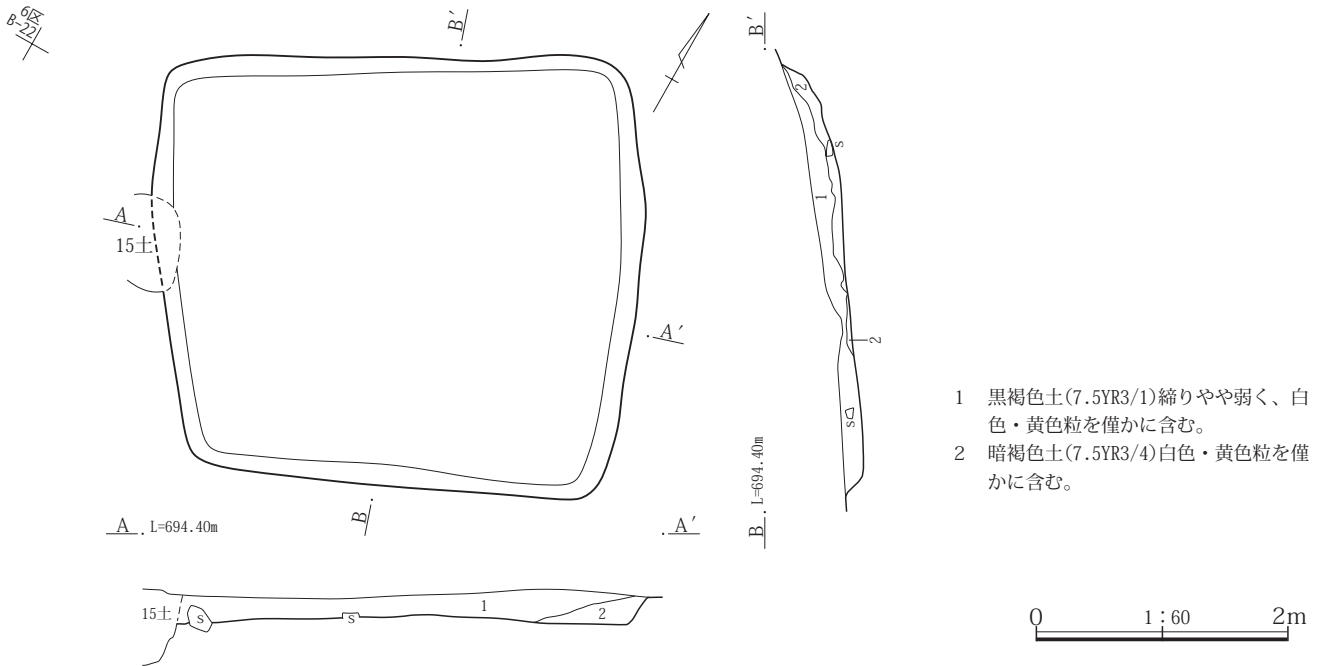
長軸方位：N-34°-W



1 暗褐色土(7.5YR3/3)白色・黄色粒と黄褐色土粒を僅かに含む。黒色土塊を少量含む。



第10図 1号竪穴遺構と出土遺物



第11図 2号竪穴遺構

埋没土：軽石粒を僅かに含み、黒褐色土塊を少量含む暗褐色土に覆われる。東辺沿いの底面は軽石粒と黄橙色土粒を僅かに含む暗褐色土に覆われる。覆土の一部は陥入し、軽石粒を僅かに含む締りのやや弱い黒褐色土が認められる。

重複遺構：17号土坑。

遺物：覆土内より土師器の破片1片(12g)が出土しているが、資料化にいたらなかった。

所見：遺構確認時の名称は3号住居。17号土坑との関連で住居と想定された。掘削時期の違い、底面の傾斜度合などから竪穴遺構とした。17号土坑に先行する。遺構の年代は出土遺物から平安時代以降と推測される。

4号竪穴遺構(第13図、PL.2)

位置：6区D・E-19・20。調査区西部に位置する。

形状・規模：調査区南辺に接し、水道管理設による攪乱のため全体形状は確認できない。また西辺は性格不明の遺構と交差し、西隅周辺から先は確認できない。長軸方向4.07m、短軸方向(1.94)m、深さ0.57m。面積(5.33)m²。

長軸方位：N-66°-E

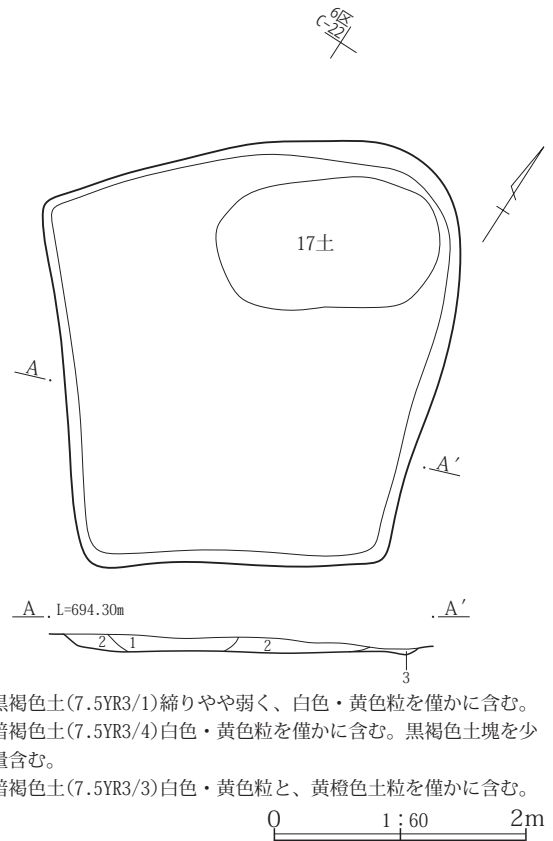
埋没土：底面は軽石粒と黄橙色土粒を僅かに含む暗褐色土に覆われ、上層に軽石粒を僅かに含む締りのやや弱い黒褐色土が堆積する。

重複遺構：16号土坑、2号焼土遺構。

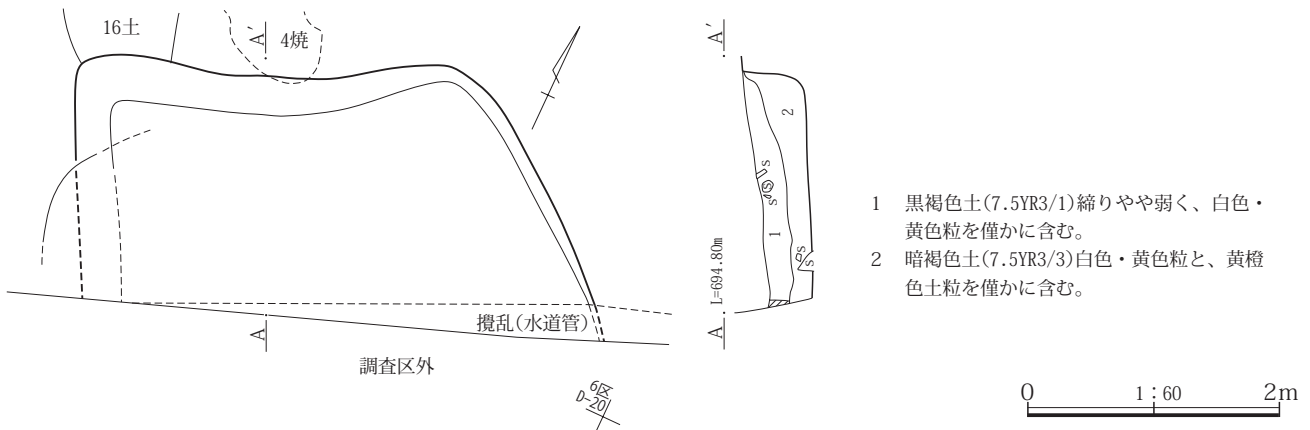
遺物：覆土内より土師器の破片5片(8g)が出土してい

るが、資料化にいたらなかった。

所見：遺構確認時の名称は4号住居。2号焼土との関係から住居と想定された。2号焼土との間を精査したが、なんらかの関連を認めることはできなかった。16号土坑に先行し、2号焼土より新しい。遺構の年代は出土遺物から平安時代以降と推測される。



第12図 3号竪穴遺構



第13図 4号竪穴遺構

第4表 1号竪穴遺構出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第10図 PL.5	1	縄文土器 深鉢	胴部片		A	微隆起懸垂文の区画内にL縄文を縦位施文。内面被熱風化。No. 2 と同一個体。	加曾利E3式
第10図 PL.5	2	縄文土器 深鉢	胴部片		A	微隆起懸垂文の区画内にL縄文を縦位施文。内面被熱風化。No. 1 と同一個体。	加曾利E3式

3 土坑・ピット

11号土坑(第14図、PL. 2, 5)

位置：6区D-21。調査区西部に位置する。

形状・規模：円形。長軸方向0.66m、短軸方向0.56m、深さ0.38m。

長軸方位：N-64°-E

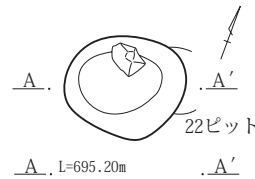
埋没土：軽石粒を少量含む黒褐色土に覆われるが、上半は締りがやや弱い。

重複遺構：22号ピット。

遺物：覆土内より須恵器椀(1)が出土している。

所見：覆土にローム粒を含まず、22号ピットより新しい。遺構の年代は出土遺物から平安時代以降と推測される。

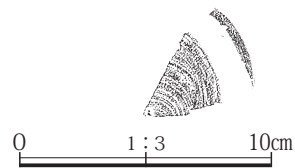
11号土坑



6区
D-21

11号土坑

- 1 黒褐色土(7.5YR3/1)締りやや弱く、白色・黄色粒を僅かに含む。
- 2 黒褐色土(7.5YR3/1)黄色粒を少量含む。



12号土坑(第14図、PL. 2)

位置：6区E・F-20。調査区西部に位置する。

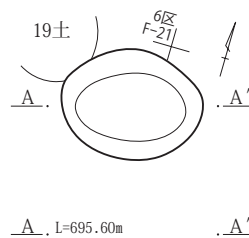
形状・規模：長円形。長軸方向0.74m、短軸方向0.59m、深さ0.26m。

長軸方位：N-72°-E

埋没土：軽石粒を僅かに含む締りのやや弱い黒褐色土に覆われる。

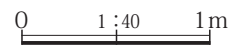
重複遺構：19号土坑。

12号土坑



12号土坑

- 1 黒褐色土(7.5YR3/1)締りやや弱く、白色・黄色粒を僅かに含む。やや粘性あり。



第14図 11,12号土坑と11号土坑出土遺物

遺物：土師器片2片(3g)が覆土内より出土しているが、資料化にいたらなかった。

所見：19号土坑より新しい。遺構の年代は出土遺物から平安時代以降と推測される。

13号土坑(第15図、PL. 2)

位置：6区F-20・21。調査区西部に位置する。

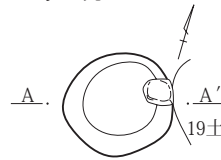
形状・規模：円形。長軸方向0.58m、短軸方向0.54m、深さ0.15m。

埋没土：軽石粒を僅かに含む締りのやや弱い黒褐色土に覆われる。

重複遺構：なし。

所見：遺構の年代は覆土の状況などから平安時代以降と推測される。

13号土坑



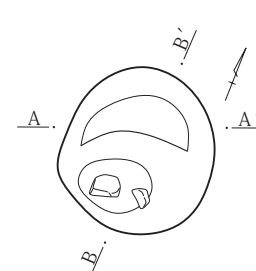
A. L=695.80m A'



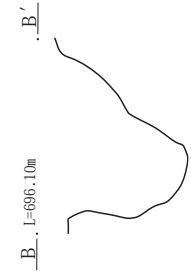
13号土坑

1 黒褐色土(7.5YR3/1) 締りやや弱く、白色・黄色粒を僅かに含む。

14号土坑



A. L=696.10m A'



B. L=696.10m B'

14号土坑

1 黒褐色土(7.5YR3/1) 締りやや弱く、白色・黄色粒を僅かに含む。小礫を含む。

14号土坑(第15図、PL. 2)

位置：6区G-20。調査区西部に位置する。

形状・規模：長円形。長軸方向0.88m、短軸方向0.81m、深さ0.76m。最深部は土坑の南半部に位置するため断面形状は南北で傾斜が相違する。

長軸方位：N-14°-W

埋没土：軽石粒を僅かに含む締りのやや弱い黒褐色土に覆われる。

重複遺構：なし。

所見：遺構の年代は覆土の状況などから平安時代以降と推測される。

15号土坑



15号土坑(第15図、PL. 2)

位置：6区A-21。調査区中央部に位置する。

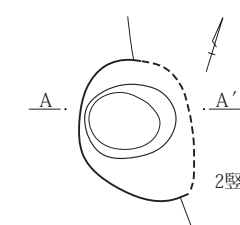
形状・規模：長円形。長軸方向0.80m、短軸方向0.60m、深さ0.64m。上部東半は2号竪穴遺構と交差し、攪乱状態となっている。

長軸方位：N-44°-W

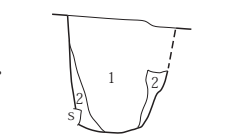
埋没土：軽石粒を僅かに含む締りのやや弱い黒褐色土に覆われる。底面付近に黄色軽石粒を少量含む黒褐色の崩落土が存在する。

重複遺構：2号竪穴遺構。

所見：重複する2号竪穴遺構に先行すると考えられるが、掘削の前後関係は見極め難い。遺構の年代は覆土の状況などから平安時代以降と推測される。



A. L=694.10m A'



15号土坑

1 黒褐色土(7.5YR3/1) 締りやや弱く、白色・黄色粒を僅かに含む。
2 黒褐色土(7.5YR3/1) 黄色粒を少量含む。



第15図 13~15号土坑

16号土坑(第16図、PL. 3)

位置：6区E-20。調査区西部に位置する。

形状・規模：長軸方向(0.80)m、短軸方向0.64m、深さ0.37m。4号竪穴遺構と交差し、南端側の形状は判明しない。

長軸方位：N-27°-W

埋没土：軽石粒を僅かに含む締りのやや弱い黒褐色土に覆われる。

重複遺構：4号竪穴遺構

所見：4号竪穴遺構上層の覆土と同じ土質の埋没土のため、先行する竪穴遺構の一部を拡張したものとも考えられる。遺構の年代は覆土の状況などから平安時代以降と推測される。

17号土坑(第16図、PL. 3)

位置：6区B・C-21。調査区西部に位置する。

形状・規模：長円形。長軸方向1.77m、短軸方向1.05m、深さ0.59m。底部は東半が一段下がり最深部となる。

長軸方位：N-30°-W

埋没土：黄橙色土粒を僅かに含む暗褐色土の崩落様の堆積の上を軽石粒を少量含む黒褐色土が覆う。黒褐色土の上半はやや締りが弱い。

重複遺構：3号竪穴遺構。

所見：3号竪穴遺構より新しい。遺構の年代は覆土の状況などから平安時代以降と推測される。

18号土坑(第16図、PL. 3)

位置：6区A-21。調査区中央部に位置する。

形状・規模：長円形。長軸方向1.03m、短軸方向0.64m、深さ0.61m。

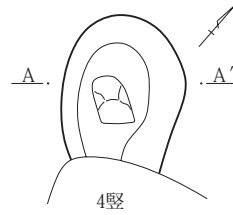
長軸方位：N-30°-W

埋没土：軽石粒を僅かに含む締りのやや弱い黒褐色土に覆われるが、底部付近に軽石粒を少量含む黒褐色土が存在する。

重複遺構：なし。

所見：遺構の年代は覆土の状況などから平安時代以降と推測される。

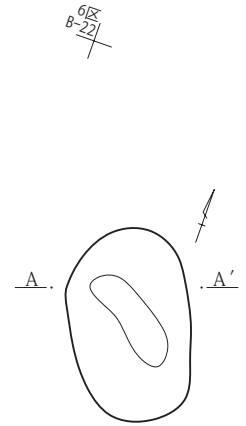
16号土坑



16号土坑

- 1 黒褐色土(7.5YR3/1)締りやや弱く、白色・黄色粒を僅かに含む。

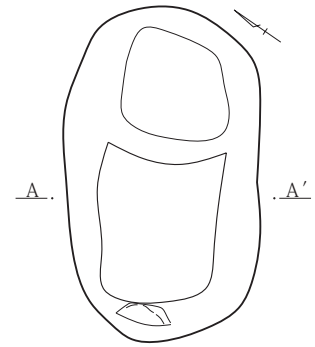
18号土坑



18号土坑

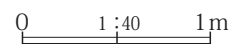
- 1 黒褐色土(7.5YR3/1)締りやや弱く、白色・黄色粒を僅かに含む。
- 2 黒褐色土(7.5YR3/1)黄色粒を少量含む。

17号土坑



17号土坑

- 1 黒褐色土(7.5YR3/1)締りやや弱く、白色・黄色粒を僅かに含む。
- 2 黒褐色土(7.5YR3/1)黄色粒を少量含む。
- 3 暗褐色土(7.5YR3/3)白色・黄色粒と黄橙色土粒を僅かに含む。



第16図 16～18号土坑

19号土坑(第17図、PL. 3)

位置：6区F-20・21。調査区西部に位置する。

形状・規模：長円形。長軸方向0.79m、短軸方向0.50m、深さ0.24m。

長軸方位：N-47°-W

埋没土：軽石粒を僅かに含む締りのやや弱い黒褐色土に覆われる。

重複遺構：12号土坑。

所見：12号土坑に先行する。遺構の年代は覆土の状況などから平安時代以降と推測される。

20号土坑(第17図、PL. 3)

位置：6区D-21。調査区西部に位置する。

形状・規模：長円形。長軸方向0.50m、短軸方向0.41m、深さ0.22m。

長軸方位：N-63°-E

埋没土：軽石粒を僅かに含む締りのやや弱い黒褐色土に覆われる。

重複遺構：なし。

所見：遺構の年代は覆土の状況などから平安時代以降と推測される。

21号土坑(第17図、PL. 3)

位置：6区C・D-21。調査区西部に位置する。

形状・規模：隅丸方形。長軸方向0.6m、短軸方向0.52m、深さ0.38m。

長軸方位：N-38°-E

埋没土：軽石粒を僅かに含む締りのやや弱い黒褐色土に覆われる。

重複遺構：なし。

所見：遺構の年代は覆土の状況などから平安時代以降と推測される。

22号ピット(第18図、PL. 3)

位置：6区D-21。調査区西部に位置する。

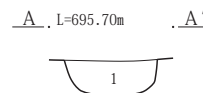
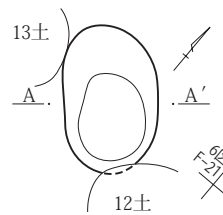
形状・規模：円形。長軸方向0.35m、短軸方向0.34m、深さ0.51m。

埋没土：黒褐色土に覆われる。上半は締りがやや弱く軽石粒を少量含み、下半は黄橙色粒を少量含む。

重複遺構：11号土坑。

所見：11号土坑に先行する。遺構の年代は覆土の状況などから平安時代以降と推測される。

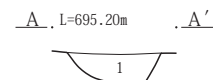
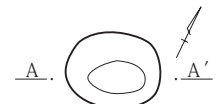
19号土坑



19号土坑

1 黒褐色土(7.5YR3/1)締りやや弱く、白色・黄色粒を僅かに含む。

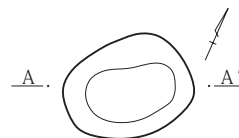
20号土坑



20号土坑

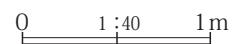
1 黒褐色土(7.5YR3/1)締りやや弱く、白色・黄色粒を僅かに含む。

21号土坑



21号土坑

1 黒褐色土(7.5YR3/1)締りやや弱く、白色・黄色粒を僅かに含む。



第17図 19～21号土坑

23号ピット(第18図、PL. 3)

位置：6区D-21。調査区西部に位置する。

形状・規模：卵形。長軸方向0.34m、短軸方向0.28m、深さ0.48m。

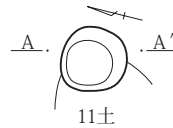
長軸方位：N-83°-W

埋没土：黒褐色土に覆われる。上半は締りがやや弱く軽石粒を少量含み、下半は黄橙色粒を少量含む。

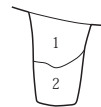
重複遺構：なし。

所見：遺構の年代は覆土の状況などから平安時代以降と推測される。

22号ピット



A. L=695.20m . A'



22号ピット

- 1 黒褐色土(7.5YR3/1)締りやや弱く、白色・黄色粒を僅かに含む。
- 2 黒褐色土(7.5YR3/1)黄橙色粒を少量含む。



24号ピット(第18図、PL. 4)

位置：6区E-21。調査区西部に位置する。

形状・規模：円形。長軸方向0.32m、短軸方向0.32m、深さ0.38m。

埋没土：黒褐色土に覆われる。上半は締りがやや弱く軽石粒を少量含み、下半は黄橙色粒を少量含む。

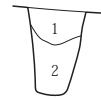
重複遺構：なし。

所見：遺構の年代は覆土の状況などから平安時代以降と推測される。

23号ピット



A. L=695.10m . A'



23号ピット

- 1 黒褐色土(7.5YR3/1)締りやや弱く、白色・黄色粒を僅かに含む。
- 2 黒褐色土(7.5YR3/1)黄橙色粒を少量含む。



25号ピット(第18図、PL. 4)

位置：6区D・E-21。調査区西部に位置する。

形状・規模：卵形。長軸方向0.44m、短軸方向0.33m、深さ0.44m。

長軸方位：N-78°-W

埋没土：黒褐色土に覆われる。上半は締りがやや弱く軽石粒を少量含み、下半は黄橙色粒を少量含む。

重複遺構：なし。

所見：遺構の年代は覆土の状況などから古代以降と推測される。

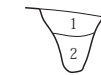
24号ピット



24号ピット

- 1 黒褐色土(7.5YR3/1)締りやや弱く、白色・黄色粒を僅かに含む。
- 2 暗褐色土(7.5YR3/3)黄橙色粒を少量含む。

A. L=695.40m . A'



25号ピット

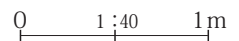


A. L=695.10m . A'



25号ピット

- 1 黒褐色土(7.5YR3/1)締りやや弱く、白色・黄色粒を僅かに含む。
- 2 暗褐色土(7.5YR3/3)黄橙色粒を少量含む。



第18図 22～25号ピット

第5表 11号土坑出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				底	口	高			
第14図 PL.5	1	須恵器 椀	埋没土 底部～体部下位 片	底	7.6		細砂粒/還元焰/灰 白	口クロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	

4 埋設土坑

1号埋設土坑(第19図、PL. 4, 5)

位置：6区E-19。調査区西部に位置する。

形状・規模：長円形。長軸方向0.52m、短軸方向0.34m、
深さ0.12m。

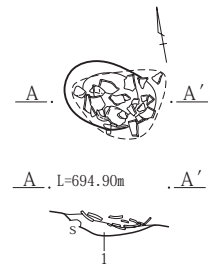
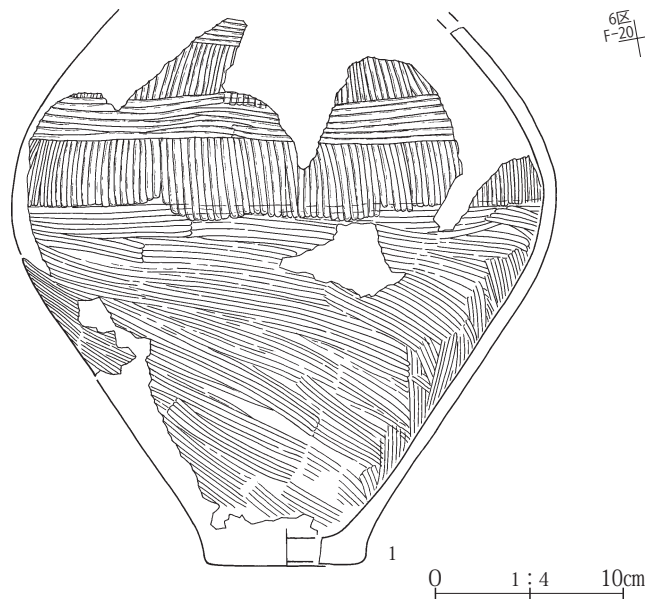
長軸方位：N-51°-W

埋没土：軽石粒をほとんど
含まない黒褐色土に覆
われる。

重複遺構：なし。

遺物：弥生時代中期初頭
の壺1点が検出された。

所見：調査時名称は1号
埋めガメ。浅い皿状に成
形された窪地を覆う黒褐
色土の、上部および覆土
周辺に壺の破片が散乱す



1 黒褐色土(7.5YR3/1)白色・黄色粒を
ほとんど含まない。

第19図 1号埋設土坑と出土遺物

第6表 1号埋設土坑出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				底	口	高			
第19図 PL.5	1	弥生土器 壺	肩部～底部2/3	底	(8.5)		B	7～8本単位の櫛歯状工具により肩部に横・縦位の集合沈 線文を交互に施文。胴部から底部は同工具により斜位の条 痕状に粗く施文。内面撫で状の粗い横位磨き。鈍い黄褐色。	弥生中期初頭

5 焼土遺構

1号焼土遺構(第20図、PL. 4)

位置：6区A-22。調査区中央部に位置する。

形状・規模：不定形。長軸方向0.91m、短軸方向0.72m、
深さ0.09m。

長軸方位：N-52°-W

重複遺構：なし。

その他：近接する2号竪穴遺構との間を精査したが、な
んらかの関連を認めることはできなかった。

所見：平安時代以降の所産と推測される。

2号焼土遺構(第20図、PL. 4)

位置：6区D・E-20。調査区西部に位置する。

形状・規模：不定形。長軸方向0.96m、短軸方向0.64m、
深さ0.11m。

長軸方位：N-60°-W

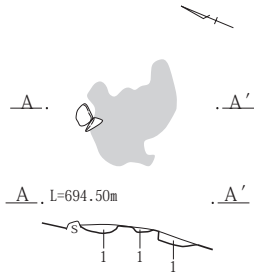
埋没土：焼土下層は赤褐色焼土粒を少量含む褐色土
(7.5YR4/3)。

重複遺構：4号竪穴遺構。

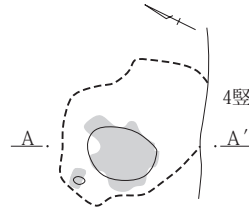
その他：4号竪穴遺構との間を精査したが、なんらかの
関連は認められなかった。4号竪穴遺構に先行する。

所見：平安時代以降の所産と推測される。

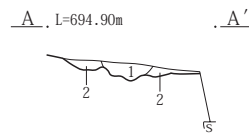
6区
A-23



1号焼土
1 明赤褐色土(5YR5/8)赤褐色焼土粒主体。



6区
A-20



2号焼土
1 明赤褐色土(5YR5/8)赤褐色焼土粒主体。
2 褐色土(7.5YR4/3)赤褐色焼土粒を少量含む。

6 溝

2号溝(第20図、PL. 4)

位置：6区F・G-19。調査区西部に位置する。

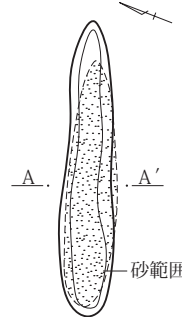
形状・規模：既報告の溝に交差する方向に伸びる短い痕跡が認められた。長軸方向1.56m、短軸方向0.29m、深さ0.06m。

長軸方位：N-70°-E

埋没土：黄褐色の細粒砂が堆積する。

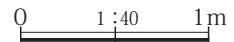
重複遺構：なし。

所見：発掘調査時の名称は1号溝。走行方位が異なるため2号溝とした。前回調査した既報告の6区1溝と同質の埋没土が認められる。溝の形成時期は平安時代後期から近世にかけてと推測される。



A, L=695.40m, A'

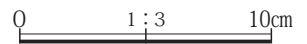
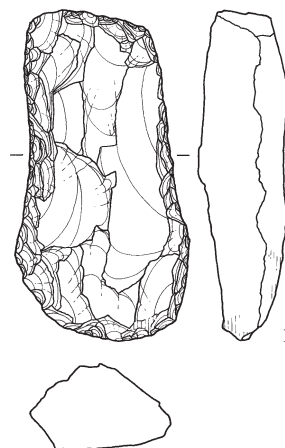
6区
G-19



7 遺構外出土の遺物

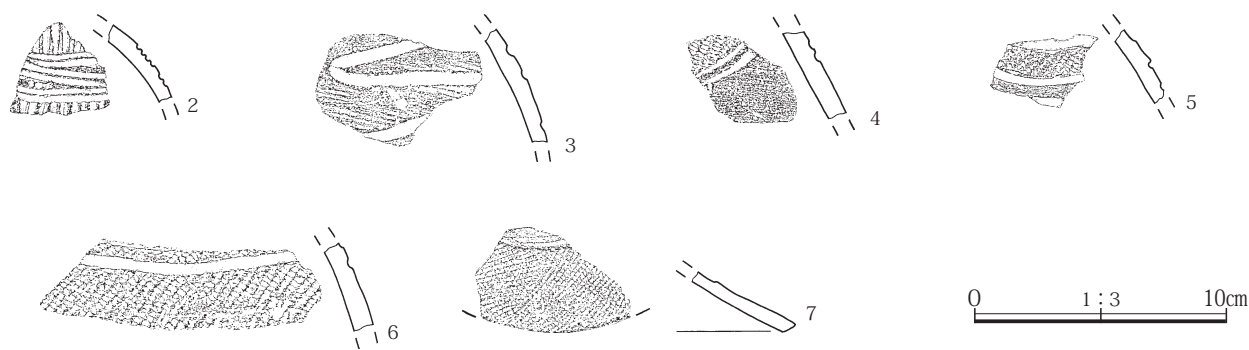
6区G-19グリッド。

1号竪穴住居の覆土内に、打製石斧1点が含まれていた。



第20図 1, 2号焼土遺構、2号溝、遺構外出土遺物 1

第2章 上原Ⅲ遺跡



第21図 遺構外出土遺物2

第7表 遺構外出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				長 幅	厚 重	3.5 367.3			
第20図 PL.5	1	剥片石器 打製石斧	6-G-19グリッド				細粒輝石安山岩	裏面に素材剥片段階の主要剥離面を大きく残す。厚手の大形剥片を素材とする。表裏面の先端部に部分的な摩滅が認められ使用痕の可能性はある。両側片の中央付近につぶれが認められ着柄痕の可能性はある。	
第21図 PL.5	2	弥生土器 蓋	6-G-19グリッド 口縁部片				C	口縁に沿ってやや細密なL R縄文を充填的に横位施文。内面横位磨き。	弥生中期初頭
第21図 PL.5	3	弥生土器 壺	6-D-20グリッド 胴部片				D	複数本単位の篋または棒状工具により縦位・横位の順で集合沈線文を施す。内面横位磨き。	弥生中期初頭
第21図 PL.5	4	弥生土器 壺	遺構外 胴部片				B	横帯状の沈線区画内にL R縄文を充填的に施文。内面やや風化。	弥生中期初頭
第21図 PL.5	5	弥生土器 壺	6-F-20グリッド 胴部片				C	肩部に横帯文を多段に施し、区画内にL R縄文を充填的に施文。内面横位磨き。	弥生中期初頭
第21図 PL.5	6	弥生土器 壺	6-G-19グリッド 胴部片				D	条痕文を斜位に施し、工字状の沈線文を施文。内面撫で状の横位磨き。	弥生中期初頭
第21図 PL.5	7	弥生土器 甕	6-G-20グリッド 胴部片				B	L R縄文を横位施文し、横帯状の沈線文を施す。外面一部に煤状炭化物付着、内面横位磨き。	弥生中期初頭

註 縄文・弥生土器の胎土分類

分類	特徴
A	多量の珪質乳白色岩片や黒・灰白色岩片の礫・粗砂と少量の輝石や石英の粗・細砂を含むやや緻密な胎土。
B	多量の円磨度の進んだ灰白・黒色岩片礫・粗砂と少量の輝石・長石粗砂を含む緻密な胎土。
C	円磨度の進んだ多量の珪質乳白色岩片や少量の灰白色・黒色岩片及び微量の結晶片岩の礫・粗砂を含む緻密な胎土。
D	多量の円磨度の進んだ珪質乳白色岩片の礫・粗砂と微量の輝石粗・細砂を含むやや緻密な胎土。

凡例

○各分類は肉眼観察による相対的なものである。

第5節 調査の成果(総括)

本遺跡の発掘調査は、ハッ場ダム建設工事に関連する町道建設を起因として実施された。調査区の南北は既に土地改良事業が完了し、その間に挟まれた、遺跡を横断する高原道路予定地部分を平成25年度と平成27年度の二次にわたり発掘調査を行う事となった。なお、土地改良事業地分については長野原町教育委員会(以下、町教委)より『林地区遺跡群』2015として報告書が刊行されている。また町道予定地の平成25年度調査分については当事業団より『上原Ⅰ遺跡、上原Ⅲ遺跡、林宮原遺跡』2015として報告書が刊行されている。

1 遺跡の概要について

今回の調査対象面積は380㎡である。調査により確認された遺構は、縄文時代の竪穴遺構1基、弥生時代の埋設土坑1基、平安時代の竪穴住居1軒の他、竪穴遺構3基、土坑11基、ピット4基、焼土遺構2基、溝1条である。遺構は調査区の西側に集中している。事前の確認調査により調査区東半は遺構面が破壊された状態であることが確認されており、西半に遺構が集中する状況が遺跡の特性であるとは言い難いが、町教委の調査成果を踏まえるなら、もともと東側部分の遺構密度は高くはないと推測される。

町教委による土地改良事業地の調査により、上原Ⅲ遺跡の中央を南北に抜ける埋没谷の存在が予想されている。町道部分の基本土層を比較すると、西側に位置する前回調査部分では山麓に由来すると考えられる砂礫の堆積層が認められない。既報により予想される埋没谷の傍証と考えられる。

土地改良事業地の東側を南北に縦断するSD-4は本調査区を横切っている。近世以降の自然流路と判断されるこの溝については、天候不良に災いされ調査期間に制約が生じ、調査対象に含めてはいないが、本調査区の未調査部分に存在している。

2 1号竪穴住居について

前回調査時に「全体形状は方形を呈し、東壁中央南よりにカマドをもつ」と予想された東壁が今回の調査成果である。南壁は調査区外のため、いまだ全体形状は確認しえないが、概ね東石組カマドの方形住居と考えられる。

出土遺物の年代観も前回出土遺物と今回の出土遺物との間に齟齬はない。

町教委の調査総括において、鍛冶工房(SI-12)を中心とした集落変遷の最終期に2軒の10世紀前半住居が加わるとされる。この鍛冶工房の南に占地する最終期の住居群に今回検出された住居も加えることができよう。なお、これら10世紀前半の住居の配置はやや弧状をなすが、いずれも標高695mから696mの間に位置している。

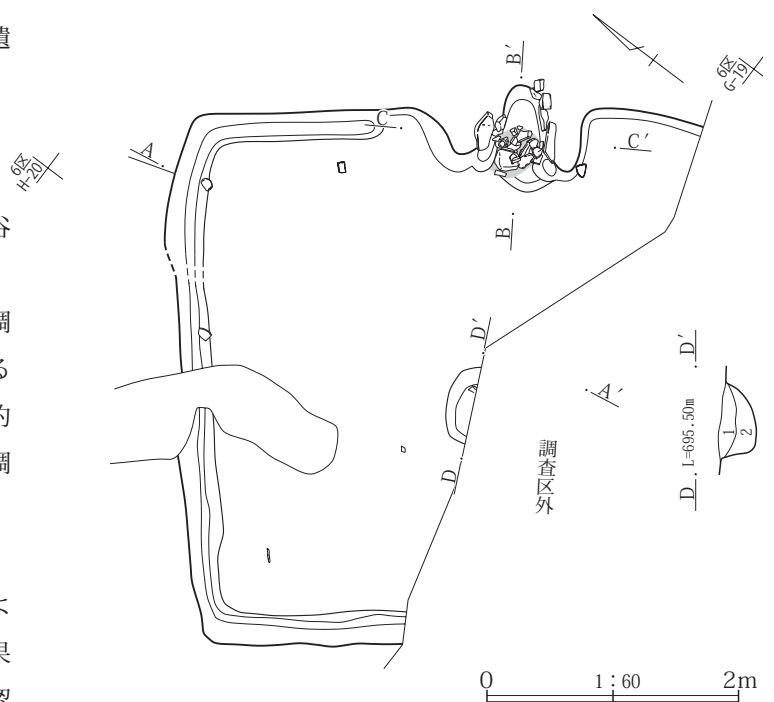
参考資料

「第2編 上原Ⅲ遺跡」『長野原町埋蔵文化財調査報告 第30集、林地区遺跡群、水源地域整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第1集』2015、長野原町教育委員会pp.117-316

「第3章 上原Ⅲ遺跡」『公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書 第604集、上原Ⅰ遺跡、上原Ⅲ遺跡、林宮原遺跡、ハッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第46集』2015、公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団pp.86-100



自然流路(SD-4)の痕跡(南より)



第22図 6区1号住居合成図



第23図 上原Ⅲ遺跡遺構分布全体図(合成図)(事業団604集第60図に加筆。原図長野原町)

第3章 久々戸遺跡

第1節 調査に至る経緯と経過

久々戸遺跡については、これまで平成7年の長野原草津口停車場線道路建設に伴う調査を手始めに、その後の八ッ場ダム建設工事に伴い平成9～11年にわたって、さらに平成15年と、それぞれ調査が実施されてきた。その内容は、『長野原久々戸遺跡』（財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第240集 1998）、『久々戸遺跡・中棚Ⅱ遺跡・下原遺跡・横壁中村遺跡』（財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第319集 2003）、『久々戸遺跡(2)・中棚Ⅱ遺跡(2)・西ノ上遺跡・上郷A遺跡』（財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第349集 2004）として報告されている。

本遺跡における今調査も、八ッ場ダム建設工事に伴う発掘調査として実施した。

第1項 調査に至る経緯

平成25年度に国土交通省関東地方整備局八ッ場ダム工事事務所(以下、八ッ場ダム工事事務所)所長より群馬県教育委員会事務局文化財保護課(以下、県文化財保護課)課長あてに試掘依頼があり、平成26年5月16・19日に県文化財保護課による試掘調査が実施された。その結果、天明泥流下の畑跡が確認されたことから本調査が必要とされた。この結果を受け、平成27年度に発掘調査を実施することとし、八ッ場ダム工事事務所と県文化財保護課と事業団による調査工程等の調整が行われ、平成27年7月から12月の久々戸遺跡発掘調査が決まった。

平成27年7月より発掘調査を開始し、途中2度の工事計画の変更があり、八ッ場ダム工事事務所と県文化財保護課と事業団で調整を行いつつ調査を進めた。調査終盤の12月に第2面の調査を進めていたところ、出土した残存状態が良好な縄文時代の柄鏡形敷石住居について、長野原町と八ッ場ダム工事事務所との間で保存のための調整が行われ、保存計画が決定するまで敷石住居の発掘調査を中断する指示があった。

調査の再開については、翌28年当初に長野原町教育委

員会からの敷石住居移築保存の決定を受け、八ッ場ダム工事事務所と県文化財保護課と事業団の3者で平成28年度八ッ場ダム建設工事に伴う発掘調査遺跡工程の調整を行い、久々戸遺跡の調査再開時期を同年4月1日からの1ヶ月間とし、移築保存に向けた敷石面への準備作業等を長野原町教育委員会で行った後に調査再開とした。

さらに、平成28年4月に遺跡地内の建設工事計画の変更により発掘調査が必要となり、八ッ場ダム工事事務所と県文化財保護課と事業団で調査期間や調査体制等の協議を行い、7月1日より発掘調査を実施することとした。

第2項 調査の経過

1. 発掘調査の経過

発掘調査は、当初10,447㎡を対象として平成27年7月から同12月までの6ヶ月間を予定した。設計変更および調査終盤での敷石住居移築保存に関わる調査中断があり、翌28年4月に調査が再開され、同4月末に調査が終了した。結果、調査は計7ヶ月間を要した。

平成27年度調査

調査開始当初は、現地事務所等の設営および調査区の設定、調査地内の上物除去等、調査開始のための準備を進め、調査地中央のA区より重機による表土掘削を開始した。A区の第1面調査として、天明泥流下およびAs-A下を対象とした調査を目的とし、人力による遺構確認作業と畑面の検出・精査を開始した。8月10日からは、畑面の検出・精査と併行して、畑の断ち割りや円形平坦面の確定、それらの写真および測量といった記録作業を随時進めた。同28日には、A区第1面のラジコン・ヘリコプターによる空中写真撮影と、全体写真および畑等の個別写真撮影を行い、併せてB区の掘削準備を行った。9月1日からは、A区第2面調査のための確認トレンチ掘削を開始し、古代以前の遺構の検出されたトレンチを随時拡張して調査を進めた。同11日からは、A区第2面調査と併せてB区第1面調査(天明泥流下およびAs-A下)を開始し、畑面の検出・精査を進行させた。同30日には、A区第2面の全体写真を撮影したが、再度の拡張が要となった。10月5日には、A区第2面の再々拡張を

進め、併せてB区第1面畑の断ち割り、写真および測量といった記録作業をその後に行った。同7日、A区第2面調査が終了した。同13日からは、B区第1面調査を継続させつつ、C区の掘削準備を併せて行った。同19日から、C区第1面調査(天明泥流下およびAs-A下)を開始し、畑面の検出・精査を進行させた。翌20日、B区第1面のラジコン・ヘリコプターによる空中写真撮影と、全体写真および畑等の個別写真撮影を行い、その後にB区第2面調査のための確認トレンチ掘削を開始し、同26日からB区第2面の重機掘削および遺構確認作業を進行させた。11月10日には、C区第1面のラジコン・ヘリコプターによる空中写真撮影と、全体写真および畑等の個別写真撮影を行った。同16日からは、B区第2面調査およびC区第1面調査(拡張)を継続させながら、C区第2面調査の掘削を開始した。同19日にC区第1面調査、同30日にはC区第1面調査が終了した。12月2日からは、B区第2面調査に併行してA区第2面南側の調査を再開し、同8日にA区の調査を終了させた。また、同10日からは、B区南側の拡張調査を併行して開始し、同15日に第1面調査を終了させ、順次第2面調査へと移行した。翌16日は、高所作業車を用いて柄鏡形敷石住居の写真撮影を行い、同日午後に長野原町町長、副町長、教育長、教育委員会が柄鏡形敷石住居の現地視察を行った。同22日には、調査中断による越冬(越冬)のための遺構養生を行い、併せて現地事務所等の撤収準備を始め、同25日に年度内の調査を終了した。

平成28年度調査

調査再開の準備を進める一方で、長野原町教育委員会による敷石住居移設準備が進められる中、遺物の取り上げおよび測量補足を開始する。4月13日から、長野原町教委による敷石の移設作業が開始され、同時に敷石下部の調査を開始した。同21日より、敷石下部底面の精査を開始する。同27日に、敷石下部構造の測量と写真撮影を終え、調査を終了した。併せて、現地事務所や調査機材等の撤収準備を始め、翌28日に全ての調査を終了した。

また、追加調査については、6月29日より調査区設定等の調査準備を行い、7月1日から重機による表土掘削を開始した。同5日からは、第1面調査となる天明泥流下およびAs-A下を対象とし、人力による遺構確認作業と畑面の検出・精査を開始した。同7日には、第1面の

ドローンによる空中写真撮影と、全体写真および畑等の個別写真撮影、測量を行った。翌8日からは、縄文時代から古代を対象とし、トレンチ調査による第2面の遺構確認を行った。その結果、染み状の箇所はあったものの明確な遺構はなく、同12日に写真・測量との記録を行い調査を終了した。同15日には全ての撤収を終え、調査を完了した。

2. 整理事業の経過

整理事業は、平成28年4月から9月までの6ヶ月を予定して行った。作業は、平成27年度調査分の各種記録類の確認から開始し、出土遺物についても遺物分類から開始した。なお、平成28年度調査分の記録類・出土遺物については、調査終了後に合わせて整理事業を行った。

遺物整理にあたっては、出土遺物の分類後、各種別毎に資料化を図った。縄文・弥生土器については、時期分類の後に接合・復元作業、掲載遺物選定、写真撮影、実測作業、拓本・断面実測作業、トレース作業へと順次進めた。また、石器については、器種分類の後に掲載遺物選定、写真撮影、実測作業、トレース作業。陶磁器については、掲載遺物選定、写真撮影、実測作業、トレース作業。金属製品については、クリーニング作業、掲載遺物選定、写真撮影、実測作業、トレース作業へと進めた。さらに、こうした一連の作業に併行して、各遺物観察の執筆を行った。

検出された各種遺構については、各遺構図毎の修正作業後にデジタル編集作業を行い、併せて遺構写真の選定、本文執筆を行った。また、本遺跡における各年次別遺構平面図の合成作業も、同時に行っている。その後、報告書版下のレイアウト作成、全体のデジタル編集作業およびデジタル組版を行い、印刷・製本を業者委託して発掘調査報告書を刊行した。

また、整理した遺物や写真等については、管理台帳を作成し、活用に備えて遺物や資料類の収納作業を行い、すべての整理業務を完了した。

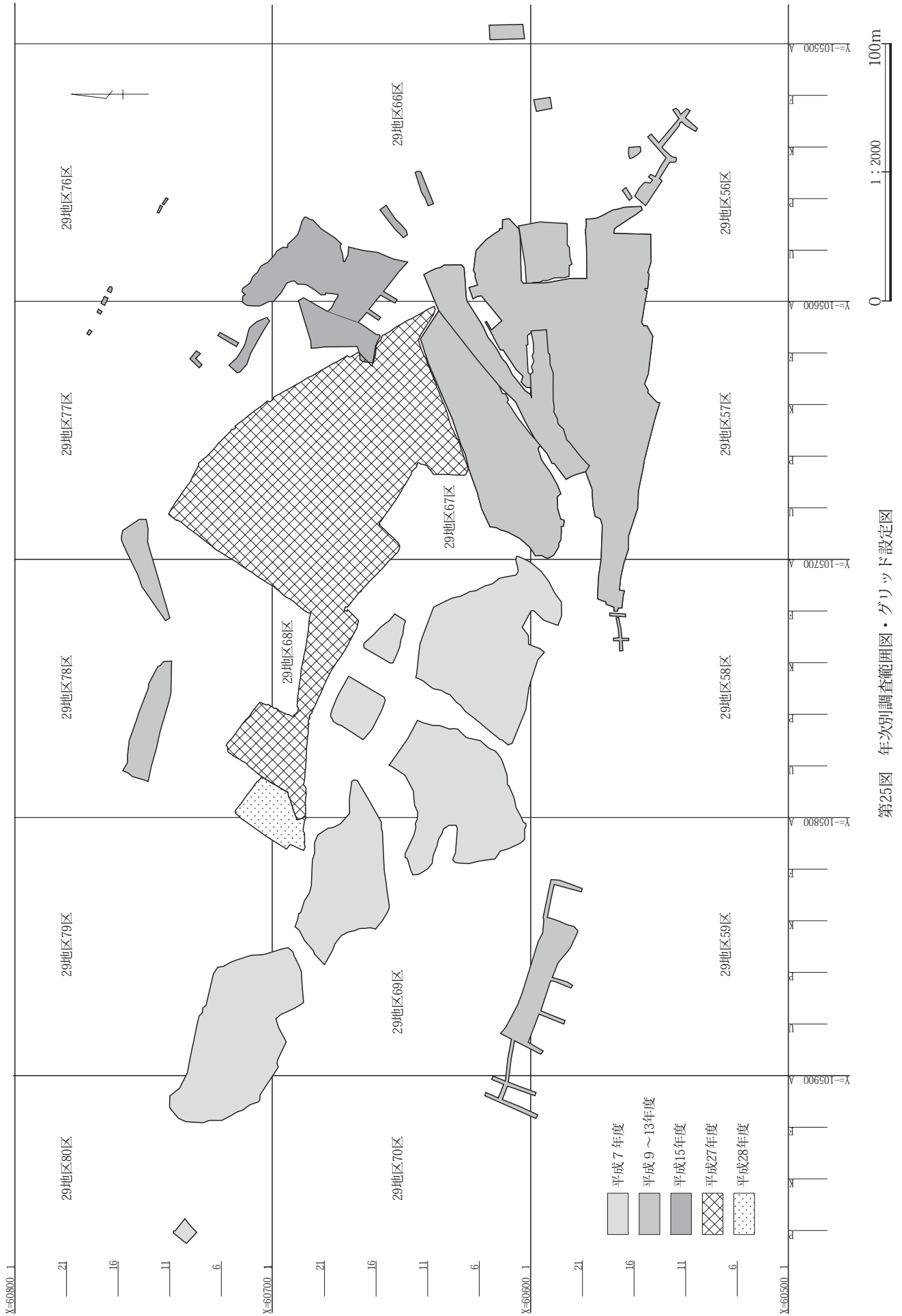
第2節 調査の方法

第1項 調査区とグリッドの設定

久々戸遺跡における遺跡名称の略号や調査区とグリッ



第24図 久々戸遺跡位置図・周辺地形図



第25図 年次別調査範囲図・グリッド設定図

ドの設定については、その基本的な方法を第1章第2節に述べた通りである。

本遺跡は、29地区とした大グリッドに位置しており、大グリッドの設定は日本測地系2000第IX系を使用し、東吾妻町大字大柏木付近を基点(座標値：X=58000.0、Y=-97000.0)として、北西方向に60区画の1km方眼を設定している。さらに、29地区とされる大グリッドの南東隅を基点とし、縦横100分割した100m方眼を中グリッドとして設定している。これにより本調査区は、中グリッド67・68区および77・78区に跨ることとなる。

大グリッドの境界が本調査区を通らないため、小グリッドの呼称を、大グリッドの番号を省略し、中グリッドと小グリッドを併記した「67区P-21」あるいは「78区R-3」のように標記した。

なお、遺構番号については、区を跨ぐものの通番で付番した。

第2項 発掘調査の方法

平成27年度の調査は、調査範囲の形状や廃土処理を考慮し、大きく3地区に分割して調査を進める方針の基、東西に長い調査範囲の中央部をA区、東側をB区、西側をC区と仮設定し、調査はA区から順次進めた。また、平成28年7月調査では、調査範囲が狭いことから、前年度C区に接する西側部分であることから、特に調査区を設定していない。

発掘調査は、表土除去に重機を使用し、表土除去後の各作業は発掘作業員により実施した。遺構確認作業はジョレンを用いて行い、面的な遺構の把握に努めた。特に、数度にわたる以前の調査では、天明三年の泥流下に畑が検出されていることから、今調査においても同様な畑の検出が予測されていた。

遺構確認は、まず第1面調査として基本土層第II層(天明泥流堆積物)下面ないし基本土層第III層(As-A軽石)下面を確認面とし、天明三年に被災した泥流下の遺構を対象に調査を行った。その結果、各区のほぼ全面に、天明三年の浅間山噴火に起因する泥流下およびAs-A下畑を確認した。続く第2面調査では、暗褐色土となる基本土層第V層下面ないし基本土層第VI層下面、鈍い褐色土の第VII層上面を遺構確認面とし、古代以前の遺構を対象とした調査を行った。最初のA区においてはトレンチ

での調査を行ったが、遺構の広がりに応じて随時拡張し、その後のB・C区では全面に対象を広げた。その結果、縄文時代の柄鏡形敷石住居と土坑、弥生時代の土坑、古代の陥し穴等を確認した。

遺構等の測量は、測量業者に委託して調査期間の短縮を図った。縮尺は、1/20、1/40を基本として、それぞれの遺構の性格に合わせて適宜使用した。また、全体図は、1/200、1/500を作成した。

写真撮影は、中判カメラでの白黒フィルム、デジタル撮影データの2種類を基本とし、調査区の全景写真等は調査の進展にあわせて行い、併せてラジコンヘリによる空中写真撮影を業者に委託して実施した。なお、撮影した写真のデジタルデータは、HDやDVD-ROM等のメディアに保存し、データのファイル名は、調査区・遺構略号・番号・撮影方向・内容を数値化したものに置き換えるリネーム作業を行った。

遺物の洗浄・注記は、業者に委託して行った。

第3節 遺跡の立地と基本土層

第1項 遺跡の立地

久々戸遺跡は、吾妻郡長野原町大字長野原に所在し、蛇行する吾妻川右岸の中位段丘面に位置している。遺跡の南側を国道145号(長野原バイパス)が通り、中央の県道長野原草津停車場線と吾妻川に架かる長野原駅前大橋を経て、対岸にJR長野原草津口駅がある。遺跡の南側は急峻な山地で、調査地は南から北および北東方向の緩斜面となって吾妻川に面し、標高は約595~585mを測る。また、遺跡地は、両側を北流ないし東流して吾妻川に注ぎ込む小河川の間であり、東西に細長い段丘面となっている。

遺跡の南側となる斜面際(山地との変換部)には、横壁村ないしは大戸宿・関所や大須賀宿を経た信州街道から分岐し、吾妻川と白砂川との合流付近の吾妻川に架かる琴橋へ通じる幹道「草津みち」が、等高線に併行するように通ることが知られている。また、吾妻川を挟んだ北東側の対岸の中位段丘面には、平成18~26年度にかけて調査された尾坂遺跡があり、縄文時代の柄鏡形敷石住居を含む竪穴住居や土坑、弥生時代の土坑および再葬墓、平

安時代の竪穴住居や土坑等が検出され、さらに本遺跡と同様な天明泥流に被災した天明三年期の遺構には、建物を含めた屋敷跡、畑、道、石垣、取水遺構といった各種の遺構が良好な状態で出土している。

第2項 基本土層

本遺跡の基本土層については、今調査範囲を挟んだ南側(財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第319集 2003)および北側(財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第349集 2004)の調査で示された土層と基本的には同じであることから、それらの基本土層を踏襲し、本調査での基本土層を確認した。調査範囲内における各地点毎の土層断面を、第26図に示した。

第1面調査に関わる天明三年(1783年)の浅間山噴火に伴う噴出軽石(As-A軽石)ならびに泥流堆積物(基本土層第II層)については、共通して確認できる堆積層であり、堆積下面が同一時間の状態にある。従って、基本土層に示すところの基本土層第III層(As-A軽石)下面ないし基本土層第IV層(黒褐色土)上面が、第1面調査時の遺構検出面となる。なお、表土・天明泥流の層厚は、1号畑上で90cmを測る。また、基本土層第IV層上位は、泥流で被災した天明三年期の畑の耕作土でもあり、地点によっては分層(IV a層・IV b層)している。

以前の調査では、第1面で検出された天明三年期の遺構よりも下位での遺構は確認されていなかったが、今調査においては天明三年期よりも古い、古代・弥生時代ならびに縄文時代の遺構が検出された。これらの遺構については、第2面調査として調査を行った。

遺跡地が斜面地であるため、各調査地点によって多少の差異があることは否めないが、基本土層第IV層とした黒褐色土はほぼ全面に堆積し、その下に第V層とした暗褐色土が堆積する。この第V層は、地点によって様相が異なり、下位ほど10~40cm程の礫を多く含む。また、分層(V a層・V b層・V c層)できる箇所もある。第VI層は鈍い褐色土との混在層で、部分的に確認できたのみであり、その下に第VII層とした灰白色土から鈍い褐色土が堆積する。このVII層は、調査範囲の北半となる一段低い箇所に確認された層である。シルト質ながらも砂礫を含み、軽石粒を雑多に含む不均質な層である。第2面調査は、先の第V層下面ないしは第VI層下面、第VII層上面を

遺構検出面として調査を行った。確認できた最下層は第VIII層とした黄褐色砂礫層で、本遺跡が立地する中位段丘の基盤層を形成する砂礫層となっている。

なお、平成9~11年度調査(調査報告書第319集2003)で基本土層VI層としたAs-BないしAs-KKを含む黒色土は、今調査では確認されていない。

以下、堆積する各層について記述する。

I層：表土

II層：暗褐色土

天明泥流の堆積物である。1号畑においては、表土・天明泥流の層厚が90cmを測る。

III層：鈍い黄褐色軽石

浅間山を給源とするAs-A軽石。

IV層：黒褐色土

軽石粒等を含まない均質土。地点によっては、1mm大の黄色・白色軽石粒を極僅かに含む均質土。層の上位は、泥流被災前の畑耕作土となる。なお、分層できる箇所については、IV a層を畑の耕作土、IV b層を所謂IV層とした。

V層：暗褐色土

1~10mmの軽石粒を若干含み、下位ほど10~40cm程の礫を多く含むが、地点によってその量はまちまちである。なお、分層できる箇所については、軽石粒を若干含む層をV a層、黄褐色土ブロックを混在させる層をV b層、大型の礫を多く含む層をV c層とした。

VI層：暗褐色土

暗褐色土と鈍い褐色土の混在層で、部分的に確認できた。

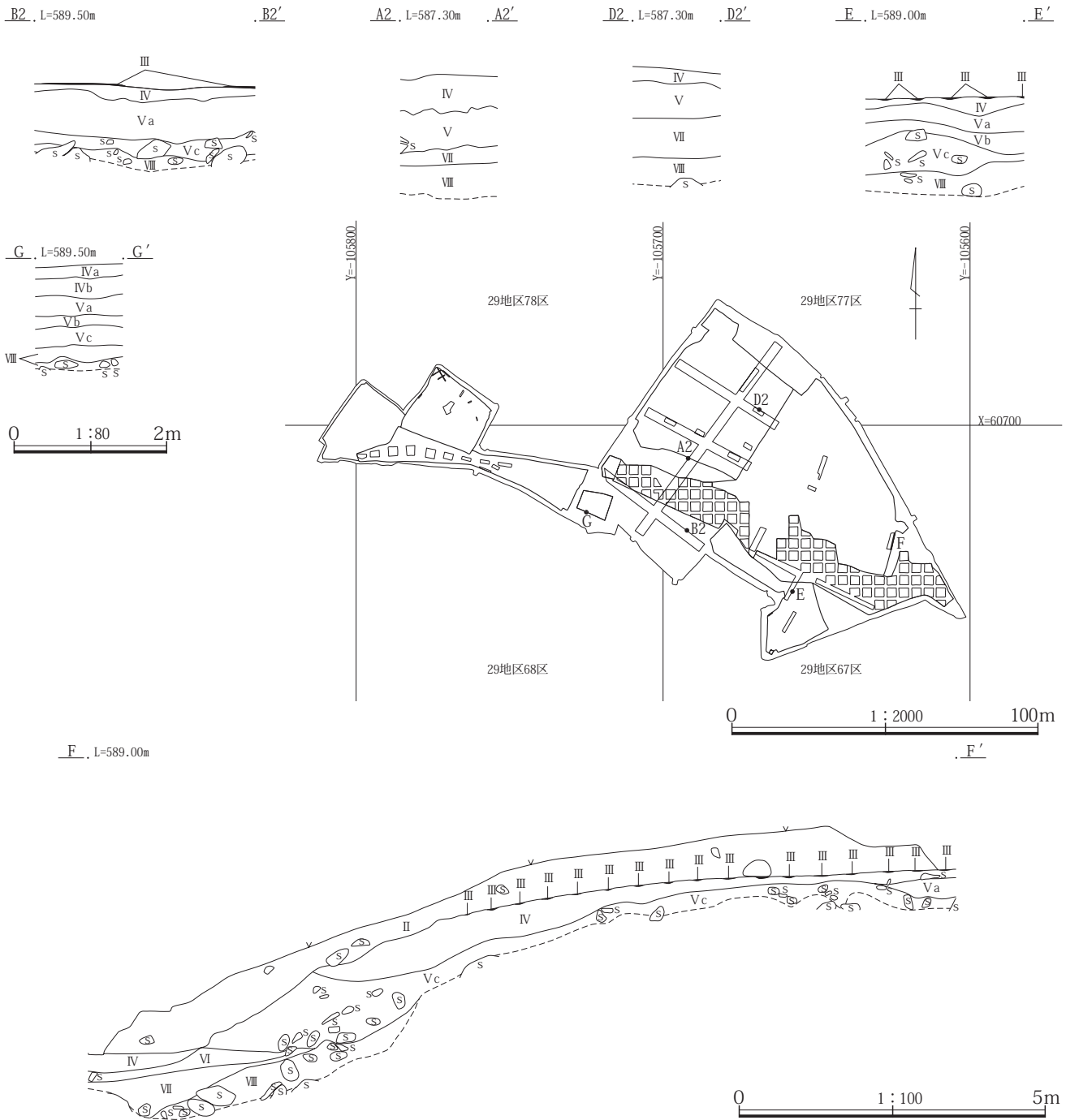
VII層：灰白色土~鈍い褐色土

灰白色部分では、シルト質であるものの砂礫を含みジャリジャリする。また、鈍い褐色部分では、砂礫を極僅かに含み、5~10mm大の黄色味強い軽石粒を雑多に含む不均質な層となっている。

VIII層：黄褐色砂礫層

VII層の鈍い褐色土部分と分層し難い箇所もある。層の上位には、ローム相当層と考えられる不均質な鈍い黄褐色土が堆積し、その下に10~50cm大の垂円礫を多量に含む砂礫層となって、中位段丘の基盤層を形成している。

第3章 久々戸遺跡



- I層 表土
- II層 暗褐色土(10YR3/3) 天明泥流層。締りあまりなく、粘性なし。
- III層 鈍い黄褐色軽石(10YR7/4) As-A 軽石。
- IV層 黒褐色土(10YR3/1) 軽石粒等を含まない均質土。締り弱く、粘性ややあり。(As-A 軽石下畑耕作土を含む。)
- IVa層 黒褐色土(10YR3/1) As-A 軽石下畑の耕作土(IV層上位)
- IVb層 黒褐色土(10YR3/1) 軽石粒などを含まない均質土。(IV層下位)
- V層 暗褐色土(10YR3/3) 1~10mmの軽石粒を少量含む。上部には部分的に鉄分凝集がある。締りあり。
- Va層 暗褐色土(10YR3/3) 黄色・白色軽石粒を若干含む。
- Vb層 暗褐色土(10YR3/4) 斑状に黄褐色土ブロックを含む。
- Vc層 暗褐色土(10YR3/4) 軽石粒を含まず、大型礫を多く含む。上層より締り強く、粘性あり。
- VI層 暗褐色土(10 YR3/3) 鈍い褐色土が混在。締りややあり。
- VII層 灰白色土(7.5YR8/2)~鈍い褐色土(7.5YR5/3) 灰白色部分では、オリブ灰色風化岩片を僅か含みシルト質で明るい。鈍い褐色部分では、砂礫を極僅か含み、5~10mm大の黄色系の軽石粒を雑多に含む。
- VIII層 黄褐色砂礫層(基盤層) 層の上位にローム相当層と考えられる不均質な鈍い黄褐色土が堆積し、下位は10~50cm大の亜円礫を含む砂礫層となる。

第26図 基本土層およびトレンチ配置図

第4節 検出された遺構と遺物

第1項 縄文時代～古代(第2面調査)

1 概要

第2面調査で検出された縄文時代から古代の遺構は、調査範囲となる29地区67・68・77・78区に跨がるほぼ全域に検出された。

以前の調査では、第1面での天明泥流に被災した天明三年期の各種遺構下に、それよりも古い時期の遺構は確認されていなかったが、今調査において始めて遺構の存在が確認された。この第2面調査時の遺構確認面の地形を見ると、調査範囲の南半が等高線に沿う形で東西方向に一段高い状態となり、段差をもって北半が低く、29地区67区W-25グリッド付近を谷頭とした浅い谷地が段差際に東方向へ延びる。また、南半の上段部は、基本土層第V層の直下層が、中位段丘の基盤層を形成する基本土層第VIII層の黄褐色砂礫層である。これに対し、北半の下段部では、基本土層第VI層および第VII層が堆積し、その下が第VIII層の黄褐色砂礫層となっている。つまり、この中位段丘面においても、小規模な河岸段丘が存在しているものと考えられる。

今調査で検出された縄文時代から古代の遺構は、上段の段差際に縄文時代の柄鏡形敷石住居が1軒、縄文時代の土坑4基、弥生時代の土坑2基、古代の土坑19基、時期不明な土坑16基がある。中でも、柄鏡形敷石住居は縄文時代中期末葉の竪穴住居であり、その依存状況は極めて良好な状態であった。また、縄文時代の土坑は後期初頭および後期後半、弥生時代の土坑は中期初頭の遺構である。さらに、古代の土坑としたものは、そのほとんどが陥し穴である。

2 竪穴住居

今調査での竪穴住居は、上段の段差際に検出された縄文時代の柄鏡形敷石住居1軒のみである。

1号住居(柄鏡形敷石住居)

(第28～35図、第10表、PL. 7～13・31)

本住居は、B区の2面調査時に、上段の段差際に検出

された。依存状況が極めて良好な状態にあったことから、長野原町教育委員会の移築保存の決定を受け、遺構調査の終盤には町教委による移築作業と併行して調査を行った。

位置：上段の段差で、67区の中央付近北西寄りに位置する。周辺に同時期の遺構はないが、同じ上段面の南西側3.2mには時期不明の53号土坑があり、下段際となる北側5.0mには古代の土坑(陥し穴)である63号土坑がある。

グリッド：67区Q・R-17～19

(国家座標 X=60,666～672 Y=-105,665～669)

形状：柄鏡形の敷石住居である。主体部形状は隅丸方形を呈し、斜面側となる北辺の中央に張出し部が大きく突出するように付く。さらに、張出し部先端東側には、この張出し部先端に続く入り口部への導入と考えられる石列が住居の東側から曲線的に延びる。

全体規模：長軸5.85m

主体部 幅4.37m 壁高50～40cm

張出し部 幅1.0m前後 壁高45～30cm

長軸方向：N-157°-W

床面積：13.70㎡(主体部11.84㎡、張出し部1.86㎡)

埋没土：本住居の上位には第1面調査で検出された26号畑があり、1層は26号畑の畝間に残る基本土層第III層のAs-Aで、2・3層が基本土層第IV層に相当し、4層が基本土層第V層となる。住居の埋没土は5層以下であり、黒褐色土を主体とした5～10層が床上の堆積土で、11～13層(黒褐色土)は炉内の堆積土。さらに、黒褐色土および暗褐色土の14～17層は敷石下の堆積土である。なお、柱穴内の土層については、黒褐色土・暗褐色土・鈍い黄褐色土をア～カとして分層した。

〈上部構造〉

先述の5～10層を除去した床面(敷石上面)の状況を、隅丸方形を呈した主体部と、主体部の北辺中央に付く張出し部、さらに張出し部から続く石列に分け記述する。

主体部

主体部は隅丸方形を呈し、張出し部が付く辺以外はやや胴張り気味に膨らみ、長軸に直行する短軸幅は確認面で4.37mを測る。埋没土中には、亜円礫等の大小の礫が多く混入していた。

床面：床に使用される石には、大型の板状礫が多用さ

れ、中央の炉を中心に敷き詰められている。板状礫の隙間には垂円礫が間詰めされ、敷石の周縁部にも垂円礫が用いられる。敷石範囲の形状は方形を呈し、敷石の縁と壁際との間には、幅40cm前後の無敷石帯が空く。ただし、張出し部との連結部は、主体部から張出し部へと続く敷石が存在する。なお、敷石された床面の状況は、ほぼ平坦であると言えるが、微細には西半と東半とで若干異なる。西半の敷石面は全体に平坦であるのに対し、東半の敷石面は僅かずつ傾きがまちまちである。

壁：主体部の壁高は、確認面から40～50cmを測る。緩斜面に位置する住居であるため、南側の壁高が高い。また、基本土層第Ⅷ層の黄褐色砂礫層を掘り込んだ住居であることから、壁面には第Ⅷ層中に含まれる大小の礫が露出している。さらに、張出し部と接続する北壁では、基本土層第Ⅴ・Ⅷ層に含まれる大型ないし巨大な地山礫が壁面の一部となっている。

炉：主体部の床面を構成する敷石中央に位置し、方形に組まれた石囲炉である。その規模(内法)は住居長軸方向が50cm、短軸方向が43cmを測り、炉石の上部は敷石面より10cm前後ほど高くなる。深さは約30cmを測るが、底面は大型の地山礫となる。炉に使用される石材は、床と同じ板状礫であり、内面上位は比熱している。また、この住居中央炉の北側となる中軸上には、小型な石組が検出されている。住居長軸(中軸)方向が短軸となる長方形を呈し、その規模(内法)は長軸38cm、短軸12cmを測り、石組上部は敷石面と同一で、底面に礫を据え、深さ16cmを測る。使用される石材は、薄い板状礫である。内面上位が僅かに比熱していることから、副炉の可能性が高い。

柱穴：床面調査時に、方形に石敷きされた敷石の4隅および長軸(中軸)上の敷石南際に配置された5基の柱穴(P1～5)が確認された。これらの柱穴は、いずれも敷石と接するように在り、円形で径20cm前後を測る。柱穴内の埋土は、アとした礫を含まない黒褐色土、ウの暗褐色土であり、住居埋没土5・6層と同様と考えられる。

張出し部

主体部の北辺中央に北側に延びる張出し部が付き、張出し規模は長さ(床長)2.40m、上面幅1.0m

前後を測る。床面調査時の埋土中には、接続する主体部北辺に寄った部分に巨・大型礫が目立ち、張出し連結部を閉塞するかごとくであった。しかし、閉塞の根拠はない。また、張出し部の両側壁には、立石や石積みが確認されており、先端部も同様であった。ただし、東壁の先端付近には立石・石積み等の壁の立上りは認められず、その延長上に後述する石列があることから、この部分が住居入り口部である可能性が高い。

床面：主体部から連結部を経て、張出し部へと石敷が概ね平坦に続く。床に使用される石は、板状礫が多用され、隙間に扁平な垂円礫が間詰めされる。底面幅は、張出し部中央で66cmを測り、連結部で50cmとやや狭くなる。また、北端は緩い弧状となる。

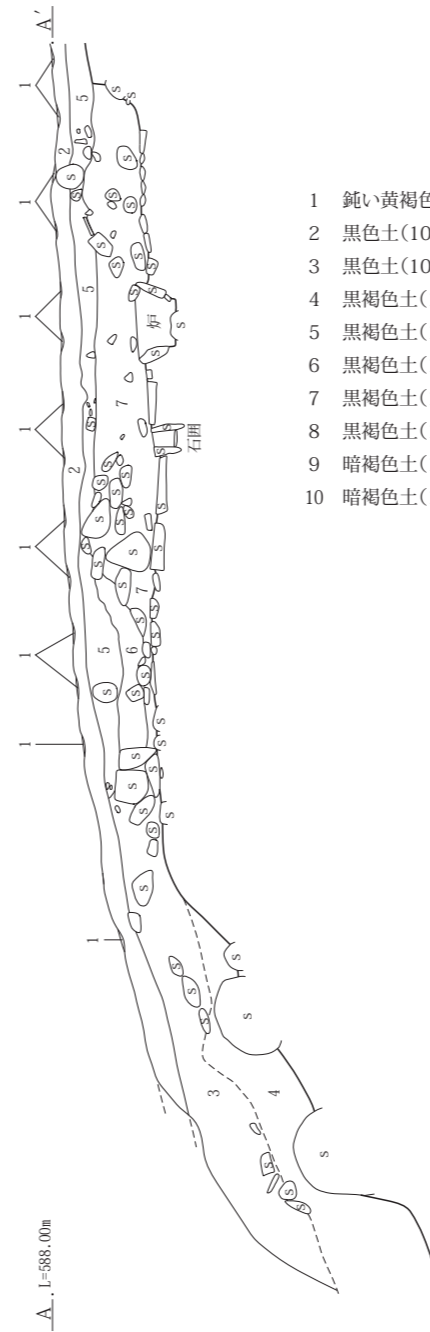
壁：壁高30～45cmを測り、上面幅は1.0～1.2mと底面幅よりも広がる。西壁の特徴としては、主体部と接続する南端に大型な扁平礫の扁平面を張出し部壁面として立石させ、立石は3石ほど続き、中央部に垂円礫を野面積み状に3段の石積みを確認された。この中央石積みより北側については、地山礫をそのまま利用したのか人為的な配置なのかは判然としないが、列をなしていることは明らかである。東壁の特徴としては、主体部北辺に寄った巨大礫が住居長軸方向に併行してあり、この巨大礫の下に地山礫が噛んだ状態でそのまま壁面となる。中央部も上部に大型礫が続き、その下に地山礫が噛み、部分的に立石が東壁面を構成する。また、東面の北側は、壁の立上りは認められず、住居の入り口部と想定される。北端壁は、やや小振りな垂円礫を2ないし3段ほど石積みし、低い壁を構成している。

石列

住居の東側に位置し、地山礫を含めた大型礫が2列併走する。礫列は南側が広く開口(幅1.7m)し、北側が徐々に窄まる。この石列の北端は大きく湾曲して、住居張出し部の東壁北側にある入り口部に続く。入り口部付近では、下に地山礫を噛んだ大型礫が張出し部東壁に連なって在り、この石列が入り口部に続く導入であることが理解できる。ただし、石列の北側は段差となる斜面であるため、不明な点も残す。



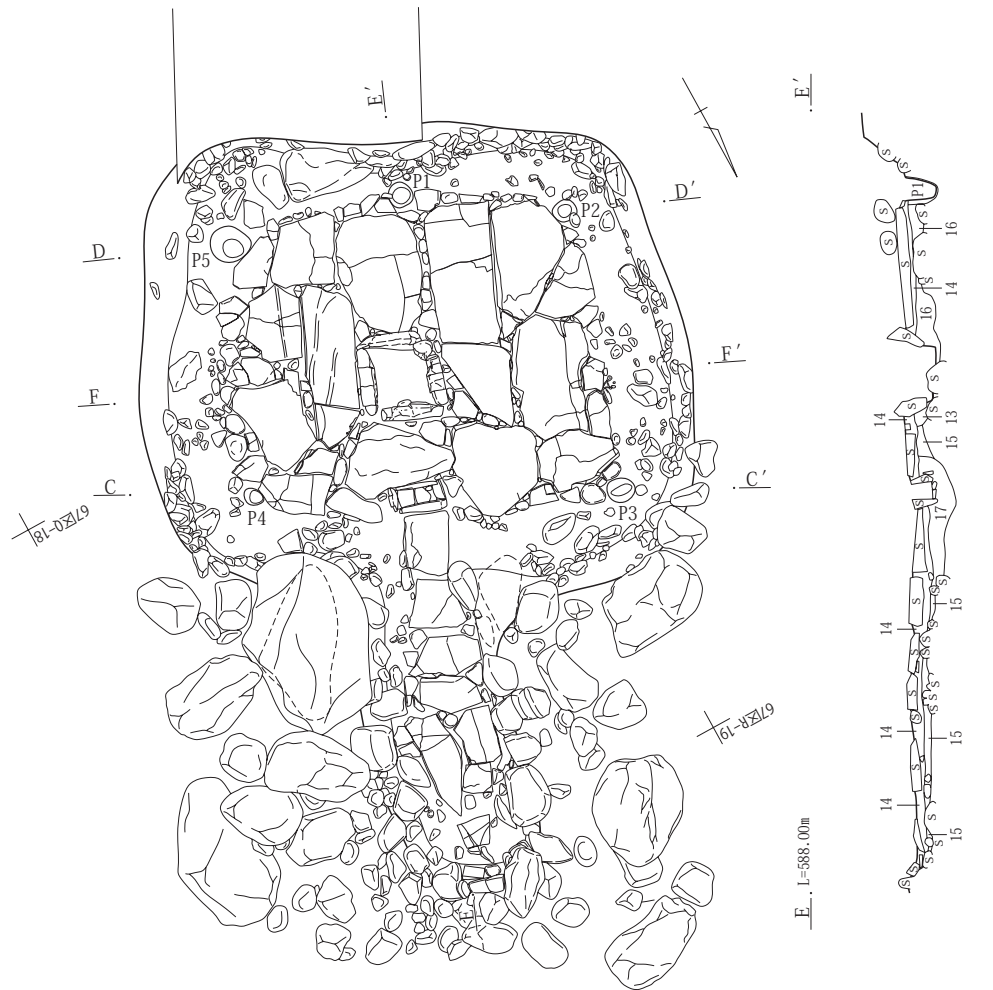
第27図 第2面(縄文・弥生時代)遺構全体図



- 1 鈍い黄褐色土(10YR7/4) As-A 軽石。
- 2 黒色土(10YR2/1) 下位の3層を基にした、天明泥流下畑の耕作土。
- 3 黒色土(10YR2/1) 軽石粒を含まない均質土。縮り弱く、粘性ややあり。
- 4 黒褐色土(10YR3/1) 1~5mmの黄色・白色軽石粒を若干含む。
- 5 黒褐色土(10YR3/1) 1~5mmの黄色・白色軽石粒、炭化粒を極少量含み、亜円礫等の礫を多く含む。
- 6 黒褐色土(10YR3/1) 5層に近似するが、軽石粒をやや多く含む。
- 7 黒褐色土(10YR3/1) 5層よりやや明るく、黄色・白色軽石粒を少量、5mmほどの炭化粒を含む。
- 8 黒褐色土(10YR3/1) 7層よりやや暗く、黄色・白色軽石粒、1~2cmの炭化物を若干含む。
- 9 暗褐色土(10YR3/3) 他層より明るく、軽石粒を微量含む。5~10cm大の亜円礫が多量。
- 10 暗褐色土(10YR3/3) 9層に近似するが、礫が少ない。

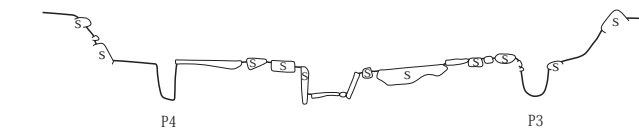
0 1:60 2m

第28図 1号住居 全体図・土層断面図

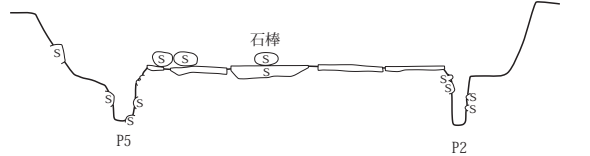


- 14 黒褐色土(10YR3/2) 地山砂質土をブロック状に含む。縮り、粘性やや弱い。
- 15 暗褐色土(10YR3/3) 5~10cm大の地山礫を多く含む。縮り、粘性やや弱く、砂質気味。
- 16 黒褐色土(10YR3/2) 人頭大の垂円礫を含み、砂質やや強く、僅かに炭化粒を含む。縮り、粘性やや弱い。
- 17 黒褐色土(10YR3/2) 地山礫を僅かに含む。炭化物様の黒色土を層状に僅か含む。

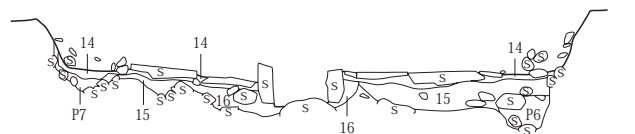
C, L=588.00m



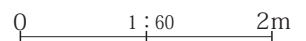
D, L=588.00m

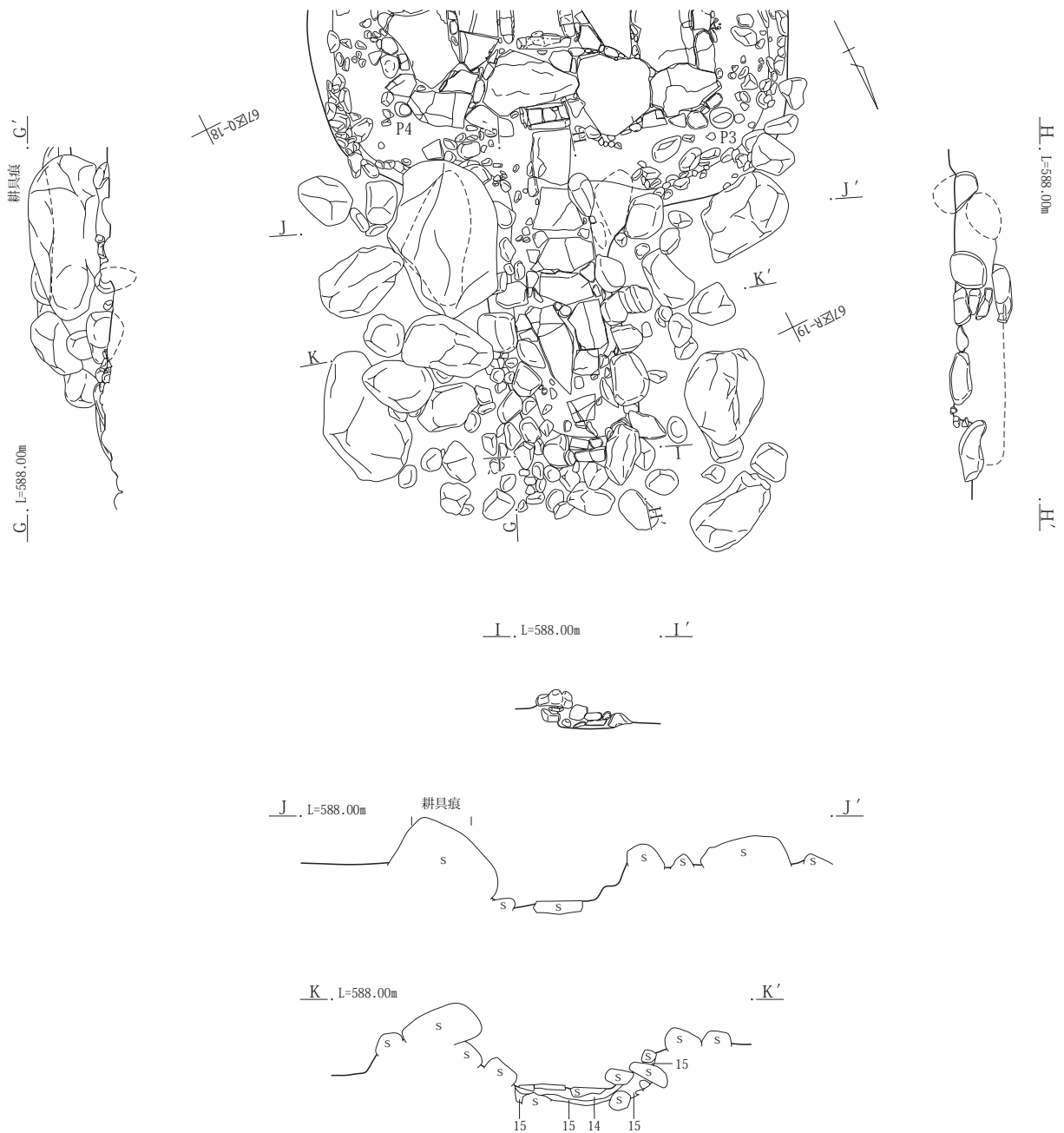


F, L=588.00m



第29図 1号住居 本体部詳細図

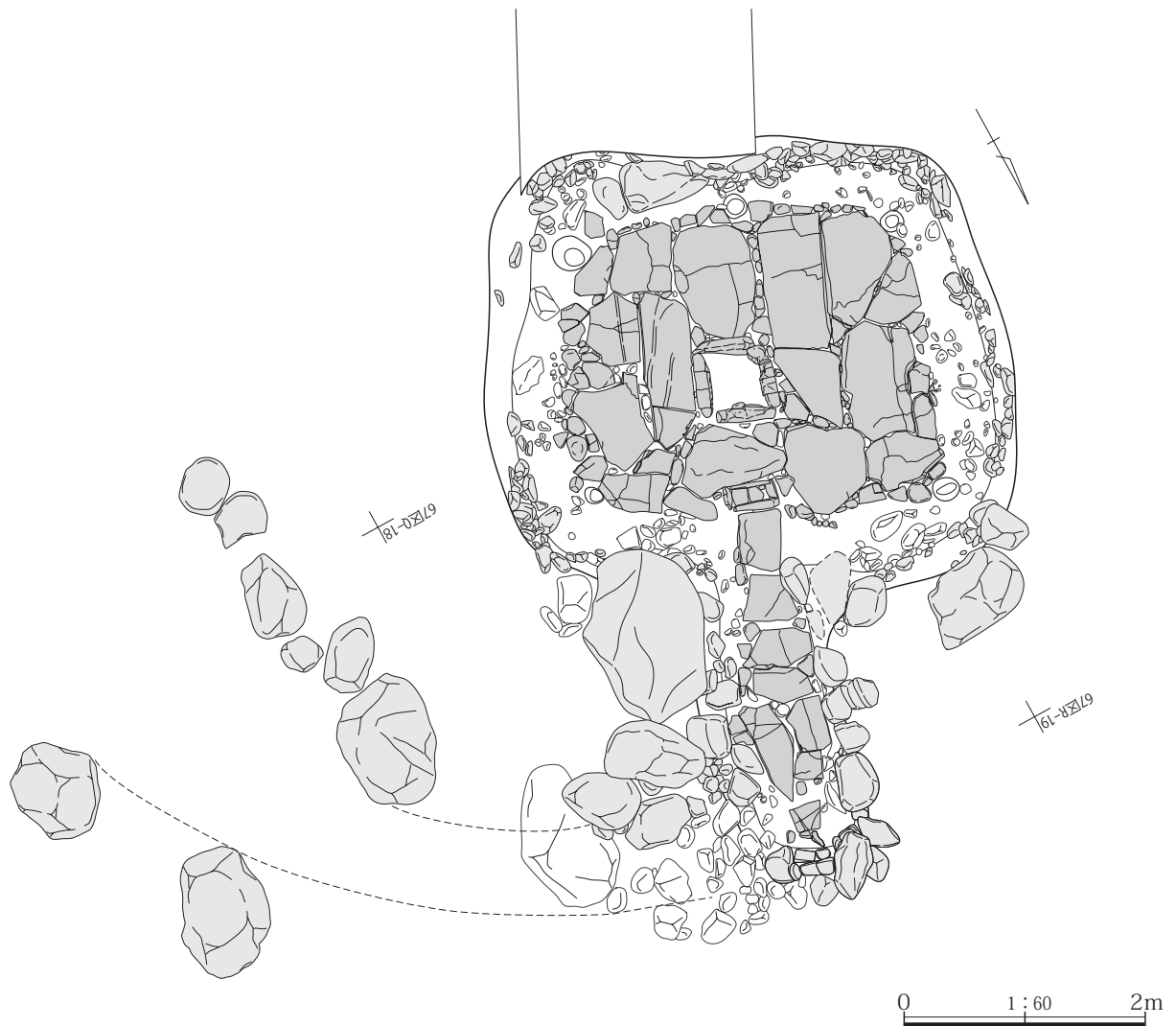




- 14 黒褐色土(10YR3/2) 地山砂質土をブロック状に含む。締り、粘性やや弱い。
- 15 暗褐色土(10YR3/3) 5～10cm大の地山礫を多く含む。締り、粘性やや弱く、砂質気味。

第30図 1号住居 張出し部詳細図

0 1:60 2m



第31図 1号住居 使用別礫設置状況図

〈下部構造〉

床面下(敷石下)の状況を、主体部と張出し部に分けて記述する。

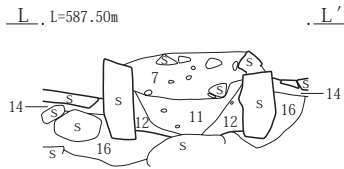
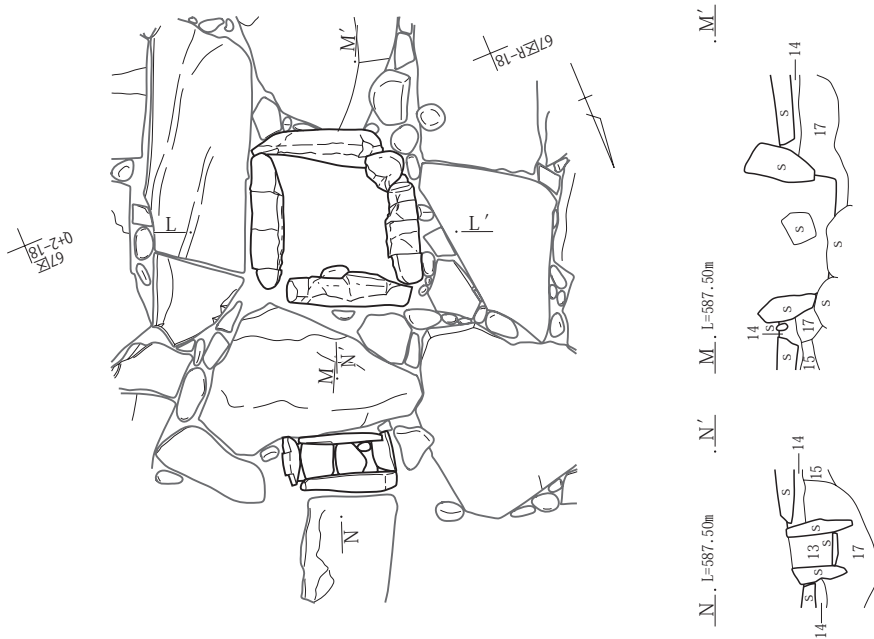
主体部

板状礫を多用した敷石下は、敷石直下に14層の黒褐色土が、さらに15～17層として暗褐色土と黒褐色土を分層した。また、床面調査時に検出できなかったP6・7を東西の両辺中央に、北辺中央の連結部には対ピット(P8・9)を新たに検出した。

底面：敷石および敷石下の埋土(掘り方土)を除去した結果、住居底面は基本土層第Ⅷ層中にあり、第Ⅷ層に含まれる礫が多く露出して凹凸となる。特に凹凸の著しい箇所は、柱穴および対ピットの位置、それと住居中央に位置した炉の下が大きな凹みとなっていた。こうした状況は、住居設営に際し、多量の地

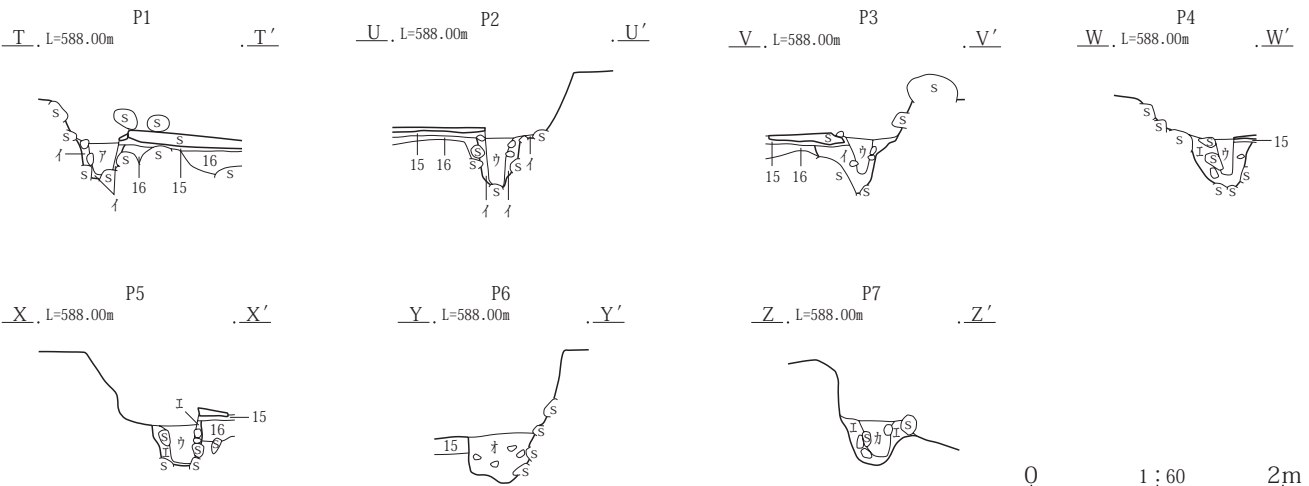
山礫を取り除いたことが窺える。

柱穴：床面調査時に検出されたP1～5の柱穴については、下部構造調査において各柱穴の掘り方および敷石との状況を確認した。その結果、各柱穴の掘り方埋土は、イおよびエとした礫を含む暗褐色土であり、礫を含ませて柱の根固めをした可能性をもつ。また、掘り方埋土の上に敷石が乗ることから、P1～5の柱設置後に床面としての石敷が施されたと考えられる。さらに、下部構造調査において、新たな柱穴としてP6～9が検出された。P6・7は、東西両辺中央となる無敷石帯内に検出され、埋土は鈍い黄褐色土とP1～5とは異なる。他方、柄鏡形住居特有の対ピットであるが、主体部と張出し部との連結部にP8・9としたピットを確認することができた。この2基のピットは、敷石を挟んだ左右に位



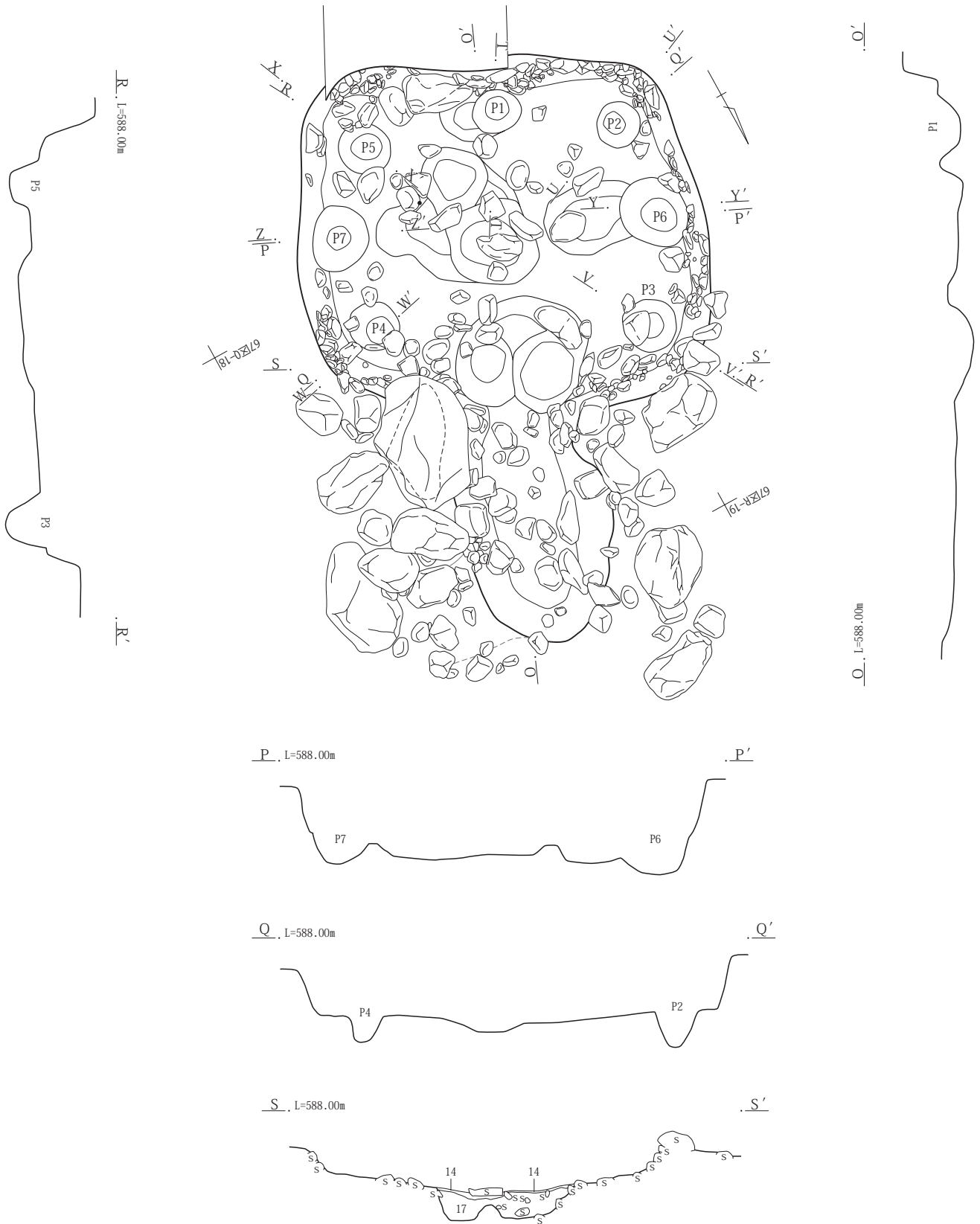
- 7 黒褐色土(10YR3/1) 5層よりやや明るく、黄色・白色軽石粒を少量、5mmほどの炭化粒を含む。
- 11 黒褐色土(10YR3/1) 7層より軽石粒が若干少なく、礫を含まない。
- 12 黒褐色土(10YR3/1) 軽石粒を含まないが、小礫を僅かに含む。
- 13 黒褐色土(10YR3/1) 軽石粒含まず、炭化粒を微量含む。
- 14 黒褐色土(10YR3/2) 地山砂質土をブロック状に含む。縮り、粘性やや弱い。
- 15 暗褐色土(10YR3/3) 5～10cm大の地山礫を多く含む。縮り、粘性やや弱く、砂質気味。
- 16 黒褐色土(10YR3/2) 人頭大の亜円礫を含み、砂質やや強く、僅かに炭化粒を含む。縮り、粘性やや弱い。
- 17 黒褐色土(10YR3/2) 地山礫を僅かに含む。炭化物様の黒色土を層状に僅か含む。

0 1:30 1m



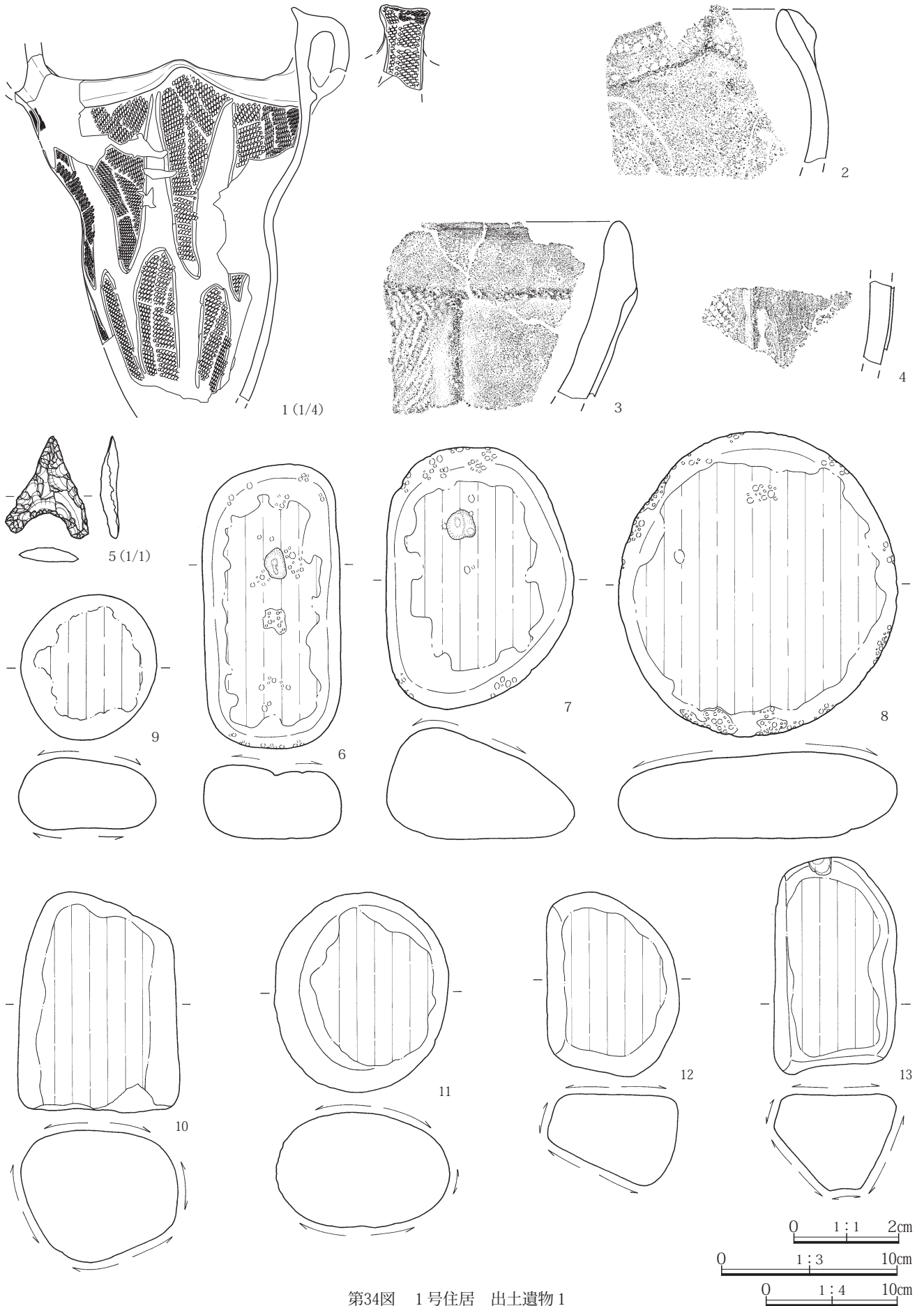
- ア 黒褐色土(10YR3/1) 礫を含まない。縮り弱く、粘性ややあり。
- イ 暗褐色土(10YR3/3) 15cm大の円礫を多く含み、砂質で、炭化物を僅かに含む。
- ウ 暗褐色土(10YR3/3) 黄褐色土ブロックを少量含む。縮りやや弱く、粘性ややあり。
- エ 暗褐色土(10YR3/3) 10cm大の円礫を多く含む。
- オ 鈍い黄褐色土(10YR4/5) 黄褐色土と3cm大の小礫をやや多く含む。
- カ 鈍い黄褐色土(10YR4/3) 黄褐色土を主体とする。

第32図 1号住居 炉微細図(上)敷石下部柱穴土層断面図(下)

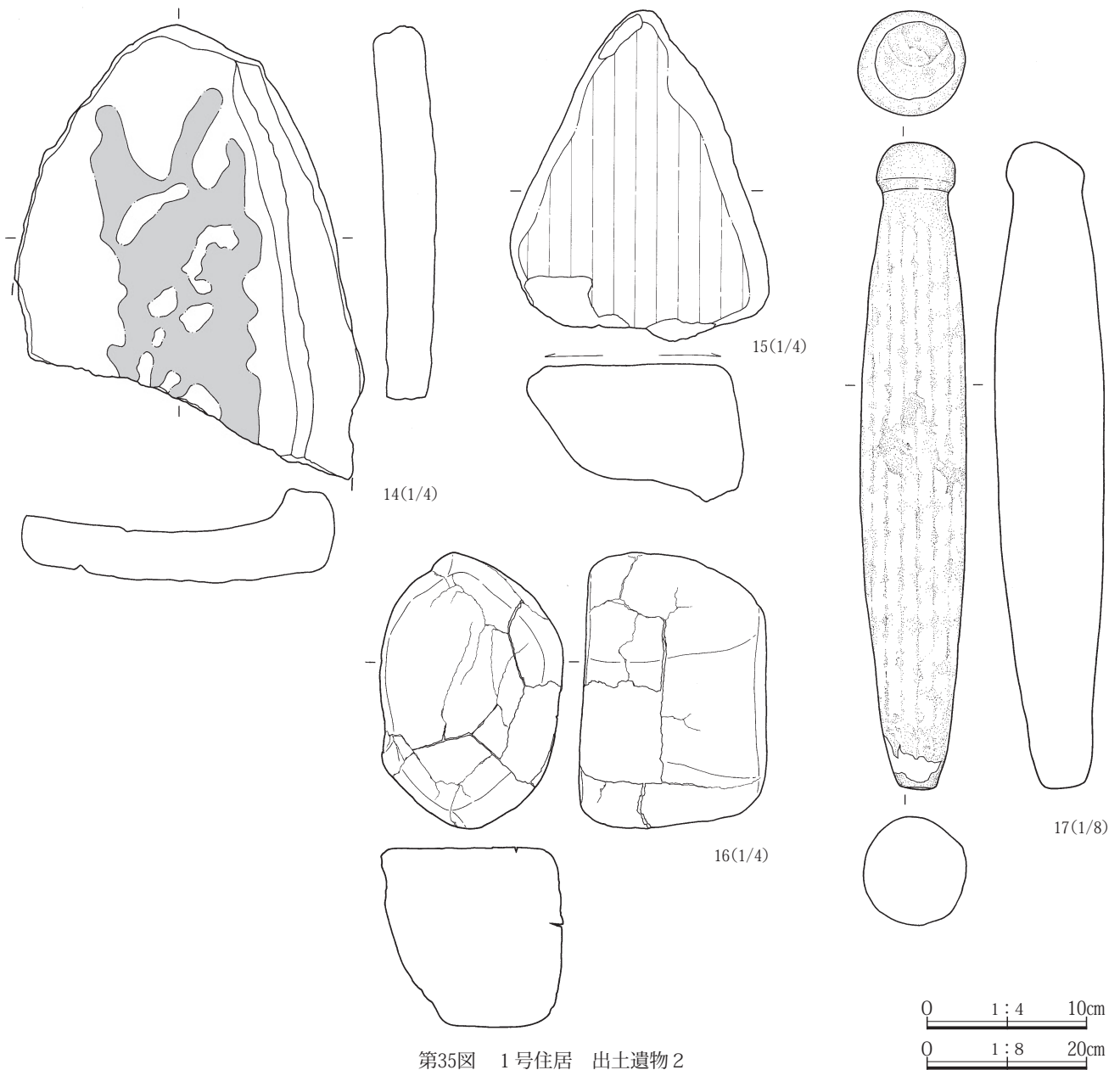


- 14 黒褐色土(10YR3/2) 地山砂質土をブロック状に含む。締り、粘性やや弱い。
- 17 黒褐色土(10YR3/2) 地山礫を僅かに含む。炭化物様の黒色土を層状に僅か含む。

第33図 1号住居 敷石下部構造平・断面図



第34図 1号住居 出土遺物 1



第35図 1号住居 出土遺物2

置し、住居北辺の無敷石帯内にある。埋土は17層とした黒褐色土で、床面調査時には判然としなかった。

張出し部

敷石下は、主体部と同様に、直下に黒褐色土の14層、さらに暗褐色土の15層が分層された。底面は敷石面(床面)より15cm前後掘り込まれ、基本土層第V・VIII層中にあり、地山礫が多く露出して凹凸となる。

遺物の出土状況： 遺物の出土量は、かなり少ない。第34・35図に示すように、第34図1の深鉢土器が比較的まとまった状態で、主炉と副炉との間の敷石直上(床直上)より出土している。また、主炉の南側(張出し部の反対側)の敷石直上からは、第35図17の石

棒が出土している。他は埋没土中からで、僅かに敷石下から出土している。

出土遺物： 出土した土器は、1～4の4点を図示した。

1はキャリパー形を呈する深鉢土器で、底部を欠く。内反する波状口縁に一对の環状把手をもち、口縁部無文帯を微隆線で横位区画し、以下の体部にV字状や逆U字状の文様を沈線で描き、文様内に縄文を充填する。2は波状口縁の口縁部片で、波頂下に縦位小突起を配し、列点状刺突文を施した口縁部無文帯を微隆線で横位区画する。体部にV字状や逆U字状の文様を沈線で描き、文様内に縄文を充填する。3は緩く内反する平口縁で、口縁部無文帯を微隆線で

横位区画し、以下の胴部を懸垂文で縦位区画する。微隆線や縦位区画内に縄文を充填する。4も、3と同様の胴部片である。これら出土土器は、加曾利E4式土器である。

石器は、計20点出土している。図示したのは、5とした黒曜石製の凹基無茎石鏃、6・7の粗粒輝石安山岩製の凹石(表面の一部は研磨)、側縁に敲打痕をもつ8および9～13の粗粒輝石安山岩製の磨石、14とした粗粒輝石安山岩製の石皿、15・16の粗粒輝石安山岩製の台石、17の単頭となる丁寧な研磨整形による緑色片岩製の石棒である。

未掲載遺物には、同時期の土器片、さらに変質安山岩製の石核1点、礫石器として磨石5点(粗粒輝石安山岩製4点、石英閃緑岩1点)、粗粒輝石安山岩製の台石1点がある。

所見： 床面調査時に検出されたP1～5の柱穴と、下部構造調査時に検出されたP6・7および主体部と張出し部が連結する辺りに検出された対ピット(P8・9)が、本住居の柱穴を構成する。しかし、P1～5とP6～9は、先述したごとく同時存在性は不明な点が多い。

時期： 出土土器から、縄文時代中期末葉の加曾利E4式期の住居である。

3 土坑

調査時に土坑として番号を付したのは1～70号までであるが、調査所見をも含めた整理作業の結果、計41基を土坑として報告する。

検出された土坑は、調査範囲のほぼ全面に、散漫に分布する。それらは、縄文時代の土坑4基、弥生時代の土坑2基、古代の土坑19基、時期不明な土坑16基からなる。この内、縄文時代の土坑は後期初頭および後期後半、弥生時代の土坑は中期初頭、古代の土坑はほとんどが陥し穴である。なお、1面調査時に検出された土坑が1基(42号土坑)あるが、本項に含めて扱った。

以下、各土坑ごとに記載する。(第8表 土坑一覧表を参照)

1号土坑 (第36図、PL.15)

A区の調査で、Cトレンチ内に検出された。このため、

土坑上部は一部を残すのみの結果となった。

位置： 下段となる67区の北西隅付近に位置し、北東側4.0mに8号土坑、西南西側2.0mに24号土坑がある。

グリッド： 67区V・W-24・25

(国家座標 X=60,695~697 Y=-105,687~689)

形状： 土坑の上面形は、楕円形と考えられる。底面形は、概ね長方形を呈する。短軸の断面形は、上半が漏斗状にやや開く。

規模： 上面 全長1.98m 全幅1.19m 深さ1.24m

底面 長軸1.5m 短軸0.61m

長軸方向： N-40°-E

埋没土は、上位が1層のAs-Aを畝間に残す6号畑で、その直下が6号畑耕作土となる2層の黒色土および3層の黒褐色土が堆積する。この2・3層が、基本土層第IV層に相当する。土坑内には、4～7層に分層した黒褐色土となる。底面はやや幅狭な長方形で、ほぼ平坦。出土遺物はなく、時期の特定は難しいが、土坑の形状等から古代の土坑(陥し穴)と考えられる。

2号土坑 (第36図、PL.15)

A区の調査で、Cトレンチ内に検出された。このため、土坑上部は一部を残すのみの結果となった。

位置： 下段となる77区の南西隅で、77・78区との境に位置し、南東側2.5mに3号土坑がある。

グリッド： 77・78区Y・A-1

(国家座標 X=60,701~703 Y=-105,699~700)

形状： 土坑の上面形は、楕円形と考えられる。底面形は、概ね長方形を呈する。短軸の断面形は、底面のやや上方から漏斗状に僅かに開く。

規模： 上面 全長1.91m 全幅1.33m 深さ1.43m

底面 長軸1.45m 短軸0.6m

長軸方向： N-24°-E

土坑の上位には8号畑があり、埋没土は暗褐色土ないし黒褐色土の1～5層に分層される。底面はやや幅狭な長方形で、ほぼ平坦。出土遺物はなく、時期の特定は難しいが、土坑の形状等から古代の土坑(陥し穴)と考えられる。

3号土坑 (第36図、PL.15)

A区の調査で、Cトレンチ内に検出された。このため、

土坑の一部のみの調査となった。

位置：下段となる77区の南西隅に位置し、北西側2.5mに2号土坑があり、北東側は重複する4・7号土坑と隣接する。

グリッド：77区Y-1

(国家座標 X=60,700 Y=-105,696)

形状：上面形は、楕円形と考えられるが不明確。底面形は、隅丸長方形ないし楕円形を呈すると思われる。

規模：上面 全長1.60m 全幅0.87m 深さ0.53m

長軸方向：N-14°-E

土坑の上位には8号畑があり、埋没土は暗褐色土および鈍い褐色土の1～4層に分層される。底面も一部であるが、ほぼ平坦と思われる。出土遺物はなく、時期の特定は難しいが、土坑の形状等から古代の土坑(陥し穴)である可能性が高い。

4号土坑 (第37・45図、第11表、PL.15・32)

A区の調査で、7号土坑と重複して検出された。

位置：下段となる77区の南西隅付近に位置し、南西側に3号土坑および北側に5号土坑が隣接する。

グリッド：77区X-1

(国家座標 X=60,701・702 Y=-105,694・695)

重複：本土坑の北西側の一部を、7号土坑と重複する。

調査時所見として、新旧は本土坑の方が新しい。

形状：不製円形

規模：長軸1.08m 短軸1.02m 深さ17cm

長軸方向：N-88°-W

土坑の上位には8号畑があり、埋没土は暗褐色土である。底面はほぼ平坦となるが、下位礫層の大型礫が露出する。出土遺物には、第45図4坑1に示した丁寧な研磨(内外面共)が施された高井東式土器が出土している。この出土土器から、本土坑の時期は縄文時代後期後半期と考えられる。

5号土坑 (第37図、PL.15)

A区の調査で検出された。

位置：下段となる77区の南西隅付近に位置し、南側に重複する4・7号土坑が隣接する。

グリッド：77区X-1

(国家座標 X=60,702・703 Y=-105,694・695)

形状：楕円形

規模：長軸(0.71)m 短軸0.60m 深さ25cm

長軸方向：N-72°-W

埋没土は暗褐色土で、底面は概ね平坦となる。出土遺物はなく、土坑の時期は不明。

6号土坑 (第37図、PL.15)

A区の調査で検出された。

位置：下段となる67区の北西隅付近に位置し、南東側1.5mに24号土坑、南側1.0mに25号土坑が近接する。

グリッド：67区X-24・25

(国家座標 X=60,695・696 Y=-105,694・695)

形状：楕円形

規模：長軸1.09m 短軸0.90m 深さ17cm

長軸方向：N-90°-E

埋没土は黒褐色土で、底面は平坦となる。出土遺物はなく、土坑の時期は不明。

7号土坑 (第37・45図、第12表、PL.15・32)

A区の調査で、4号土坑と重複して検出された。

位置：下段となる77区の南西隅付近に位置し、南西側に3号土坑および北側に5号土坑が隣接する。

グリッド：77区X-1

(国家座標 X=60,701・702 Y=-105,695)

重複：本土坑の南東側の一部を、4号土坑と重複する。

調査時所見として、新旧は本土坑の方が古い。

形状：楕円形

規模：長軸1.04m 短軸0.90m 深さ24cm

長軸方向：N-72°-E

土坑の上位には8号畑があり、埋没土は黒褐色土である。底面はほぼ平坦となるが、下位礫層の礫が露出する。出土遺物には、図示していないが、縄文時代後期後半の無文の胴部片がある。この出土土器から、本土坑の時期は縄文時代後期後半期と考えられる。

8号土坑 (第37図、PL.15)

A区の調査で検出された。

位置：下段となる77区の南西隅付近で、67区との境に位置し、南西側4.0mに1号土坑がある。

グリッド：67・77区U・V-25・1

(国家座標 X=60,699~702 Y=-105,684・685)

形状:土坑の上面形は、楕円形と考えられる。底面形は、概ね長方形を呈する。短軸の断面形は、底面のやや上方から漏斗状に僅かに開く。

規模:上面 全長2.78m 全幅1.54m 深さ0.58m

長軸方向:N-2°-W

埋没土は、暗褐色土、黒褐色土、鈍い黄橙色土の3層に分層される。土坑下部の遺存であり、上面形等は不明。底面はやや不整な楕円形で、ほぼ平坦となる。出土遺物はなく、時期の特定は難しいが、土坑の形状等から古代の土坑(陥し穴)と考えられる。

9号土坑 (第37・45図、第13表、PL.15・32)

A区の調査で検出された。

位置:下段となる77区の南西隅付近に位置し、北側1.0mに14号土坑、南側に18号土坑が隣接する。

グリッド:77区U-4

(国家座標 X=60,717 Y=-105,680・681)

形状:楕円形

規模:長軸1.15m 短軸1.02m 深さ19cm

長軸方向:N-63°-E

埋没土は暗褐色土で、底面は平坦となる。出土遺物には、第45図9坑1に示した内反する口縁部に横位沈線をもち、口縁下で大きく屈曲し、内外面共に丁寧な研磨が施された高井東式とした土器が出土している。しかし、器形的には、新しい時期の可能性もある。一応、本土坑の時期は、縄文時代後期後半期としておく。

12号土坑 (第38・45図、第14表、PL.15・32)

A区の調査で検出された。

位置:下段となる77区の南西隅付近に位置し、南側5.0mに8号土坑、北西側6.0mに13号土坑がある。

グリッド:77区V-2・3

(国家座標 X=60,707・708 Y=-105,685・686)

形状:円形

規模:長軸1.24m 短軸1.24m 深さ25cm

長軸方向:不明

埋没土は、黒褐色土と暗褐色土の2層に分層される。底面は平坦となる。出土遺物は多く、復元できた2点を第45図12坑1・2に示した。12坑1は、口縁部から胴部

上半で、無文の大型の甕である。12坑2は、小波状口縁を呈し、頸部以下に条痕文を横位施文する甕である。この出土土器から、本土坑の時期は弥生時代中期初頭期と考えられる。

13号土坑 (第38図、PL.15)

A区の調査で検出された。

位置:下段となる77区の南西隅付近に位置し、南東側6.0mに12号土坑がある。

グリッド:77区W-4

(国家座標 X=60,712・713 Y=-105,688・690)

形状:円形

規模:長軸1.52m 短軸1.50m 深さ34cm

長軸方向:不明

埋没土は黒褐色土で、2層に分層される。底面はほぼ平坦となるが、下位礫層の大型礫が露出する。出土遺物には、無文の胴部片があるものの図示していない。出土土器からの時期の特定は難しく、土坑の時期は不明。

14号土坑 (第38図、PL.15)

A区の調査で検出された。

位置:下段となる77区の南西側に位置し、南側1.0mに9号土坑、南東側3.0mに15号土坑がある。

グリッド:77区T・U-5

(国家座標 X=60,717・718 Y=-105,679・680)

形状:楕円形

規模:長軸0.83m 短軸0.74m 深さ13cm

長軸方向:N-35°-E

埋没土は暗褐色土で、底面は平坦となる。出土遺物はなく、土坑の時期は不明。

15号土坑 (第38図、PL.15)

A区の調査で検出された。

位置:下段となる77区の南西側に位置し、西側2.5mに9・18号土坑、北西側3.0mに14号土坑がある。

グリッド:77区T-4

(国家座標 X=60,713・714 Y=-105,676・677)

形状:不製形

規模:長軸1.00m 短軸0.84m 深さ27cm

長軸方向:N-57°-W

埋没土は黒褐色土で、2層に分層される。底面はほぼ平坦となる。出土遺物には、無文の胴部片があるものの図示していない。出土土器からの時期の特定は難しく、土坑の時期は不明。

16号土坑 (第39・45・46図、第15表、PL.16・32・33)

A区の調査で検出された。

位置：下段となる77区の南西側に位置し、西南西側4.0mに14号土坑、南西側4.5mに15号土坑がある。

グリッド：77区S-5・6

(国家座標 X=60,718・720 Y=-105,674・676)

形状：楕円形

規模：長軸1.44m 短軸1.26m 深さ39cm

長軸方向：N-27°-W

埋没土は、鈍い褐色土と黒褐色土の2層に分層される。底面は平坦となる。出土遺物は多く、第45・46図16坑1～30に示した。16坑1は、沈線で横帯文を多段に施し、頸部が無文となる小型甕である。16坑15～20・23は、甕の胴下半に条痕文を施す。16坑24は壺の胴部片で、胴上半に横位の沈線区画と縄文を充填施文し、器面は須恵器的な灰白色を呈する。16坑25～27も壺片である。16坑29は鉢で、沈線による横帯文を多段に施す。なお、16坑10・22・23の底面には網代痕、16坑20の底面には条痕を施している。16坑30は、粗粒輝石安山岩製の磨石である。これら出土土器から、本土坑の時期は弥生時代中期初頭期と考えられる。

18号土坑 (第38図、PL.16)

A区の調査で検出された。

位置：下段となる77区の南西側隅付近に位置し、北側に9号土坑が隣接、東側2.5mに15号土坑がある。

グリッド：77区U-4

(国家座標 X=60,715・716 Y=-105,680・681)

形状：楕円形

規模：長軸1.13m 短軸1.00m 深さ13cm

長軸方向：N-79°-W

埋没土は暗褐色土で、底面は平坦となる。出土遺物はなく、土坑の時期は不明。

20号土坑 (第39図、PL.16)

A区の調査で、Aトレンチに掛かり検出された。このため、土坑の一部を欠くこととなった。

位置：下段となる77区の南西側で、西側4.0mほどに15号土坑がある。

グリッド：77区R・S-3・4

(国家座標 X=60,711~713 Y=-105,670~672)

形状：土坑の上面形は、楕円形と考えられる。底面形は、概ね長方形を呈する。短軸の断面形は、底面のやや上方から漏斗状に僅かに開く。

規模：上面 長軸(2.01)m 短軸1.38m 深さ0.31m

長軸方向：N-35°-W

埋没土は、暗褐色土と鈍い褐色土の2層に分層される。土坑下部の遺存であり、上面形等は不明。底面はやや不整な長方形で、概ね平坦となる。出土遺物はなく、時期の特定は難しいが、土坑の形状等から古代の土坑(陥し穴)と考えられる。

21号土坑 (第39図、PL.16)

A区の調査で検出された。攪乱により西半を欠く。

位置：下段となる77区の南側中央付近に位置し、南東側に22号土坑が隣接、南側5.0mに60号土坑がある。

グリッド：77区P・Q-2・3

(国家座標 X=60,707・708 Y=-105,663・664)

形状：不製形

規模：長軸(0.69)m 短軸0.95m 深さ17cm

長軸方向：N-71°-W

埋没土は黒褐色土で、2層に分層される。底面は平坦となる。出土遺物はなく、土坑の時期は不明。

22号土坑 (第39図、PL.16)

A区の調査で検出された。

位置：下段となる77区の南側中央付近に位置し、北西側に21号土坑が隣接、南側4.0mに60号土坑がある。

グリッド：77区P-2

(国家座標 X=60,706・707 Y=-105,661・662)

形状：楕円形

規模：長軸1.30m 短軸1.21m 深さ22cm

長軸方向：N-76°-E

埋没土は黒褐色土で、2層に分層される。底面は平坦となる。出土遺物はなく、土坑の時期は不明。

24号土坑 (第40図、PL.16)

A区の調査で検出された。

位置：下段となる67区の北西隅に位置し、西側に25号土坑が近接、西北西側1.5mに6号土坑、北東側2.0mに1号土坑がある。

グリッド：67区W・X-24

(国家座標 X=60,691~693 Y=-105,691~693)

形状：楕円形

規模：長軸1.84m 短軸1.33m 深さ32cm

長軸方向：N-87°-E

埋没土は黒褐色土で、2層に分層される。底面はやや擗り鉢状を呈する。出土遺物はなく、土坑の時期は不明。

25号土坑 (第40図、PL.16)

A区の調査で検出された。

位置：下段となる67区の北西隅に位置し、東側に24号土坑が近接、北側1.0mに6号土坑がある。

グリッド：67区X-24

(国家座標 X=60,692~694 Y=-105,693・694)

形状：不整長方形

規模：長軸1.29m 短軸0.82m 深さ43cm

長軸方向：N-45°-W

埋没土は黒褐色土で、2層に分層される。底面は概ね平坦となる。出土遺物はなく、土坑の時期は不明。

26号土坑 (第40図、PL.16)

A区の調査で検出された。

位置：下段となる段際で、67区の北西側に位置する。西側に27号土坑が隣接する。

グリッド：67区T-21

(国家座標 X=60,682・683 Y=-105,677・678)

形状：楕円形

規模：長軸1.63m 短軸0.98m 深さ56cm

長軸方向：N-15°-E

埋没土は黒褐色土で、3層に分層される。底面はやや不整な楕円形で、ほぼ平坦となる。出土遺物はなく、時期の特定は難しいが、土坑の形状等から古代の土坑(陥し穴)と考えられる。

27号土坑 (第40図、PL.16)

A区の調査で検出された。

位置：下段となる段際で、67区の北西側に位置する。東側に26号土坑が隣接する。

グリッド：67区T-21・22

(国家座標 X=60,682~684 Y=-105,678・679)

形状：楕円形

規模：長軸1.63m 短軸1.05m 深さ45cm

長軸方向：N-4°-E

埋没土は黒褐色土で、3層に分層される。底面は不整な楕円形で、概ね平坦となる。出土遺物はなく、時期の特定は難しいが、土坑の形状等から古代の土坑(陥し穴)と考えられる。

28号土坑 (第40図、PL.16)

A区の調査で検出された。

位置：下段となる77区の南西側南寄りに位置し、南西側4.4mに8号土坑がある。

グリッド：77区T-1・2

(国家座標 X=60,703・704 Y=-105,677・678)

形状：楕円形

規模：長軸0.79m 短軸0.66m 深さ13cm

長軸方向：N-87°-W

埋没土は暗褐色土で、底面は平坦となる。出土遺物はなく、土坑の時期は不明。

42号土坑 (第41図、PL.16)

C区第1面の調査(天明泥流下)で検出された。

位置：48号畑と49号畑の境を、南北方向に延びる4号道脇に位置する。

グリッド：68区H-19

(国家座標 X=60,672~674 Y=-105,731・732)

形状：長方形

規模：長軸2.06m 短軸0.52m 深さ16cm

長軸方向：N-29°-E

埋没土は黒褐色土で、底面は概ね平坦となる。浅い掘込みの埋土中には、多量の垂角礫を含み、当時の地表面に礫上部が露出する。土坑の時期は天明三年期であり、礫の状況および道脇であることから、ヤックラの可能性が高い。

43号土坑 (第41図、PL.16)

C区の調査で調査区際に検出され、土坑の西半は調査範囲外となる。

位置：78区の調査区西壁際に位置する。

グリッド：78区T-3

(国家座標 X=60,708・709 Y=-105,778・779)

形状：楕円形か

規模：長軸(0.94)m 短軸1.50m 深さ41cm

長軸方向：N-45°-W

埋没土は、黒色土、黒褐色土、灰黄褐色土の3層に分層される。上面および底面は楕円形と思われ、底面は平坦となる。出土遺物はなく、時期の特定は難しいが、土坑の形状等から古代の土坑(陥し穴)の可能性が高い。

46号土坑 (第41図、PL.16)

C区の調査で検出された。

位置：68区の北側中央付近で、調査区の南壁寄りに位置する。西北西側4.4mに51号土坑、東南東側8.5mに47号土坑がある。

グリッド：68区M・N-21・22

(国家座標 X=60,683・684 Y=-105,751・752)

形状：楕円形

規模：長軸1.14m 短軸1.04m 深さ20cm

長軸方向：N-84°-W

埋没土は黒褐色土で、底面はやや揺り鉢状を呈する。出土遺物はなく、土坑の時期は不明。

47号土坑 (第41図、PL.17)

C区の調査で検出された。

位置：68区の北側中央付近で、調査区の南壁寄りに位置する。西北西側8.5mに46号土坑があり、南東側に48号土坑が隣接する。

グリッド：68区K-21

(国家座標 X=60,680~682 Y=-105,741・742)

形状：楕円形

規模：長軸2.41m 短軸0.94m 深さ25cm

長軸方向：N-22°-W

埋没土は、黒褐色土と鈍い褐色土の2層に分層される。底面は不整な楕円形で、概ね平坦となるが、下位礫層の大型礫が露出する。出土遺物はなく、土坑の時期は不明。

48号土坑 (第41図、PL.17)

C区の調査で検出された。

位置：68区の北側中央付近で、調査区の南壁寄りに位置し、北西側に47号土坑が隣接する。

グリッド：68区J・K-20・21

(国家座標 X=60,678~680 Y=-105,741・742)

形状：不製楕円形

規模：長軸1.88m 短軸0.97m 深さ21cm

長軸方向：N-11°-E

埋没土は黒褐色土で、底面は中央がやや凹む。出土遺物はなく、土坑の時期は不明。

51号土坑 (第41図、PL.17)

C区の調査で調査区際に検出され、土坑の南半は調査範囲外となる。

位置：68区の北側中央付近で、調査区の南壁際に位置する。東南東側4.4mに46号土坑があり、北西側1.8mに52号土坑が近接する。

グリッド：68区O-20

(国家座標 X=60,684~686 Y=-105,756~758)

形状：不製形

規模：長軸(1.29)m 短軸(1.28)m 深さ40cm

長軸方向：N-32°-W

埋没土は黒褐色土で、3層に分層される。底面は楕円形と思われ、概ね平坦となる。出土遺物はなく、時期の特定は難しいが、土坑の形状等から古代の土坑(陥し穴)の可能性が高い。

52号土坑 (第42図、PL.17)

C区の調査で検出された。

位置：68区の北側中央付近で、調査区の南壁際に位置し、南東側1.8mに51号土坑が近接する。

グリッド：68区O・P-22・23

(国家座標 X=60,686~688 Y=-105,759~761)

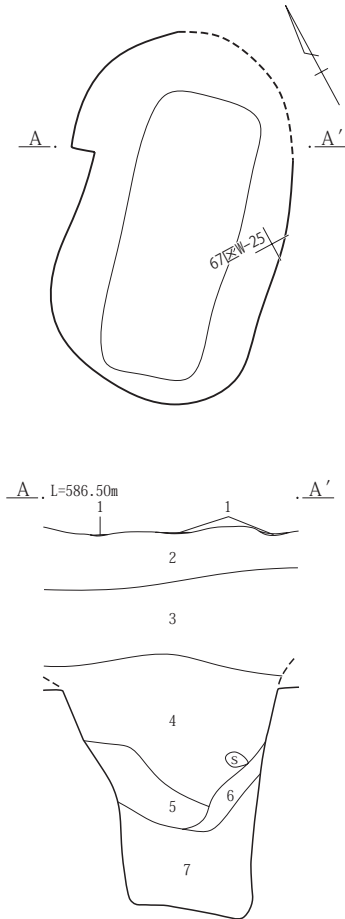
形状：楕円形

規模：長軸2.28m 短軸1.38m 深さ46cm

長軸方向：N-28°-W

埋没土は黒褐色土で、3層に分層される。底面は不整な楕円形で、概ね平坦となる。出土遺物はなく、時期の特定は難しいが、土坑の形状等から古代の土坑(陥し穴)

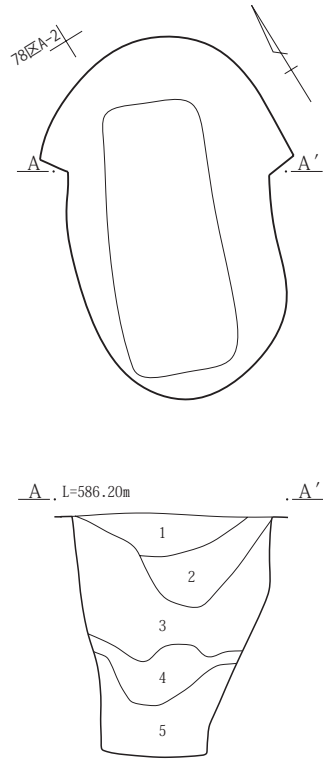
1号土坑



1号土坑

- 1 鈍い黄褐色土(10YR7/4) As-A軽石。
- 2 黒色土(10YR2/1) 天明泥流下畑の耕作土。
- 3 黒褐色土(10YR3/1) 軽石粒等を含まない均質土。締り弱く、粘性ややあり。
- 4 黒褐色土(10YR2/2) 鉄分凝集層を含み、5～10mmの黄色軽石粒を極少量含む。
- 5 黒褐色土(10YR2/2) 軽石粒を含まず、締り弱く、粘性ややあり。
- 6 黒褐色土(10YR2/2) ロームを若干含む、締り弱く、粘性ややあり。
- 7 黒褐色土(10YR2/2) 明るく、ロームを多量に含む。締り弱く、粘性ややあり。

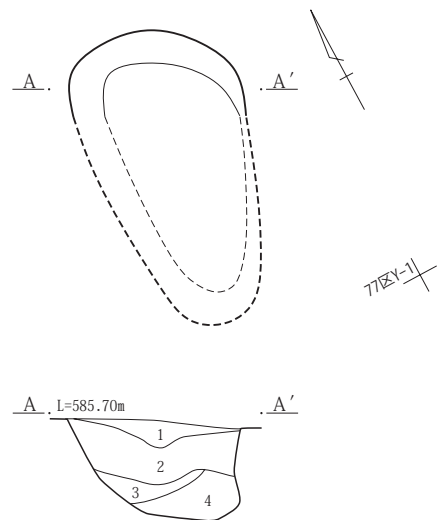
2号土坑



2号土坑

- 1 暗褐色土(10YR3/3) 軽石粒等を含まない均質土。締り弱く、粘性ややあり。
- 2 黒褐色土(10YR2/2) 1～5mmの軽石粒を少量含む。締り弱く、粘性ややあり。
- 3 黒褐色土(10YR3/1) 1～5mmの軽石粒を微量含む。締り弱く、粘性ややあり。
- 4 暗褐色土(10YR3/3) 上部に鉄分凝集あり。軽石粒を微量含み、締まりあり。
- 5 暗褐色土(10YR3/3) 明るく、ロームを多量に、1～10mmの軽石粒を微量含む。締まりあり。

3号土坑



3号土坑

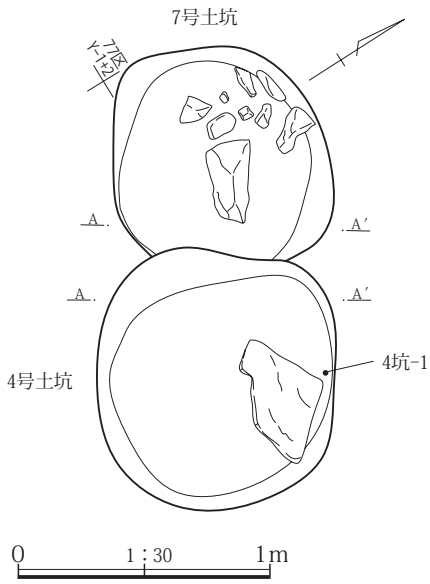
- 1 暗褐色土(10YR3/3) 鈍い褐色土を混在。1～5mmの軽石粒を微量含む。締まりややあり。
- 2 暗褐色土(10YR3/3) 鈍い褐色土を多量に混在。締まりあり。
- 3 鈍い褐色土(7.5YR5/3) きめの細かい粒の層。締まり・粘性ややあり。
- 4 鈍い褐色土(7.5YR5/3) ジャリジャリし、締まりややあり。

0 1:40 1m

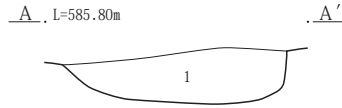
第36図 土坑 平・断面図1

第4節 検出された遺構と遺物

4号・7号土坑



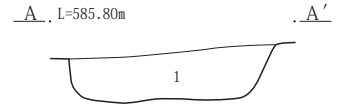
4号土坑



4号土坑

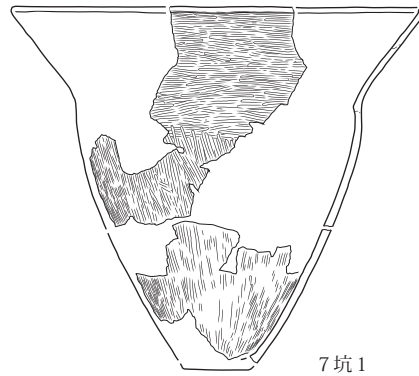
1 黒褐色土(10YR2/2) 1~5mmの軽石粒を微量含む。締り弱く、粘性ややあり。

7号土坑

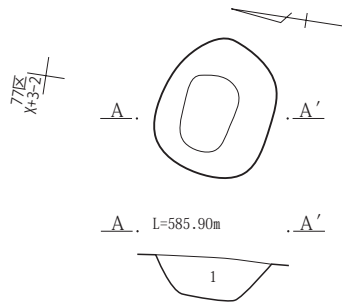


7号土坑

1 黒褐色土(10YR2/2) 1~5mmの軽石粒を微量含む。締り弱く、粘性ややあり。



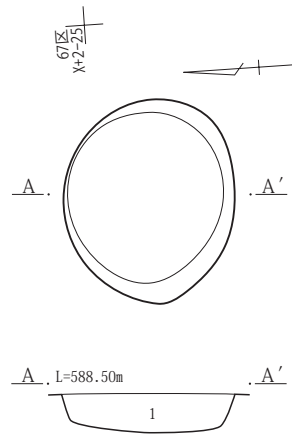
5号土坑



5号土坑

1 暗褐色土(10YR3/3) 鈍い褐色土を混在。締まり・粘性ややあり。

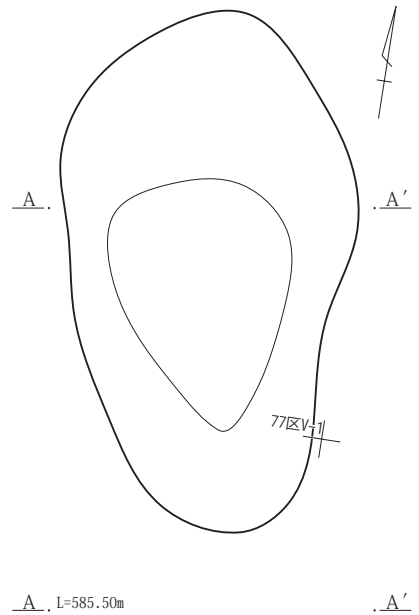
6号土坑



6号土坑

1 黒褐色土(10YR3/1) 鈍い褐色土を多量に混在。1~5mmの軽石粒を微量含む。

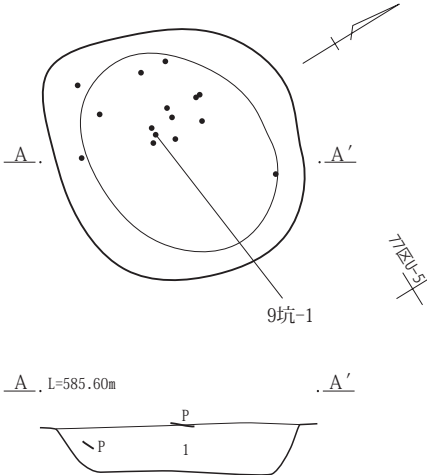
8号土坑



8号土坑

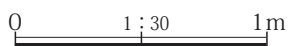
1 暗褐色土(10YR3/3) 1~10mmの軽石粒を少量含む。締り弱く、粘性ややあり。
2 黒褐色土(10YR3/3) 鈍い褐色土を多量に混在。締まりややあり。
3 鈍い黄褐色土(10YR7/3) ローム粒・軽石粒を多量に含む。締まり・粘性ややあり。

9号土坑



9号土坑

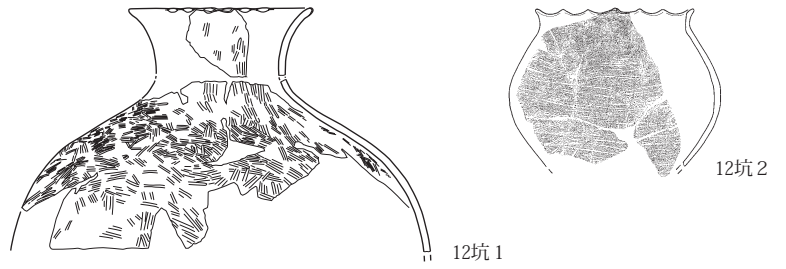
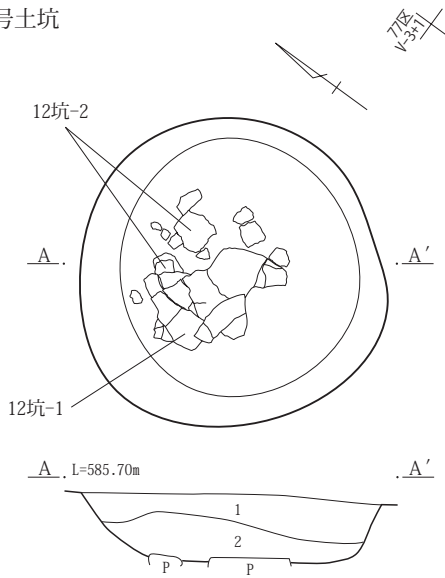
1 暗褐色土(10YR3/3) 1~10mmの軽石粒を少量、炭化物を微量含む。締まり・粘性ややあり。



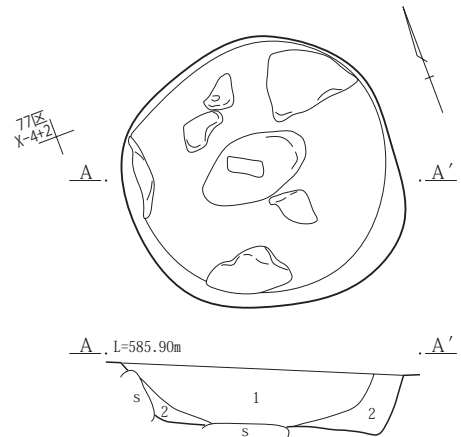
第37図 土坑 平・断面図2

第3章 久々戸遺跡

12号土坑

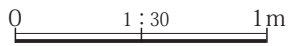


13号土坑

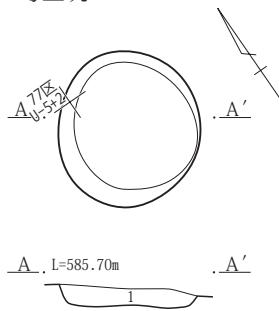


12号土坑

- 1 黒褐色土(10YR2/2) 1~10mmの軽石粒を微量含む。縮まりあり。
- 2 暗褐色土(10YR3/3) 鈍い褐色土ブロックを含む。縮まりややあり。



14号土坑



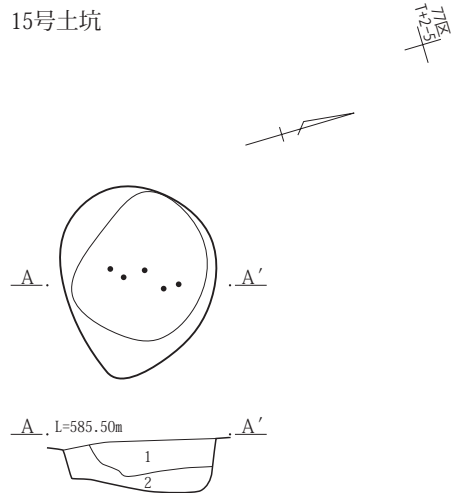
13号土坑

- 1 暗褐色土(10YR3/3) 鈍い褐色土ブロックを少量含む。縮まりややあり。
- 2 黒褐色土(10YR3/1) 1~5mmの軽石粒を少量含む。縮まりややあり。

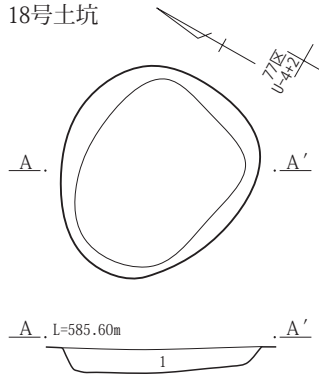
14号土坑

- 1 暗褐色土(10YR3/3) 鈍い褐色土、炭化物を微量含む。縮まりややあり。

15号土坑



18号土坑

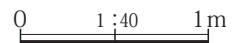


18号土坑

- 1 暗褐色土(10YR3/3) 鈍い褐色土ブロックを少量、軽石粒を微量含む。

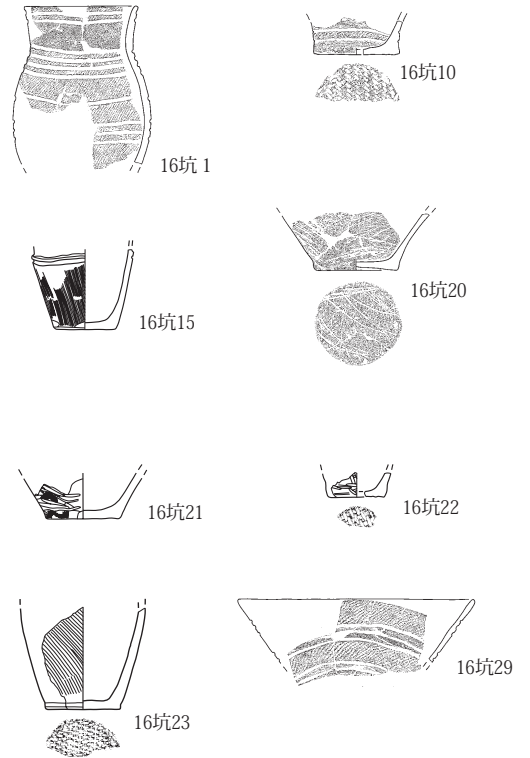
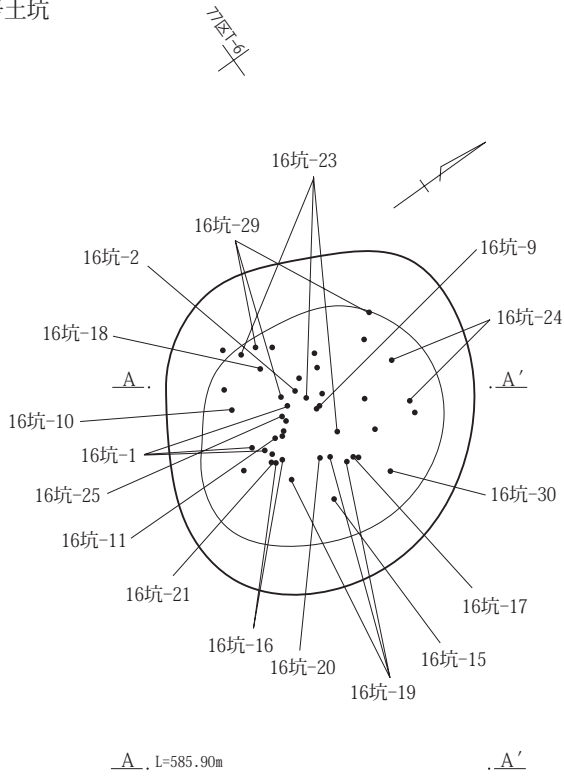
15号土坑

- 1 黒褐色土(10YR2/2) 炭化物、軽石粒を微量含む。縮まりややあり。
- 2 黒褐色土(10YR2/2) 鈍い褐色土ブロックを少量含む。縮まりややあり。



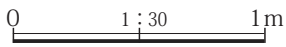
第38図 土坑 平・断面図3

16号土坑

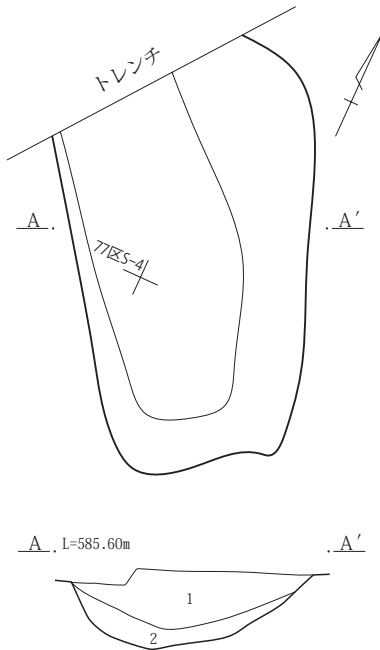


16号土坑

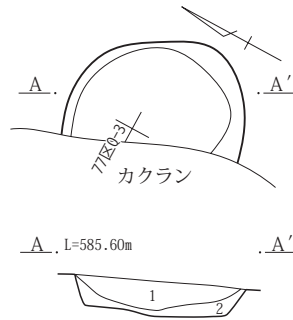
- 1 にぶい褐色土(7.5YR5/3) 1~5mmの軽石粒・軽石ブロックを少量含む。
- 2 黒褐色土(10YR2/2) 1~2mmの軽石粒を微量含む。縮まりあり。



20号土坑



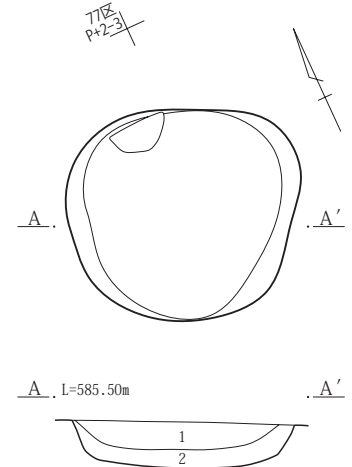
21号土坑



21号土坑

- 1 黒褐色土(10YR2/2) 1~3mmの軽石粒を少量含む。縮まりややある。
- 2 黒褐色土(10YR2/2) 鈍い褐色土ブロック、軽石粒を微量含む。縮まりややある。

22号土坑



22号土坑

- 1 黒褐色土(10YR2/2) 1~10mmの軽石粒を微量含む。縮まりややある。
- 2 黒褐色土(10YR2/2) 鈍い褐色土ブロック、軽石粒を少量含む。縮まりややある。

20号土坑

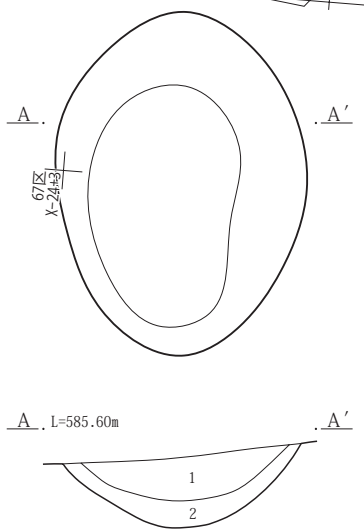
- 1 暗褐色土(10YR3/3) 1~10mmの軽石粒を微量含む。縮まりややある。
- 2 鈍い褐色土(7.5YR5/3) 縮まりあり。



第39図 土坑 平・断面図4

第3章 久々戸遺跡

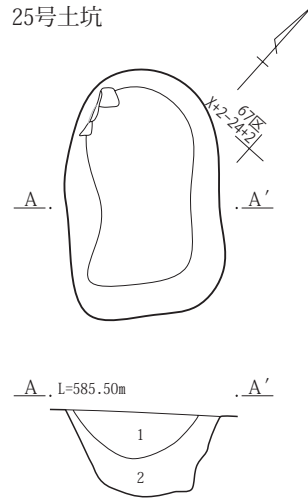
24号土坑



24号土坑

- 1 黒褐色土(10YR3/1) 鈍い褐色土ブロック、軽石粒を少量含む。縮まりややある。
- 2 黒褐色土(10YR3/1) 鈍い褐色土・黄橙色土ブロックを少量含む。縮まり弱く、粘性あり。

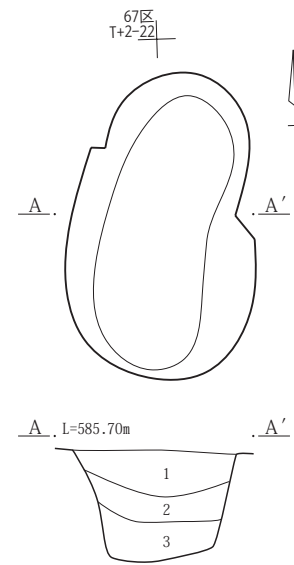
25号土坑



25号土坑

- 1 黒褐色土(10YR3/1) 鈍い褐色土ブロック、軽石粒を少量含む。縮まりややある。
- 2 黒褐色土(10YR3/1) 1層より混入物が多い。縮まりややある。

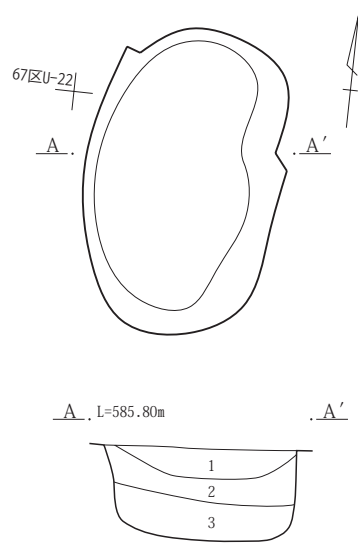
26号土坑



26号土坑

- 1 黒褐色土(10YR2/2) 1~10mmの軽石粒を少量含む。縮まりあり。
- 2 黒褐色土(10YR2/2) 灰白色粘土質土・鈍い褐色土ブロックを含む。縮まりなし。
- 3 黒褐色土(10YR2/2) 2層より灰白色粘土質土・鈍い褐色土ブロックが多く含む。

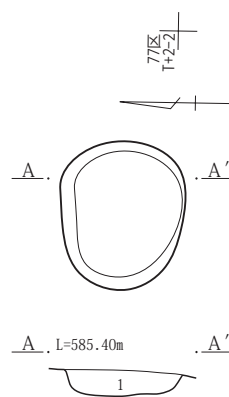
27号土坑



27号土坑

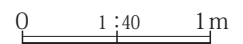
- 1 黒褐色土(10YR2/2) 1~10mmの軽石粒を少量含む。縮まりあり。
- 2 黒褐色土(10YR2/2) 1層より軽石粒が細かく、量もやや多い。縮まりあり。
- 3 黒褐色土(10YR2/2) 灰白色粘土質土ブロックを含む。縮まりややあり。

28号土坑



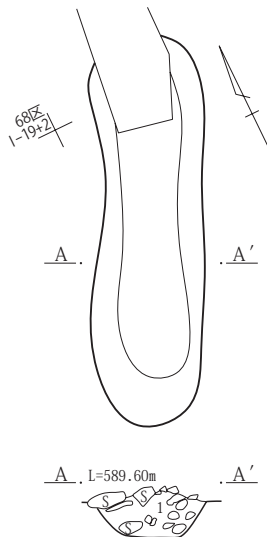
28号土坑

- 1 暗褐色土(10YR3/3) 黒褐色土・鈍い褐色土ブロックを含む。1~5mmの軽石粒を微量含む。



第40図 土坑 平・断面図5

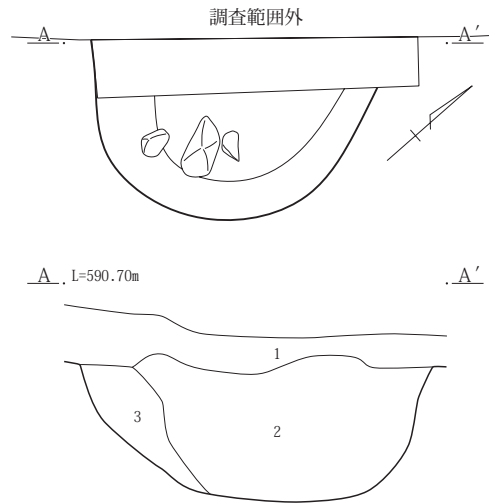
42号土坑



42号土坑

- 1 黒褐色土(10YR3/1) 5~15cm大の亜角礫を多量に含む。締まり弱く、粘性ややあり。

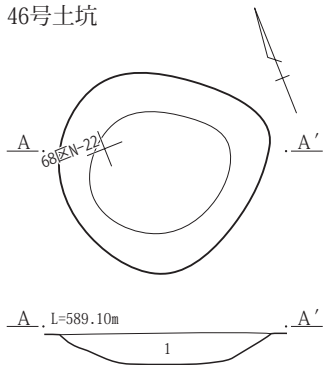
43号土坑



43号土坑

- 1 黒色土(10YR2/1) 天明泥流下畑の耕作土。
2 黒褐色土(10YR3/1) 地山より黄色・白色軽石が少ない。締まり・粘性ややあり。
3 灰黄褐色土(10YR4/2) 崩落した地山黄褐色土ブロックが主。締まり・粘性なし。

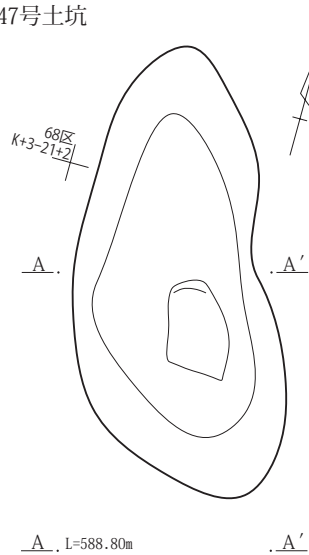
46号土坑



46号土坑

- 1 黒褐色土(10YR2/2) 1~10mmの軽石粒を少量含む。締まり・粘性ややあり。

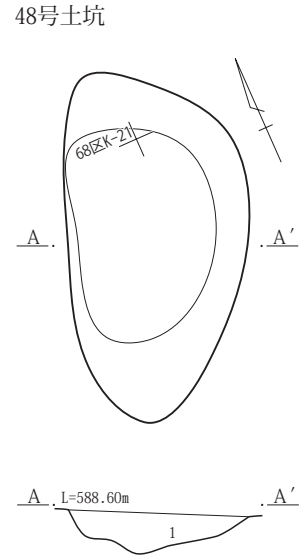
47号土坑



47号土坑

- 1 黒褐色土(10YR2/2) 1~5mmの軽石粒を微量含む。締まりややあり。
2 鈍い褐色土(7.5YR5/3) 軽石ブロックを部分的に含む。締まり弱い。

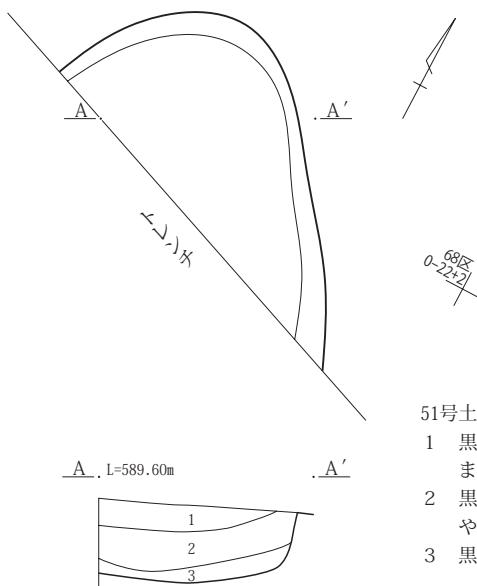
48号土坑



48号土坑

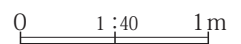
- 1 黒褐色土(10YR2/2) 1~10mmの軽石粒を微量含む。締まりあり。

51号土坑



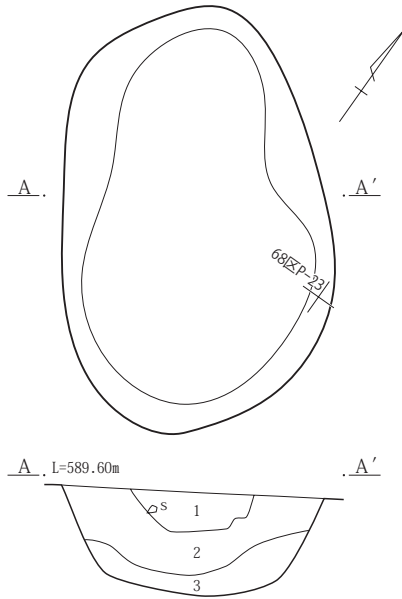
51号土坑

- 1 黒褐色土(10YR2/2) 鈍い褐色土がかなり多量に混在し、軽石粒を少量含む。締まりややあり。
2 黒褐色土(10YR2/2) 鈍い褐色土ブロックを僅かに、軽石粒を少量含む。締まりややあり。
3 黒褐色土(10YR2/2) 鈍い褐色土ブロックを多く混在。締まりややあり。

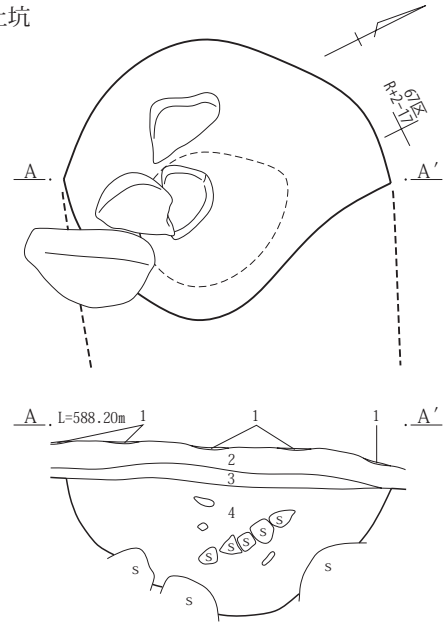


第41図 土坑 平・断面図6

52号土坑



53号土坑



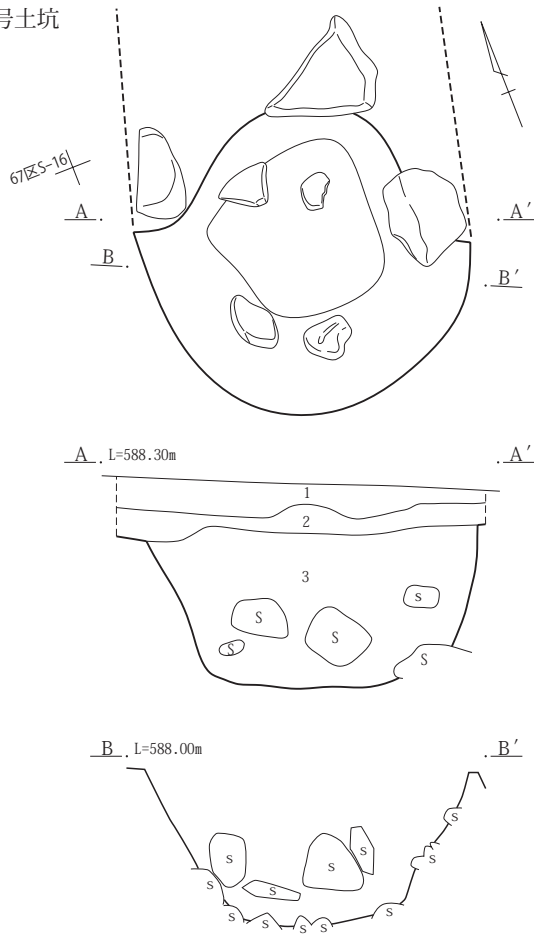
52号土坑

- 1 黒褐色土(10YR2/2) 鈍い褐色土がかなり多量に混在し、1~10mmの軽石粒を少量含む。締まりややあり。
- 2 黒褐色土(10YR2/2) 鈍い褐色土を少量、1~10mmの軽石粒を少量含む。締まりあり。
- 3 黒褐色土(10YR2/2) 鈍い褐色土がかなり多量に混在。締まりややあり

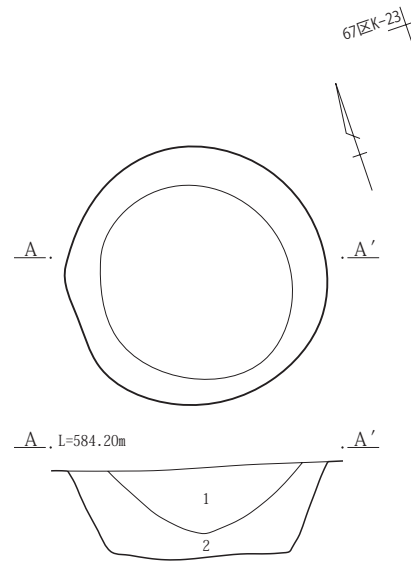
53号土坑

- 1 鈍い黄褐色土(10YR7/4) As-A軽石。
- 2 黒色土(10YR2/1) 天明泥流下畑の耕作土。
- 3 黒褐色土(10YR3/1) 1~5mm大の黄色・白色軽石粒を若干含む。締まりややあり、粘性弱い。
- 4 黒褐色土(10YR3/1) 黄色・白色軽石粒、炭化粒を若干含み、亜円・亜角礫を混入。締まりややあり、粘性弱い。

54号土坑



55号土坑

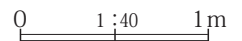


55号土坑

- 1 黒褐色土(10YR2/2) 鈍い褐色土、炭化物、軽石粒を微量含む。締まりあり。
- 2 鈍い褐色土(7.5YR5/3) 灰白色土、黒褐色土を少量、軽石粒を微量含む。締まりややあり。

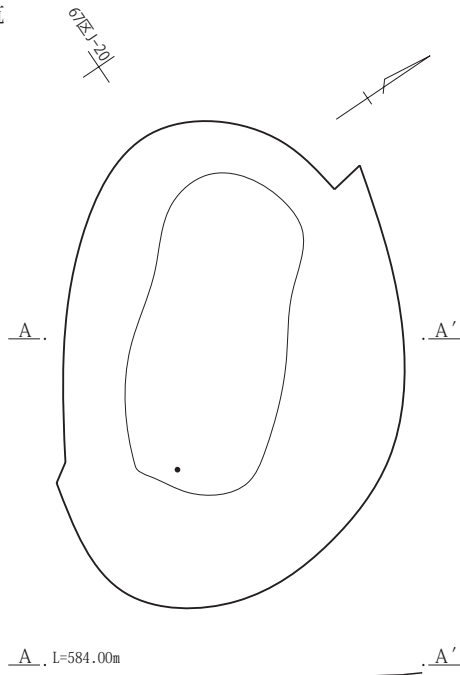
54号土坑

- 1 黒色土(10YR2/1) 天明泥流下畑の耕作土。
- 2 黒褐色土(10YR3/1) 1~5mm大の黄色・白色軽石粒を若干含む。締まりややあり、粘性弱い。
- 3 黒褐色土(10YR3/1) 色・白色軽石粒、炭化粒を若干含む。締まりややあり、粘性弱い。

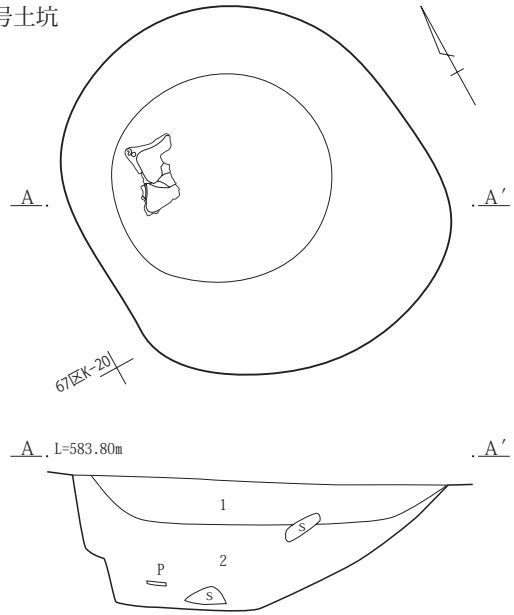


第42図 土坑 平・断面図7

56号土坑



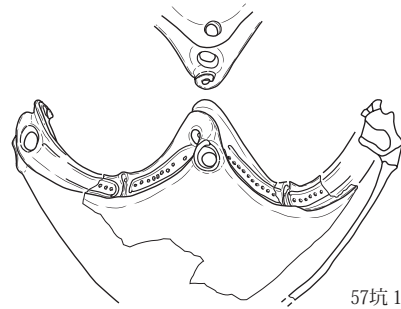
57号土坑



57号土坑

- 1 黒褐色土(10YR2/2) 鈍い褐色土ブロックを混在し、軽石粒を少量含む。縮まりややあり。
- 2 黒褐色土(10YR2/2) 1層より鈍い褐色土が多く、軽石粒を微量含む。縮まりあり。

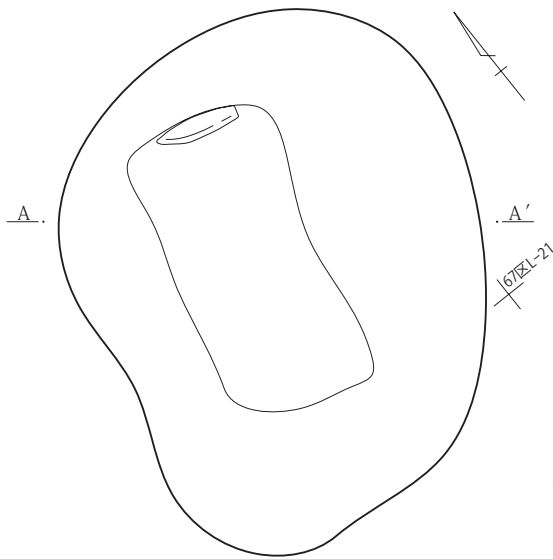
0 1:30 1m



56号土坑

- 1 暗黒褐色土(10YR3/3) 1~20mmの軽石粒を少量、1~3cmの小礫を僅かに含む。縮まりあり。
- 2 黒褐色土(10YR2/2) 1~5mmの軽石粒を微量含む。縮まりあり。
- 3 黒褐色土(10YR2/2) 鈍い褐色土、灰白色土を少量、軽石粒を微量含む。縮まりややあり。

58号土坑



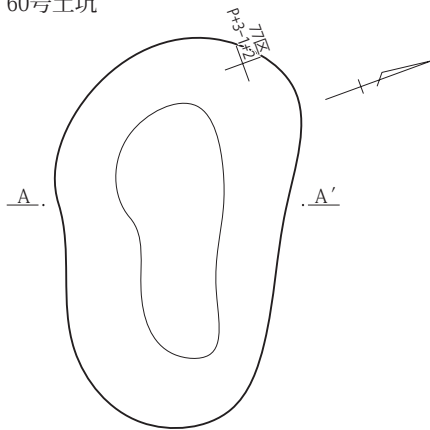
58号土坑

- 1 暗黒褐色土(10YR3/3) 1~20mmの軽石粒を多量に含む。縮まりあり。
- 2 黒褐色土(10YR2/2) 1~15mmの軽石粒を微量含む。縮まりややあり。
- 3 黒褐色土(10YR2/2) 鈍い褐色土・灰白色土ブロックを混在し、軽石粒を微量含む。

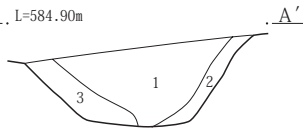
0 1:40 1m

第43図 土坑 平・断面図8

60号土坑



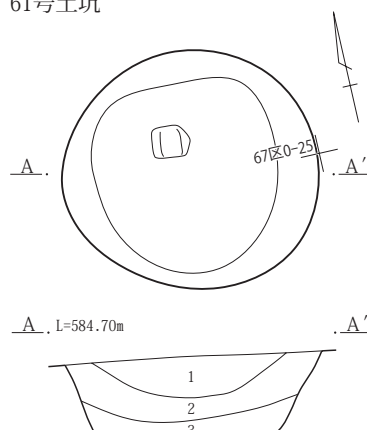
A, L=584.90m A'



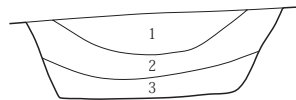
60号土坑

- 1 黒褐色土(10YR2/2) 1~10mmの軽石粒を多量に含む。縮まりややあり。
- 2 黒褐色土(10YR2/2) 1~2mmの軽石粒を微量含む。縮まり弱く、粘性あり。
- 3 にぶい黄橙色土(10YR7/3) シルト質で、縮まり弱く、粘性あり。

61号土坑



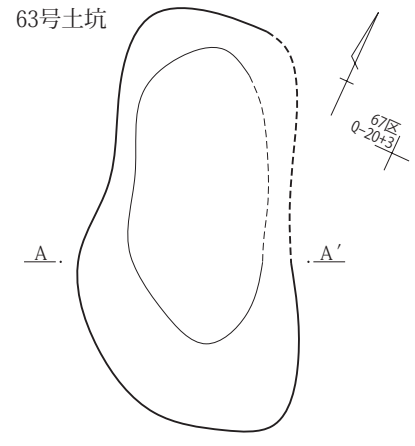
A, L=584.70m A'



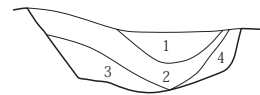
61号土坑

- 1 黒褐色土(10YR2/2) 鈍い褐色土を微量、1~5mmの軽石粒を少量含む。縮まりややあり。
- 2 黒褐色土(10YR2/2) 鈍い褐色土ブロックを多く、軽石粒を少量含む。縮まりあり。
- 3 鈍い黄橙色土(10YR7/3) 黄橙色土、鈍い褐色土、黒褐色土が混在。全体的にジャリジャリする。

63号土坑



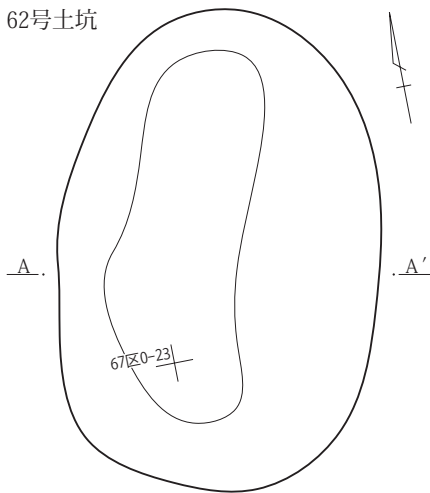
A, L=584.90m A'



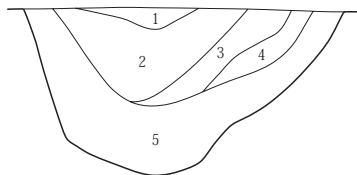
63号土坑

- 1 黒褐色土(10YR2/2) 鈍い褐色土を僅かに、1~2mmの軽石粒を少量含む。縮まりややあり。
- 2 黒褐色土(10YR2/2) 鈍い褐色土を多量に、軽石粒を微量含む。全体的にジャリジャリ。
- 3 鈍い褐色土(7.5YR5/3) 鈍い黄橙色土と黒褐色土を含み、全体的にジャリジャリ。縮まりあり。
- 4 黒褐色土(10YR2/2) 鈍い褐色土と灰白色土を含む。縮まり弱く、粘性あり。

62号土坑



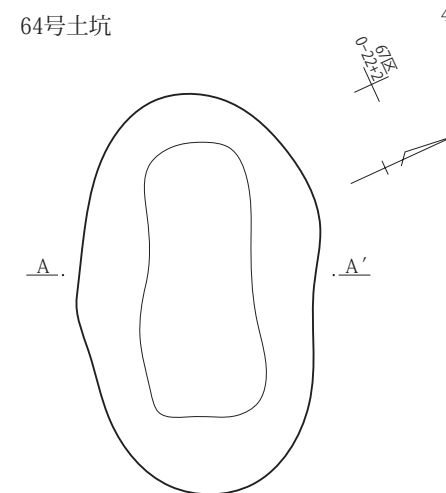
A, L=584.00m A'



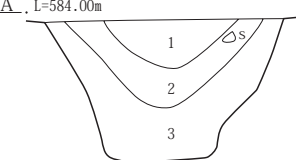
62号土坑

- 1 黒褐色土(10YR2/2) 1~5mmの軽石粒を微量含む。縮まりややあり。
- 2 黒褐色土(10YR2/2) 鉄分を多く含み(鈍いオレンジ色)、軽石粒を微量含む。縮まりあり。
- 3 黒褐色土(10YR2/2) 鈍い黄橙色土を多量に混在し、軽石粒を微量含む。縮まりあり。
- 4 黒褐色土(10YR2/2) 鈍い褐色土ブロックを少量、軽石粒を微量含む。縮まりあり。
- 5 黒褐色土(10YR2/2) 鈍い褐色土・鈍い黄橙色土ブロックを少量、軽石粒を微量含む。

64号土坑

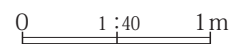


A, L=584.00m A'

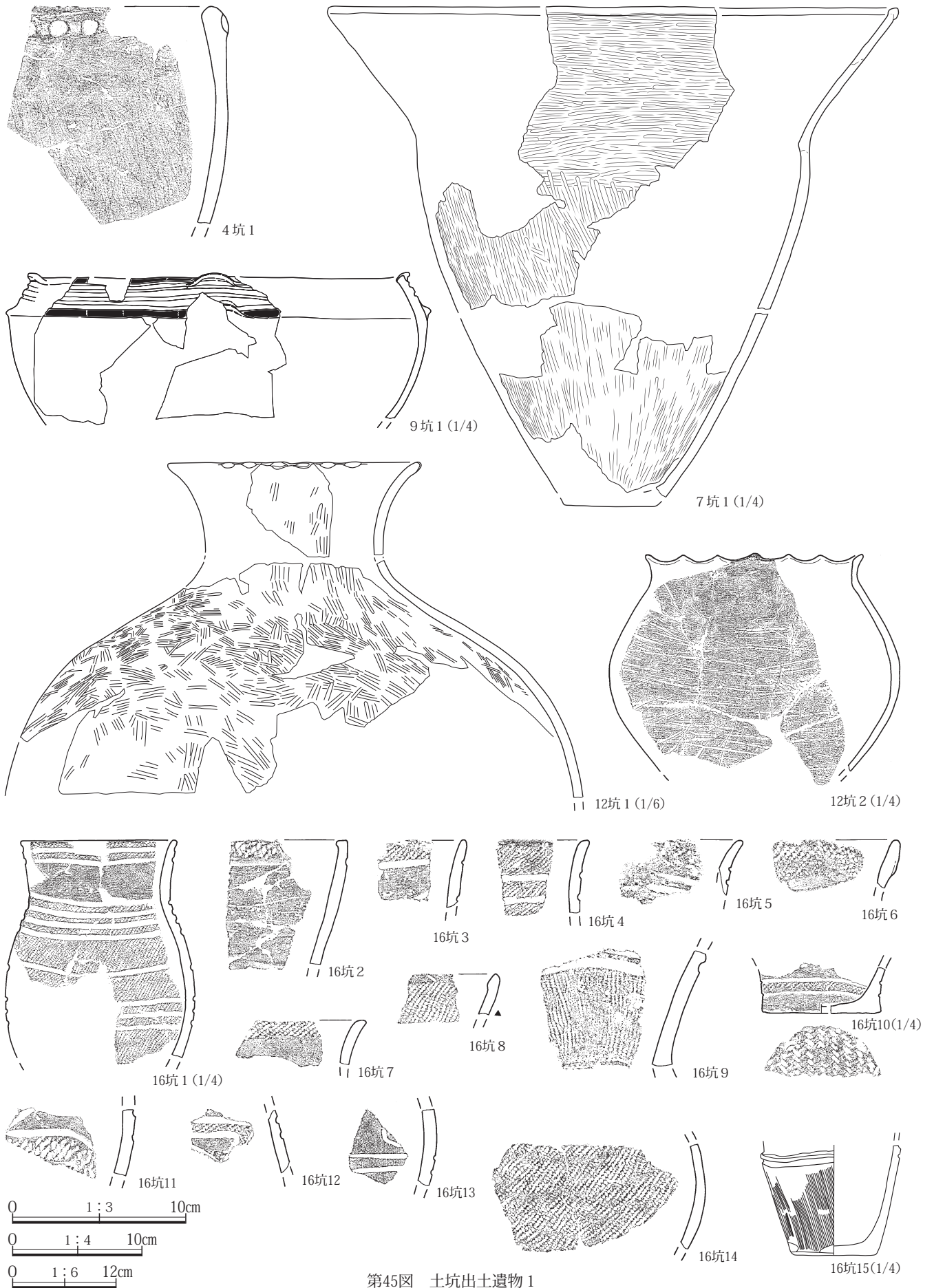


64号土坑

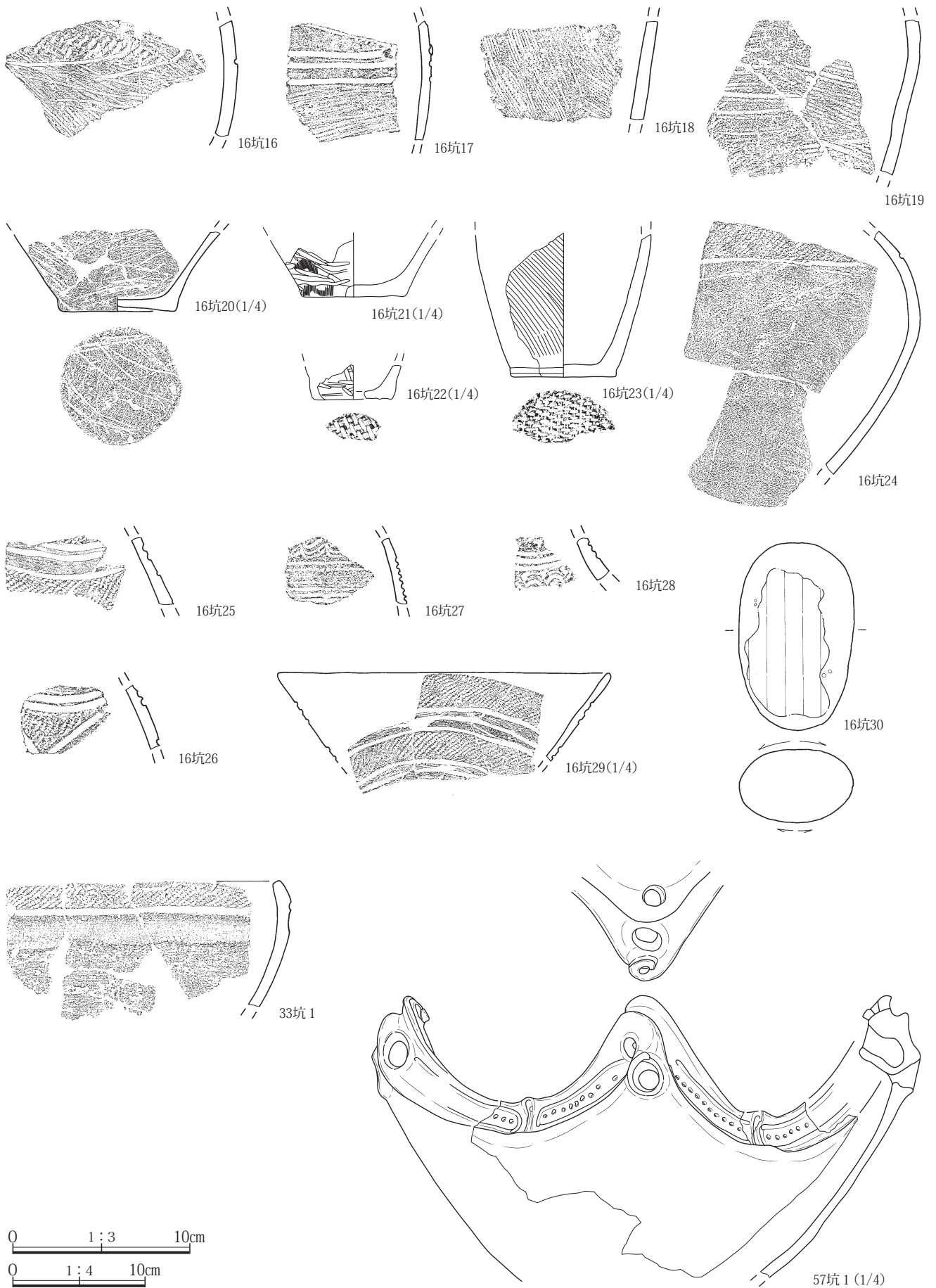
- 1 黒褐色土(10YR2/2) 1~15mmの軽石粒を多く、炭化物を微量含む。縮まりややあり。
- 2 黒褐色土(10YR2/2) 1~10mmの軽石粒を微量含む。縮まりややあり。
- 3 黒褐色土(10YR2/2) 鈍い褐色土・鈍い黄橙色土ブロックを少量、軽石粒を微量含む。



第44図 土坑 平・断面図9



第45図 土坑出土遺物 1



第46図 土坑出土遺物2

と考えられる。

53号土坑 (第42図、PL.17)

B区の調査で検出された。2面調査時のベルトに掛かった部分のみの調査である。

位置：上段の南側で、67区の中央西寄りに位置する。南側1.8mに54号土坑が近接し、北東側3.2mに1号住居とした縄文時代の柄鏡形敷石住居がある。

グリッド：67区R-16

(国家座標 X=60,662・663 Y=-105,669・670)

形状：円形

規模：長軸1.75m 短軸(1.61)m 深さ81cm

長軸方向：N-22°-E

埋没土は、鈍い黄褐色土、黒色土、黒褐色土の4層に分層され、1～3層は基本土層Ⅲ・Ⅳa・Ⅳb層に対比できる。上面および底面は楕円形と思われ、底面は下位礫層の大型礫が露出する。出土遺物はなく、時期の特定は難しいが、土坑の形状等から古代の土坑(陥し穴)の可能性が高い。

54号土坑 (第42図、PL.17)

B区の調査で検出された。2面調査時のベルトに掛かった部分のみの調査である。

位置：上段の南側で、67区の中央西寄りに位置し、北側1.8mに53号土坑が近接する。

グリッド：67区R-15・16

(国家座標 X=60,658～660 Y=-105,670・671)

形状：円形

規模：長軸(1.93)m 短軸1.78m 深さ57cm

長軸方向：N-15°-E

埋没土は、黒色土、黒褐色土の3層に分層され、1・2層は基本土層Ⅳa・Ⅳb層に対比できる。上面および底面は楕円形と思われ、底面は下位礫層の礫が露出する。出土遺物はなく、時期の特定は難しいが、土坑の形状等から古代の土坑(陥し穴)の可能性が高い。

55号土坑 (第42図、PL.17)

B区の調査で検出された。

位置：下段となる67区の北側中央付近に位置し、南西側4.5mに58号土坑、同9.4mに57号土坑がある。

グリッド：67区K-21

(国家座標 X=60,686・687 Y=-105,640～642)

形状：円形

規模：長軸1.36m 短軸1.36m 深さ62cm

長軸方向：不明

埋没土は、黒褐色土と鈍い褐色土の2層に分層される。底面は円形で、平坦となる。出土遺物はなく、土坑の時期は不明。

56号土坑 (第43図、PL.17)

B区の調査で、トレンチ際に検出された。

位置：下段となる67区の中央北東寄りに位置し、西側3.0mに57号土坑がある。

グリッド：67区I-19・20

(国家座標 X=60,674～676 Y=-105,633～635)

形状：楕円形

規模：長軸2.58m 短軸1.80m 深さ112cm

長軸方向：N-48°-W

埋没土は、暗黒褐色土と黒褐色土の3層に分層される。上面は楕円形で、底面は隅丸長方形となるが、下位礫層の礫が露出する。出土遺物はなく、時期の特定は難しいが、土坑の形状等から古代の土坑(陥し穴)の可能性が高い。

57号土坑 (第43・46図、第17表、PL.17・33)

B区の調査で検出された。

位置：下段となる67区の中央北東寄りに位置し、東側3.0mに56号土坑、北西側5.0mに58号土坑がある。

グリッド：67区J-19・20

(国家座標 X=60,675～677 Y=-105,638・639)

形状：隅丸方形

規模：長軸1.53m 短軸1.33m 深さ53cm

長軸方向：N-7°-W

埋没土は黒褐色土で、2層に分層される。底面は円形で、概ね平坦となる。出土遺物には第46図57坑1に示した注口付浅鉢土器があり、この出土土器から本土坑の時期は、縄文時代後期初頭の称名寺式期と考えられる。

58号土坑 (第43図、PL.17)

B区の調査で検出された。

位置:下段となる67区の北側中央付近に位置し、北東側4.5mに55号土坑、南東側5.0mに57号土坑、西側10.4mに64号土坑がある。

グリッド:67区K・L-20・21

(国家座標 X=60,679~682 Y=-105,643~646)

形状:隅丸方形

規模:長軸2.80m 短軸2.17m 深さ117cm

長軸方向:N-29°-E

埋没土は、暗黒褐色土と黒褐色土の3層に分層される。上面は不整な隅丸方形で、底面は隅丸長方形となるが、下位礫層の大型礫が露出する。出土遺物はなく、時期の特定は難しいが、土坑の形状等から古代の土坑(陥し穴)と考えられる。

60号土坑 (第44図、PL.17)

B区の調査で検出された。

位置:下段となる77区の南端中央付近に位置し、南東側6.0mに61号土坑がある。

グリッド:77区P-1

(国家座標 X=60,700~702 Y=-105,661~663)

形状:楕円形

規模:長軸2.05m 短軸1.24m 深さ51cm

長軸方向:N-64°-W

埋没土は、黒褐色土と鈍い黄褐色土の3層に分層される。底面は長楕円形で、概ね平坦となる。出土遺物はなく、時期の特定は難しいが、土坑の形状等から古代の土坑(陥し穴)の可能性が高い。

61号土坑 (第44図、PL.17)

B区の調査で検出された。

位置:下段となる67区の北端中央付近に位置し、北西側6.0mに60号土坑、南側5.5mに62号土坑がある。

グリッド:67区O-24・25

(国家座標 X=60,695・696 Y=-105,656・657)

形状:円形

規模:長軸1.34m 短軸1.26m 深さ53cm

長軸方向:N-77°-W

埋没土は、黒褐色土と鈍い黄褐色土の3層に分層される。底面は円形で、平坦となる。出土遺物はなく、土坑の時期は不明。

62号土坑 (第44図、PL.17)

B区の調査で検出された。

位置:下段となる67区の北側中央付近に位置し、北側5.5mに61号土坑、南側4.0mに64号土坑がある。

グリッド:67区N・O-22・23

(国家座標 X=60,687~689 Y=-105,654~656)

形状:楕円形

規模:長軸2.53m 短軸1.51m 深さ101cm

長軸方向:N-11°-E

埋没土は黒褐色土で、5層に分層される。上面および底面は不整な楕円形で、底面は概ね平坦となる。出土遺物はなく、時期の特定は難しいが、土坑の形状等から古代の土坑(陥し穴)の可能性が高い。

63号土坑 (第44図、PL.17)

B区の調査で検出された。

位置:下段の段際で、67区の中央北西側付近に位置する。南側5.0mの上段際には縄文時代の柄鏡形敷石住居である1号住居、北東側7.0mに64号土坑がある。

グリッド:67区P-20

(国家座標 X=60,685~687 Y=-105,663~665)

形状:楕円形

規模:長軸2.19m 短軸1.05m 深さ39cm

長軸方向:N-23°-W

埋没土は、黒褐色土と鈍い褐色土の4層に分層される。上面および底面は不整な長楕円形で、底面は概ね平坦となる。出土遺物はなく、時期の特定は難しいが、土坑の形状等から古代の土坑(陥し穴)の可能性が高い。

64号土坑 (第44図、PL.17)

B区の調査で検出された。

位置:下段となる67区の中央北寄り付近に位置し、北側4.0mに62号土坑、南西側7.0mに63号土坑、東側10.4mに58号土坑がある。

グリッド:67区O-21

(国家座標 X=60,690・691 Y=-105,656~658)

形状:楕円形

規模:長軸2.12m 短軸1.26m 深さ76cm

長軸方向:N-69°-W

埋没土は黒褐色土で、3層に分層される。上面はやや

不整な楕円形を呈し、底面は隅丸長方形で平坦となる。出土遺物はなく、時期の特定は難しいが、土坑の形状等から古代の土坑(陥し穴)と考えられる。

4 ピット

検出されたピットは、下段となる77区の調査区北隅に集中するが、住居や掘立柱遺構的な状況は見当たらない。また、このピット集中箇所付近での遺物の出土はなく、ピットの時期も不明である。(第9表 ピット一覧表を参照)

5 遺構外出土遺物

第2面調査において出土した、遺構に伴わない遺物を扱う。遺構外遺物は出土量は少ないものの、縄文時代早期から後期、弥生時代中期初頭の土器がある。また、石器には石鏃や石匙、打製石斧といった定形石器をはじめ、不定型な二次加工剥片が出土している。

以下、種別ごとに記載する。

1. 土器 (第47・48図、第18表、PL. 33・34)

縄文時代早期： 1～3は押型文土器で、1は山形押型文を横・縦位に直交するように施文する。2も同様な山形押型文を横位に施文する。3は楕円押型文を横位に施文する。4・5は茅山上層式土器で、肥厚させた口縁部や口唇上端に絡条体圧痕文を施し、以下の胴部内外面に条痕文を施す。

縄文時代前期： 6・7は有尾式土器で、口縁部文様に半截竹管具による連続爪形文を菱形構成に施文し、胴部に羽状縄文等を施す。

縄文時代中期： 8は五領ヶ台式土器で、外反する口縁の口縁部文様に単沈線で円形・三角形の文様を描き、頸部が強く屈曲する。9・10は勝坂3式土器で、9の口縁部には隆帯で横位楕円形区画を配し、区画内に斜位沈線を充填する。口縁部文様下には隆帯で頸部文様帯が区画され、区画内に斜位沈線を施す。10は胴部に刻目状の短沈線をもつやや幅広な隆帯を横位に施文する。11は三原田式土器で、縄文を地文し、横・縦位の集合沈線文や渦巻文を施す。12～14は加曾利E4式土器で、内反する波状口縁の口縁下に横位沈線で無文帯を区画し、以下に逆U字状ないし渦巻き状の文様を描き、文様内に縄文を充

填する。13・14は胴部に微隆線で逆U字状等の文様を描き、13は文様内に縄文を充填する。

縄文時代後期： 15は口縁下に縄文を施す土器で、加曾利B1式土器か。16は波状口縁の波頂下に縦位沈線を数本施し、口縁下に散漫な斜位沈線を施す。17は頸部に横位沈線で文様帯を区画し、区画内に羽状沈線を施す。16・17は加曾利B3式土器か。18は直立する口縁部に横位沈線で区画して縄文帯と無文帯をもち、口縁部下の屈曲部に刻目を横位に施す土器で、高井東式土器か。

弥生時代中期： 19～26は甕形土器である。施文文様の特徴としては、19～21のように口縁部ないし胴上位にかけて、沈線で菱形や三角連繫文を描く。また、21・24～26では、胴部ないし胴部下半に斜位の条痕文を施している。23は底面に網代痕(二間網代)をもつ。27～29は壺形土器である。施文文様の特徴としては、肩部に横位沈線で文様帯区画し、区画内に横位羽状沈線を施す。28。胴部上半に沈線で渦巻文を施す29がある。また、27は球胴となる胴部に縄文を施す。30は赤色塗彩の鉢形土器で、沈線で区画された体部上半に菱形ないし三角連繫文を描き、区画内に縄文が施されている。

これらは、いずれも中期初頭の土器群である。

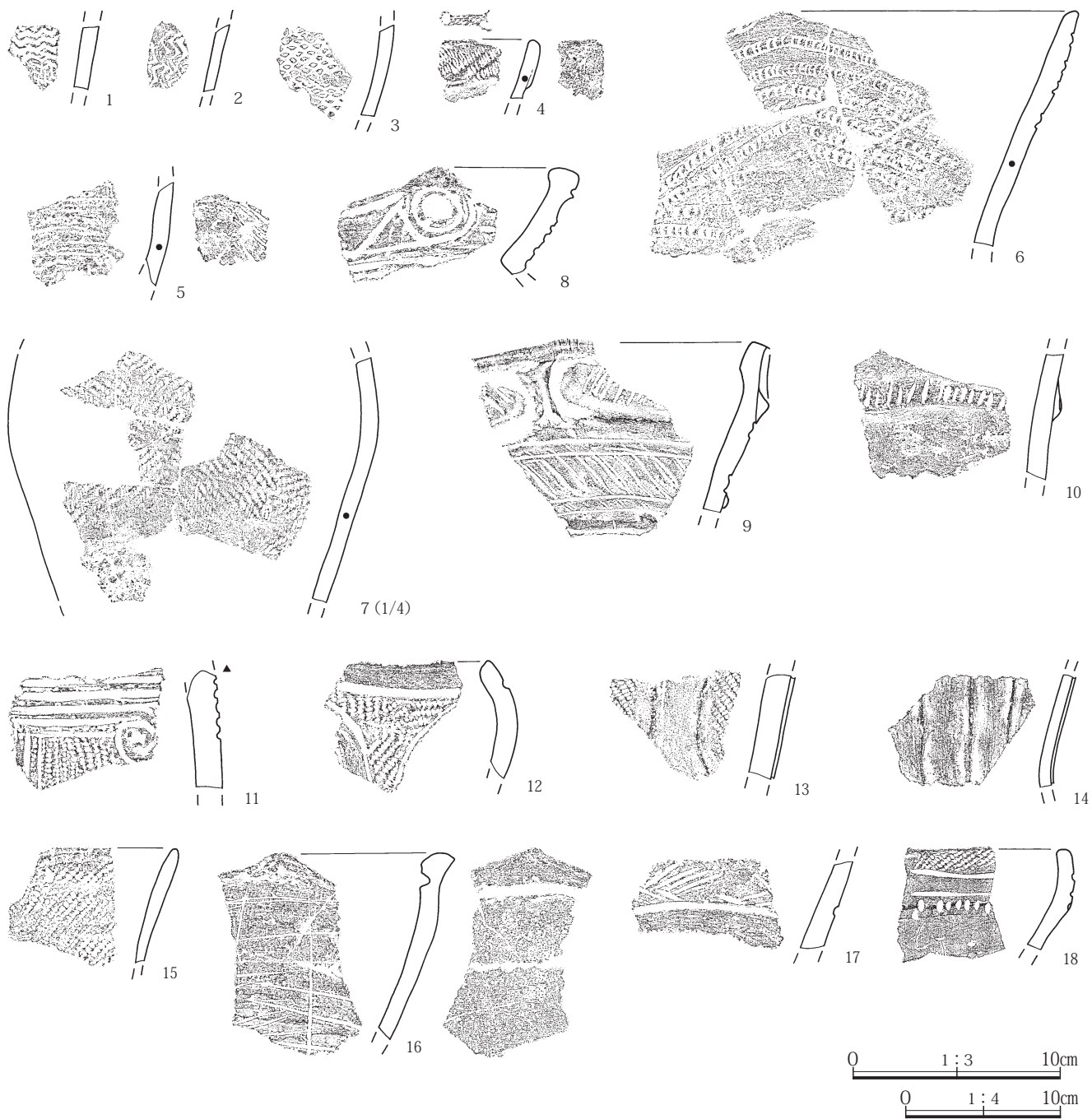
2. 石器 (第48図、第18表、PL.34)

出土した石器は、6点と極めて少ない。これらの器種は、剥片石器となる石鏃が3点(未掲載を含む)、石匙1点、打製石斧1点、二次加工剥片1点(未掲載)がある。

石鏃： 図示したのは31・32の2点である。共に形態は凹基無茎鏃で、石材は黒曜石である(未掲載石鏃も黒曜石)。

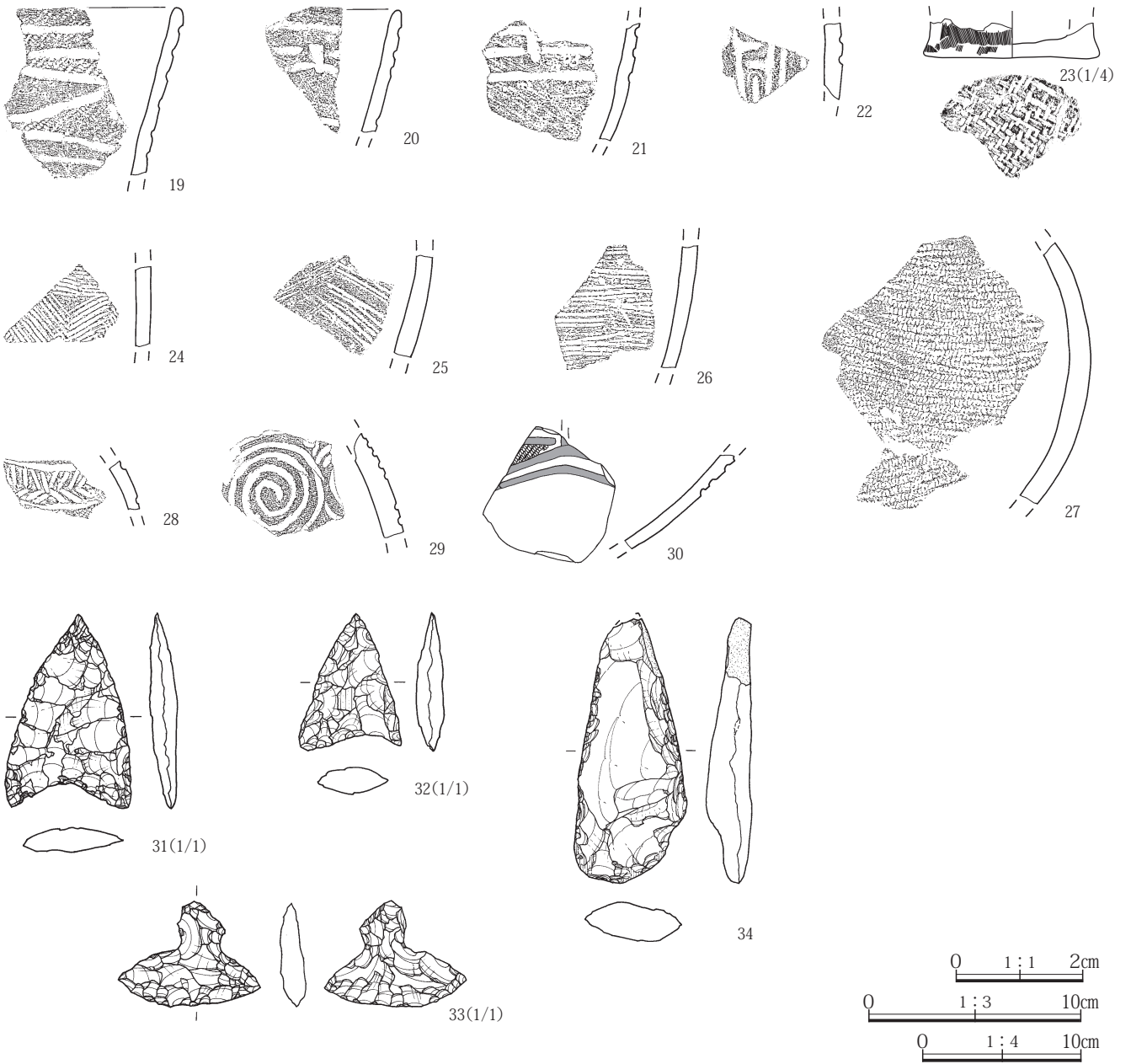
石匙： 33は丁寧な両面加工の横長石匙で、石材はチャートである。

打製石斧： 34は撥形を呈し、一部に自然面を残す。石材細粒輝石安山岩である。



第47図 遺構外出土遺物 1

第4節 検出された遺構と遺物



第48図 遺構外出土遺物2

第3章 久々戸遺跡

第8表 土坑一覧表

遺構名	位置 中・小グリッド	平面形状	規模(m)			長軸方位	重複関係	検出面/時期/備考
			長軸(径)	短軸	深さ			
1号土坑	67区V・W-24・25	楕円形	1.98	1.19	1.24	N-40°-E		2面 古代以降 陥し穴
2号土坑	77・78区Y・A-1	楕円形	1.91	1.33	1.43	N-24°-E		2面 古代以降 陥し穴
3号土坑	77区Y-1	不整楕円形	1.60	0.87	0.53	N-14°-E		2面 古代以降 陥し穴
4号土坑	77区X-1	不整円形	1.08	1.02	0.17	N-88°-W	7土坑(7土→4土)	2面 縄文時代後期
5号土坑	77区X-1	楕円形	0.71	0.60	0.25	N-72°-W		2面 時期不明
6号土坑	67区X-24・25	楕円形	1.09	0.90	0.17	N-90°-E		2面 時期不明
7号土坑	77区X-1	楕円形	1.04	0.90	0.24	N-72°-E	4土坑(7土→4土)	2面 縄文時代後期
8号土坑	67・77区U・V-25・1	楕円形	2.78	1.54	0.58	N-2°-W		2面 古代以降 陥し穴
9号土坑	77区U-4	楕円形	1.15	1.02	0.19	N-63°-E		2面 縄文時代後期
12号土坑	77区V-2・3	円形	1.24	1.24	0.25	-		2面 弥生中期
13号土坑	77区W-4	円形	1.52	1.50	0.34	-		2面 時期不明
14号土坑	77区T・U-5	楕円形	0.83	0.74	0.13	N-35°-E		2面 時期不明
15号土坑	77区T-4	不整形	1.00	0.84	0.27	N-57°-W		2面 時期不明
16号土坑	77区S-5・6	楕円形	1.44	1.26	0.39	N-27°-W		2面 弥生中期
18号土坑	77区U-4	楕円形	1.13	1.00	0.13	N-79°-W		2面 時期不明
20号土坑	77区R・S-3・4	楕円形	(2.01)	1.38	0.31	N-35°-W		2面 古代以降 陥し穴
21号土坑	77区P・Q-2・3	不整形	(0.69)	0.95	0.17	N-71°-W		2面 時期不明
22号土坑	77区P-2	楕円形	1.30	1.21	0.22	N-76°-E		2面 時期不明
24号土坑	67区W・X-24	楕円形	1.84	1.33	0.32	N-87°-E		2面 時期不明
25号土坑	67区X-24	不整長方形	1.29	0.82	0.43	N-45°-W		2面 時期不明
26号土坑	67区T-21	楕円形	1.63	0.98	0.56	N-15°-E		2面 古代以降 陥し穴
27号土坑	67区T-21・22	楕円形	1.63	1.05	0.45	N-4°-E		2面 古代以降 陥し穴
28号土坑	77区T-1・2	楕円形	0.79	0.66	0.13	N-87°-W		2面 時期不明
42号土坑	68区H-19	長方形	2.06	0.52	0.16	N-29°-E	畑?	2面 古代以降
43号土坑	78区T-3	楕円形か	(0.94)	1.50	0.41	N-45°-W		2面 古代以降 陥し穴か
46号土坑	68区M・N-21・22	楕円形	1.14	1.04	0.20	N-84°-W		2面 時期不明
47号土坑	68区K-21	楕円形	2.41	0.94	0.25	N-22°-W		2面 時期不明
48号土坑	68区J・K-20・21	不整楕円形	1.88	0.97	0.21	N-11°-E		2面 時期不明
51号土坑	68区O-20	不整形	(1.29)	(1.28)	0.40	N-32°-W		2面 古代以降 陥し穴か
52号土坑	68区O・P-22・23	楕円形	2.28	1.38	0.46	N-28°-W		2面 古代以降 陥し穴か
53号土坑	67区R-16	円形	1.75	(1.61)	0.81	N-22°-E		2面 古代以降 陥し穴か
54号土坑	67区R-15・16	円形	(1.93)	1.78	0.57	N-15°-E		2面 古代以降 陥し穴か
55号土坑	67区K-22	円形	1.36	1.36	0.62	-		2面 時期不明
56号土坑	67区I-19・20	楕円形	2.58	1.80	1.12	N-48°-W		2面 古代以降 陥し穴
57号土坑	67区J-19・20	隅丸方形	1.53	1.33	0.53	N-7°-W		2面 縄文後期
58号土坑	67区K・L-20・21	隅丸方形	2.80	2.17	1.17	N-29°-E		2面 古代以降 陥し穴
60号土坑	77区P-1	楕円形	2.05	1.24	0.51	N-64°-W		2面 古代以降 陥し穴か
61号土坑	67区O-24・25	円形	1.34	1.26	0.53	N-77°-W		2面 時期不明
62号土坑	67区N・O-22・23	楕円形	2.53	1.51	1.01	N-11°-E		2面 古代以降 陥し穴
63号土坑	67区P-20	楕円形	2.19	1.05	0.39	N-23°-W		2面 古代以降 陥し穴
64号土坑	67区O-21	楕円形	2.12	1.26	0.76	N-69°-W		2面 古代以降 陥し穴

第9表 ピット一覧表

遺構名	位置 (グリッド)	平面形状	規模(m)			長軸方位	重複関係	検出面/備考
			長軸(径)	短軸	深さ			
77区1号ピット	77区T・U-8	不整形	0.43	(0.31)	0.23	N-5°-W	P2	2面
77区2号ピット	77区T・U-8	不整形	0.36	(0.32)	0.17	N-0°	P1	2面
77区3号ピット	77区U-8	楕円形	0.44	0.34	0.43	N-44°-W	-	2面
77区4号ピット	77区T-9	楕円形	0.36	0.31	0.14	N-48°-E	P5	2面
77区5号ピット	77区T-9	楕円形	0.42	0.36	0.18	N-28°-W	P4	2面
77区6号ピット	77区U-9	楕円形	0.43	0.36	0.20	N-48°-E	-	2面
77区7号ピット	77区U-9	楕円形	0.37	0.30	0.21	N-34°-W	-	2面
77区8号ピット	77区T-9	不整形	0.43	0.23	0.15	N-52°-E	-	2面
77区9号ピット	77区U-9	楕円形	0.39	0.33	0.15	N-35°-E	-	2面
77区10号ピット	77区V-9	楕円形	0.34	0.28	0.30	N-49°-W	-	2面
77区11号ピット	77区V-9	楕円形	0.35	0.29	0.15	N-27°-W	-	2面
77区12号ピット	77区T・U-9	楕円形	0.37	0.33	0.25	N-28°-W	-	2面

遺物観察表

註 縄文・弥生土器の胎土分類(肉眼観察による)については、以下の通り。

分類	特 徴
A	中量の円磨度の進んだ灰白色岩片の礫・粗砂や長石の粗・細砂と少量の石英粗・細砂を含む緻密な胎土。
B	多量の長石・石英・白色岩片の粗・細砂と微量の雲母粗砂を含む緻密な胎土。
C	中量の結晶片岩細砂と少量の長石・石英細砂を含む緻密な胎土。
D	中量の円磨度の進んだ珪質乳白色岩片や黒色岩片の礫・粗砂と少量の結晶片岩礫・粗砂及び繊維を含む粗雑な胎土。
E	多量の円磨度の進んだ珪質乳白色礫・粗砂や繊維を含むやや粗雑な胎土。
F	中量の石英や円磨度の進んだ黒色・灰白色岩片の礫・粗砂と繊維を含むやや緻密な胎土。
G	多量の石英や珪質乳白色岩片の礫・粗砂を含む緻密な胎土。
H	多量の石英や黒・灰白色岩片の粗・細砂と微量の円磨度の進んだ珪質乳白色岩片礫を含む緻密な胎土。
I	多量の結晶片岩や珪質乳白色岩片、黒・灰白色岩片の礫・粗砂を含む緻密な胎土。
J	多量の円磨度の進んだ黒色・灰色岩片の粗・細砂や中量の石英・輝石の粗・細砂を含む緻密な胎土。
K	多量の珪質乳白色岩片や黒・灰白色岩片の粗・細砂と少量の輝石粗・細砂を含むやや緻密な胎土。
L	多量の円磨度の進んだ珪質乳白色岩片、黒・赤・灰白色岩片の礫・粗砂と少量の石英粗・細砂を含む緻密・硬質な胎土。
M	少量の黒・灰白色岩片の粗・細砂と微量の輝石粗・細砂を含む緻密・硬質な胎土。
N	多量の石英・輝石の粗・細砂と少量の円磨度の進んだ灰白色岩片礫・粗砂を含む緻密な胎土。
O	少量の珪質乳白色岩片や灰白色岩片、石英等の粗・細砂を含む緻密な胎土。
P	多量の円磨度の進んだ灰白・黒色岩片礫・粗砂と少量の輝石・長石粗砂を含む緻密な胎土。
Q	多量の円磨度の進んだ珪質乳白色岩片や灰白色・黒色岩片の礫・粗砂と少量の輝石粗砂を含むやや緻密な胎土。
R	中量の黒・灰色岩片や珪質乳白色岩片の粗・細砂を含む緻密な胎土。
S	多量の円磨度の進んだ結晶片岩や珪質乳白色岩片、黒・灰色岩片等の礫・粗砂を含むやや緻密な胎土。
T	多量の石英粗・細砂と少量の黒・灰色岩片粗・細砂を含む緻密な胎土。

凡例

○各分類は肉眼観察による相対的なものである。

○土器断面の◀印は接合痕を表す。

第10表 1号住居出土遺物観察表

挿 図 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
				長 幅	厚 重			
第34図 PL.31	1	縄文土器 深鉢	床直 口縁-胴下半 1/3	(21.2)		O	環状把手を一对付した波状口縁。口縁に微隆起帯を横位に施す。体部にV字状や逆U字状の区画文を施し、LR縄文を充填施文。外面口縁部に煤状炭化物付着、内面やや粗い横位磨き。	加曾利E4式
第34図 PL.31	2	縄文土器 深鉢	床直 口縁部片			K	波状口縁。波頂下に縦位の小突起を付す。横位の微隆起帯で区画された口縁部に列点状刺突文を施す。体部にV字状や逆U字状の沈線文を施し縄文を充填施文するが、著しい被熱風化により不明瞭。外面一部に煤状炭化物付着。内面横位磨き、やや被熱風化。	加曾利E4式
第34図 PL.31	3	縄文土器 深鉢	覆土 口縁部片			K	微隆起帯を口縁部横位・胴部縦位に施し、微隆起帯上や区画内にRL縄文を充填施文。外面口縁部に煤状炭化物付着、内外面共に風化。	加曾利E4式
第35図 PL.31	4	縄文土器 深鉢	覆土 胴部片			J	微隆起帯の懸垂文を施し、LR縄文を縦位施文。内面著しい被熱風化。	加曾利E4式
第34図 PL.31	5	剥片石器 石鏃	覆土 完形	長 幅 1.9 1.6	厚 重 0.4 0.5	黒曜石	押圧剥離により全面を整形する。裏面の中央に素材剥片の主要剥離面を僅かに残す。表面には素材剥片段階の剥離面が僅かに認められる。	凹基無茎鏃
第34図 PL.31	6	礫石器 凹石	覆土 完形	長 幅 16.0 7.8	厚 重 4.5 956.3	粗粒輝石安山岩	垂円礫を利用する。表面の中央とやや上方に浅い凹みが認められる。表面の中央付近に磨面が認められる。	
第35図 PL.31	7	礫石器 凹石	覆土 完形	長 幅 14.8 10.6	厚 重 6.4 1431.3	粗粒輝石安山岩	円礫を利用する。表面やや上方に浅い凹みが認められる。表面の中央付近に磨面が認められる。	
第34図 PL.31	8	礫石器 磨石	覆土 完形	長 幅 17.2 15.7	厚 重 5.0 2098.9	粗粒輝石安山岩	円礫を利用する。表面のほぼ全面に磨面が認められる。側辺部に敲打痕が散在する。	
第34図 PL.31	9	礫石器 磨石	覆土 完形	長 幅 8.2 7.6	厚 重 4.0 385.1	粗粒輝石安山岩	円礫を利用する。表裏面のほぼ全域に磨面が認められる。	
第34図 PL.31	10	礫石器 磨石	覆土 完形	長 幅 12.5 9.2	厚 重 7.5 1404.9	粗粒輝石安山岩	垂円礫を利用する。表裏面と両側面のほぼ全面に磨面が認められる。下面は折断面であるが縁辺部から摩滅が及んでおり折断後に磨石として機能したものと判断される。	
第34図 PL.31	11	礫石器 磨石	覆土 完形	長 幅 11.3 9.9	厚 重 6.5 884.2	粗粒輝石安山岩	極円礫を利用する。表裏面の中央付近に磨面が認められる。右側面にも部分的な磨面が認められる。	
第34図 PL.31	12	礫石器 磨石	覆土 完形	長 幅 10.5 7.5	厚 重 5.4 625.4	粗粒輝石安山岩	垂円礫を利用する。表面、左側面、裏面のほぼ全面に磨面が認められる。いずれの磨面もほぼ平坦である。	
第34図 PL.31	13	礫石器 磨石	覆土 完形	長 幅 12.3 6.9	厚 重 5.6 677.5	粗粒輝石安山岩	垂角礫を利用する。表裏面及び側面に磨面が認められる。いずれの磨面もほぼ平坦である。	
第35図 PL.31	14	礫石器 石皿	覆土 1/2	長 幅 (28.4) (21.8)	厚 重 6.1 3057.8	粗粒輝石安山岩	表面の右縁辺に明瞭な縁が認められる。正面の中央に非常に滑らかな部分が帯状に広がる。	
第35図 PL.31	15	礫石器 台石	覆土 完形	長 幅 20.7 16.2	厚 重 10.3 3021.6	粗粒輝石安山岩	垂角礫を利用する。表面はほぼ平坦であり全体に滑らかな面が広がる。	

第3章 久々戸遺跡

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				長	厚	重			
第35図 PL.31	16	礫石器 台石	覆土 ほぼ完形	17.1 11.4	11.6 3116.6		粗粒輝石安山岩	垂角礫を利用する。表面と裏面はほぼ平行しており共に平坦面が認められる。	
第35図 PL.31	17	石製品 石棒	床直 完形	80.8 13.2	13.5 23040.0		緑色片岩	全体的に滑らかであり研磨により丁寧に整形されている。特に上半部に比較して下半部の方がより滑らかである。	

第11表 4号土坑出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				長	厚	重			
第45図 PL.32	1	縄文土器 深鉢	覆土 口縁部片				N	口縁部に掘り鉢状の円形刺突文を施す。外面口縁部横位、胴部縦位の匏磨き。内面横位匏磨き。	高井東式

第12表 7号土坑出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				長	厚	重			
第45図 PL.32	1	縄文土器 深鉢	覆土 口縁-胴部 1/4	(44.0)	(38.5)		O	半精製的な無文深鉢。口縁内面に凹線状の横位沈線文を施す。外面口縁部横位・胴部縦位匏磨き、胴部下位被熱風化・剥離。内面横位匏磨き。	後期後半

第13表 9号土坑出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				長	厚	重			
第45図 PL.32	1	縄文土器 鉢	覆土 口縁-胴部 1/4	(29.2)			O	口縁部の上・下端に横位のL縄文や耳状の小突起を施し、その間に4本の横線文を施文。内外面共に横位磨きと燻べ焼きで黒色光沢を帯びる。	高井東式

第14表 12号土坑出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				長	厚	重			
第45図 PL.32	1	弥生土器 大甕	床面 頸部-胴部 1/2	(29.0)			T	無文の大甕。口縁部～胴部上半のみ残存。外面横・斜位匏磨き、煤状炭化物付着。内面横・斜位匏磨き、風化。鈍い黄橙色。	弥生中期初頭
第45図 PL.32	2	弥生土器 甕	床面 口縁-胴部 1/3	(16.6)			S	波長の短い小波状口縁。頸部以下に条痕文を横位施文。外面一部に煤状炭化物付着、内面やや粗い横位匏磨き。	弥生中期初頭

第15表 16号土坑出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				長	厚	重			
第45図 PL.32	1	弥生土器 小型甕	覆土 口縁-胴部 1/4	(12.0)			R	LR縄文を横位施文し、2～4本沈線の横帯文を多段に施す。外面煤状炭化物付着、内面横位匏磨き・やや被熱風化。	弥生中期初頭
第45図 PL.32	2	弥生土器 甕	覆土 口縁部片				P	口唇内面端部が折返し状に小さく突出。口縁にLR縄文と横線文を施す。内外面共に横位匏磨き、やや風化。	弥生中期初頭
第45図 PL.32	3	弥生土器 甕	覆土 口縁部片				R	口唇下にLR縄文を縦位施文し、横位沈線文を施す。内外面共に丁寧な横位匏磨き。	弥生中期初頭
第45図 PL.32	4	弥生土器 甕	覆土 口縁部片				R	LR縄文を横位施文し、横位沈線文を複数段に施す。内面横位匏磨き。	弥生中期初頭
第45図 PL.32	5	弥生土器 壺	覆土 口縁部片				Q	口縁部に山形状の沈線文を施す。外面風化・剥離。	弥生中期初頭
第45図 PL.32	6	弥生土器 甕	覆土 口縁部片				P	複合状の有段口縁部にLR縄文を横位施文。内外面共にやや風化。	弥生中期初頭
第45図 PL.32	7	弥生土器 甕	覆土 口縁部片				R	口縁にLR縄文を横位施文。外面一部に煤状炭化物付着、内面横位匏磨き。	弥生中期初頭
第45図 PL.32	8	弥生土器 甕	覆土 口縁部片				R	口縁部にLR縄文を横位施文。内面丁寧な横位匏磨き。	弥生中期初頭
第45図 PL.32	9	弥生土器 甕	覆土 頸部片				Q	LR縄文を斜位施文し、深い横位沈線文を複数段に施す。外面被熱風化・一部剥離、内面横位匏磨き・燻べ焼き状の炭素吸着。	弥生中期初頭
第45図 PL.32	10	弥生土器 甕	覆土 底部1/2	(9.0)			P	LR縄文を施文し、2本沈線の横帯文を施す。内外面共に丁寧な横位匏磨き	弥生中期初頭
第45図 PL.32	11	弥生土器 甕	覆土 胴部片				P	沈線区画内にL縄文を充填施文。内面やや被熱風化。	弥生中期初頭
第45図 PL.32	12	弥生土器 甕	覆土 胴部片				P	沈線区画内にLR縄文を充填施文。内面横位匏磨き。	弥生中期初頭
第45図 PL.32	13	弥生土器 甕	覆土 胴部片				R	沈線文を施す。内外面共に縦位匏磨き。	弥生中期初頭
第45図 PL.32	14	弥生土器 甕	覆土 胴部片				P	LR縄文を横位多段に施文。外面一部に煤状炭化物付着、内面横位匏磨き。	弥生中期初頭

第4節 検出された遺構と遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第45図 PL.32	15	弥生土器 甕	覆土 胴部下半~底部 3/4	6.4			Q	胴部下位に横位沈線文を施す。外面は条痕文を施文後に篋撫で状の粗い縦位篋磨きにより条痕文はほぼ消失。内面横位篋磨き。内外面共に煤状炭化物付着・被熱風化。	弥生中期初頭
第46図 PL.32	16	弥生土器 甕	覆土 胴部片				P	条痕文を斜位に施文し、L縄文を1帯横位に施す。外面一部に煤状炭化物付着、内面被熱風化。	弥生中期初頭
第46図 PL.32	17	弥生土器 甕	覆土 胴部片				P	条痕文を横位施文し、3本沈線の横帯文を施す。浅黄橙色。	弥生中期初頭
第46図 PL.32	18	弥生土器 甕	覆土 胴部片				Q	条痕文を斜位に施文。外面被熱風化、内面横・斜位篋磨き。	弥生中期初頭
第46図 PL.32	19	弥生土器 甕	覆土 底部片				P	沈線状の粗い条痕文を横・斜位に施す。内面撫で状の横位篋磨き。	弥生中期初頭
第46図 PL.32	20	弥生土器 甕	覆土 底部完存	8.8			P	やや粗い条痕文を斜位に施文し、底面にも施文。内面横位篋磨き。内外面共にやや被熱風化・剥離。	弥生中期初頭
第46図 PL.32	21	弥生土器 甕	覆土 胴部下半~底部 1/2	7.8			R	外面縦位篋撫で後、横位篋磨き。内面横・斜位篋磨き。内外面共にやや被熱剥離。	弥生中期初頭
第46図 PL.32	22	弥生土器 甕	覆土 底部1/6	(6.0)			P	底部外面に網代痕。外面横・縦位篋磨き、内面風化。	弥生中期初頭
第46図 PL.32	23	弥生土器 甕	覆土 胴部下半~底部 1/2	(7.8)			Q	条痕文を斜位に施文し、底面に網代痕。内面やや粗い横位篋磨き。	弥生中期初頭
第46図 PL.32	24	弥生土器 壺	覆土 胴部片				T	横位の沈線区画内にLR縄文を充填施文。内外面共に風化。須恵器的な灰白色。	弥生中期初頭
第46図 PL.33	25	弥生土器 壺	覆土 肩部片				R	LR縄文を横位施文し、3本沈線の横帯文を施す。内面横位篋磨き、やや風化。浅黄橙色。	弥生中期初頭
第46図 PL.33	26	弥生土器 壺	覆土 胴部片				P	三角連繫文を施し、LR縄文を充填施文。内面被熱風化。	弥生中期初頭
第46図 PL.33	27	弥生土器 壺	覆土 肩部片				P	やや浅い沈線の波状文や横線文を施す。内外面共に風化。浅黄橙色。	弥生中期初頭
第46図 PL.33	28	弥生土器 壺	覆土 口縁部片				P	肩部に横位の沈線文や波状文を施す。外面煤状炭化物付着、内面横位篋撫で。	弥生中期初頭
第46図 PL.33	29	弥生土器 鉢	覆土 口縁部1/5	(24.8)			P	LR縄文を横位施文し、3本沈線の横帯文を多段に施す。内面横位篋磨き、やや風化。	弥生中期初頭
第46図 PL.33	30	礫石器 磨石	覆土 完形	長幅 10.5 6.5	厚重 4.2 414.7		粗粒輝石安山岩	円礫を利用する。表面のほぼ全域と裏面の中央付近に磨面が認められる。	

第16表 33号土坑出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第46図 PL.33	1	縄文土器 鉢	覆土 口縁部片				L	口縁部にLR縄文と沈線文を横位に施し、その下位を横撫でして浅い凹み状の横帯を形成。外面篋削り後、散漫な横位篋磨き。内面横位篋磨き。	高井東式

第17表 57号土坑出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第46図 PL.33	1	縄文土器 注口付浅鉢	覆土 口縁-胴部 1/3	(36.5)			N	捻転・中空状の突起部や注口部を持つ4単位波状口縁。口縁に棒状工具の楕円区画文を施し、同工具の刺突文を充填。内外面共にやや風化。	称名寺Ⅱ式

第18表 遺構外出土遺物観察表(縄文~古代)

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第47図 PL.33	1	縄文土器 深鉢	胴部片				B	山形押型文を横・縦位に直交施文する。内面風化。	押型文
第47図 PL.33	2	縄文土器 深鉢	胴部片				C	山形押型文を縦位に施文。内面風化。	押型文
第47図 PL.33	3	縄文土器 深鉢	胴部片				A	楕円押型文を横位に密接施文する。内面やや風化。	押型文
第47図 PL.33	4	縄文土器 深鉢	口縁部片				D	条痕文を内外面に施し、僅かに肥厚させた口縁部や口唇上端に絡条体圧痕文を施す。	茅山上層式
第47図 PL.33	5	縄文土器 深鉢	胴部片				D	内外面共に条痕文を横・斜位に施文。内面に指頭状の押圧痕残る。	茅山上層式
第47図 PL.33	6	縄文土器 深鉢	口縁部片				E	内削ぎ状の口唇部を持つ波状口縁。半截竹管の連続爪形文で菱形の意匠を構成。内外面共に被熱風化。	有尾式
第47図 PL.33	7	縄文土器 深鉢	胴部1/5				F	粗いLR・RL縄文を交互に横位施文して菱形の意匠を構成。内外面共に一部に煤状炭化物付着、やや被熱風化。	有尾式

第3章 久々戸遺跡

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第48図 PL.33	8	縄文土器 深鉢	口縁部片				G	波状口縁。頸部でく字状に強く屈折。口縁に単沈線の円形・三角形状の文様を施す。内面横位磨き。	五領ヶ台式	
第47図 PL.33	9	縄文土器 深鉢	口縁部片				H	口縁部に隆帯の楕円形区画文を施し、半截竹管の平行短沈線を充填施文。頸部にも同工具の併行沈線文	勝坂3式	
第47図 PL.33	10	縄文土器 深鉢	胴部片				I	幅広・低平な隆帯を横位施文し、短沈線を刻目状に施す。内面横位磨き、やや風化。	勝坂3式	
第47図 PL.33	11	縄文土器 深鉢	胴部片				J	RL縄文を斜位施文し、半截竹管の重ね引きによる横・縦位の集合沈線文や渦巻文を施す。内面風化。	三原田式	
第47図 PL.33	12	縄文土器 深鉢	口縁部片				H	波状口縁。口縁に横位沈線文や逆U字状の沈線懸垂文を施し、RL縄文を充填施文。内面横位磨き。	加曾利E4式	
第47図 PL.33	13	縄文土器 深鉢	胴部片				H	微隆起帯の区画内にLR縄文を充填施文。内面横位磨き、やや風化。	加曾利E4式	
第47図 PL.33	14	縄文土器 深鉢	胴部片				J	微隆起帯の懸垂文を施す。内面横位磨き。	加曾利E4式	
第47図 PL.33	15	縄文土器 深鉢	口縁部片				L	LR縄文を横位・多段に施文。内面横位磨き。	加曾利B1式？	
第47図 PL.33	16	縄文土器 深鉢	胴部片				L	波状口縁。やや散漫な羽状沈線文を施し、波頂下には縦位の沈線文を複数本施文。口縁内面に横位沈線文。内外面共に横位磨きと燻べ焼きで黒色光沢を帯びる。	加曾利B3式	
第47図 PL.33	17	縄文土器 深鉢	胴部片				L	頸部に羽状沈線文と横線文を施す。内面横位磨き。	加曾利B3式	
第47図 PL.33	18	縄文土器 深鉢	口縁部片				M	口縁部にLR縄文や沈線文を横位施文し、下位に棒状工具の刻目を施す。内外面共に横位磨きと燻べ焼きで黒色光沢を帯びる。外面口縁部に煤状炭化物付着。	高井東式	
第48図 PL.33	19	弥生土器 甕	口縁部片				Q	深い短沈線で三角・菱形連繋文を施し、区画内にLR縄文を充填。内外面共に風化。浅黄橙色。	弥生中期初頭	
第48図 PL.33	20	弥生土器 甕	口縁部片				Q	菱形または三角連繋文を施文。内外面共に風化。浅黄橙色。	弥生中期初頭	
第48図 PL.33	21	弥生土器 甕	胴部片				Q	条痕文を浅く斜位施文し、変形工字文状の沈線文を施す。内外面共に風化。	弥生中期初頭	
第48図 PL.33	22	弥生土器 甕	胴部片				T	入組状の縦位沈線文を施す。内外面共に風化。	弥生中期初頭	
第48図 PL.33	23	弥生土器 甕	底部1/4	(11.0)			P	底部外面に網状痕。外面縦位磨き、内面やや風化。	弥生中期初頭	
第48図 PL.33	24	弥生土器 甕	胴部片				R	条痕文を横線状や羽状に施す。内面横位磨き、内外面共に煤状炭化物付着。	弥生中期初頭	
第48図 PL.34	25	弥生土器 甕	胴部片				R	条痕文を羽状に施す。内面横位磨き。	弥生中期初頭	
第48図 PL.34	26	弥生土器 甕	胴部片				R	条痕文を横位施文。外面一部に煤状炭化物付着、内面燻べ焼き状の炭素吸着。	弥生中期初頭	
第48図 PL.34	27	弥生土器 壺	胴部片				P	球形状の胴部。LR縄文を縦位施文。内面縦位磨き。	弥生中期初頭	
第48図 PL.34	28	弥生土器 壺	胴部片				Q	肩部に横位沈線文や羽状沈線文、LR縄文などを施す。内面やや風化。	弥生中期初頭	
第48図 PL.34	29	弥生土器 壺	胴部片				R	浅い沈線により浮線状の渦巻文を施す。外面一部に煤状炭化物付着、内面やや風化。	弥生中期初頭	
第48図 PL.34	30	弥生土器 鉢	胴部片				R	赤色塗彩沈線の菱形または三角連繋文を施し、区画内にLR縄文を充填施文。内面は燻べ焼き状に炭素吸着。	弥生中期初頭	
第48図 PL.34	31	剥片石器 石鏃	完形	長 幅	3.1 2.0	厚 重	0.5 2.0	黒曜石	押圧剥離により全面を整形する。先端部を僅かに尖頭状に作出する。	凹基無茎鏃
第48図 PL.34	32	剥片石器 石鏃	完形	長 幅	2.2 1.6	厚 重	0.5 1.1	黒曜石	押圧剥離により全面を整形する。先端部を尖頭状に作出する。脚部は左右非対称であり右脚部は小さく舌状に作出されている。	凹基無茎鏃
第48図 PL.34	33	石製品 石匙	完形	長 幅	1.6 2.2	厚 重	0.4 1.1	チャート	先端刃部だけでなく全体に両面加工が認められ丁寧に整形されている。	
第48図 PL.34	34	剥片石器 打製石斧	ほぼ完形	長 幅	(12.4) 5.3	厚 重	2.2 127.9	細粒輝石安山岩	右側縁と裏面の一部に自然面を残し円礫を利用する。先端刃部の加工は表面側が主であり、エンドスクレイパーに類似する刃部形態を呈する。	撥形

第2項 天明泥流下の遺構と遺物

(第1面調査)

1 概要

基本土層第Ⅱ層除去後の第1面調査で検出された天明泥流下の遺構は、調査範囲となる29地区67・68・77・78区に跨がるほぼ全域に、畑の畝間にAs-A軽石(基本土層第Ⅲ層)が堆積した状態で検出された。

この天明泥流に被災した天明三年期の各種遺構は、以前の調査(平成7、9～11、15年)においても、各調査時の調査範囲全体に検出され、遺構の主体をなす天明三年期の畑が段丘の緩斜面に広がっていた状況を示している。そして、遺跡の南側斜面際(山地との変換部)に、大戸宿・関所や大須賀宿を経た信州街道から分岐し、吾妻川に架かる琴橋へ通じる「草津みち」が知られ、その一部が調査で検出されている。

一方、吾妻川を挟んだ対岸の尾坂遺跡においても、天明泥流に被災した屋敷跡、畑、道、石垣、取水遺構等といった各種の遺構が検出されており、天明三年期の様子が明らかとなっている。

平成27・28年度の調査で検出された天明泥流下の遺構は、調査範囲全面に広がる畑(1～54号畑、K8-1・2・5号畑、K11・12号畑)を主に、畑に伴う円形平坦面(32基)、段差・石垣、道、ヤックラ等がある。

2 畑

検出された畑は、道や段差・石垣によって大きく区画され、その区画内の畝方向や耕作の単位(畝間端部からみた単位)を違えることで、さらなる区画の違いを見せている。また、畝方向を同一にしている場合でも、伴う円形平坦面のあり方から区画の違いを想定し、最小単位の区画として畑番号を付した。

なお、各畑の記載にあたっては、調査時の遺構名・遺構(区画)区分をそのまま使用した。平成15年に刊行された『久々戸遺跡・中棚Ⅱ遺跡・下原遺跡・横壁中村遺跡』(財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第319集 2003)での「Ⅶ考察 4. 天明三年泥流畑の耕作状況(1)畑の耕作状況 耕作状況の分類」に示された1～9類の分類に準拠し、調査時所見の分類を記した。併せて、調査時の現地計測値を記した。

以下、各畑の区画ごとに記載する。(第19表 畑一覧表を参照)

1号畑 (第53・67図、PL.18)

AおよびC区の調査で、天明泥流下に検出した。南側をC区調査で検出された49号畑と接するが、明確な区画分離ができていない。西側の一部は調査範囲外となる。

位置：中グリッド68区の北東付近に位置する。北側は段差に面し、さらに段差を挟んで段下に9号畑、東側は2・5号畑と接し、西側は4号道となる。さらに、南側は49号畑と接するものの、その明確な分別位置は不明。

グリッド：68区B～H-17～23 ※1・49号畑

(国家座標 X=60,667～691 Y=-105,704～728)

検出状況：天明泥流下に、畝間がAs-Aで埋没した状態で検出された。

畝間方向：N-78°-W

規模：長さ17.5、幅25.0m ※1・49号畑の合計

面積：(335.43)m² ※1・49号畑の合計面積

畑面の状況：天明泥流下面は、大小の礫が散乱すると共に凹凸をなし、その下にAs-Aで埋没した畝間を確認され、51条(1・49号畑の合計)の畝間を検出した。畝間は直線的に併走し、区画の東西両辺に端部を確認できた。畝間の方向は、東に接する2号畑と同方向であるが、5号畑とは大きく異なる。畝間幅は48cm前後を測るが、1号畑となる北側はやや広く、南側の49号畑側はやや狭い。

耕作状況の分類： 2類

現地計測値 485÷10=48.5≒1尺6寸 平坦面から南は、470÷10=47≒1尺5～6寸

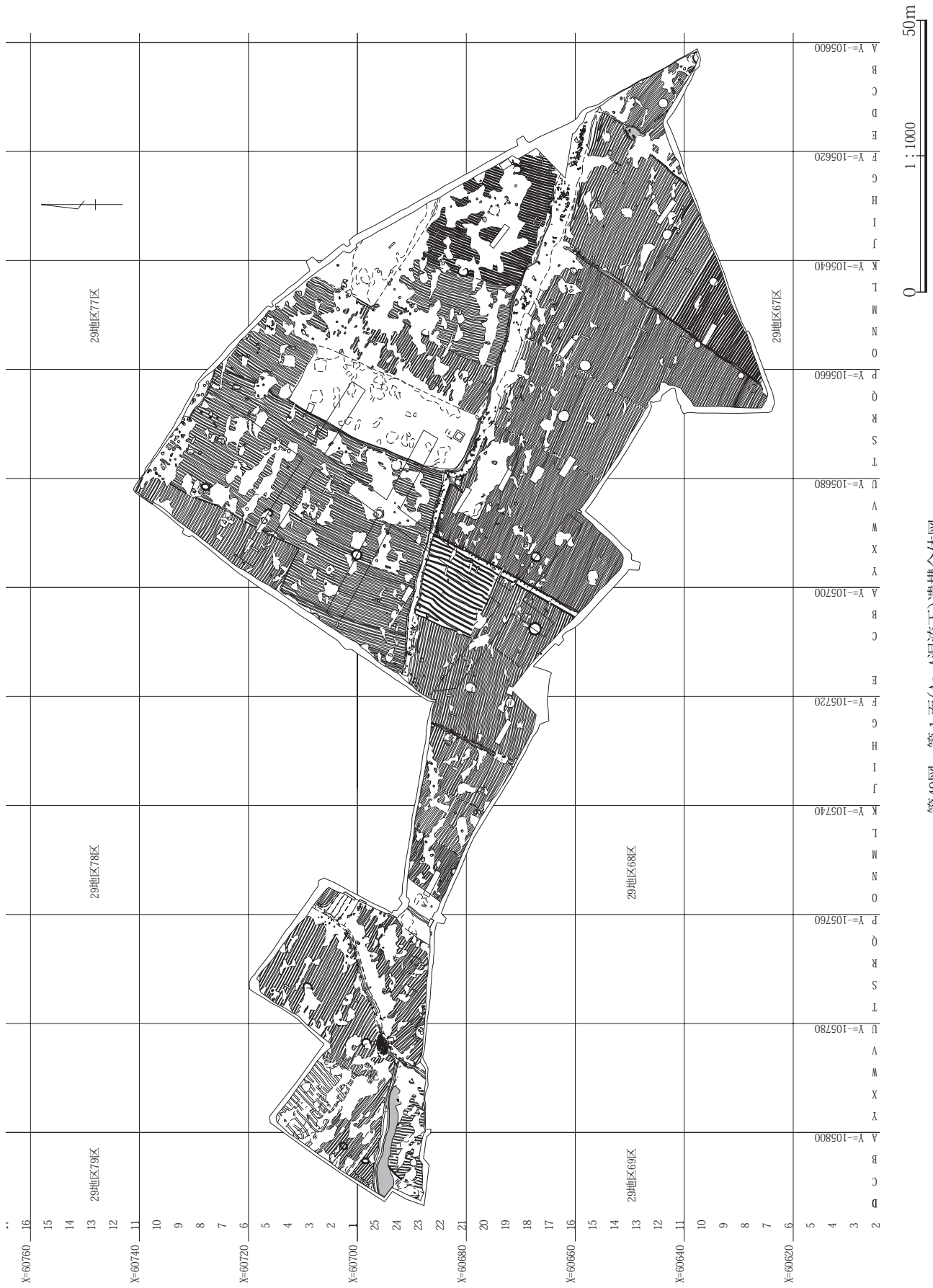
その他：1号畑の南北方向の中軸南寄りに、1号円形平坦面がある。

2号畑 (第53・67図、PL.18)

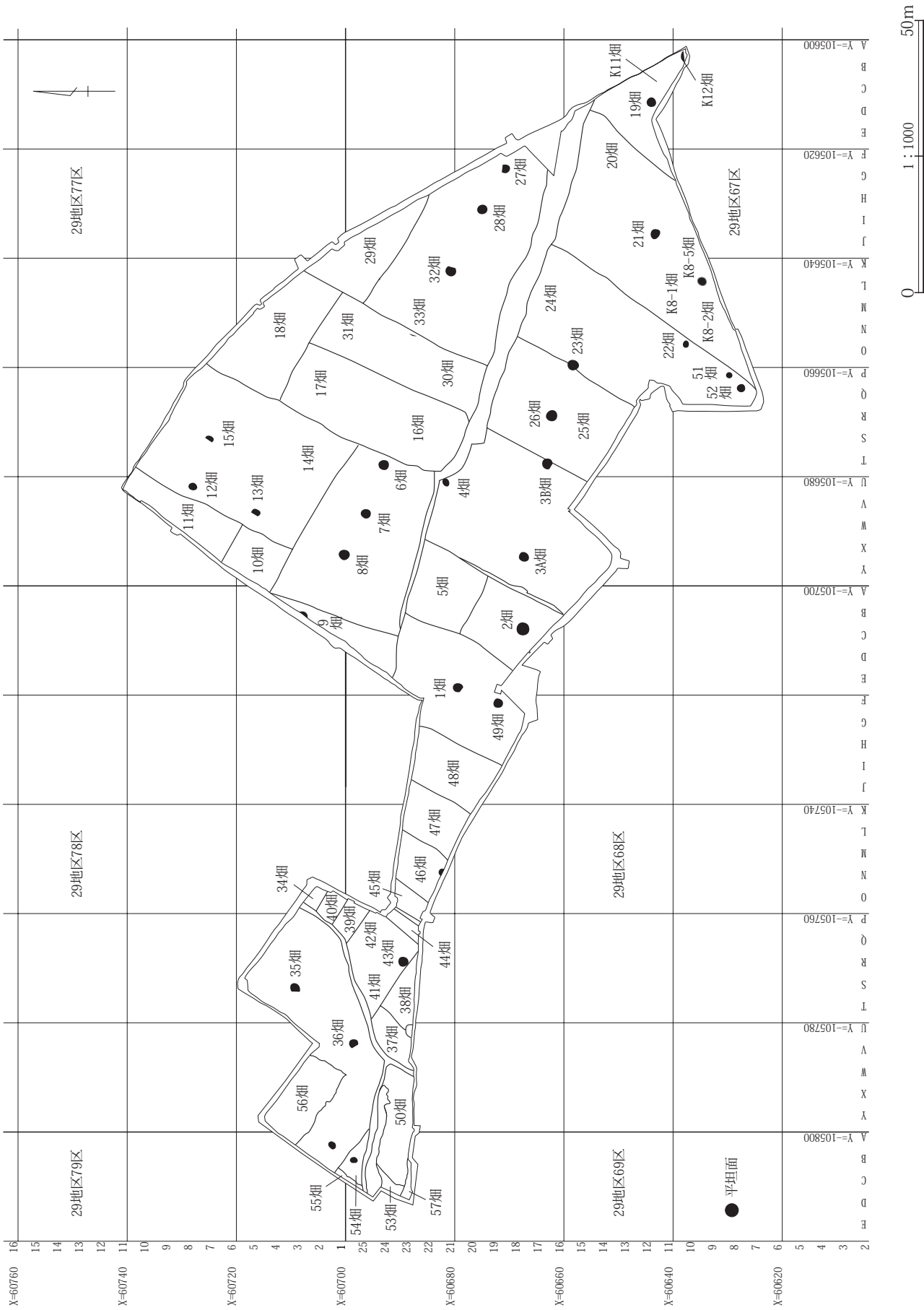
A区の調査で、天明泥流下に検出した。南側は調査範囲外となる。

位置：中グリッド68区の北東端に位置し、畑区画の北東隅が僅かに67区へ跨がる。北側は5号畑に接し、東側は1号溝、西側は1・49号畑と接する。

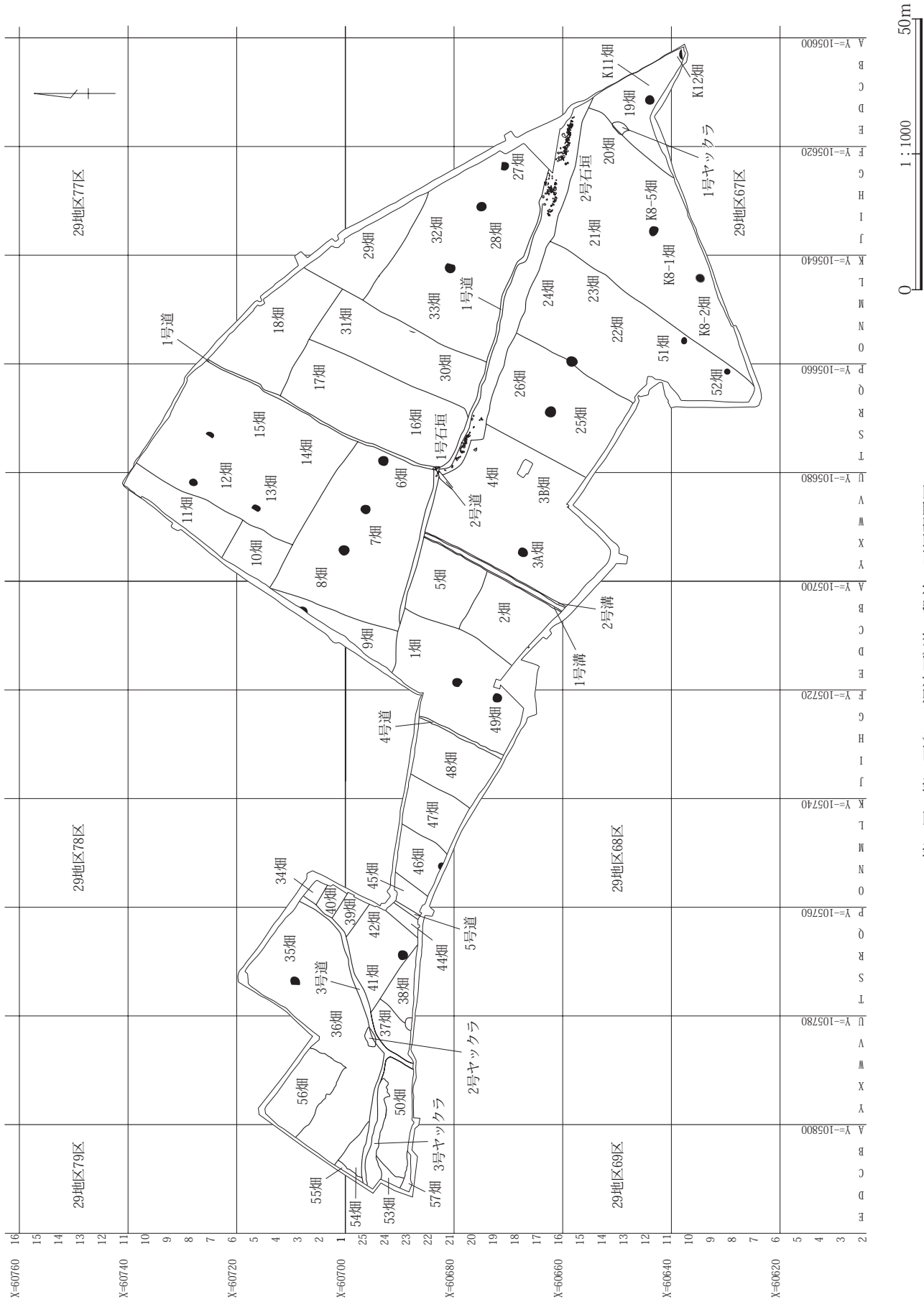
グリッド：67・68区Y～D-16～20



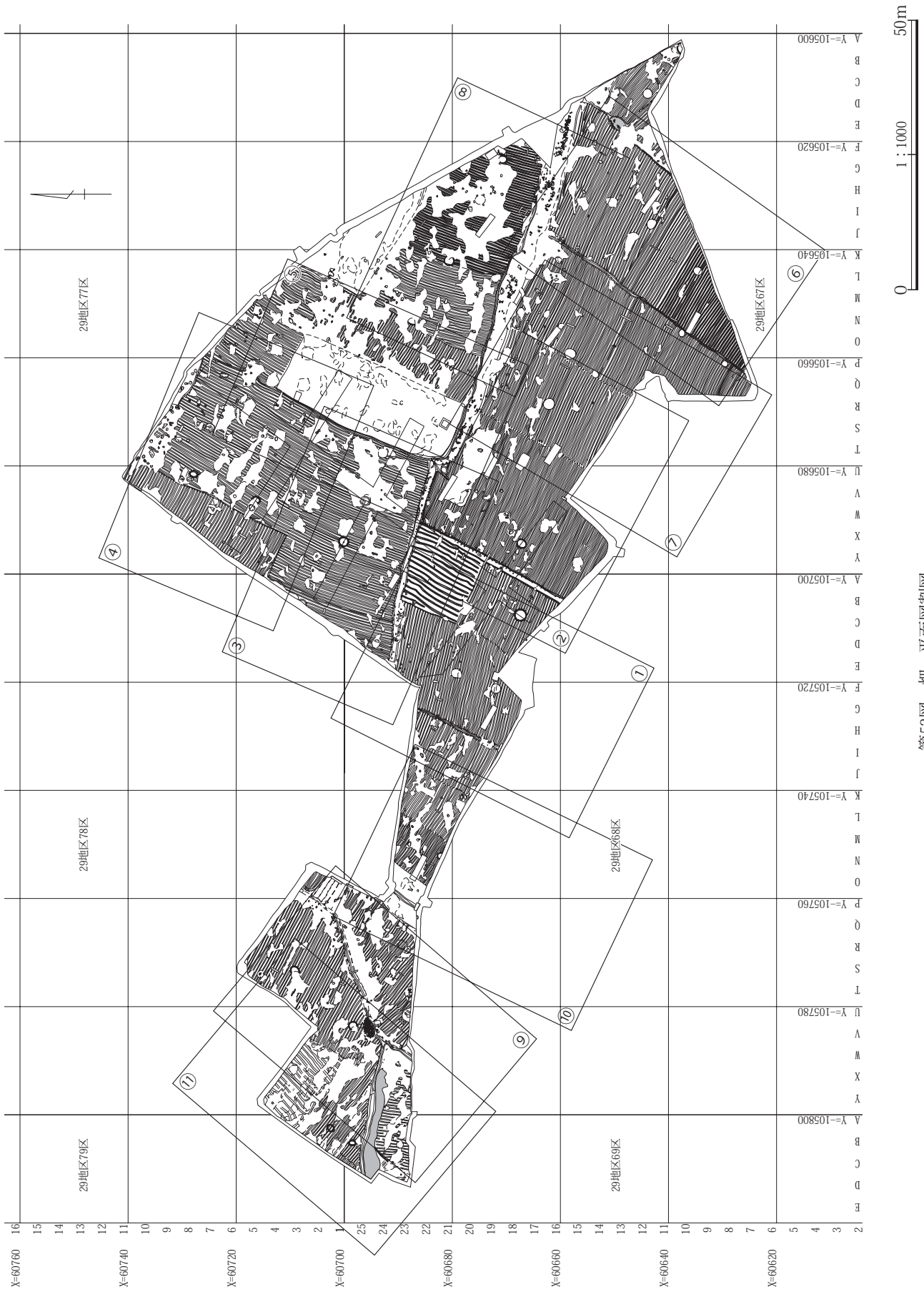
第49図 第1面(As-A泥流下)遺構全体図



第50図 第1面(As-A泥流下)畑区画(境界)図



第51図 第1面(As-A泥流下)道、段差・石垣配置図



第52図 畑 平面図割図

(国家座標 X=60,660~678 Y=-105,698~715)

検出状況：天明泥流下に、畝間がAs-Aで埋没した状態で検出された。

畝間方向：N—67°—W

規模：長さ13.3m、幅15.6m

面積：(167.53)m²

畑面の状況：天明泥流下面は、礫の散乱と凹凸をなし、その下にAs-Aで埋没した畝間を確認され、33条の畝間を検出した。畝間は直線的に併走し、区画の東西両辺に端部を確認できた。畝間の方向は、西に接する1・49号畑と同方向であるが、北に接する5号畑とは大きく異なる。畝間幅は48.0cm前後を測る。

耕作状況の分類： 7類

現地計測値 480÷10=48≒1尺6寸

その他：2号畑の南北方向の中軸上に、2号円形平坦面がある。

3号畑 (第54・57・67図、PL.18)

AおよびB区の調査で、天明泥流下に検出した。北側は4号畑と接するが、明確な区画分離ができていない。この3・4号畑は、畝間方向および畝間幅がほぼ同一であることから、同一区画の畑である可能性をもつが、調査時は異なる畑の区画として扱った。なお、南側は調査範囲外となる。

位置：中グリッド67区の西端中央付近に位置し、畑区画の西側は僅かに68区へ跨がる。北側は4号畑と接するものの、明確な分別位置は不明。東側は25号畑と接し、西側は2号溝と接する。

グリッド：67・68区R～B—13～22 ※3・4号畑

(国家座標 X=60,648~684 Y=-105,668~705)

検出状況：天明泥流下に、畝間がAs-Aで埋没した状態で検出された。

畝間方向：N—66°—W

規模：長さ23.0m、幅34.5m ※3・4号畑の合計

面積：(611.76)m² ※3・4号畑の合計面積

畑面の状況：天明泥流下面は、大小の凹凸をなし、その下にAs-Aで埋没した畝間を確認され、80条(3・4号畑の合計)の畝間を検出した。畝間は直線的に併走し、区画の東西両辺に端部を確認できた。畝間の方向は、東に接する25号畑と同方向である。畝間幅は43.0cm前

後を測る。

耕作状況の分類： 3類

現地計測値 427÷10=42.7≒1尺4寸

その他：3号畑の西寄りに3A号、東端に3B号の2基の円形平坦面がある。

4号畑 (第54図、PL.18)

A区の調査で、天明泥流下に検出した。南側は3号畑と接するが、明確な区画分離ができていない。この3・4号畑は、畝間方向および畝間幅がほぼ同一であることから、同一区画の畑である可能性をもつが、調査時は異なる畑の区画として扱った。

位置：中グリッド67区の北西側付近に位置する。北側は段差(1号石垣を含む)に面し、さらに段差を挟んで段下に6・16号畑、東側は26号畑と接し、西側は2号溝と接する。

グリッド：3号畑を参照。

検出状況：3号畑を参照。

畝間方向：3号畑を参照。

規模：3号畑を参照。

面積：3号畑を参照。

畑面の状況：天明泥流下面は、礫の散乱と大小の凹凸をなし、区画の北側は広く攪乱状に荒れている。その下にAs-Aで埋没した畝間を確認され、3号畑と同様に畝間は直線的に併走し、区画の東西両辺に端部を確認できた。また、北側の段差は、本畑の北辺中央において西側の段差と東側の段差の交点となり、交点部に段差を北側から登り上げる2号道が続いて本畑内に食い込む。畝間の方向は、東に接する26号畑と同方向である。

耕作状況の分類：3号畑を参照。

その他：4号畑北辺中央にある2号道の東隣に、4号円形平坦面がある。

5号畑 (第53～55・67図、PL.18・22)

A区の調査で、天明泥流下に検出した。

位置：中グリッド67区の北西隅付近西端に位置し、畑区画の西半は68区へ跨がる。北側は段差に面し、さらに段差を挟んで段下に7・8号畑、東側は1号溝と接し、南側は2号畑、西側は1号畑と接する。

グリッド：67・68区W～C-19～23

(国家座標 X=60,673～689 Y=-105,690～709)

検出状況：天明泥流下に、畝間がAs-Aで埋没した状態で検出された。

畝間方向：N-28°-E

規模：長さ13.6m、幅13.1m

面積：162.73㎡

畑面の状況：天明泥流下面是、礫の散乱と大小の凹凸をなし、その下にAs-Aで埋没した畝間が確認され、15条の畝間を検出した。区画の縁辺には溝を有し、畝間はやや蛇行気味ではあるが直線的に併走し、区画の南北両辺に端部を確認できた。畝間の方向は、西に接する1号畑、南に接する2号畑と大きく異なる。畝間幅は43.0cm前後を測る。畝幅が広く、高低差も明瞭な畝立てがなされていたものと考えられ、サトイモ栽培等が想起される。土層断面の観察による畝形状は、東側が覆い被さり、西側がやや緩やかに押された形状を呈している。このことは、天明泥流が西側から押圧し、畝が東側に歪んだ痕跡と捉えることができよう。

耕作状況の分類： 2類

現地計測値 $425 \div 10 = 42.5 \div 1$ 尺4寸

その他：円形平坦面は検出されていない。

6号畑 (第55・57・67図、PL.18・22)

A区の調査で、天明泥流下に検出した。西側は7号畑と接して8号畑まで続き、明確な区画分離ができていない。この6～8号畑は、畝間方向および畝間幅がほぼ同一であることから、同一区画の畑である可能性をもつが、調査時は異なる畑の区画として扱った。

位置：中グリッド67区の北西隅付近北端に位置し、畑区画北側の一部は77区へ跨がる。北側は14号畑に接し、東側は1号道に面する。南側は段差に面し、段差を挟んで段上に4号畑と接する。

グリッド：67・68・77・78区S～D-22～4 ※6～8号畑

(国家座標 X=60,684～714 Y=-105,673～709)

検出状況：天明泥流下に、畝間がAs-Aで埋没した状態で検出された。

畝間方向：N-23°-E

規模：長さ24.4m、幅31.0m ※6～8号畑の合計

面積：591.33㎡ ※6～8号畑の合計面積

畑面の状況：天明泥流下面是、礫の散乱と大小の凹凸をなし、その下にAs-Aで埋没した畝間が確認され、63条(6～8号畑の合計)の畝間を検出した。畝間はほぼ直線的に併走し、区画の南北両辺に端部を確認できた。畝間の方向は、北に接する14号畑と同方向である。畝間幅は48.0cm前後を測る。

耕作状況の分類： 1類(天明泥流による西側から押圧で、畝が動いた可能性あり)

現地計測値 $480 \div 10 = 48 \div 1$ 尺6寸

その他：6～8号畑の東西方向の中軸上で、6号畑の東端に6号円形平坦面がある。

7号畑 (第55・57図、PL.18)

A区の調査で、天明泥流下に検出した。東側は6号畑、西側は8号畑と接するが、明確な区画分離ができていない。この6～8号畑は、畝間方向および畝間幅がほぼ同一であることから、同一区画の畑である可能性をもつが、調査時は異なる畑の区画として扱った。

位置：中グリッド67区の北西隅に位置し、畑区画の北半は77区へ跨がる。北側は13・14号畑に接し、南側は段差に面し、段差を挟んで段上に5号畑と接する。

グリッド：6号畑を参照。

検出状況：6号畑を参照。

畝間方向：6号畑を参照。

規模：6号畑を参照。

面積：6号畑を参照。

畑面の状況：天明泥流下面是、礫の散乱と大小の凹凸をなし、その下にAs-Aで埋没した畝間が確認され、6・8号畑と同様なほぼ直線的な畝間が併走し、区画の南北両辺に端部を確認できた。畝間の方向は、北に接する13・14号畑と同方向である。畝間幅は48.0cm前後を測る。

耕作状況の分類：6号畑を参照。

その他：6～8号畑の東西方向の中軸上に7号円形平坦面がある。

8号畑 (第55・57・67図、PL.18・22)

A区の調査で、天明泥流下に検出した。東側は7号畑、さらに8号畑へと続き、明確な区画分離ができていない。

第3章 久々戸遺跡

この6～8号畑は、畝間方向および畝間幅がほぼ同一であることから、同一区画の畑である可能性をもつが、調査時は異なる畑の区画として扱った。

位置：中グリッド67・68・77・78区の交点に位置し、4つの区へ跨がる。北側は10・13号畑に接し、南側は段差に面し、段差を挟んで段上に1・5号畑と接する。

グリッド：6号畑を参照。

検出状況：6号畑を参照。

畝間方向：6号畑を参照。

規模：6号畑を参照。

面積：6号畑を参照。

畑面の状況：天明泥流下面は、礫の散乱と大小の凹凸をなし、その下にAs-Aで埋没した畝間が確認され、6・7号畑と同様なほぼ直線的な畝間が併走し、区画の南北両辺に端部を確認できた。畝間の方向は、北に接する13号畑と同方向であるが、10号畑とは異なる。畝間幅は50.0cm前後を測る。

耕作状況の分類： 5類

現地計測値 $500 \div 10 = 50 \div 1 \text{尺} 6 \sim 7 \text{寸}$

その他：6～8号畑の東西方向の中軸上に8号円形平坦面がある。

9号畑 (第55・57・67図、PL.18・21・23)

A区の調査で、天明泥流下に検出した。西側は調査範囲外となる。

位置：中グリッド68区の北東隅付近に位置し、畑区画の北半は78区へ跨がる。東側は8号畑と接するが、僅かに畝の状態が異なる。南側は段差に面し、段差を挟んで段上に1号畑と接する。

グリッド：68・78区A～D-23～3

(国家座標 X=60,690～710 Y=-105,702～715)

検出状況：天明泥流下に、畝間がAs-Aで埋没した状態で検出された。

畝間方向：N-14°-E

規模：長さ25.0m、幅7.5m

面積：(12.25)m²

畑面の状況：天明泥流下面は、礫の散乱と大小の凹凸をなし、その下にAs-Aで埋没した畝間が確認され、15条の畝間を検出した。畝間はほぼ直線的に併走し、区画の南辺に端部を確認できた。畝間の方向は、東に接

する8号畑と同方向である。畝間幅は50.0cm前後を測る。

耕作状況の分類： 7類

現地計測値 $505 \div 10 \div 1 \text{尺} 6 \sim 7 \text{寸}$ 相当

その他：9号畑の東端で、調査範囲内に9号円形平坦面がある。

10号畑 (第56・57・67図、PL.18・23)

A区の調査で、天明泥流下に検出した。北側は11号畑と続き、不明確な区分ではあるが、畝および畝間の状態から調査時は異なる畑として区画した。なお、西側は調査範囲外となる。

位置：中グリッド77区の南西隅付近に位置し、北側は11号畑、東側は13号畑、南側は8号畑と接する。

グリッド：77・78区W～A-3～6

(国家座標 X=60,710～723 Y=-105,688～700)

検出状況：天明泥流下に、畝間がAs-Aで埋没した状態で検出された。

畝間方向：N-60°-W

規模：長さ10.2m、幅8.8m

面積：(86.55)m²

畑面の状況：天明泥流下面は、礫の散乱と大小の凹凸をなし、その下にAs-Aで埋没した畝間が確認され、20条の畝間を検出した。畝間はほぼ直線的に併走し、区画の東辺に端部を確認できた。畝間の方向は、北に接する11号畑と同方向であるが、東に接する13号畑、南に接する8号畑とは大きく異なる。畝間幅は50.0cm前後を測る。

耕作状況の分類： 2類

現地計測値 $510 \div 10 \div 1 \text{尺} 7 \text{寸}$

その他：円形平坦面は検出されていない。

11号畑 (第56・67図、PL.18)

A区の調査で、天明泥流下に検出した。南側は10号畑へと続き、不明確な区分ではあるが、畝および畝間の状態から調査時は異なる畑として区画した。なお、西および北側は調査範囲外となる。

位置：中グリッド77区の南西付近に位置し、東側は12号畑、南側は10号畑と接する。

グリッド：77区T～X-6～11

(国家座標 X=60,720~740 Y=-105,679~695)

検出状況：天明泥流下に、畝間がAs-Aで埋没した状態で検出された。

畝間方向：N—60°—W

規模：長さ21.6m、幅7.6m

面積：(241.93)m²

畑面の状況：天明泥流下面は、大小の凹凸をなし、その下にAs-Aで埋没した畝間が確認され、40条の畝間を検出した。畝間はほぼ直線的に併走するが、10号畑と接する南東隅では歪み、区画の東辺に端部を確認できた。畝間の方向は、南に接する10号畑と同方向であるが、東に接する12号畑とは大きく異なる。畝間幅は52.0cm前後を測る。

耕作状況の分類： 2類

現地計測値 525÷10≒1尺7寸

その他：円形平坦面は検出されていない。

12号畑 (第56・57・67図、PL.18・23)

A区の調査で、天明泥流下に検出した。南側から東側へと回り込む側に13~15号畑と接し、明確な区画分離ができていない。この12~15号畑は、畝間方向および畝間幅がほぼ同一であることから、同一区画の畑である可能性をもつが、調査時は異なる畑の区画として扱った。なお、北側は調査範囲外となる。

位置：中グリッド77区の南西付近に位置し、東側は15号畑、南側は13号畑、西側は11号畑と接する。

グリッド：67・77区O~X-25~10 ※12~15号畑

(国家座標 X=60,698~738 Y=-105,659~692)

検出状況：天明泥流下に、畝間がAs-Aで埋没した状態で検出された。

畝間方向：N—33°—E

規模：長さ30.0m、幅23.5m ※12~15号畑の合計

面積：(646.92)m² ※12~15号畑の合計面積

畑面の状況：天明泥流下面は、礫の散乱と大小の凹凸をなし、区画の北・南側は攪乱状に荒れている箇所が多い。その下にAs-Aで埋没した畝間が確認され、12~15号畑の畝間はほぼ直線的に併走する。畝間の方向は、西に接する11号畑とは大きく異なる。畝間幅は50.0cm前後を測る。

耕作状況の分類： 2類

現地計測値 500÷10≒1尺6~7寸

その他：12号畑の西寄りに、12号円形平坦面がある。

13号畑 (第56・57図、PL.18)

A区の調査で、天明泥流下に検出した。北側から東側へと回り込む側に12・15・14号畑と接し、明確な区画分離ができていない。この12~15号畑は、畝間方向および畝間幅がほぼ同一であることから、同一区画の畑である可能性をもつが、調査時は異なる畑の区画として扱った。

位置：中グリッド77区の南西隅付近に位置し、北側は12号畑、東側は14号畑、南側は7・8号畑、西側は10号畑と接する。

グリッド：12号畑を参照。

検出状況：12号畑を参照。

畝間方向：12号畑を参照。

規模：12号畑を参照。

面積：12号畑を参照。

畑面の状況：天明泥流下面は、礫の散乱と大小の凹凸をなし、区画の北側は攪乱状に荒れている。その下にAs-Aで埋没した畝間が確認され、12~15号畑の畝間はほぼ直線的に併走し、区画の南辺に端部を確認できた。畝間の方向は、西に接する10号畑とは大きく異なる。畝間幅は50.0cm前後を測る。

耕作状況の分類：12号畑を参照。

その他：13号畑の西寄りに、13号円形平坦面がある。

14号畑 (第56~58・67図、PL.18)

A区の調査で、天明泥流下に検出した。北側から西側へと回り込む側に15・12・13号畑と接し、明確な区画分離ができていない。この12~15号畑は、畝間方向および畝間幅がほぼ同一であることから、同一区画の畑である可能性をもつが、調査時は異なる畑の区画として扱った。

位置：中グリッド77区の南西隅付近に位置し、北側は15号畑に接し、東側は1号道に面する。南側は6・7号畑、西側は13号畑と接する。

グリッド：12号畑を参照。

検出状況：12号畑を参照。

畝間方向：12号畑を参照。

規模：12号畑を参照。

面積：12号畑を参照。

畑面の状況：天明泥流下面は、大小の凹凸をなして荒れている。その下にAs-Aで埋没した畝間が確認され、12～15号畑の畝間はほぼ直線的に併走し、区画の南辺に端部を確認できた。畝間の方向は、接する各畑と同方向。畝間幅は50.0cm前後を測る。

耕作状況の分類：12号畑を参照。

その他：円形平坦面は検出されていない。

15号畑（第56～58図、PL.18・21）

A区の調査で、天明泥流下に検出した。西側から南側へと回り込む側に12～14号畑と接し、明確な区画分離ができていない。この12～15号畑は、畝間方向および畝間幅がほぼ同一であることから、同一区画の畑である可能性をもつが、調査時は異なる畑の区画として扱った。なお、北側は調査範囲外となる。

位置：中グリッド77区の南西付近に位置し、東側は1号道に面する。南側は14号畑、西側は12号畑と接する。

グリッド：12号畑を参照。

検出状況：12号畑を参照。

畝間方向：12号畑を参照。

規模：12号畑を参照。

面積：12号畑を参照。

畑面の状況：天明泥流下面は、大小の凹凸をなして荒れている。その下にAs-Aで埋没した畝間が確認され、12～15号畑の畝間はほぼ直線的に併走し、区画の北辺に端部を確認できた。畝間の方向は、接する各畑と同方向。畝間幅は50.0cm前後を測る。

耕作状況の分類：12号畑を参照。

その他：15号畑の西寄りに、15号円形平坦面がある。

16号畑（第55・57・58・61・67図、PL.18）

A区の調査で、天明泥流下に検出した。周囲よりも低くなり、明瞭な畑痕跡は検出されていないが、周囲の状況から畑と認定した。北側は同様な17号畑と接するが、明確な区画分離ができていない。この16・17号畑は、同一区画の畑である可能性をもつが、調査時は異なる畑の区画として扱った。

位置：中グリッド67区の北西付近に位置する。北側は17号畑、東側は30号畑と接する。南側は直角に曲がった1号道(東西走行)と段差(1号石垣を含む)に面し、さ

らに段差を挟んで段上に4号畑がある。西側は1号道(南北走行)に面する。

グリッド：67・77区N～T-20～4 ※16・17号畑

(国家座標 X=60,677～712 Y=-105,655～678)

検出状況：天明泥流下に検出した。

畝間方向：(畝間なし)

規模：長さ33.5m、幅13.0m ※16・17号畑の合計

面積：(412.83)m² ※16・17号畑の合計面積

畑面の状況：天明泥流下面は、大小の凹凸をなしてかなり荒れ、周囲の畑面より低い。調査時には、西辺の1号道側に鋤き込みされた土が盛られ、南辺では段差側に盛られていることを確認している。

耕作状況の分類：4類

その他：円形平坦面は検出されていない。

17号畑（第55～58・61図、PL.18）

A区の調査で、天明泥流下に検出した。周囲よりも低くなり、明瞭な畑痕跡は検出されていないが、周囲の状況から畑と認定した。南側は同様な16号畑と接するが、明確な区画分離ができていない。この16・17号畑は、同一区画の畑である可能性をもつが、調査時は異なる畑の区画として扱った。

位置：中グリッド67区の北端中央付近に位置し、北半が77区へ跨がる。北側は18号畑、東側は31号畑、南側は16号畑に接し、西側は1号道(南北走行)に面する。

グリッド：16号畑を参照。

検出状況：16号畑を参照。

規模：16号畑を参照。

面積：16号畑を参照。

畑面の状況：天明泥流下面は、大小の凹凸をなしてかなり荒れ、周囲の畑面より低い。

耕作状況の分類：16号畑を参照。

その他：円形平坦面は検出されていない。

18号畑（第56・58・67図、PL.18）

A区の調査で、天明泥流下に検出した。北側は調査範囲外となる。

位置：中グリッド77区の中央南端付近に位置し、東側は29号畑、南側は17・31号畑と接し、西側は1号道(南北走行)に面する。

グリッド：77区K～Q-1～7

(国家座標 X=60,703～725 Y=-105,643～665)

検出状況：天明泥流下に、畝間がAs-Aで埋没した状態で検出された。

畝間方向：N-35°-E

規模：長さ14.0m 幅22.6m

面積：(243.36)m²

畑面の状況：天明泥流下面は、大小の凹凸をなして荒れ、その下にAs-Aで埋没した畝間を確認し、46条の畝間を検出した。畝間はほぼ直線的に併走し、区画の南辺に端部を確認できた。畝間の方向は、1号道を隔てた15号畑と同方向であるが、南側の31号畑とは大きく異なる。畝間幅は50.0cm前後を測る。

耕作状況の分類： 2類

現地計測値 500÷10≒1尺6～7寸

その他：円形平坦面は検出されていない。

19号畑 (第59図、PL.19)

B区調査で、天明泥流下に検出した。今調査範囲の最東端にあり、西側以外は調査範囲外となる。

位置：中グリッド77区の中央東端付近で、今調査範囲の最東端に位置する。東側は僅かにK11号畑と接する。西側は20・21号畑と接し、20号畑との間には1号ヤックラがある。

グリッド：67区A～G-10～14

(国家座標 X=60,639～651 Y=-105,603～624)

検出状況：天明泥流下に、畝間がAs-Aで埋没した状態で検出された。

畝間方向：N-47°-W

規模：長さ14.9m 幅21.2m

面積：(139.63)m²

畑面の状況：天明泥流下面は、大小の凹凸をなして荒れ、その下にAs-Aで埋没した畝間を確認し、30条の畝間を検出した。畝間はほぼ直線的に併走し、区画の西辺に端部を確認できた。畝間の方向は、20・21号畑と同方向である。畝間幅は40.0cm前後を測る。

耕作状況の分類： 8類

現地計測値 260÷6≒43≒1尺4寸相当

その他：19号畑の中央に、19号円形平坦面がある。なお、本畑の南側は、平成11年度調査においてK10-1号畑

として調査しており、本19号畑とK10-1号畑は同一の畑と考えられる。

20号畑 (第59・61・62・67図、PL.19・21)

B区調査で、天明泥流下に検出した。南側は21号畑と接するが、明確な区画分離ができていない。この20・21号畑は、畝間方向および畝間幅がほぼ同一であることから、同一区画の畑である可能性をもつが、調査時は異なる畑の区画として扱った。

位置：中グリッド67区の中央東寄りに位置する。北側は段差(2号石垣を含む)に面し、さらに段差を挟んで段下に27号畑、東側は1号ヤックラおよび19号畑と接し、西側は24号畑と接するが、24号畑との間には南北方向に走行する道状の細い空間が空く。

グリッド：67区D～L-10～16 ※20・21号畑

(国家座標 X=60,638～662 Y=-105,612～646)

検出状況：天明泥流下に、畝間がAs-Aで埋没した状態で検出された。

畝間方向：N-67°-W

規模：長さ24.8m 幅23.4m ※20・21号畑の合計

面積：(442.86)m² ※20・21号畑の合計面積

畑面の状況：天明泥流下面は、大小の凹凸をなして荒れ、その下にAs-Aで埋没した畝間を確認し、46条(20・21号畑の合計)の畝間を検出した。畝間はほぼ直線的に併走し、区画の東西両辺に端部を確認できた。畝間の方向は、段差下の畑を除く周囲の各畑と同方向である。畝間幅は48.0cm前後を測る。

耕作状況の分類： 7類

現地計測値 480÷10≒1尺6寸

その他：円形平坦面は検出されていない。

21号畑 (第59・61図、PL.19・21)

B区調査で、天明泥流下に検出した。北側を20号畑と接するが、明確な区画分離ができていない。この20・21号畑は、畝間方向および畝間幅がほぼ同一であることから、同一区画の畑である可能性をもつが、調査時は異なる畑の区画として扱った。

位置：中グリッド67区の中央東寄りに位置する。北側は20号畑、東側は19号畑、南側はK8-5号畑、西側は23・24号畑と接するが、東西辺となる19号畑および

23・24号畑との間には南北方向に走行する道状の細い空間が両辺に空く。

グリッド：20号畑を参照。

検出状況：20号畑を参照。

畝間方向：20号畑を参照。

規模：20号畑を参照。

面積：20号畑を参照。

畑面の状況：天明泥流下面は、大小の凹凸をなして荒れ、その下にAs-Aで埋没した畝間を検出した。畝間はほぼ直線的に併走し、区画の東西両辺に端部を確認できた。畝間の方向は、周囲の各畑と同方向であるが、南側のK 8-5号畑とは若干異なりずれがみられる。

耕作状況の分類：20号畑を参照。

その他：21号畑の中央南端に、21号円形平坦面がある。なお、本畑の南東隅部分は、平成11年度調査において調査しており、本畑と同一の畑と考えられる。

22号畑（第60～62・67図、PL.19・21～23）

B区調査で、天明泥流下に検出した。南側は51号畑と接して52号畑へと続くが、明確な区画分離ができていない。この22・51・52号畑は、畝間方向および畝間幅がほぼ同一であることから、同一区画の畑である可能性をもつが、調査時は異なる畑の区画として扱った。

位置：中グリッド67区の中央南西寄りに位置する。北側は23号畑、東側はK 8-5号畑、南側は51号畑、西側は25号畑と接するが、東辺となるK 8-5号畑との間には南北方向に走行する道状の細い空間が空く。

グリッド：67区M～Q-7～14 ※23・51・52号畑

（国家座標 X=60,624～652 Y=-105,648～667）

検出状況：天明泥流下に、畝間がAs-Aで埋没した状態で検出された。

畝間方向：N-65°-W

規模：長さ16.7m 幅26.2m ※23・51・52号畑の合計面積：(265.16)m² ※23・51・52号畑の合計面積

畑面の状況：天明泥流下面は、僅かに凹凸をなし、その下にAs-Aで埋没した畝間を確認し、55条(22・51・52号畑の合計)の畝間を検出した。畝間はほぼ直線的に併走し、区画の東西両辺に端部を確認した。畝間の方向は、周囲の各畑と同方向であるが、北側の23号畑とは互いの辺を接する2列の畝間が短く食い違いを見せて

ている。畝間幅は45.0cm前後を測る。

耕作状況の分類：7類

現地計測値 450÷10≒1尺5寸

その他：22号畑の南東端に、22号円形平坦面がある。

23号畑（第60～62・67図、PL.19・21・23）

B区調査で、天明泥流下に検出した。北側は24号畑と接するが、明確な区画分離ができていない。この23・24号畑は、畝間方向および畝間幅がほぼ同一であることから、同一区画の畑である可能性をもつが、調査時は異なる畑の区画として扱った。

位置：中グリッド67区のほぼ中央に位置する。北側は24号畑、東側は21号畑およびK 8-5号畑、南側は22号畑、西側は25・26号畑と接するが、東辺となる21・K 8-5号畑との間には南北方向に走行する道状の細い空間が空く。

グリッド：67区J～P-12～18 ※23・24号畑

（国家座標 X=60,645～670 Y=-105,639～663）

検出状況：天明泥流下に、畝間がAs-Aで埋没した状態で検出された。

畝間方向：N-66°-W

規模：長さ17.8m 幅20.3m ※23・24号畑の合計

面積：(345.9)m² ※23・24号畑の合計面積

畑面の状況：天明泥流下面は、大小の凹凸をなし、その下にAs-Aで埋没した畝間を確認し、44条(23・24号畑の合計)の畝間を検出した。畝間はほぼ直線的に併走し、区画の東西両辺に端部を確認した。畝間の方向は、周囲の各畑と同方向であるが、南側の22号畑とは互いの辺を接する2列の畝間が短く食い違いを見せている。畝間幅は45.0cm前後を測る。

耕作状況の分類：8類

現地計測値 445÷10≒1尺5寸

その他：23号畑の東端に、23号円形平坦面がある。

24号畑（第60～62図、PL.19・21）

B区調査で、天明泥流下に検出した。南側に23号畑と接するが、明確な区画分離ができていない。この23・24号畑は、畝間方向および畝間幅がほぼ同一であることから、同一区画の畑である可能性をもつが、調査時は異なる畑の区画として扱った。

位置：中グリッド67区の中央やや北寄りに位置する。北側は段差(2号石垣を含む)に面し、さらに段差を挟んで段下に32・33号畑、東側は20号畑、南側は23号畑、西側は26号畑と接するが、東辺となる20号畑との間には南北方向に走行する道状の細い空間が空く。

グリッド：23号畑を参照。

検出状況：23号畑を参照。

畝間方向：23号畑を参照。

規模：23号畑を参照。

面積：23号畑を参照。

畑面の状況：天明泥流下面は、礫の散乱と大小の凹凸をなして攪乱状に荒れ、その下にAs-Aで埋没した畝間を検出した。畑面には、地山の大型礫が点在して露出する。畝間はほぼ直線的に併走し、区画の東西両辺に端部を確認できた。畝間の方向は、段差下の畑を除く周囲の各畑と同方向である。

耕作状況の分類：23号畑を参照。

その他：円形平坦面は検出されていない。

25号畑 (第54・57・60図、PL.19)

B区調査で、天明泥流下に検出した。北側は26号畑と接するが、明確な区画分離ができていない。この25・26号畑は、畝間方向および畝間幅がほぼ同一であることから、同一区画の畑である可能性をもつが、調査時は異なる畑の区画として扱った。なお、南側は調査範囲外となる。

位置：中グリッド67区の中央西寄りに位置する。北側は26号畑、東側は22・23号畑、西側は3号畑と接する。

グリッド：67区N～U-12～19 ※25・26号畑

(国家座標 X=60,647～675 Y=-105,654～680)

検出状況：天明泥流下に、畝間がAs-Aで埋没した状態で検出された。

畝間方向：N-66°-W

規模：長さ17.0m 幅25.7m ※25・26号畑の合計

面積：(392.0)m² ※25・26号畑の合計面積

畑面の状況：天明泥流下面は、礫の散乱と大小の凹凸をなし、その下にAs-Aで埋没した畝間を確認し、51条(25・26号畑の合計)の畝間を検出した。畝間はほぼ直線的に併走し、区画の東西両辺に端部を確認できた。畝間の方向は、周囲の各畑と同方向である。畝間幅は

45.0cm前後を測る。

耕作状況の分類：7類

現地計測値 450÷10≒1尺5寸

その他：円形平坦面は検出されていない。

26号畑 (第54・60・67図、PL.19・23)

B区調査で、天明泥流下に検出した。南側に25号畑と接するが、明確な区画分離ができていない。この25・26号畑は、畝間方向および畝間幅がほぼ同一であることから、同一区画の畑である可能性をもつが、調査時は異なる畑の区画として扱った。

位置：中グリッド67区の中央やや北西寄りに位置する。

北側は段差に面し、さらに段差を挟んで段下に30・33号畑、東側は23・24号畑、南側は25号畑、西側は4号畑と接する。

グリッド：25号畑を参照。

検出状況：25号畑を参照。

畝間方向：25号畑を参照。

規模：25号畑を参照。

面積：25号畑を参照。

畑面の状況：天明泥流下面は、礫の散乱と大小の凹凸をなして攪乱状に荒れ、その下にAs-Aで埋没した畝間を検出した。畑面には、地山の大型礫が点在して露出する。畝間はほぼ直線的に併走し、区画の東西両辺に端部を確認できた。畝間の方向は、段差下の畑を除く周囲の各畑と同方向である。畝間幅は45.0cm前後を測る。

耕作状況の分類：2類

現地計測値 446÷10≒1尺5寸

その他：26号畑の中央南側に、26号円形平坦面がある。

27号畑 (第63・68図、PL.19・21)

B区調査で、天明泥流下に検出した。西側に28号畑と接して32号畑へと続くが、明確な区画分離ができていない。この27・28・32号畑は、畝間方向および畝間幅がほぼ同一であることから、同一区画の畑である可能性をもつが、調査時は異なる畑の区画として扱った。なお、東側および北東側は調査範囲外となる。

位置：中グリッド67区の北東付近に位置する。南側は1号道(東西走行)と段差(2号石垣を含む)に面し、さら

に段差を挟んで段上に20号畑がある。西側は28号畑と接する。

グリッド：67区F～L-16～23 ※27・28・32号畑

(国家座標 X=60,663～688 Y=-105,620～644)

検出状況：天明泥流下に、畝間がAs-Aで埋没した状態で検出された。

畝間方向：N-18°-E

規模：長さ20.2m 幅24.3m ※27・28・32号畑の合計

面積：(417.93)m² ※27・28・32号畑の合計面積

畑面の状況：天明泥流下面は、礫の散乱と凹凸をなして大きく攪乱状に荒れていた。その下にAs-Aで埋没した畝間を確認し、55条(27・28・32号畑の合計)の畝間を検出した。畝間は部分的に歪む箇所もみられるが、ほぼ直線的に併走し、区画の南辺の一部に端部を確認できた。畝間の方向は、さらに位置する33号畑とも同方向である。畝間幅は47.0cm前後を測る。

耕作状況の分類： 3類

現地計測値 473÷10≒1尺5～6寸

その他：27・28・32号畑の東西方向の中軸上で、27号畑の中央付近に27号円形平坦面がある。なお、本畑の南側は、平成15年度調査においてK24号畑として調査しており、本27号畑とK24号畑は同一の畑の可能性が高い。

28号畑 (第62・63図、PL.19)

B区調査で、天明泥流下に検出した。東側に27号畑、西側に32号畑と接するが、明確な区画分離ができていない。この27・28・32号畑は、畝間方向および畝間幅がほぼ同一であることから、同一区画の畑である可能性をもつが、調査時は異なる畑の区画として扱った。なお、北東側は調査範囲外となる。

位置：中グリッド67区の北東付近に位置する。東側は27号畑と接する。南側は1号道(東西走行)と段差(2号石垣を含む)に面し、さらに段差を挟んで段上に20号畑がある。西側は32号畑と接する。

グリッド：27号畑を参照。

検出状況：27号畑を参照。

畝間方向：27号畑を参照。

規模：27号畑を参照。

面積：27号畑を参照。

畑面の状況：天明泥流下面は、礫の散乱と凹凸をなして大きく攪乱状に荒れ、その下にAs-Aで埋没した畝間を検出した。畝間は部分的に歪む箇所もみられるが、ほぼ直線的に併走し、区画の南辺の一部に端部を確認できた。

耕作状況の分類：27号畑を参照。

その他：27・28・32号畑の東西方向の中軸上で、28号畑の中央付近に28号円形平坦面がある。

29号畑 (第58・63・68図、PL.19・23)

B区調査で、天明泥流下に検出した。明瞭な畑痕跡は検出されていないが、僅かに残る畝間痕と周囲の状況から畑の区画を想定し、認定した。なお、北東側は調査範囲外となる。

位置：中グリッド67区の北端中央付近に位置し、畑区画の北側は77区へ跨がる。南側は32・33号畑、西側は18・31号畑と接する。

グリッド：67・77区H～M-22～2

(国家座標 X=60,685～707 Y=-105,628～648)

検出状況：天明泥流下に検出した。

畝間方向：南北方向か。

規模：長さ12.2m 幅23.3m

面積：(166.13)m²

畑面の状況：天明泥流下面は、大小の礫が散乱し、概ね平坦に削平されているが、区画の南側に僅かに残る畝間を確認できた。詳細は不明。

耕作状況の分類： 4類

30号畑 (第58・61・68図、PL.19・23)

B区調査で、天明泥流下に検出した。北側に31号畑と接するが、明確な区画分離ができていない。この30・31号畑は、畝間方向および畝間幅がほぼ同一であることから、同一区画の畑である可能性をもつが、調査時は異なる畑の区画として扱った。

位置：中グリッド67区の中央北寄りに位置する。北側は31号畑、東側は33号畑と接するが、東辺となる33号畑との間に南北方向に走行する道状の細い空間が空く。南側は1号道(東西走行)と段差(1号石垣を含む)に面し、さらに段差を挟んで段上に26号畑がある。西側は16号畑と接する。

グリッド：67・77区L～R-19～2 ※30・31号畑の合計
(国家座標 X=60,675～706 Y=-105,647～668)

検出状況：天明泥流下に、畝間がAs-Aで埋没した状態で検出された。

畝間方向：N-60°-W

規模：長さ10.0m 幅32.8m ※30・31号畑の合計

面積：(307.26)m² ※30・31号畑の合計面積

畑面の状況：天明泥流下面は、礫の散乱と大小凹凸をなして攪乱状に荒れていた。その下にAs-Aで埋没した畝間を確認し、67条(30・31号畑の合計)の畝間を検出した。畝間は一部に歪む箇所もみられるが、ほぼ直線的に併走し、区画の東辺に端部を確認できた。畝間の方向は、33号畑と大きく異なる。畝間幅は45.0cm前後を測る。

耕作状況の分類： 2類

現地計測値 320÷7≒1尺5寸

その他：円形平坦面は検出されていない。

31号畑 (第58・61・68図、PL.19・23)

B区調査で、天明泥流下に検出した。南側に30号畑と接するが、明確な区画分離ができていない。この30・31号畑は、畝間方向および畝間幅がほぼ同一であることから、同一区画の畑である可能性をもつが、調査時は異なる畑の区画として扱った。

位置：中グリッド67区の北端中央付近に位置し、畑区画の北側は77区へ跨がる。北側は18号畑、東側は29・33号畑と接するが、東辺となる33号畑との間に南北方向に走行する道状の細い空間が空く。南側は30号畑、西側は17号畑と接する。

グリッド：30号畑を参照。

検出状況：30号畑を参照。

畝間方向：30号畑を参照。

規模：30号畑を参照。

面積：30号畑を参照。

畑面の状況：天明泥流下面は、礫の散乱と凹凸をなして大きく攪乱状に荒れ、その下にAs-Aで埋没した畝間を検出した。畝間は部分的に歪む箇所もみられるが、ほぼ直線的に併走し、区画の東辺の一部に端部を確認できた。畝間の方向は、18・33号畑と大きく異なる。畝間幅は50.0cm前後を測る。なお、土層断面の観察に

よる畝形状は、東側が覆い被さり、西側がやや緩やかに押された形状を呈している。

耕作状況の分類： 2類

現地計測値 294÷6≒1尺6寸

その他：円形平坦面は検出されていない。

32号畑 (第62・63・68図、PL.19・23)

B区調査で、天明泥流下に検出した。東側に28号畑と接して27号畑へと続くが、明確な区画分離ができていない。この27・28・32号畑は、畝間方向および畝間幅がほぼ同一であることから、同一区画の畑である可能性をもつが、調査時は異なる畑の区画として扱った。

位置：中グリッド67区の中央北寄り付近に位置する。北側は29号畑、東側は28号畑と接する。南側は1号道(東西走行)と段差に面し、さらに段差を挟んで段上に24号畑がある。西側は33号畑と接する。

グリッド：27号畑を参照。

検出状況：27号畑を参照。

畝間方向：27号畑を参照。

規模：27号畑を参照。

面積：27号畑を参照。

畑面の状況：天明泥流下面は、礫の散乱と凹凸をなして大きく攪乱状に荒れ、その下にAs-Aで埋没した畝間を検出した。畝間は部分的に歪む箇所もみられるが、ほぼ直線的に併走し、区画の南辺に端部を確認できた。畝間の方向は、33号畑と概ね同方向であるが、接する西辺では方向に違いがある。畝間幅は45.0cm前後を測る。

耕作状況の分類： 3類

現地計測値 460÷10≒1尺5寸

その他：27・28・32号畑の東西方向の中軸上で、32号畑の西端に32号円形平坦面がある。

33号畑 (第58・62・63・68図、PL.19)

B区調査で、天明泥流下に検出した。

位置：中グリッド67区の中央北寄りに位置する。北側は29号畑、東側は32号畑と接する。南側は1号道(東西走行)と段差に面し、さらに段差を挟んで段上に24・26号畑がある。西側は30・31号畑と接する。

グリッド：67区J～O-18～25

(国家座標 X=60,670~697 Y=-105,639~659)

検出状況：天明泥流下に、畝間がAs-Aで埋没した状態で検出された。

畝間方向：N-22°-E

規模：長さ25.3m、幅14.8m

面積：(281.4)m²

畑面の状況：天明泥流下面は、礫の散乱と凹凸をなして大きく攪乱状に荒れていた。その下にAs-Aで埋没した畝間を確認し、30条の畝間を検出した。畝間は部分的に歪む箇所もみられるが、やや弧状気味に併走し、区画の南辺の一部に端部を確認できた。畝間の方向は、32号畑と同方向であるが、30・31号畑とは大きく異なる。畝間幅は48.0cm前後を測る。なお、土層断面の観察では、泥流による西側からの押圧が著しい。

耕作状況の分類： 2類

現地計測値 485÷10≒1尺6寸

その他：33号畑の西端中央に33号円形平坦面がある。また、この位置は27・28・32号畑の東西方向の中軸の延長上にもあたる。

34号畑 (第64・65図、PL.20)

西側に突出したC区調査で、天明泥流下に検出した。区画の僅かな部分であり、北側と東側は調査範囲外となる。

位置：中グリッド78区の中央南端付近に位置する。南側は40号畑と接する。西側は3号道に面し、3号道を挟んだ西側に35号畑がある。

グリッド：78区N・O-1・2

(国家座標 X=60,703~707 Y=-105,755~758)

検出状況：天明泥流下に、畝間がAs-Aで埋没した状態で検出された。

畝間方向：N-53°-W

規模：長さ3.6m 幅1.8m

面積：(6.2)m²

畑面の状況：天明泥流下面は、凹凸をなして荒れ、その下にAs-Aで埋没した畝間を確認し、細い溝で区画された内側に4条の畝間を検出した。この畑区画は、南側に接する40号畑面よりも一段低い面となり、南辺は低い段差となって東側へ続く。畝間は直線的に併走し、区画の西辺に端部を確認できた。畝間の方向は、35号

畑と同方向である。畝間幅は50.0cm前後を測る。

耕作状況の分類： 8類

現地計測値 103÷2≒1尺7寸相当

その他：円形平坦面は検出されていない。

35号畑 (第64・66・68図、PL.20・23)

西側に突出したC区調査で、天明泥流下に検出した。南側に36号畑と接するが、明確な区画分離ができていない。この35・36号畑は、畝間方向および畝間幅がほぼ同一であることから、同一区画の畑である可能性をもつが、調査時は異なる畑の区画として扱った。なお、北側と西側は調査範囲外となる。

位置：中グリッド78区の南西側南端に位置する。東側は3号道に面し、3号道を挟んだ東側に34・39・40号畑がある。南側は36号畑と接する。

グリッド：68・69・78・79区O~B-24~5 ※35・36号畑

(国家座標 X=60,693~718 Y=-105,760~807)

検出状況：天明泥流下に、畝間がAs-Aで埋没した状態で検出された。

畝間方向：N-64°-W

規模：長さ37.3m 幅35.2m ※35・36号畑の合計

面積：(657.88)m² ※35・36合計面積

畑面の状況：天明泥流下面は、礫の散乱と凹凸をなして大きく攪乱状に荒れていた。その下にAs-Aで埋没した畝間を確認し、62条(35・36号畑の合計)の畝間を検出した。畝間はほぼ直線的に併走し、区画の東辺の一部に端部を確認できた。畝間の方向は、34・39号畑と同方向である。畝間幅は49.0cm前後を測る。

耕作状況の分類： 7類

現地計測値 493÷10≒1尺6寸

その他：35号畑の中央に35号円形平坦面がある。また、この位置は36号畑との南北方向の中軸上にあたる可能性あり。

36号畑 (第64・66・68図、PL.20・30)

27年度調査のC区調査で、天明泥流下に検出した。北側に35号畑と接するが、明確な区画分離ができていない。この35・36号畑は、畝間方向および畝間幅がほぼ同一であることから、同一区画の畑である可能性をもつが、調

査時は異なる畑の区画として扱った。なお、28年7月調査で、本畑の西側部分を検出した。その結果、本畑はL字状を呈することとなったが、区画を分別する明確な根拠にかける。

位置：中グリッド68区の北西側北端および69区北東隅に位置し、さらに北側は78・79区へ跨がる。北側は先述の35号畑、畝間方向の異なる56号畑と接する。東側は3号道と2号ヤックラに面し、3号道を挟んだ東側に37・41号畑がある。南側は分岐した西側へ延びる3号道に面し、3号道を挟んだ南側に3号ヤックラと50号畑があり、さらに54・55号畑と接する。

グリッド：35号畑を参照。

検出状況：35号畑を参照。

畝間方向：35号畑を参照。

規模：35号畑を参照。

面積：35号畑を参照。

畑面の状況：天明泥流下面は、礫の散乱と凹凸をなして大きく攪乱状に荒れ、その下にAs-Aで埋没した畝間を検出した。畝間はほぼ直線的に併走し、区画の東辺の一部に端部を確認できた。畝間の方向は、接する35・54・55号畑と同一方向であるが、56号畑は大きく異なる。また、面する37・41号畑と同方向で、50号畑とは大きく異なる。畝間幅は51.0cm前後を測る。

耕作状況の分類： 2類

現地計測値 $510 \div 10 \div 1 \text{尺} 7 \text{寸}$

その他：36号畑の東寄りに36-1号円形平坦面、西寄りに36-2号円形平坦面がある。

37号畑（第64・66・68図、PL.20・21・23）

西側に突出したC区調査で、天明泥流下に検出した。南側は調査範囲外となる。

位置：中グリッド68区の北西側付近に位置する。東側は38・41号畑と接する。北側から西側にかけては3号道に面し、3号道の分岐点にも面している。また、3号道を挟んだ西側には2号ヤックラと36号畑が、さらに3号道の分岐点南側には50号畑がある。

グリッド：68区T～V-22～24

(国家座標 X=60,688～694 Y=-105,777～787)

検出状況：天明泥流下に、畝間がAs-Aで埋没した状態で検出された。

畝間方向：N-46°-W

規模：長さ6.0m 幅10.3m

面積：(51.9)m²

畑面の状況：天明泥流下面は、礫の散乱と凹凸をなして大きく攪乱状に荒れていた。その下にAs-Aで埋没した畝間を確認し、22条の畝間を検出した。畝間は他よりも短く、ほぼ直線的に併走し、区画の東辺に端部を確認できた。畝間の方向は、36・38号畑と同方向であるが、50号畑とは大きく異なる。畝間幅は48.0cm前後を測る。

耕作状況の分類： 7類

現地計測値 $480 \div 10 = 48 \div 1 \text{尺} 6 \text{寸}$

その他：円形平坦面は検出されていない。なお、本37号畑の南側は調査範囲外となるものの、若干隔てた南側に平成7年度調査のB区が位置し、このB区東端に検出された畑と本37号畑が同一畑の可能性をもつ。

38号畑（第64・68図、PL.20・21・23）

西側に突出したC区調査で、天明泥流下に検出した。北側を41号畑と接するが、明確な区画分離ができていない。この38・41号畑は、畝間方向および畝間幅がほぼ同一であることから、同一区画の畑である可能性をもつが、調査時は異なる畑の区画として扱った。なお、南側は調査範囲外となる。

位置：中グリッド68区の北西側付近に位置する。北側は41号畑、東側は43号畑、西側は37号畑と接する。

グリッド：68区Q～U-22～25

(国家座標 X=60,687～698 Y=-105,764～780)

検出状況：天明泥流下に、畝間がAs-Aで埋没した状態で検出された。

畝間方向：N-50°-W

規模：長さ7.2m 幅18.3m

面積：(105.05)m²

畑面の状況：天明泥流下面は、礫の散乱と凹凸をなして攪乱状に荒れていた。その下にAs-Aで埋没した畝間を確認し、39条(38・41号畑の合計)の畝間を検出した。畝間は他よりも短く、ほぼ直線的に併走し、区画の東西両辺に端部を確認できた。畝間の方向は、37・43号畑と同方向である。畝間幅は48.0cm前後を測る。

耕作状況の分類： 7類

現地計測値 $476 \div 10 = 47.6 \div 1$ 尺6寸

その他：円形平坦面は検出されていない。

39号畑（第64・68図、PL.20）

西側に突出したC区調査で、天明泥流下に検出した。東側は調査範囲外となる。

位置：中グリッド68区の北西側北端に位置し、北側は僅かに78区へ跨がる。北側は40号畑、南側は41・42号畑と接する。西側は3号道に面し、3号道を挟んだ西側に35号畑がある。

グリッド：68・78区-O～Q-24～1

（国家座標 X=60,694～700 Y=-105,757～766）

検出状況：天明泥流下に、畝間がAs-Aで埋没した状態で検出された。

畝間方向：N-59°-W

規模：長さ9.3m 幅6.4m

面積：(43.75)m²

畑面の状況：天明泥流下面は、礫の散乱と凹凸をなして大きく攪乱状に荒れていた。その下にAs-Aで埋没した畝間を確認し、9条の畝間を検出した。畝間は歪みながらもほぼ直線的に併走する。畝間の方向は、41・42号畑と同方向である。畝間幅は45.0cm前後を測る。

耕作状況の分類： 2類

現地計測値 $45 \div 1$ 尺5寸

その他：円形平坦面は検出されていない。

40号畑（第64・65・68図、PL.20）

西側に突出したC区調査で、天明泥流下に検出した。東側は調査範囲外となる。

位置：中グリッド78区の南端中央西寄りに位置し、北側は34号畑、南側は低い段差を挟んで40号畑と接する。西側は3号道に面し、3号道を挟んだ西側に35号畑がある。

グリッド：78区O・P-25～2

（国家座標 X=60,699～705 Y=-105,756～761）

検出状況：天明泥流下に検出したが、残存状態は極めて悪い。

規模：長さ5.2m 幅6.7m

面積：(22.93)m²

畑面の状況：天明泥流下面は、礫の散乱と荒れた状態で、

明瞭な畝間を確認していない。北側の34号畑とは、本区画が段差の上段側となり、南接する39号畑面よりは僅かに低い面となる。

耕作状況の分類： 2類？

その他：円形平坦面は検出されていない。なお、北側の40号畑間にある段差は東へ延び、先述の1号畑と9号畑との間の段差に繋がる可能性が極めて高く、段差の上段縁が耕作されていない可能性をもつ。さらに推測するならば、この箇所には3号道から分岐した、東へ延びる道の可能性も考えられよう。

41号畑（第62・64図、PL.20）

西側に突出したC区調査で、天明泥流下に検出した。南側を38号畑と接するが、明確な区画分離ができていない。この38・41号畑は、畝間方向および畝間幅がほぼ同一であることから、同一区画の畑である可能性をもつが、調査時は異なる畑の区画として扱った。

位置：中グリッド68区の北西側北端に位置する。北側は39号畑、東側は42・43号畑、南側は38号畑と接する。西側は3号道に面し、3号道を挟んだ西側に35・36号畑がある。

グリッド：38号畑を参照。

検出状況：38号畑を参照。

畝間方向：38号畑を参照。

規模：38号畑を参照。

面積：38号畑を参照。

畑面の状況：天明泥流下面は、礫の散乱と凹凸をなして大きく攪乱状に荒れていた。その下にAs-Aで埋没した畝間を検出した。畝間は他よりも短く、ほぼ直線的に併走し、区画の東辺に端部を確認できた。畝間の方向は、39・42・43号畑と同方向である。畝間幅は42.0cm前後を測る。

耕作状況の分類： 2類

現地計測値 $430 \div 10 = 43 \div 1$ 尺4寸

その他：円形平坦面は検出されていない。

42号畑（第64・65図、PL.20）

西側に突出したC区調査で、天明泥流下に検出した。南側を43号畑と接するが、明確な区画分離ができていない。この42・43号畑は、畝間方向および畝間幅がほぼ同

一であることから、同一区画の畑である可能性をもつが、調査時は異なる畑の区画として扱った。なお、南側は調査範囲外となる。

位置：中グリッド68区の北端中央西寄りに位置し、北側は39号畑、東側は44号畑、南側は43号畑、西側は41号畑と接する。

グリッド：68区P～S-22～25 ※42・43号畑

(国家座標 X=60,687～696 Y=-105,760～773)

検出状況：天明泥流下に、畝間がAs-Aで埋没した状態で検出された。

畝間方向：N-48°-W

規模：長さ12.0m 幅6.0m ※42・43号畑の合計

面積：(61.1)m² ※42・43号畑の合計面積

畑面の状況：天明泥流下面は、礫の散乱と凹凸をなして大きく攪乱状に荒れていた。その下にAs-Aで埋没した畝間を確認し、31条(42・43号畑の合計)の畝間を検出した。畝間は他よりも短く、ほぼ直線的に併走し、区画の西辺の一部に端部を確認できた。畝間の方向は、39・41号畑と同方向である。畝間幅は45.0cm前後を測る。

耕作状況の分類： 2類

現地計測値 437÷10=43.7≒1尺4寸

その他：円形平坦面は検出されていない。

43号畑 (第64・65図、PL.20)

西側に突出したC区調査で、天明泥流下に検出した。北側を42号畑と接するが、明確な区画分離ができていない。この42・43号畑は、畝間方向および畝間幅がほぼ同一であることから、同一区画の畑である可能性をもつが、調査時は異なる畑の区画として扱った。

位置：中グリッド68区の北西側北寄り付近に位置し、北側は42号畑、東側は44号畑、西側は38・41号畑と接する。

グリッド：42号畑を参照。

検出状況：42号畑を参照。

畝間方向：42号畑を参照。

規模：42号畑を参照。

面積：42号畑を参照。

畑面の状況：天明泥流下面は、礫の散乱と凹凸をなして大きく攪乱状に荒れていた。その下にAs-Aで埋没した畝間を検出した。畝間は他よりも短く、ほぼ直線的

に併走し、区画の東西両辺の一部に端部を確認できた。畝間の方向は、38・41号畑と同方向である。畝間幅は47.0cm前後を測る。

耕作状況の分類： 7類

現地計測値 245÷5=49≒1尺6寸

その他：43号畑の北寄りに43号円形平坦面がある。

44号畑 (第64・69図、PL.20・21)

西側に突出したC区調査で、天明泥流下に検出した。北側と南側は調査範囲外となる。

位置：中グリッド68区の中央北寄り付近に位置し、東側は5号道(南北走行)に面し、5号道を挟んだ東側に45号畑がある。西側は42・43号畑と接する。

グリッド：68区O～Q-22～24

(国家座標 X=60,686～692 Y=-105,759～765)

検出状況：天明泥流下に検出した。

畝間方向：不明

規模：長さ3.0m 幅7.5m

面積：(20.0)m²

畑面の状況：天明泥流下面は、礫の散乱と荒れた状態で、明瞭な畝間を確認していない。東側の5号道は溝状に低く、本畑の方がやや高い面となる。畑の耕作状況は不明。耕作されていない区画か。

耕作状況の分類： 6類

45号畑 (第65・68図、PL.20・21・23)

西側に突出したC区調査で、天明泥流下に検出した。北側と南側は調査範囲外となる。

位置：中グリッド68区の中央北寄り付近に位置し、東側は46号畑に接する。西側は5号道(南北走行)に面し、5号道を挟んだ西側に44号畑がある。

グリッド：68区N～P-22・23

(国家座標 X=60,684～691 Y=-105,753～761)

検出状況：天明泥流下に検出した。

畝間方向：不明

規模：長さ4.0m 幅7.5m

面積：(26.13)m²

畑面の状況：天明泥流下面は、礫の散乱と荒れた状態で、明瞭な畝間を確認していない。西側の5号道は溝状に低く、本畑の方がやや高い面となる。畑の耕作状況は

不明。44号畑と同様に、耕作されていない区画か。

耕作状況の分類： 4類

46号畑（第65・68図、PL.20・23）

西側に突出したC区調査で、天明泥流下に検出した。北側と南側は調査範囲外となる。

位置：中グリッド68区の中央北寄りに位置し、東側は47号畑、西側は45号畑に接する。

グリッド：68区L～O-21～23

（国家座標 X=60,681～690 Y=-105,744～757）

検出状況：天明泥流下に、畝間がAs-Aで埋没した状態で検出された。

畝間方向：N-51°-W

規模：長さ8.5m 幅9.9m

面積：(77.7)m²

畑面の状況：天明泥流下面は、礫の散乱と凹凸をなして大きく攪乱状に荒れていた。その下にAs-Aで埋没した畝間を確認し、29条の畝間を検出した。畝間はほぼ直線的に併走し、区画の東西両辺に端部を確認できた。畝間の方向は、47号畑と同方向である。畝間幅は42.0cm前後を測る。

耕作状況の分類： 9類

現地計測値 413÷10=1尺3～4寸相当

その他：46号畑の南側調査範囲際際46号円形平坦面がある。なお、本46号畑の南側は調査範囲外となるものの、南側には平成7年度調査のE区が位置し、このE区西側に検出された畑が本畑と同一畑の可能性をもつ。

47号畑（第65・68図、PL.20・22・24）

西側に突出したC区調査で、天明泥流下に検出した。北側と南側は調査範囲外となる。

位置：中グリッド68区の中央北寄りに位置し、東側は48号畑、西側は46号畑と接する。

グリッド：68区I～M-20～23

（国家座標 X=60,676～689 Y=-105,734～749）

検出状況：天明泥流下に、畝間がAs-Aで埋没した状態で検出された。

畝間方向：N-51°-W

規模：長さ9.0m 幅12.8m

面積：(103.03)m²

畑面の状況：天明泥流下面は、礫の散乱と凹凸をなして大きく荒れていた。その下にAs-Aで埋没した畝間を確認し、27条の畝間を検出した。畝間はほぼ直線的に併走し、区画の東西両辺に端部を確認できた。畝間の方向は、46・48号畑と同方向である。畝間幅は49.0cm前後を測る。

耕作状況の分類： 1類

現地計測値 493÷10=1尺6寸相当

その他：円形平坦面は検出されていない。なお、本47号畑の南側は調査範囲外となるものの、南側には平成7年度調査のE区が位置し、このE区東側に検出された畑が本畑と同一畑の可能性をもつ。

48号畑（第65・68図、PL.20・22・24）

西側に突出したC区調査で、天明泥流下に検出した。北側と南側は調査範囲外となる。

位置：中グリッド68区の北東付近に位置し、東側は4号道(南北走行)に面し、4号道を挟んだ東側に1・49号畑がある。西側は47号畑と接する。

グリッド：68区G～K-18～23

（国家座標 X=60,671～687 Y=-105,725～740）

検出状況：天明泥流下に、畝間がAs-Aで埋没した状態で検出された。

畝間方向：N-62°-W

規模：長さ9.8m 幅17.0m

面積：(145.53)m²

畑面の状況：天明泥流下面は、礫の散乱と凹凸をなして大きく荒れていた。その下にAs-Aで埋没した畝間を確認し、33条の畝間を検出した。畝間はほぼ直線的に併走し、区画の東西両辺に端部を確認できた。畝間の方向は、1・49号畑および47号畑と同方向である。畝間幅は47.0cm前後を測る。

耕作状況の分類： 5類

現地計測値 473÷10=1尺5～6寸相当

その他：円形平坦面は検出されていない。

49号畑（第53図、PL.20）

C区の調査で、天明泥流下に検出した。北側をA区調査で検出された1号畑と接するが、明確な区画分離ができていない。南側は調査範囲外となる。

位置：中グリッド68区の北東付近に位置する。北側は1号畑、東側は2号畑と接する。西側は4号道(南北走行)に面し、4号道を挟んだ西側に48号畑がある。

グリッド：1号畑を参照。

検出状況：天明泥流下に、畝間がAs-Aで埋没した状態で検出された。

畝間方向：1号畑を参照。

規模：1号畑を参照。

面積：1号畑を参照。

畑面の状況：天明泥流下面は、礫の散乱と凹凸をなし、その下にAs-Aで埋没した畝間を検出した。畝間は直線的に併走し、区画の東西両辺に端部を確認できた。畝間の方向は、周囲の各畑と同方向である。

その他：49号畑の中央付近に49号円形平坦面がある。なお、本49号畑の南側は調査範囲外となるものの、南側には平成7年度調査のF区が位置し、このF区に検出された畑が本畑と同一畑の可能性をもつ。

50号畑 (第64・66・68図、PL.20・29・30)

27年度調査のC区調査で、調査範囲の最西端に天明泥流下の畑を検出した。なお、28年7月調査で、本畑の西側部分を検出し、本畑の西端が確認できた。

位置：中グリッド68区の北西隅付近から、69区北東隅付近に跨がり位置する。畑の北側は3号ヤックラと接する。また、北側および東側は、西側と南側に延びる3号道に面し、本畑の北東隅に3号道の分岐点がある。3号道を挟んだ北側には36・54号畑、東側には37号畑がある。南側は57号畑、西側は53号畑と接する。

グリッド：68・69区V～C-22～24

(国家座標 X=60,687～694 Y=-105,786～812)

検出状況：天明泥流下に、畝間がAs-Aで埋没した状態で検出された。

畝間方向：N-0°-W

規模：長さ5.4m、幅19.4m。

面積：(105.3)m²。

畑面の状況：天明泥流下面は、礫の散乱と凹凸をなして大きく攪乱状に荒れていた。その下にAs-Aで埋没した畝間を確認し、37条の畝間を検出した。畑面は段差となる3号ヤックラの南上段面で、畝間はほぼ直線的に併走し、南北の両辺に端部を確認した。残存状態は、

極めて悪い。畝間の方向は、接する57号畑とは同方向であるが、53号畑とは異なる。また、面する36・37・54号畑とは大きく異なる。畝間幅は48.0cm前後を測る。

耕作状況の分類： 8類

現地計測値 1尺6寸相当

その他：円形平坦面は検出されていない。なお、本畑の南側は調査範囲外とるが、若干隔てた南側に平成7年度調査B区が位置し、このB区東端付近に今調査での3号道に続く道と畑(道の西側)が検出されている。

51号畑 (第60～62図、PL.22)

B区拡張調査で、天明泥流下に検出した。北側は22号畑、南側は52号畑と接するが、明確な区画分離ができていない。この22・51・52号畑は、畝間方向および畝間幅がほぼ同一であることから、同一区画の畑である可能性をもつが、調査時は異なる畑の区画として扱った。なお、西側は調査範囲外となる。

位置：中グリッド67区の中央南寄りに位置する。北側は22号畑、東側はK8-1号畑、南側は52号畑と接するが、東辺となるK8-1号畑との間には南北方向に走行する道状の細い空間が空く。

グリッド：22号畑を参照。

検出状況：天明泥流下に、畝間がAs-Aで埋没した状態で検出された。

畝間方向：22号畑を参照。

規模：22号畑を参照。

面積：22号畑を参照。

畑面の状況：天明泥流下面は、僅かに凹凸をなし、その下にAs-Aで埋没した畝間を検出した。畝間はほぼ直線的に併走し、区画の東辺に端部を確認した。畝間の方向は、周囲の各畑と同方向である。

耕作状況の分類： 7類

現地計測値 180÷4=45=1尺5寸

その他：51号畑の南東端に、51号円形平坦面がある。

52号畑 (第60～62図、PL.22・30)

B区拡張調査で、天明泥流下に検出した。北側は51号畑と接して22号畑へと続くが、明確な区画分離ができていない。この22・51・52号畑は、畝間方向および畝間幅がほぼ同一であることから、同一区画の畑である可能性

をもつが、調査時は異なる畑の区画として扱った。なお、今調査範囲の最南端にあり、北側以外は調査範囲外となる。

位置：中グリッド67区の中央南寄りに位置する。北側は51号畑、東側はK 8-2号畑と僅かに接するが、東辺となるK 8-2号畑との間には南北方向に走行する道状の細い空間が空く。

グリッド：22号畑を参照。

検出状況：天明泥流下に、畝間がAs-Aで埋没した状態で検出された。

畝間方向：22号畑を参照。

規模：22号畑を参照。

面積：22号畑を参照。

畑面の状況：天明泥流下面は、僅かに凹凸をなし、その下にAs-Aで埋没した畝間を検出した。畝間はほぼ直線的に併走し、区画の東辺に端部を確認した。畝間の方向は、51号畑およびK 8-2号畑と同方向である。

耕作状況の分類： 8類

現地計測値 $230 \div 5 = 1 \text{ 尺 } 5 \sim 6 \text{ 寸}$

その他：調査範囲際となる52号畑の東端に、52号円形平坦面がある。なお、本畑の南側は、平成11年度IV区調査においてK 6-2号畑として調査しており、本52号畑とK 6-2号畑は同一の畑と考えられる。

53号畑 (第66図、PL.30)

28年7月調査で、調査範囲の西端に天明泥流下の畑を検出した。調査時は51号畑として調査したが、前年度調査の遺構番号と重複したため、整理段階で本遺構名に変更した。

位置：中グリッド69区の北東隅付近に位置し、畑の北側は東西方向に長く伸びる3号ヤックラと接する。東側は50号畑、南側は57号畑と接する。西側は調査範囲外となる。

グリッド：69区B・C-23・24

(国家座標 X=60,689~694 Y=-105,806~812)

検出状況：天明泥流下に、畝間がAs-Aで埋没した状態で検出された。

畝間方向：N-43°-W

規模：長さ7.5m 幅2.1m

面積：(9.4)m²

畑面の状況：天明泥流下面は、礫の散乱と凹凸をなして大きく攪乱状に荒れ、その下にAs-Aで埋没した畝間を確認したが、残存状態は極めて悪く、僅かに3条の畝間を検出した。畑面は段差となる3号ヤックラの南上段面で、畝間の方向は、接する50・57号畑とは異なる。畝間幅は48.0cm前後を測る。

その他：円形平坦面は検出されていない。

54号畑 (第66図、PL.22・30)

28年7月調査で、調査範囲の西寄りに天明泥流下の畑を検出した。調査時は52号畑として調査したが、前年度調査の遺構番号と重複したため、整理段階で本遺構名に変更した。

位置：中グリッド69区の北西隅付近を中心に、79区南東隅付近および僅かに68区に跨がり位置する。畑の北東側は36号畑と接し、南側は分岐点から西へ伸びる3号道に面する。西側は55号畑と接する。

グリッド：68・69・79区Y~C-24・25

(国家座標 X=60,695~701 Y=-105,799~809)

検出状況：天明泥流下に、畝間がAs-Aで埋没した状態で検出された。

畝間方向：N-53°-W

規模：長さ7.4m 幅4.9m

面積：(22.3)m²

畑面の状況：天明泥流下面は、礫の散乱と凹凸をなして荒れていた。その下にAs-Aで埋没した畝間を確認し、11条の畝間を検出した。畑面は3号道と共に、段差となる3号ヤックラの北下段面で、畝間はほぼ直線的に併走し、両端部を確認した。畝間の方向は、接する36・55号畑と同方向であるが、3号道と3号ヤックラを挟んで面する50号畑とは大きく異なる。畝間幅は48.0cm前後を測る。

その他：54号畑の中央付近に、54号円形平坦面がある。

55号畑 (第66図、PL.22・30)

28年7月調査で、調査範囲の西端に天明泥流下の畑を僅かに検出した。調査時は53号畑として調査したが、整理段階で本遺構名に変更した。

位置：中グリッド69区の北東隅付近から、79区南東隅付近に跨がり位置する。畑の北側は36号畑、東側は54号

畑と接し、南側は分岐点から西へ延びる3号道に面する。西側は調査範囲外となる。

グリッド：69・79区B・C-25・1

(国家座標 X=60,696~702 Y=-105,807~810)

検出状況：天明泥流下に、畝間がAs-Aで埋没した状態で検出された。

畝間方向：N-55°-W

規模：長さ6.0m 幅1.0m。

面積：(4.30)m²

畑面の状況：天明泥流下面は、礫の散乱と凹凸をなして荒れていた。その下にAs-Aで埋没した畝間を確認し、10条の畝間を検出した。畑面は3号道と共に、段差となる3号ヤックラの北下段面で、畝間はほぼ直線的に併走し、東辺の端部を確認した。畝間の方向は、接する36・54号畑と同方向である。畝間幅は48.0cm前後を測る。

その他：円形平坦面は検出されていない。

56号畑 (第66図、PL.22)

28年7月調査で、調査範囲の北側に天明泥流下の畑を検出した。調査時は54号畑として調査したが、整理段階で本遺構名に変更した。

位置：中グリッド78区の南西隅付近から、79区へ僅かに跨がり位置する。畑の北側および西側は調査範囲外で、東側および西側はL字状となる36号畑と接する。

グリッド：78・79区V~A-1~4

(国家座標 X=60,700~714 Y=-105,785~802)

検出状況：天明泥流下に、畝間がAs-Aで埋没した状態で検出された。

畝間方向：N-47°-E

規模：長さ14.8m、幅8.3m。

面積：(120.3)m²。

畑面の状況：天明泥流下面は、礫の散乱と凹凸をなして攪乱状に荒れていた。その下にAs-Aで埋没した畝間を確認し、19条の畝間を検出した。畝間はやや蛇行しながらもほぼ併走し、残存状態は悪い。畝間の方向は、接する36号畑とは大きく異なる。畝間幅は48.0cm前後を測る。

その他：円形平坦面は検出されていない。

57号畑 (第66図、PL.22)

28年7月調査で、調査範囲の南側に天明泥流下の畑を僅かに検出した。調査時は55号畑として調査したが、整理段階で本遺構名に変更した。

位置：中グリッド69区の中央東寄りに位置する。畑の北側は50・53号畑と接し、南側は調査範囲外となる。

グリッド：69区B~D-22・23

(国家座標 X=60,687~689 Y=-105,805~812)

検出状況：天明泥流下に、畝間がAs-Aで埋没した状態で検出された。

畝間方向：N-14°-E

規模：長さ6.9m 幅1.1m

面積：(7.2)m²

畑面の状況：天明泥流下面は、礫の散乱と凹凸をなして荒れ、その下にAs-Aで埋没した畝間を確認し、13条の畝間を検出した。畝間はほぼ直線的に併走し、北辺に端部を確認した。畝間の方向は、接する50号畑とは同方向であるが、53号畑とは異なる。畝間幅は48.0cm前後を測る。

その他：円形平坦面は検出されていない。なお、本畑の南側は調査範囲外とるが、若干隔てた南側に平成7年度調査B区が位置し、このB区東端付近に本畑と同一方向の畝間の畑が検出されている。

K8-1・2・5号畑 (第59・61・67図、PL.19・21・22・24)

B区およびB区拡張調査で、天明泥流下に検出した。南側はK8-1号畑に接してK8-2号畑へと続くが、明確な区画分離はできていない。このK8-1・2・5号畑は、畝間方向および畝間幅がほぼ同一であることから、同一区画の畑である可能性をもつが、調査時は異なる畑の区画として扱った。なお、今調査範囲の南端にあり、南東側は調査範囲外となる。

位置：中グリッド67区の中央南寄りに位置する。北側は21号畑、西側は22・23・51・52号畑と接する。西辺となる22・23・51・52号畑との間には、南北方向に走行する道状の細い空間が空く。

グリッド：67区H~P-7~13 ※K8-1・2・5号畑

(国家座標 X=60,625~648 Y=-105,628~662)

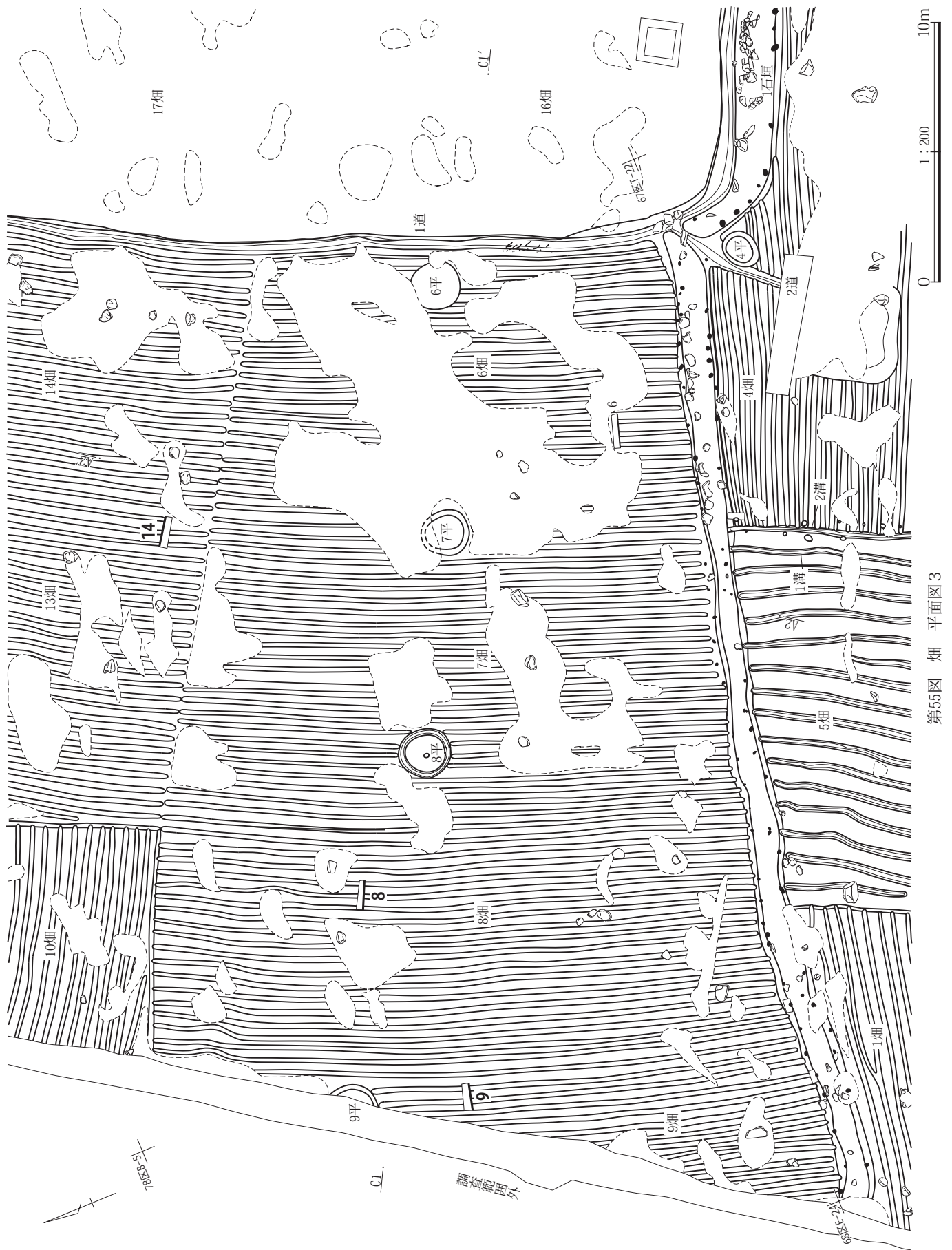
検出状況：天明泥流下に、畝間がAs-Aで埋没した状態



第53図 畑 平面図1・断面図



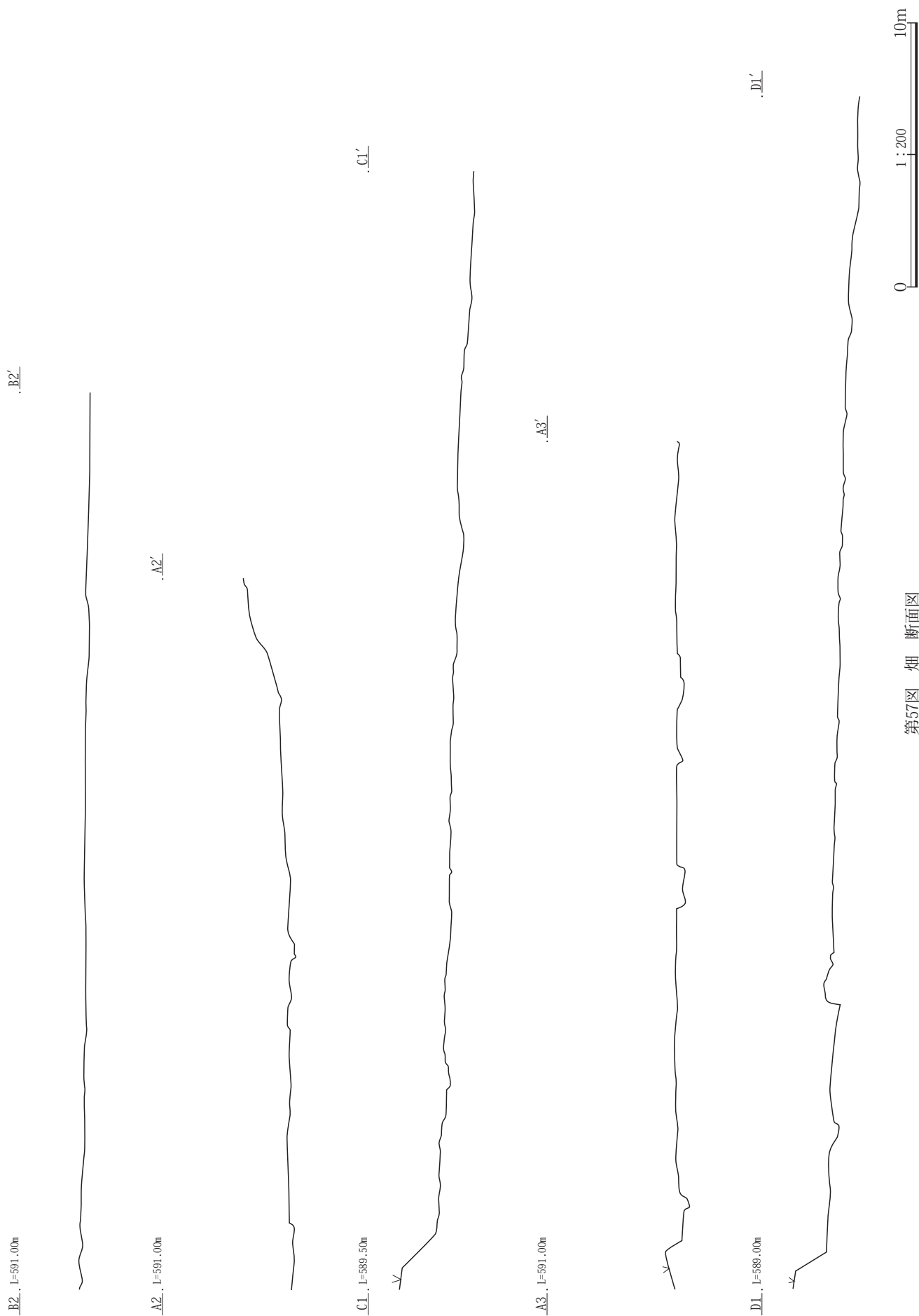
第54図 畑 平面図2



第55図 畑 平面図3



第56図 畑 平面図4

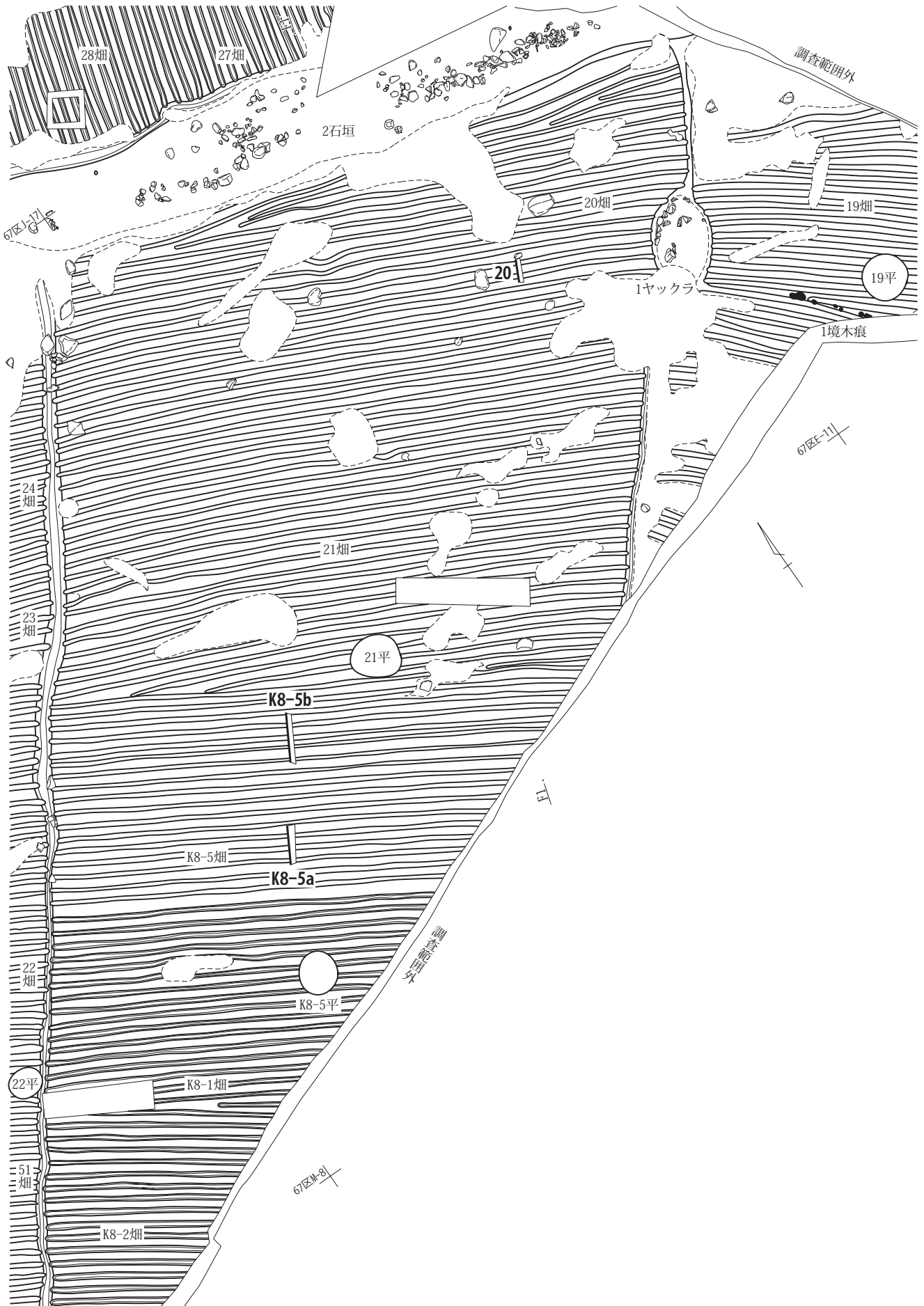


第57図 畑 断面図



第58図 畑 平面図5

0 1:200 10m



第59図 畑 平面図6





第60図 畑 平面図7

0 1:200 10m

C2'

C2, I=589.50m



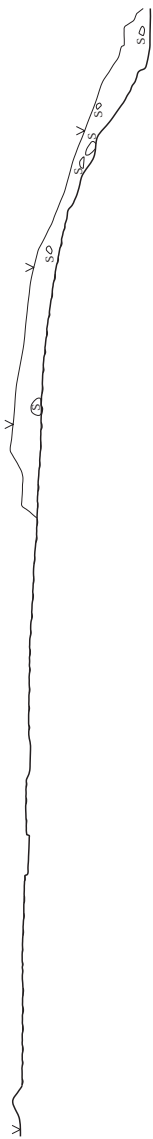
D2'

D2, I=589.00m



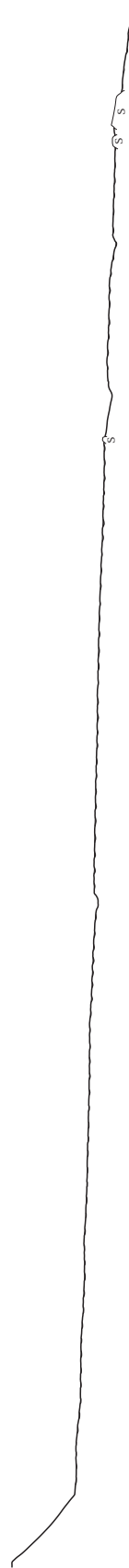
F1'

F1, I=589.00m

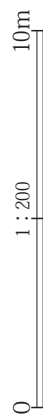


E1'

E1, I=591.00m



第61図 畑 断面図



D3'

D3, I=589.00m



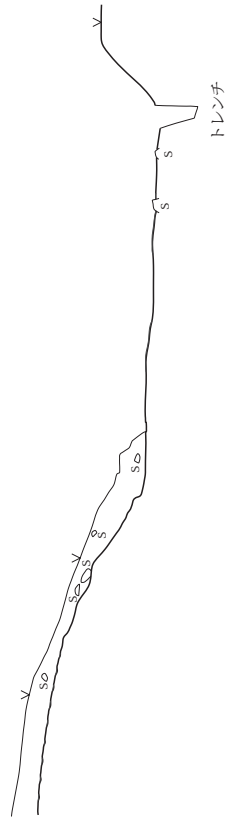
F2'

F2, I=591.00m



F2'

F2, I=589.00m



G'

G, I=594.00m



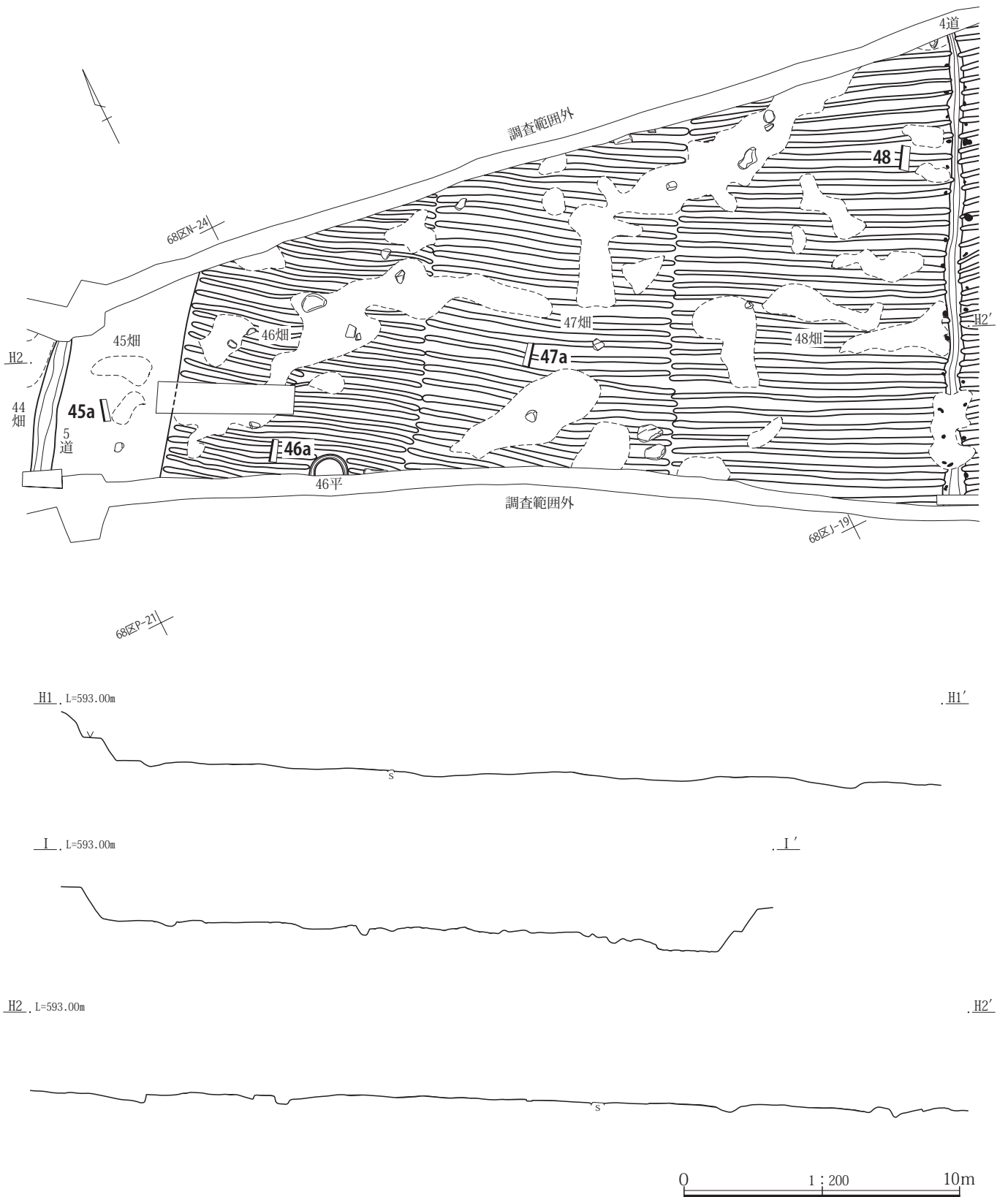
第62図 畑 断面図



第63図 畑 平面図8



第64図 畑 平面図9

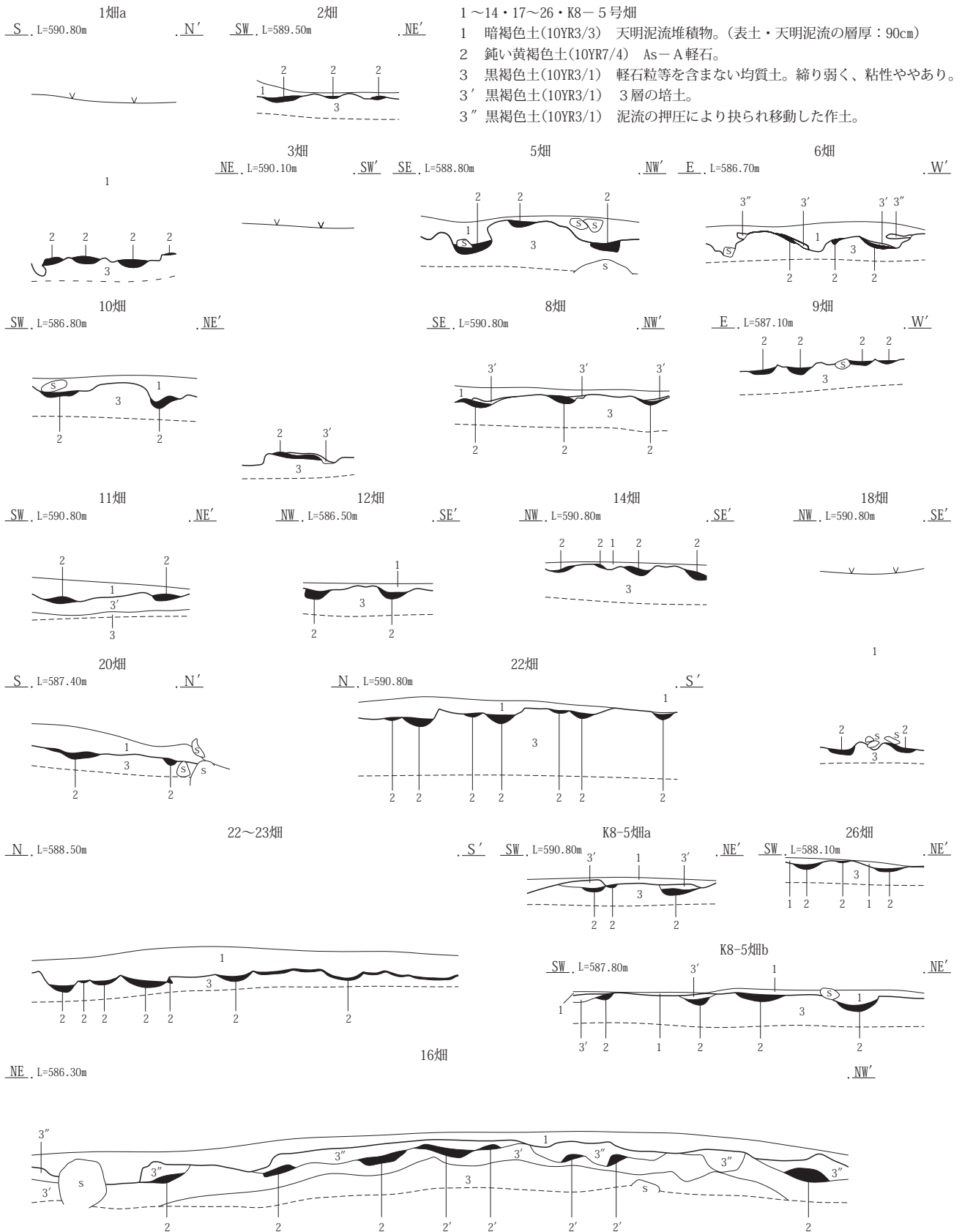


第65図 畑 平面図10・断面図



第66図 畑 平面図11・断面図

第3章 久々戸遺跡



10号畑

1 暗褐色土(10YR3/3) 天明泥流堆積物。

2 鈍い黄褐色土(10YR7/4) As-A軽石(1次堆積)。

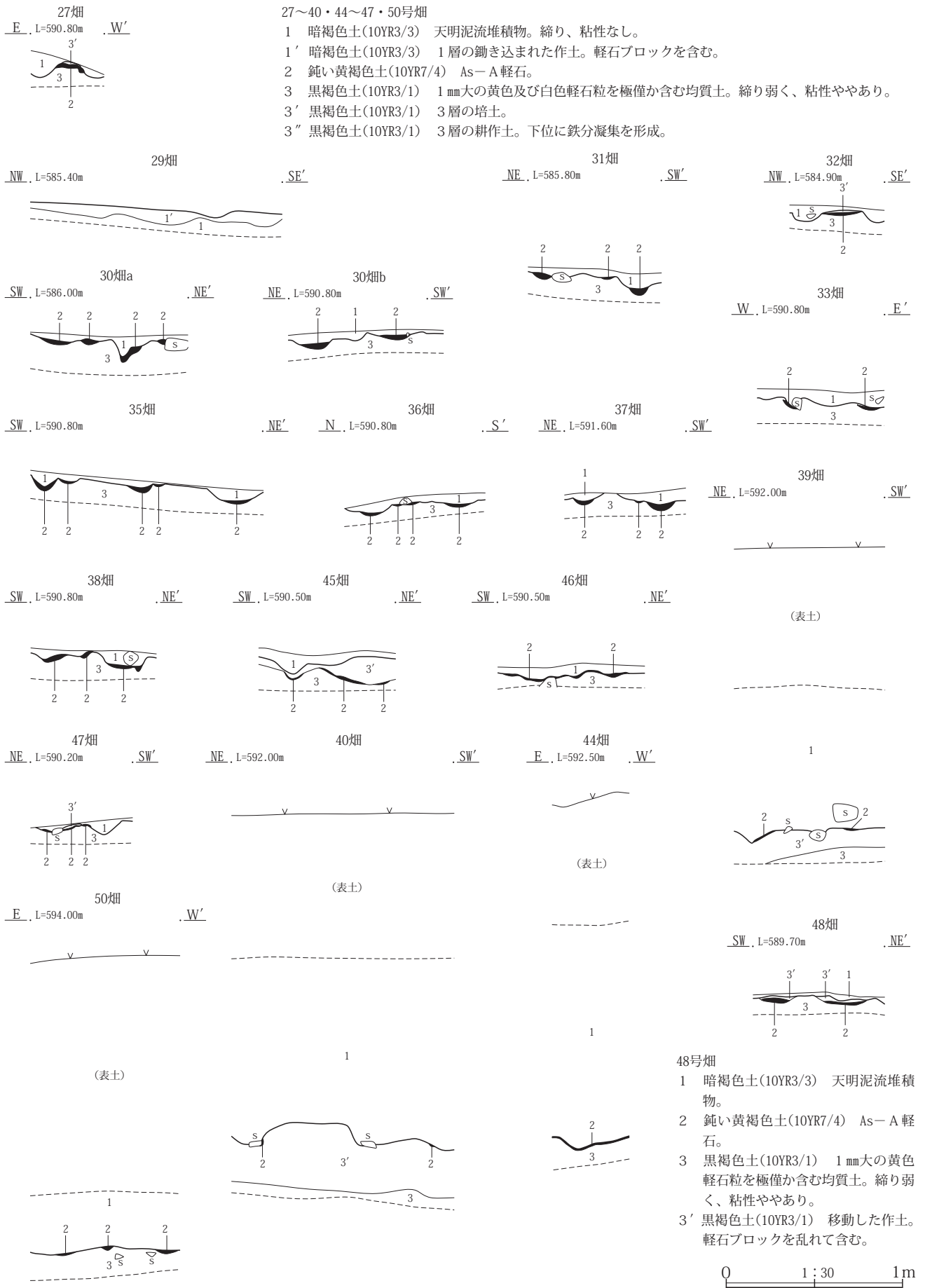
2' 鈍い黄褐色土(10YR7/4) As-A軽石(人為堆積、作土乱れて含む)

3 黒褐色土(10YR3/1) 軽石粒等を含まない均質土。締り弱く、粘性ややあり。

3' 黒褐色土(10YR3/1) 3層の培土。

3'' 黒褐色土(10YR3/1) As-A軽石ブロックを僅かに乱れて含む鋤込み作土。

第67図 畑 土層断面図 1



第68図 畑 土層断面図2

で検出された。

畝間方向：N—59°—W ※K 8-1・2・5号畑

規模：長さ28.7m 幅20.5m ※K 8-1・2・5号畑の合計

面積：(295.16)m² ※K 8-1・2・5号畑の合計面積

畑面の状況：天明泥流下面は、僅かに凹凸をなし、その下にAs-Aで埋没した畝間を確認し、60条(K 8-1・2・5号畑の合計)の畝間を検出した。畝間はほぼ直線的に併走し、区画の西辺に端部を確認した。畝間の方向は、21号畑および22・23・51・52号畑と同方向である。畝間幅は48.0cm前後を測る。

耕作状況の分類： 5類

現地計測値 1尺6寸相当

その他：K 8-1・2・5号畑の中央付近に、K 8-5号円形平坦面がある。なお、本畑の南側は、平成11年度IV区調査においてK 8-1～4号畑として調査しており、本K 8-1・2・5号畑と同一の畑と考えられる。

K 11号畑 (PL.19)

B区調査で、天明泥流下に畝間を僅かに検出した。今調査範囲の最東端にあり、西側以外は調査範囲外となる。位置：中グリッド77区の中央東端付近で、今調査範囲の最東端に位置する。北側にK 12畑、西側に19号畑と接するが、西辺となる19号畑との間には南北方向に走行する道状の細い空間が空く。

グリッド：67区B-10

(国家座標 X=60,637~639 Y=-105,604~606)

検出状況：天明泥流下に、畝間がAs-Aで埋没した状態で検出された。

畝間方向：N—38°—W

面積：(1.26)m²

畑面の状況：天明泥流下面は、僅かに凹凸をなし、その下にAs-Aで埋没した畝間を僅かに検出した。畑区画の隅端部で、東辺に端部を確認した。畝間の方向は、19号畑と同方向である。

その他：本畑の南側は、平成9年度I区および平成11年度IV区調査においてK 11-3号畑として調査しており、本畑はK 11-3号畑と同一畑で、その北西隅にあたる。

K 12号畑 (PL.19)

B区調査で、天明泥流下に僅かに検出した。今調査範囲の最東端にあり、西側以外は調査範囲外となる。

位置：中グリッド77区の中央東端付近で、今調査範囲の最東端に位置する。南側にK 11畑、西側に19号畑と接する。

グリッド：67区A-10

(国家座標 X=60,638・639 Y=-105,601~603)

検出状況：天明泥流下に、畝間がAs-Aで埋没した状態で検出された。

面積：(3.06)m²

畑面の状況：天明泥流下面は、凹凸をなして荒れ、畝間は確認されていない。

その他：調査範囲際となる東端に、K 12-1号円形平坦面がある。なお、本畑の東側は、平成9年度I区調査においてK 12号畑(畝間は検出されていない)として調査しており、本畑はK 12号畑の南西隅にあたる。

3 円形平坦面

円形平坦面とは、畑に付随した円形を呈した平坦な箇所を称している。本遺跡の以前の調査においても、畑に付随した円形平坦面が数多く検出されている。この円形平坦面については、先に刊行された『久々戸遺跡・中棚Ⅱ遺跡・下原遺跡・横壁中村遺跡』2003(財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第319集)、『上郷岡原遺跡(1)』2007(群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第410集)で考察され詳しい。

以下、各畑の区画ごとに記載する。(第20表 円形平坦面一覧表を参照)

1号円形平坦面 (第69図、PL.24)

A区の調査で、天明泥流下の1号畑内に検出した。

位置：中グリッド68区の北東付近に位置し、1号畑の南北方向の中軸南寄りにある。

グリッド：68区E-20

(国家座標 X=60,678~680 Y=-105,717~719)

規模：径1.90m

平坦面の状況：畑面と同様に、礫の散乱と凹凸により遺存状態は良くない。平坦面内にAs-Aの堆積はなかった。外縁の溝は不明。

2号円形平坦面（第69図、PL.24）

A区の調査で、天明泥流下の2号畑内に検出した。

位置：中グリッド68区の中央東端付近に位置し、2号畑の南北方向の中軸上にある。

グリッド：68区B・C-17・18

（国家座標 X=60,666~668 Y=-105,706~708）

規模：径2.40m

平坦面の状況：畑面と同様に遺存状態は良くないが、平坦面の外縁に円形の溝をもち、平坦面内に畝間は確認されていない。外縁の溝は、畝間と同様にAs-Aで埋没していた。

3A号円形平坦面（第69図、PL.24）

A区の調査で、天明泥流下の3号畑内に検出した。

位置：中グリッド67区の中央西端付近に位置し、3号畑の北西側にある。

グリッド：67区X-17・18

（国家座標 X=60,666~668 Y=-105,693~695）

規模：径1.97m

平坦面の状況：畑面と同様に遺存状態は良くないが、平坦面の外縁に円形の溝をもち、平坦面内に畝間は確認されていない。外縁の溝は、畝間と同様にAs-Aで埋没していた。

3B号円形平坦面（第69図、PL.24）

A区の調査で、天明泥流下の3号畑内に検出した。

位置：中グリッド67区の中央西寄り付近に位置し、3号畑の東端にある。

グリッド：67区T-16

（国家座標 X=60,661~663 Y=-105,674~676）

規模：径1.99m

平坦面の状況：畑面と同様に遺存状態は良くないが、平坦面の外縁に円形の溝をもち、平坦面内にも畝間を検出している。外縁の溝は、畝間と共にAs-Aで埋没していた。溝は浅く、畝間の方が明瞭である。

4号円形平坦面（第69図、PL.24）

A区の調査で、天明泥流下の4号畑内に検出した。

位置：中グリッド67区の北西付近に位置し、4号畑北辺中央にある2号道の東隣にある。

グリッド：67区U-21

（国家座標 X=60,680~682 Y=-105,680・681）

規模：径1.54m

平坦面の状況：畑面と同様に遺存状態は極めて悪く、平坦面の外縁に円形の溝をもち、平坦面内に畝間は確認されていない。外縁の溝は、畝間と同様にAs-Aで埋没している。

6号円形平坦面（第69図、PL.24）

A区の調査で、天明泥流下の6号畑内に検出した。

位置：中グリッド67区の北西付近に位置し、6~8号畑の東西方向の中軸上で、6号畑の東端にある。

グリッド：67区T-23・24

（国家座標 X=60,691~693 Y=-105,674~676）

規模：径1.88m

平坦面の状況：畑面と同様に遺存状態は極めて悪く、円形にAs-Aが堆積した状況で検出した。外縁の溝や、平坦面内に畝間は確認されていない。

7号円形平坦面（第69図、PL.24）

A区の調査で、天明泥流下の7号畑内に検出した。

位置：中グリッド67区の北西隅付近に位置し、6~8号畑の東西方向の中軸上にある。

グリッド：77区V-24・25

（国家座標 X=60,691~693 Y=-105,685~687）

規模：径1.88m

平坦面の状況：畑面と同様に遺存状態は極めて悪く、円形にAs-Aが堆積した状況で検出した。外縁の溝は不明瞭であるが存在し、平坦面内に畝間は確認されていない。

8号円形平坦面（第69図）

A区の調査で、天明泥流下の8号畑内に検出した。

位置：中グリッド67区の北西隅に位置し、北半は77区へ跨がり、6~8号畑の東西方向の中軸上にある。

グリッド：67・77区X-25・1

（国家座標 X=60,699~701 Y=-105,693・694）

規模：径2.06m

平坦面の状況：畑面と同様に遺存状態は極めて悪く、平坦面の外縁に円形の浅い溝をもち、平坦面内に畝間は

確認されていない。外縁の溝は、畝間と同様にAs-Aで埋没している。

9号円形平坦面（第55図）

A区の調査で、天明泥流下の9号畑内の調査範囲西際に検出した。

位置：中グリッド78区の南東隅付近に位置し、西半は調査範囲外となる。

グリッド：78区B-2・3

（国家座標 X=60,706~708 Y=-105,704・705）

規模：径(2.0)m

平坦面の状況：畑面と同様に遺存状態は悪く、平坦面の外縁に円形の溝をもち、平坦面内に畝間は確認されていない。外縁の溝は、畝間と同様にAs-Aで埋没している。

12号円形平坦面（第69図、PL.24）

A区の調査で、天明泥流下の12号畑内に検出した。

位置：中グリッド77区の南西隅付近に位置し、12号畑の西寄りにある。

グリッド：77区U-7・8

（国家座標 X=60,727・728 Y=-105,680~682）

規模：径1.68m

平坦面の状況：畑面と同様に遺存状態は悪い。平坦面の外縁にやや楕円状に溝をもち、平坦面内に畝間は確認されていない。外縁の溝は、畝間と同様にAs-Aで埋没している。

13号円形平坦面（第69図、PL.24）

A区の調査で、天明泥流下の13号畑内に検出した。

位置：中グリッド77区の南西隅付近に位置し、13号畑の西寄りにある。

グリッド：77区V-4・5

（国家座標 X=60,715~717 Y=-105,685・686）

規模：径1.73m

平坦面の状況：畑面と同様に遺存状態は悪い。平坦面の外縁にやや楕円状に溝をもち、平坦面内に畝間は確認されていない。外縁の溝は、畝間と同様にAs-Aで埋没している。

15号円形平坦面（第69図）

A区の調査で、天明泥流下の15号畑内に検出した。

位置：中グリッド77区の南西側に位置し、15号畑の西寄りにある。

グリッド：77区S-7

（国家座標 X=60,724・725 Y=-105,672・673）

規模：径1.62m

平坦面の状況：畑面と同様に遺存状態は極めて悪い。やや楕円状にAs-Aが堆積した状況で検出した。外縁の溝や、平坦面内に畝間は確認されていない。

19号円形平坦面（第69図、PL.24）

B区の調査で、天明泥流下の19号畑内に検出した。

位置：中グリッド67区の中央東端付近に位置し、19号畑の中央にある。

グリッド：67区C-11・12

（国家座標 X=60,643・644 Y=-105,610・611）

規模：径1.76m

平坦面の状況：畑面と同様に遺存状態は悪い。円形にAs-Aが堆積した状況で検出した。外縁の溝や、平坦面内に畝間は確認されていない。

21号円形平坦面（第69図、PL.24）

B区の調査で、天明泥流下の21号畑内に検出した。

位置：中グリッド67区の中央西端付近に位置し、21号畑の中央東寄りにある。

グリッド：67区J-11

（国家座標 X=60,642・643 Y=-105,634~636）

規模：径1.97m

平坦面の状況：畑面と同様に遺存状態は悪い。不整円形状にAs-Aが堆積した状況で検出した。外縁の溝や、平坦面内に畝間は確認されていない。

22号円形平坦面（第69図、PL.24）

B区の調査で、天明泥流下の22号畑内に検出した。

位置：中グリッド67区の中央やや南寄りに位置し、22号畑の南東端にある。

グリッド：67区N・O-10

（国家座標 X=60,637・638 Y=-105,654~656）

規模：径1.33m

平坦面の状況：やや楕円状にAs-Aが堆積した状況で検出した。外縁の溝や、平坦面内に畝間は確認されていない。

23号円形平坦面（第70図、PL.25）

B区の調査で、天明泥流下の23号畑内に検出した。

位置：中グリッド67区のほぼ中央に位置し、23号畑の東端にある。

グリッド：67区O・P-15

（国家座標 X=60,657~659 Y=-105,658~660）

規模：径2.10m

平坦面の状況：円形にAs-Aが堆積した状況で検出した。外縁の溝や、平坦面内に畝間は確認されていない。

26号円形平坦面（第70図、PL.25）

B区の調査で、天明泥流下の26号畑内に検出した。

位置：中グリッド67区の中央やや西寄りに位置し、26号畑の中央南側にある。

グリッド：67区Q・R-16

（国家座標 X=60,661~663 Y=-105,667~669）

規模：径2.10m

平坦面の状況：畑面と同様に遺存状態は悪い。円形にAs-Aが堆積した状況で検出した。外縁の溝や、平坦面内に畝間は確認されていない。

27号円形平坦面（第70図、PL.25）

B区の調査で、天明泥流下の27号畑内に検出した。

位置：中グリッド67区の中央北東寄りに位置し、27・28・32号畑の東西方向の中軸上で、27号畑の中央付近にある。

グリッド：67区F・G-18

（国家座標 X=60,669~671 Y=-105,622~624）

規模：径1.63m

平坦面の状況：畑面と同様に遺存状態は極めて悪い。平坦面の外縁にやや楕円状に溝をもち、平坦面内に畝間は確認されていない。外縁の溝は、畝間と同様にAs-Aで埋没している。

28号円形平坦面（PL.25）

B区の調査で、天明泥流下の28号畑内に検出した。

位置：中グリッド67区の中央北東寄りに位置し、27・28・32号畑の東西方向の中軸上で、28号畑の中央付近にある。

グリッド：67区H-19

（国家座標 X=60,673~675 Y=-105,629~631）

規模：径1.85m

平坦面の状況：畑面と同様に遺存状態は極めて悪く、平坦面の外縁溝の痕跡を確認した。詳細は不明。

32号円形平坦面（第70図、PL.25）

B区の調査で、天明泥流下の32号畑内に検出した。

位置：中グリッド67区の中央北寄りに位置し、27・28・32号畑の東西方向の中軸上で、32号畑の西端にある。

グリッド：67区K-20・21

（国家座標 X=60,679~681 Y=-105,641~643）

規模：径2.03m

平坦面の状況：畑面と同様に遺存状態は極めて悪い。平坦面の外縁にやや楕円状に溝をもち、平坦面内に畝間は確認されていない。外縁の溝は、畝間と同様にAs-Aで埋没している。

33号円形平坦面（第70図、PL.25）

B区の調査で、天明泥流下の33号畑内に検出した。

位置：中グリッド67区の中央北端付近に位置し、27・28・32号畑の東西方向の中軸の延長上にあたり、33号畑の西端にある。

グリッド：67区N-22・23

（国家座標 X=60,686~688 Y=-105,653）

規模：不明

平坦面の状況：畑面と同様に遺存状態は極めて悪く、平坦面の外縁溝の一部を確認した。詳細は不明。

35号円形平坦面（第70図、PL.25）

C区の調査で、天明泥流下の35号畑内に検出した。

位置：中グリッド78区の南西付近に位置し、35号畑の中央にある。

グリッド：78区S-3

（国家座標 X=60,708・709 Y=-105,772~774）

規模：径2.10m

平坦面の状況：畑面と同様に遺存状態は極めて悪い。平

平坦面の外縁にやや楕円状に溝をもち、平坦面内に畝間は確認されていない。外縁の溝は、畝間と同様にAs-Aで埋没している。

36-1号円形平坦面（第70図）

C区の調査で、天明泥流下の36号畑内に検出した。

位置：中グリッド78区の南西付近に位置し、36号畑の東寄りにある。

グリッド：68区U・V-25

（国家座標 X=60,697~699 Y=-105,782~784）

規模：径1.65m

平坦面の状況：畑面と同様に遺存状態は極めて悪い。平坦面の外縁に円形に溝をもち、平坦面内に畝間は確認されていない。外縁の溝は、畝間と同様にAs-Aで埋没している。

36-2号円形平坦面（第70図、PL.25）

28年7月調査で、天明泥流下の36号畑内に検出した。調査時は38号平坦面として調査したが、整理段階で本遺構名に変更した。

位置：中グリッド79区の南東隅に位置し、L字状となる36号畑の西寄りにある。

グリッド：79区A-1

（国家座標 X=60,701~703 Y=-105,801~803）

規模：径1.6m

平坦面の状況：畑面と同様に遺存状態は悪く、楕円形を呈する平坦面の外縁溝の痕跡を確認した。平坦面上には畝間があり、外縁溝は浅い。

43号円形平坦面（第70図、PL.25）

C区の調査で、天明泥流下の43号畑内に検出した。

位置：中グリッド68区の北西側北端付近に位置し、43号畑の北寄りにある。

グリッド：68区Q・R-23

（国家座標 X=60,688~690 Y=-105,767~769）

規模：径1.87m

平坦面の状況：遺存状態は極めて悪く、平坦面の外縁溝の痕跡を確認した。平坦面上には畝間があり、外縁溝は浅い。

46号円形平坦面（第70図、PL.25）

C区の調査で、天明泥流下の46号畑内に検出した。

位置：中グリッド68区の中央北端付近に位置し、46号畑の調査範囲南際にある。

グリッド：68区M・N-21

（国家座標 X=60,681・682 Y=-105,751・752）

規模：径1.90m

平坦面の状況：平坦面の外縁にやや楕円状に溝をもち、平坦面内に畝間は確認されていない。外縁の溝は、畝間と同様にAs-Aで埋没している。

49号円形平坦面（第70図、PL.25）

C区の調査で、天明泥流下の49号畑内に検出した。

位置：中グリッド68区の中央北東寄りに位置し、49号畑の中央付近にある。

グリッド：68区F-18・19

（国家座標 X=60,671・672 Y=-105,720~722）

規模：径1.76m

平坦面の状況：平坦面の外縁にやや楕円状に溝をもち、平坦面内に畝間は確認されていない。外縁の溝は、畝間と同様にAs-Aで埋没している。

51号円形平坦面（第70図）

B区拡張調査で、天明泥流下の51号畑内に検出した。

位置：中グリッド67区の中央南西寄りに位置し、51号畑の南東端にある。

グリッド：67区P-8

（国家座標 X=60,629・630 Y=-105,660・661）

規模：径1.16m

平坦面の状況：円形にAs-Aが堆積した状況で検出した。外縁の溝や、平坦面内に畝間は確認されていない。

52号円形平坦面（第70図）

B区拡張調査で、天明泥流下の52号畑内に検出した。

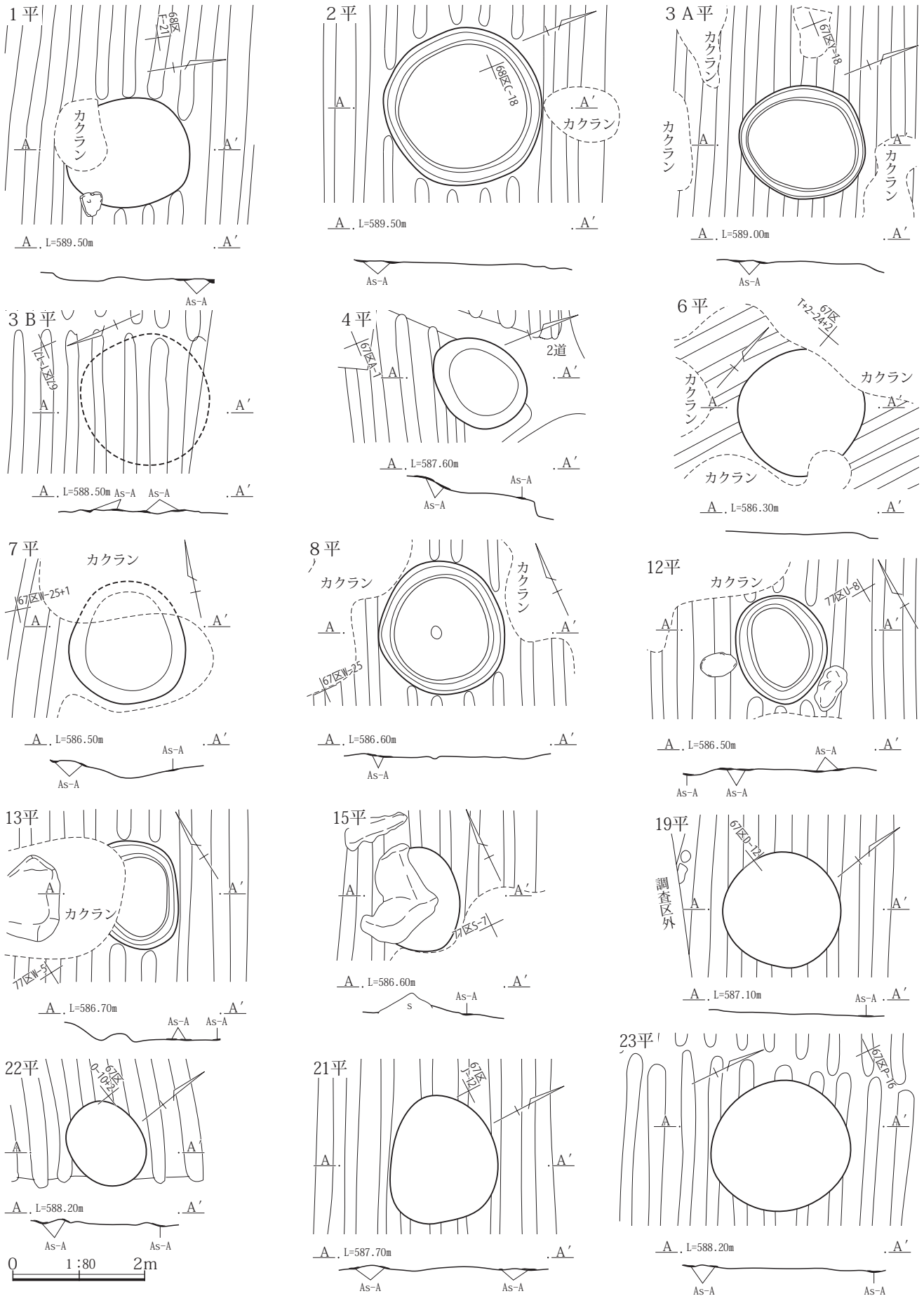
位置：中グリッド67区の中央南西寄りに位置し、52号畑の東端にある。

グリッド：67区P・Q-7・8

（国家座標 X=60,626~628 Y=-105,662~664）

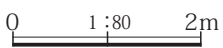
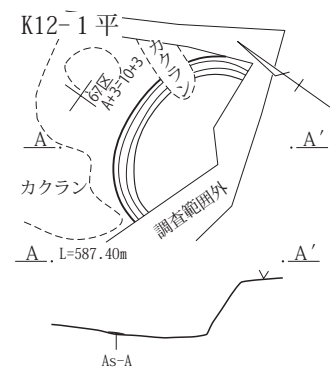
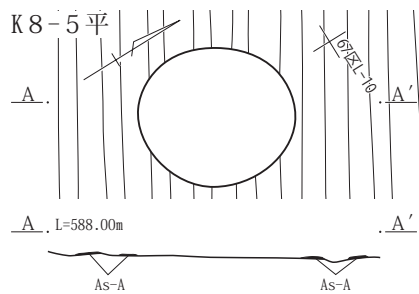
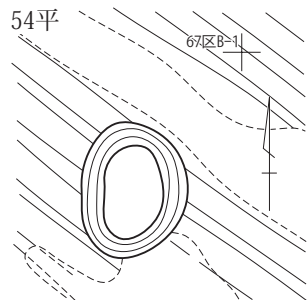
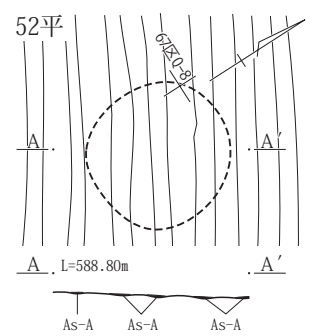
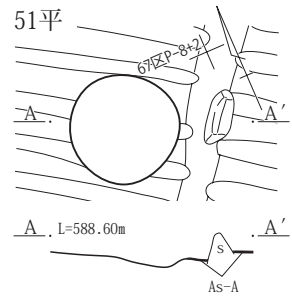
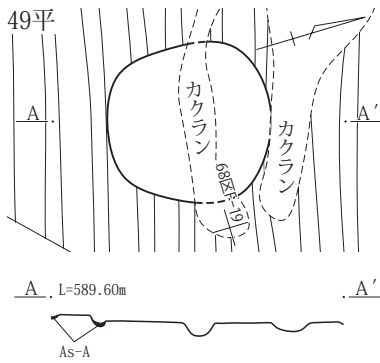
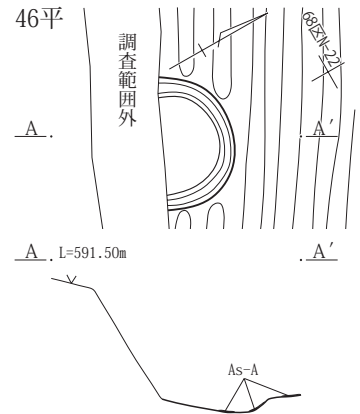
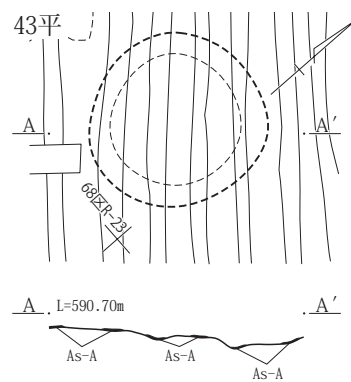
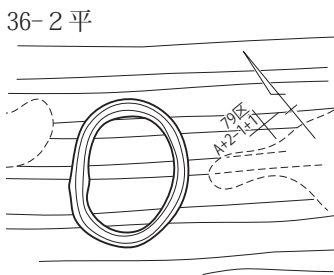
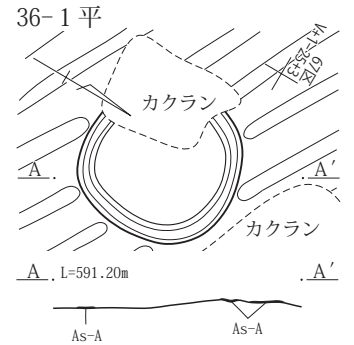
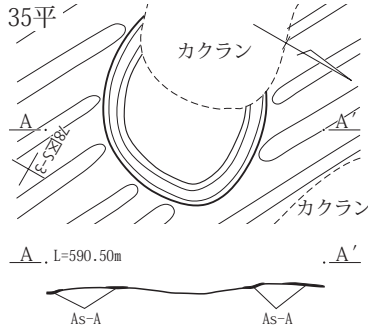
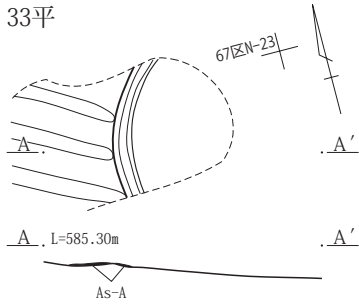
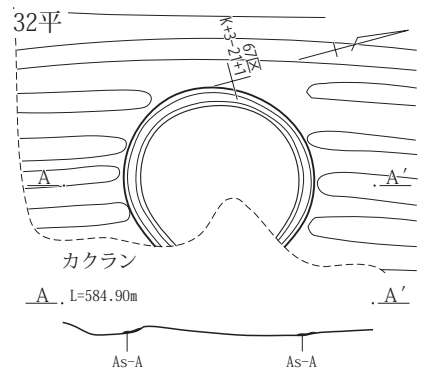
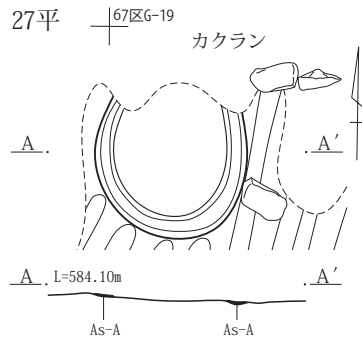
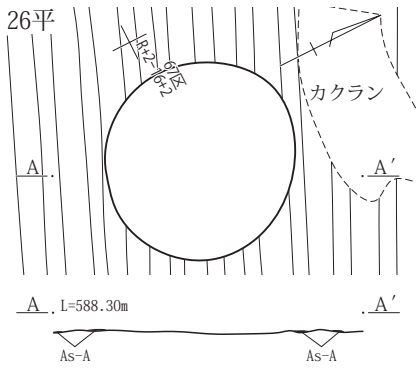
規模：径1.52m

平坦面の状況：遺存状態は極めて悪く、平坦面の外縁溝



第69図 円形平坦面 平・断面図1

第3章 久々戸遺跡



第70図 円形平坦面 平・断面図2

の痕跡を確認した。平坦面上には畝間があり、外縁溝は浅い。

54号円形平坦面 (第70図)

28年7月調査で、天明泥流下の36号畑内に検出した。調査時は37号平坦面として調査したが、整理段階で本遺構名に変更した。

位置：中グリッド69区の北東隅付近に位置し、三角形を呈する54号畑の中央にある。

グリッド：69区B-25

(国家座標 X=60,697~699 Y=-105,804・805)

規模：径1.42m

平坦面の状況：畑面と同様に遺存状態は悪く、楕円形を呈する平坦面の外縁溝を確認した。平坦面内に畝間は確認されていない。外縁の溝は浅く、畝間と同様にAs-Aで埋没している。

K8-5号円形平坦面 (第70図、PL.25)

B区の調査で、天明泥流下のK8-5号畑内に検出した。

位置：中グリッド67区の中央南寄りに位置し、K8-1・2・5号畑の中央付近にある。

グリッド：67区K・L-9

(国家座標 X=60,633~635 Y=-105,643・644)

規模：径1.68m

平坦面の状況：円形にAs-Aが堆積した状況で検出した。

外縁の溝や、平坦面内に畝間は確認されていない。

K12-1号円形平坦面 (第70図)

B区の調査で、天明泥流下のK12号畑内に検出した。

位置：中グリッド67区の中央東端に位置し、今調査範囲の最東端にある。

グリッド：67区A-10

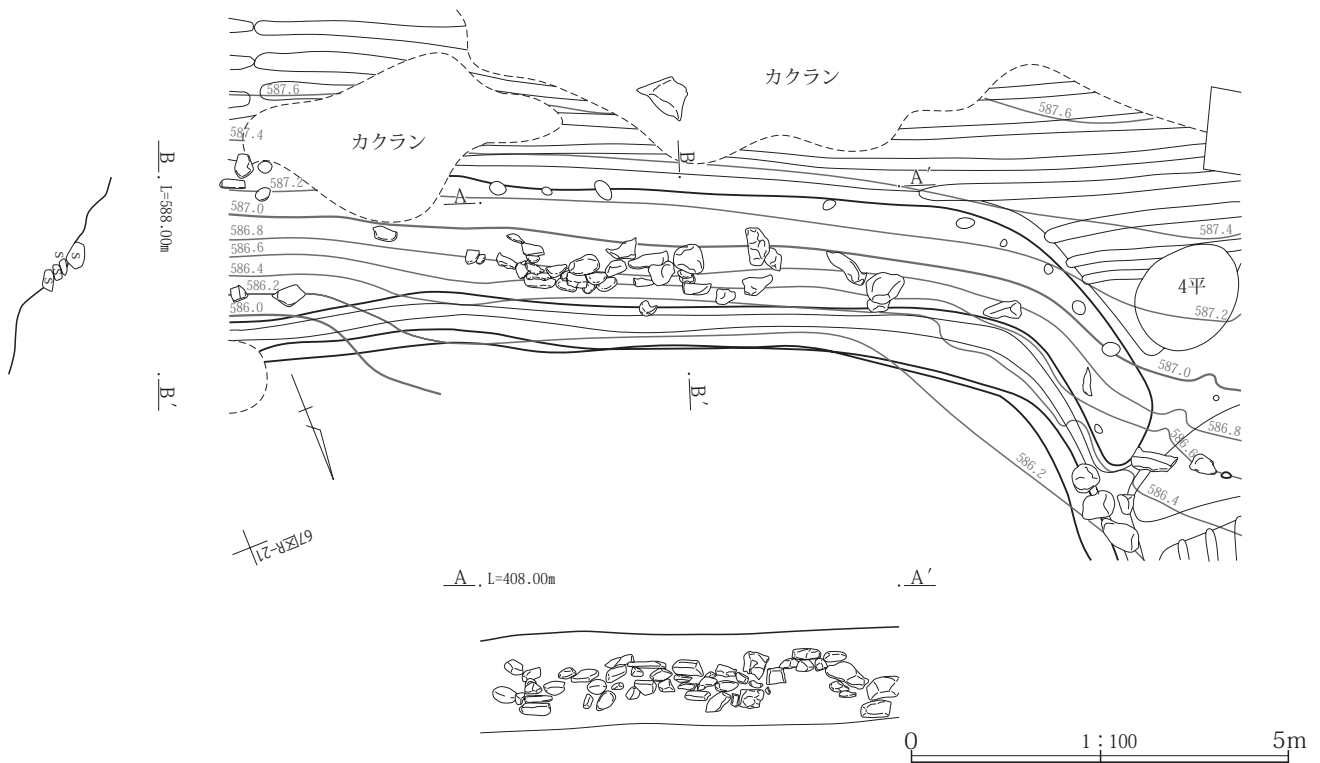
(国家座標 X=60,637・638 Y=-105,601~603)

規模：径2.14m

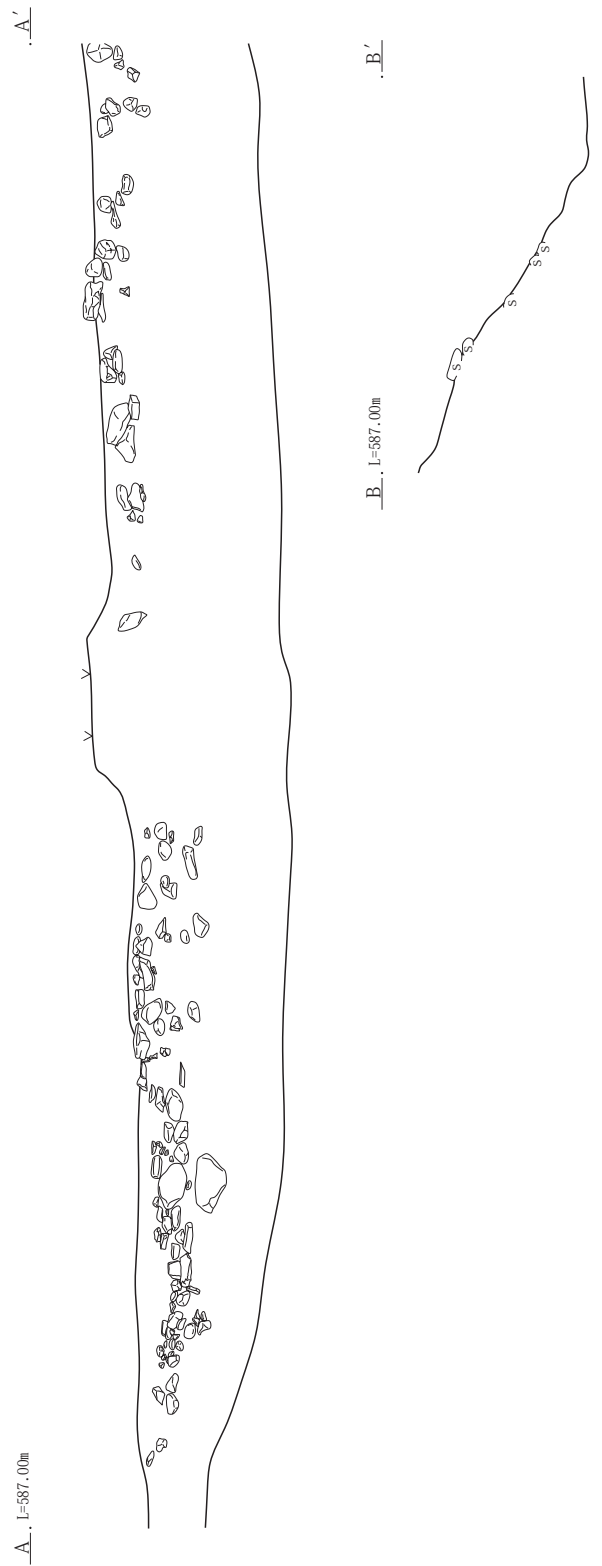
平坦面の状況：遺存状態は極めて悪く、平坦面の外縁溝の痕跡を確認した。なお、平成11年度IV区調査において、僅かではあるが本平坦面の続きを検出している。

4 段差・石垣

先述した天明泥流下に検出された畑は、段差および石垣によって大きく区画されている。斜面地であるが故に、耕作地の確保を目的とした造作であり、現在においても見られる耕地の姿である。ここで扱う段差・石垣は、今調査で代表される箇所であり、他に多くの畑境に見られ



第71図 1号石垣 平面・立面・断面図1



第72図 2号石垣 平面・立面・断面図2

る細かな段差については割愛した。なお、記載にあたっては、調査時の遺構名をそのまま使用した。

段差

今調査範囲内での最も代表される段差は、A・B調査区を大きく南北に分ける様に、東西方向に延びる段差である。この段差により、調査範囲の南半が上段、北半が下段となる。詳細にみると、4号畑の北辺中央部において、西側から直線的に延びる段差と、東側から北側へL字状に屈曲して延びる段差とが交差し、その交点部はL字状屈曲部のやや北側に在り若干食い違う。この段差の比高差は、調査範囲の東端で1.9m、交点部付近で約1.0m、調査範囲の西端で0.5mを測る。特に、比高差のある下段畑16・30・32・28・27号畑が面する急斜面には、石垣が組まれていたようで、残存する石垣の西側部分を1号石垣、東側部分を2号石垣として調査した。また、段差の下段縁には1号道、交点部には段差を北側から登り上げる2号道が通る。

さらに、PL.26に示したように、石垣をもたない西側から延びる段差の上・下段縁には、柵列状に小ピットが並ぶ(調査時は2号柵列)。同様な小ピットは、石垣をもつ段差の上段縁にも確認されている。畑境の段差縁に位置するこれらの小ピット列が、何を目的としたかは不明で、むしろ柵列以外の造作も考えられよう。

1号石垣 (第71図、PL.26・27)

A区の調査で、天明泥流下に検出した。東側から西側に直進して北側へL字状に屈曲して延びる段差の北急斜面保護の石垣であるが、石垣の大半は崩落し、残存する西側部分を1号石垣とした。

グリッド：67区S・T-20・21

(国家座標 X=60,676~680 Y=-105,627~676)

石垣方向：N-65°-W

規模：長さ5.4m 高さ1.2m

石垣の状況：畑面の造成に伴う段差急斜面を保護する石垣で、20~40cm前後の大小の河原石(垂円礫)を積み上げる。泥流による崩落がひどく、比較的良好な箇所では、4~5段の石積みを確認することができた。石積みは、野面積みである。

その他：2号道の段下縁にも大型礫が残存していること

から、石垣の西側は2号道まで続いていたものと考えられる。なお、L字状に屈曲して北側へ延びる低段差部分には、石垣は設けられていない。

2号石垣(第72図、PL.27)

B区の調査で、天明泥流下に検出した。先述の1号石垣から続く、東側の残存部分である。

グリッド：67-D~I-15・16

(国家座標 X=60,656~660 Y=-105,612~632)

石垣方向：N-70°-W

規模：長さ18.7m 高さ2.2m 3段積み

石垣の状況：1号石垣と同様で、20~60cm前後の大小の河原石(垂円礫)を積み上げる。泥流による崩落がひどく、石垣の下半はほとんど残存していない。比較的良好な箇所で、3~5段の石積みを確認することができた。石積みは、野面積みである。

その他：石垣の東端は不明であるが、平成15年度調査におけるトレンチの状況からすると、斜面が続いていることは明らかである。

5 道遺構

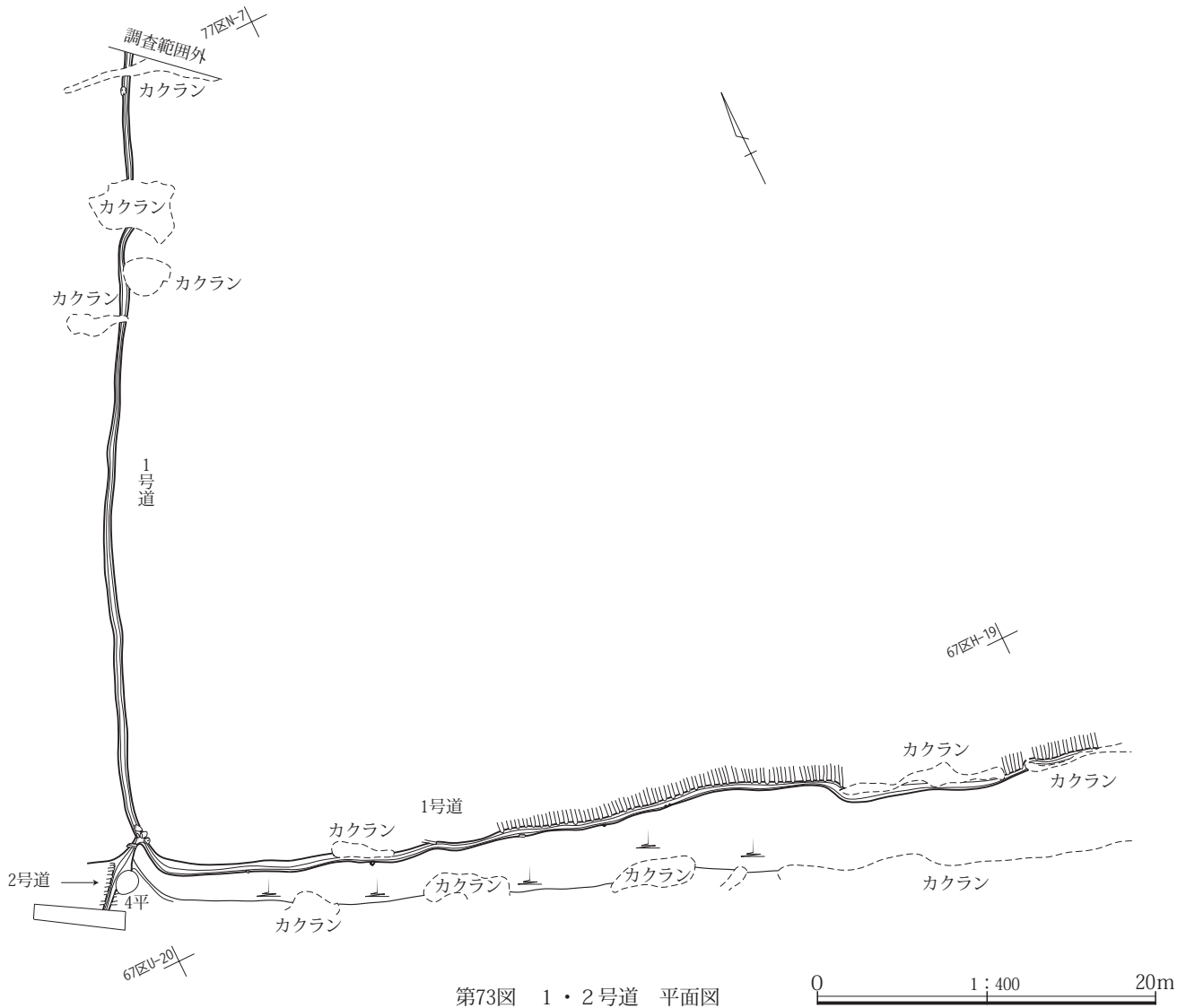
天明泥流下に検出された道は、以前の調査においても多くある。その最も代表的な道に、平成11年度調査で確認された「草津みち」がある。この「草津みち」は、大戸宿・関所や大須賀宿を経た信州街道から分岐し、吾妻川に架かる琴橋へ通じる道で、本遺跡の南側斜面際(山地との変換部)を通る。さらに、泥流下の畑面には、畑区画間を縫うように畑道が検出されている。

今調査で検出された道のほとんどは畑道であり、調査時に遺構名を付した道は1~5号道である。他にも畑道は存在し、以前の調査と合わせ見ると理解できる道もある(例：21・23号畑間の道 PL.28)。

1号道 (第73図、第21表、PL.26・27)

A・B区の調査で、天明泥流下に検出した。先述の石垣をもつ段差の段下縁に在り、段差と共に東側から西側に直進し、2号道付近でL字状に屈曲して北側へ延びる。今調査で最下段面となる16~18・27~33号畑の周囲を、大きく取り巻くようにある。

グリッド：67・77区H~T-17~25、O~S-1~7



第73図 1・2号道 平面図

(国家座標 X=60,664~724 Y=-105,628~676)

走行方向：N—22°—E、N—73°—W

規模：長さ99.8m 幅0.32~0.85m

道の状況：面する畑縁を細かな蛇行を繰り返しながらも、概ね直線的に延びる。道面は、面する畑畝よりもやや低く、細い一筋の溝状を呈する。所謂、畑道である。

その他：本道のL字状に屈曲する付近で、2号道が南側へ分岐する。また、北へ延びる本道を境として、西側畑(6・14・15号畑)がやや高い畑面となる。

2号道 (第73図、第21表)

A区の調査で、天明泥流下に検出した。本道は、1号道のL字状に屈曲部付近で、西側から東に延びる段差と1・2号石垣を伴う東側から西へ延びる段差との交差点部(6号畑南東隅部)から分岐し、段差の交差点部際を登り上

げて4号畑内に通じる距離の短い道である。

グリッド：67区T・U—21

(国家座標 X=60,680 Y=-105,676~680)

走行方向：N—49°—E

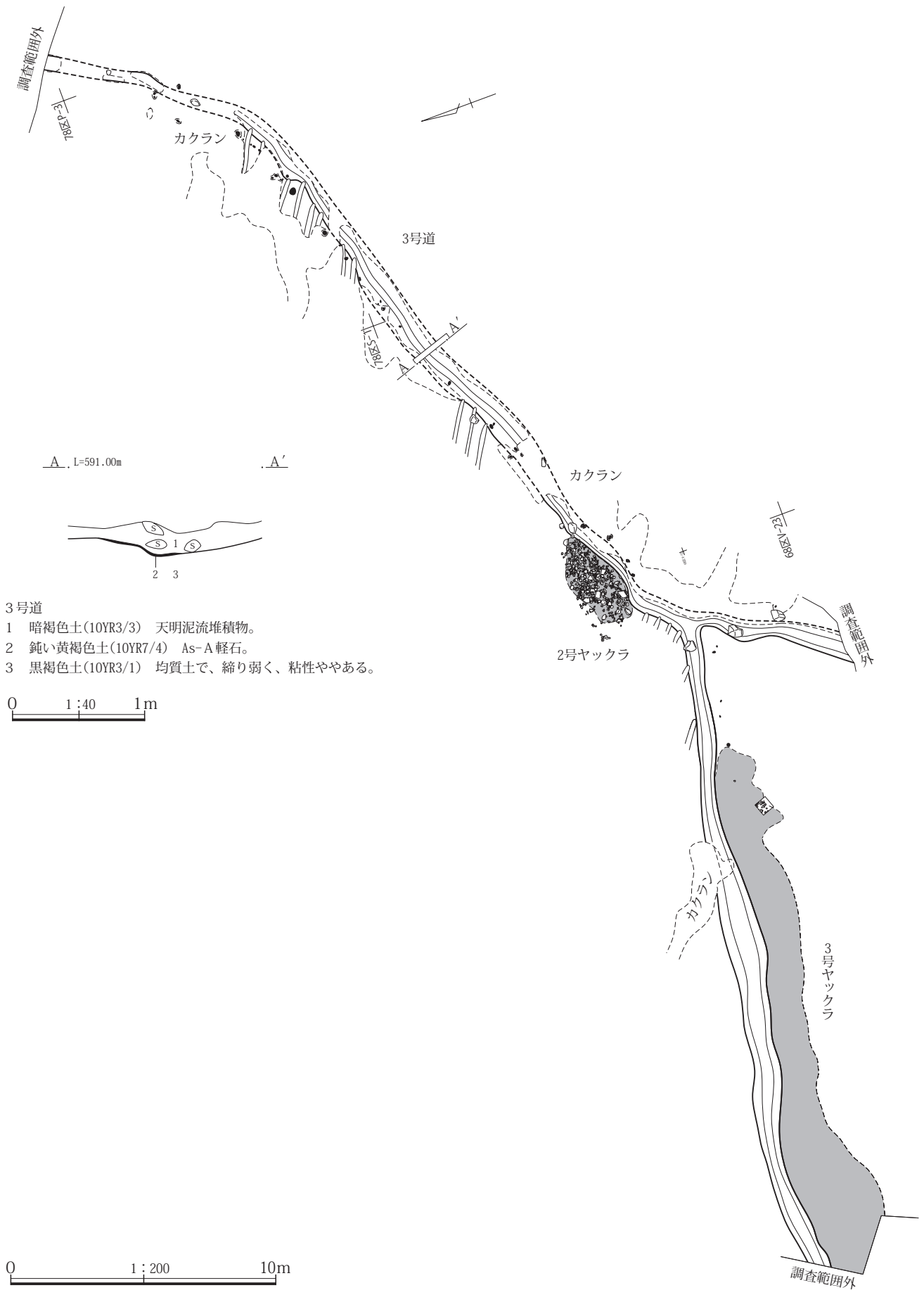
規模：長さ4.6m 幅0.35~1.30m

道の状況：距離が短く、分岐点から段差を登り上げる急坂で、4号畑内へと直線的に延びる。道面の急坂部は段差の交点脇にあり、4号畑内では細い溝状を呈する。所謂、畑道である。

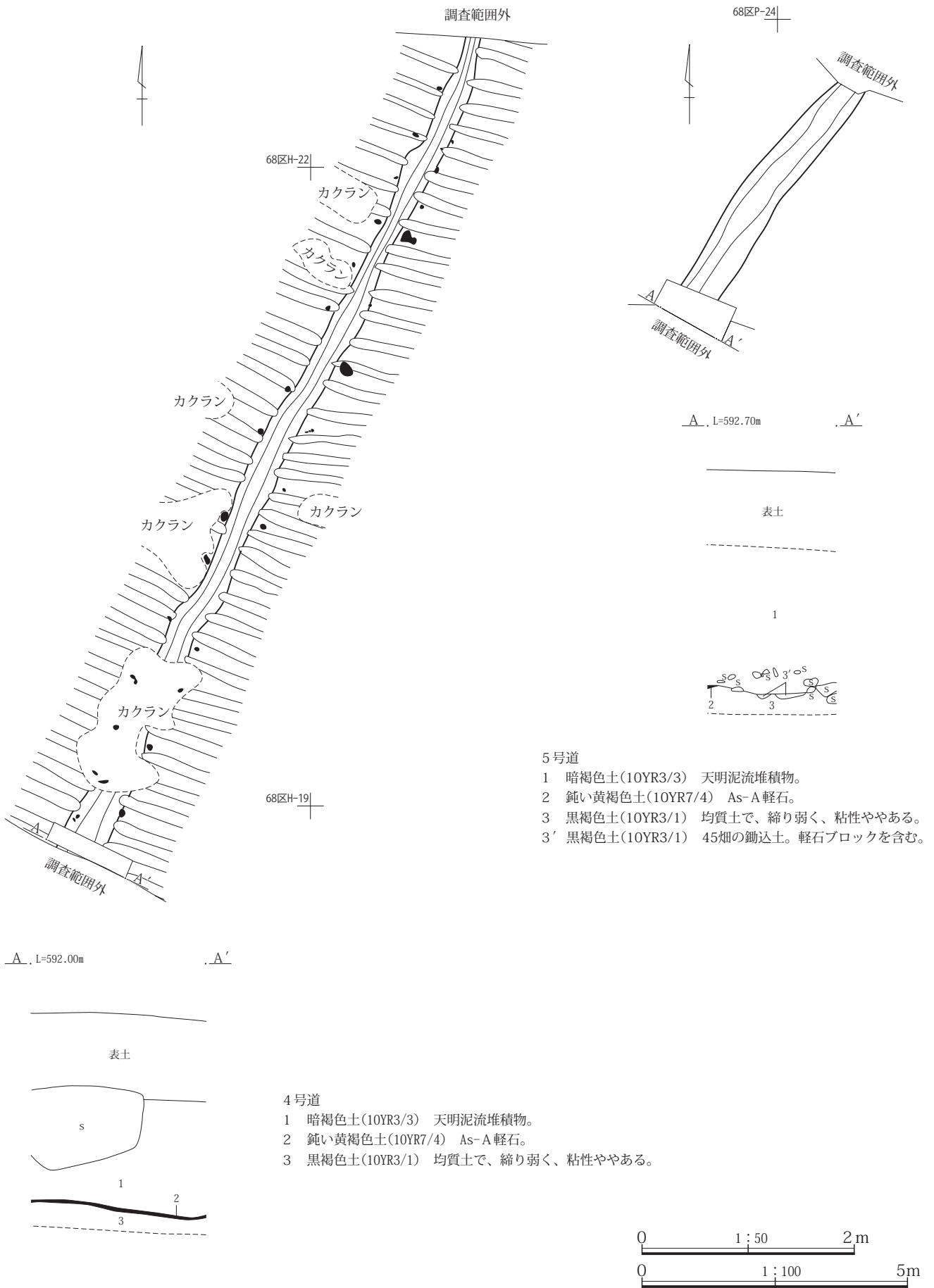
その他：急坂部が階段状であったかは不明。

3号道 (第74図、第21表、PL.28)

27年度C区調査および28年7月で、天明泥流下に検出した。C区を分断するように、北側から緩く蛇行しながら斜めに南側へと延びる道であるが、途中で三つ叉状に



第74図 3号道 平・断面図



第75図 4・5号道 平・断面図

分岐して、さらに南へと延びる道、西へと延びる道となる。この分岐点以北の道沿いには、西側に35・36号畑および2号ヤックラが面し、東側には34・37・39～41号畑が面する。また、分岐点以南の道沿いには、西側に50号畑が面し、東側には37号畑が面する。分岐点以西の道沿いには、北側に36・54・55号畑が面し、南側には斜面状の低い段差となる3号ヤックラが面する。

グリッド：68・78区O～C-22～3

(国家座標 X=60,687～708 Y=-105,758～811)

走行方向：分岐―北 N-63°-E

分岐―南 N-32°-E

分岐―西 N-81°-W

規模：分岐―北 長さ23.2m、幅0.5～0.9m。

分岐―南 長さ9.0m、幅0.5～0.9m

分岐―西 長さ24.5m、幅0.5～1.4m

道の状況：分岐点以北の道は緩やかに大きく蛇行し、分岐点以南および以西はほぼ直線的に延びる。道面は、面する畑畝よりもやや低く、細い溝状を呈する。所謂、畑道である。

その他：本道のうち、分岐点以北の道脇には、植木痕かと思われる小さなピット状の穴が点々と連なっていた。なお、今調査の南側調査区外は、平成7年度調査B・C区が位置し、このB区東端付近に今調査での3号道に続く南へ延びる道と畑、さらにC区西端においても3号道が南へ直線的に延びた道が検出されている。

4号道 (第75図、第21表、PL.28)

C区の調査で、天明泥流下に検出した。検出した距離は短い、等高線に直行するように南北方向に延びる道である。道の両側には、西側に48号畑、東側に1・49号畑が面する。

グリッド：68区G・H-12～22

(国家座標 X=60,668～688 Y=-105,724～732)

走行方向：N-28°-E

規模：長さ16.8m 幅0.3～0.85m

道の状況：直線的に延びる道面は、面する畑よりもやや低く、細い溝状を呈する。所謂、畑道である。

その他：本道の両脇には、植木痕かと思われる小さなピット状の穴が点々と連なっていた。

5号道 (第75図、第21表、PL.28)

C区の調査で、天明泥流下に検出した。検出した距離は短い、等高線に直行するように南北方向に延びる道である。道の両側には、共に幅狭な区画である44・45号畑が面する。

グリッド：68区O～P-22・23

(国家座標 X=60,684～688 Y=-105,756～760)

走行方向：N-37°-E

規模：長さ4.8m 幅0.54～0.82m

道の状況：直線的に延びる道面は、面する畑よりもやや低く、細い溝状を呈する。所謂、畑道である。

その他：道の両側に面する区画は、周辺の畑と異なり畝間は検出されておらず、区画幅もかなり狭い。むしろ、道に面することでの休耕地、ないしは間地である可能性もある。

6 溝

今調査で遺構名を付した溝は、1・2号溝の2条である。この2条の溝は、凡そ0.9mほどの間をもって併走する溝であり、その0.9mほどの溝間が畑境の道で、溝は道に伴う溝である可能性もある。

1・2号溝 (第76図、PL.28)

A区の調査で、天明泥流下に検出した。等高線に直行するように南北方向に併走して延びる溝で、その北端は比高差のある段差際にまで達する。1号溝の西側には2・5号畑、2号溝の東側は段差状に低くなって3・4号畑が面する。

グリッド：67・68区W～B-15～22

(国家座標 X=60,659～689 Y=-105,690～705)

走行方向：N-28°-E

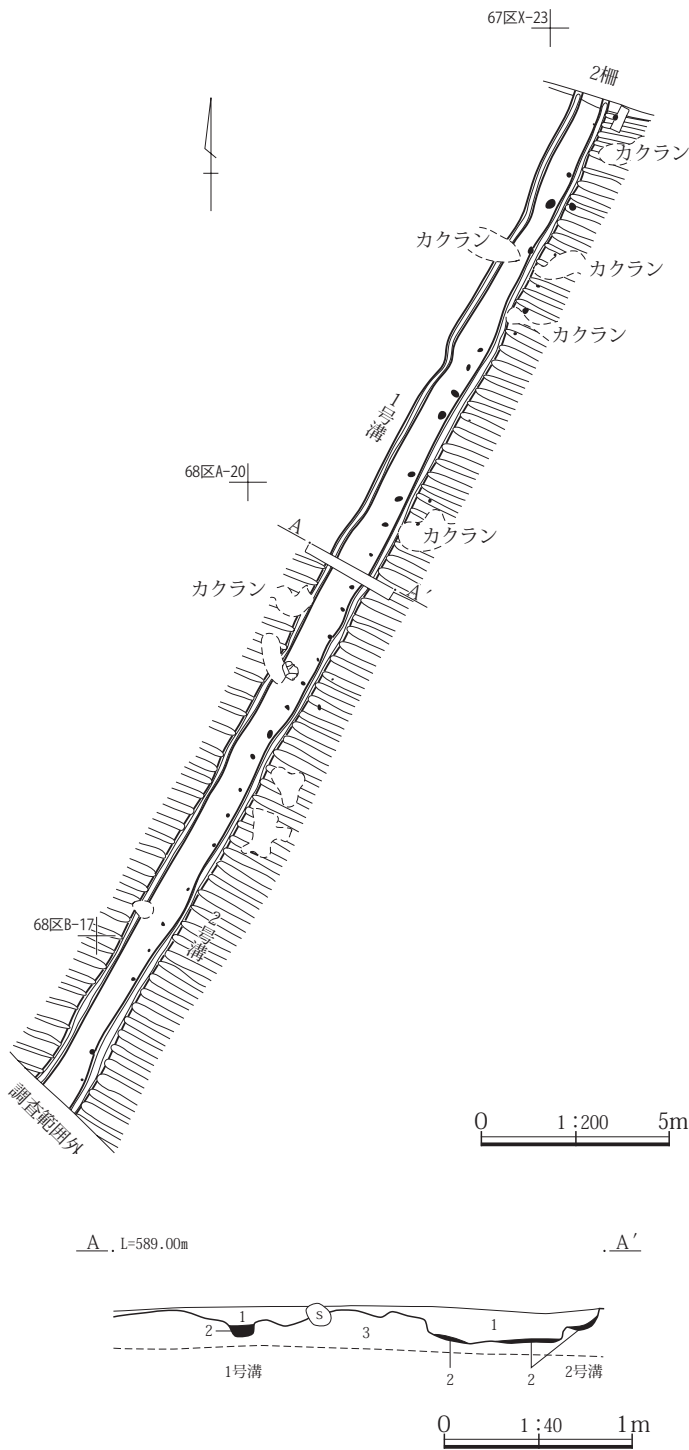
規模：1号溝 長さ29.85m 幅0.15～0.33m

2号溝 長さ30.3m 幅0.14～0.42m

1・2号溝間 0.5～0.9m

溝の状況：ほぼ直線的に併走して延びる両溝は、溝幅も概ね同じで、溝間は凡そ0.9m(最狭0.5m)を測り、溝間の上面は荒れて凹凸がひどい。

その他：2号溝の西脇の溝間上には、2号溝に沿うように杭列状の小ピットが連なる。



- 1・2号溝
- 1 暗褐色土(10YR3/3) 天明泥流堆積物。
 - 2 鈍い黄褐色土(10YR7/4) As-A 軽石。
 - 3 黒褐色土(10YR3/1) 軽石粒等を含まない均質土。締り弱く、粘性ややあり。

第76図 1・2号溝 平・断面図

7 ヤックラ

天明泥流下に検出されたヤックラは、以前の調査においても多く検出されている。ヤックラは、畑内に現れた耕作に邪魔な地山礫を集積した場所であり、畑道沿い、或いは畑際の一角に設けられている。

今調査で遺構名を付したヤックラは、1～3号の3基がある。以前の調査と同様に、いずれも畑道沿いに位置している。

1号ヤックラ (第77図、第22表)

B区の調査で、天明泥流下に検出した。19号畑と20号畑の区画境付近で、19号畑の西辺に位置し、北東から南西に走行する畑道沿いにある。

グリッド：67区D・E-12・13

(国家座標 X=60,647~651 Y=-105,615~618)

形状：不整楕円形

長軸方向：N-32°-E

規模：長さ3.3m 幅1.95m

集積の状況：5cmから人頭大の垂角礫(地山礫)を主体とする集石で、余り厚みはなく、掘り込み等については不明。

2号ヤックラ (第77図、第22表、PL.28)

C区の調査で、天明泥流下に検出した。36号畑と37号畑の区画境付近で、36号畑の東辺に位置し、3号道分岐点の北側の道沿いにある。

グリッド：68区U・V-24

(国家座標 X=60,694~696 Y=-105,782~785)

形状：不整楕円形

長軸方向：N-72°-E

規模：長さ3.5m 幅1.7m 深さ25cm

集積の状況：5cmから人頭大の垂角礫(地山礫)を主体とする集石で、上部は余り厚みはなく、泥流の押圧により周辺にまで礫が散乱している。掘り込みをもち、底面まで地山礫が詰まっている。

3号ヤックラ (第77図、第22表、PL.28)

27年度調査のC区調査で、天明泥流下となる調査範囲最西端の50号畑に接した一部(東側端部)を検出した。その後、28年7月調査で、本ヤックラの主体となる部分を

検出したが、西側端部は調査範囲外へと続く。3号道分岐点の西側へ延びる道沿い南側に位置し、50・53号畑の北辺に接し、面する3号道を挟んだ北側には36・54・55号畑がある。

グリッド：68・69区W～C-23～25

(国家座標 X=60,691～696 Y=-105,791～811)

形状：不整長楕円形

長軸方向：N-85°-W

規模：長さ20.5m 幅1.62m

集積の状況：5cmから人頭大の垂角礫(地山礫)を主体とする集石で、東端では周囲とレベル差が無く周辺にまで礫が散乱し、西側ほど西へ延びる3号道と50・53号畑との落差が徐々に増して段差が形成される。掘り込み等については不明。

8 遺構外出土遺物

遺構外出土の遺物は、泥流層中および畑上面から出土した。出土量は少ないが、遺物には陶磁器類、金属製品類がある。

以下、各遺物を大別して記述する。

1 陶磁器類(第78図1～11、第23表、PL.34)

出土した陶磁器類には、碗、皿、徳利、すり鉢、内耳鍋といった各器種が出土しており、何れも残存度は悪く、細片が多い。

碗 6点を図示した。1は龍泉窯系の青磁碗。2は肥前磁器の染付碗で、4は同青磁染付筒形碗、5は同染付小丸碗。3は瀬戸・美濃陶器の碗。6は製作地不詳で、磁器の染付端反碗である。

皿 7の1点のみで、瀬戸・美濃陶器の志野鉄絵皿である。

徳利 8の1点のみで、瀬戸・美濃陶器の御神酒徳利か。

すり鉢 2点を図示したが、9は瀬戸・美濃陶器の口縁片、10は瀬戸陶器で内面に搔き目をもつ。

内耳鍋 11の1点のみであるが、在地系土器の信濃型内耳鍋か。

2 金属製品類(第78図12～15、第23表、PL.34)

出土した金属製品は少なく、鉄砲玉、鎌、用途不明な金属製品、銭貨がある。

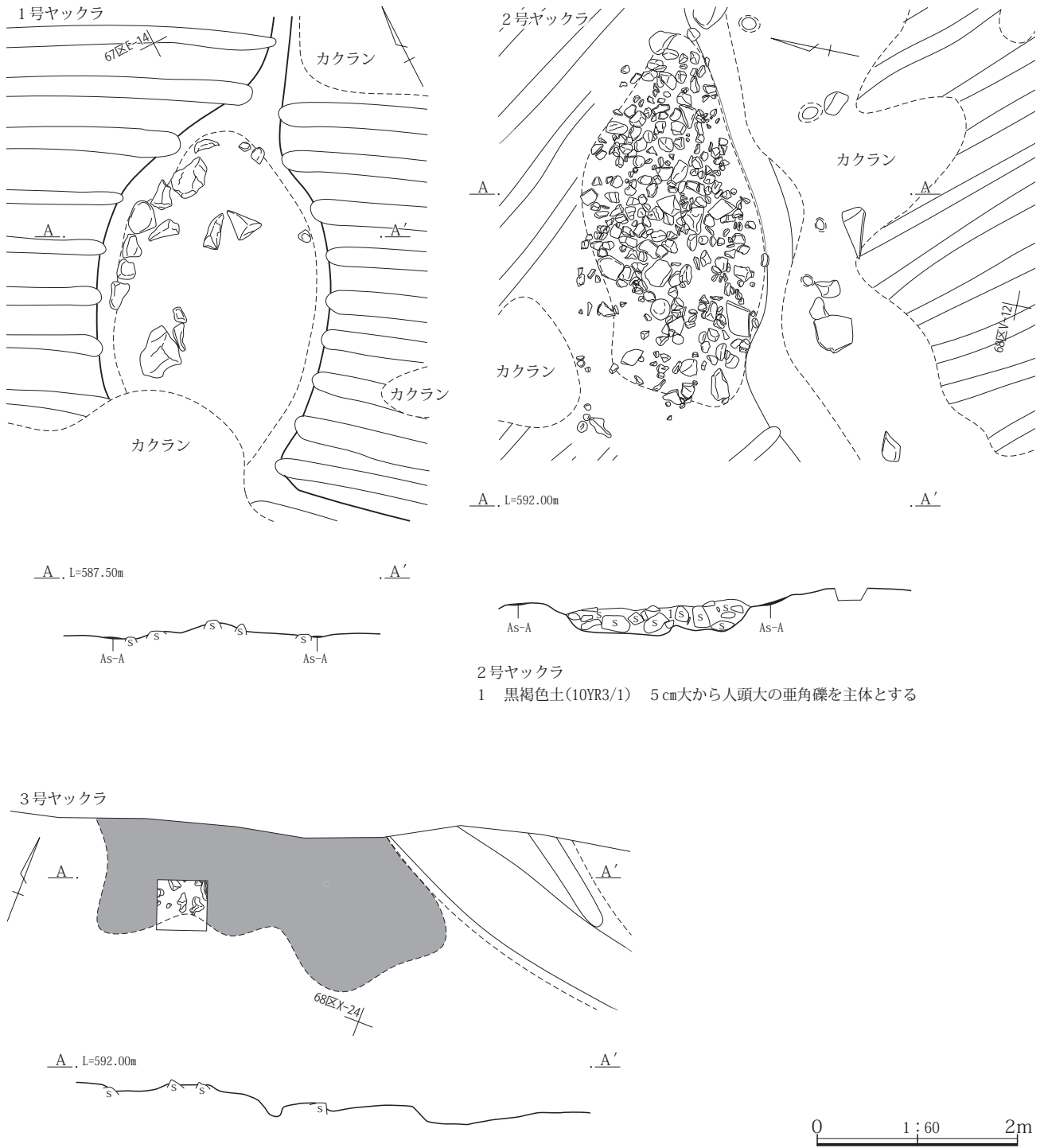
鉄砲玉 12の1点のみで、球状を呈するが凹凸があり、一部の面が潰れる。

鎌 14の1点のみで、鎌の茎部分の破片である。

用途不明な金属製品 13は銅製のコ字状に折り曲げた板状の製品であり、両端部は狭三角状に細くなる。15は断面が長方形となる角棒状の鉄製品。

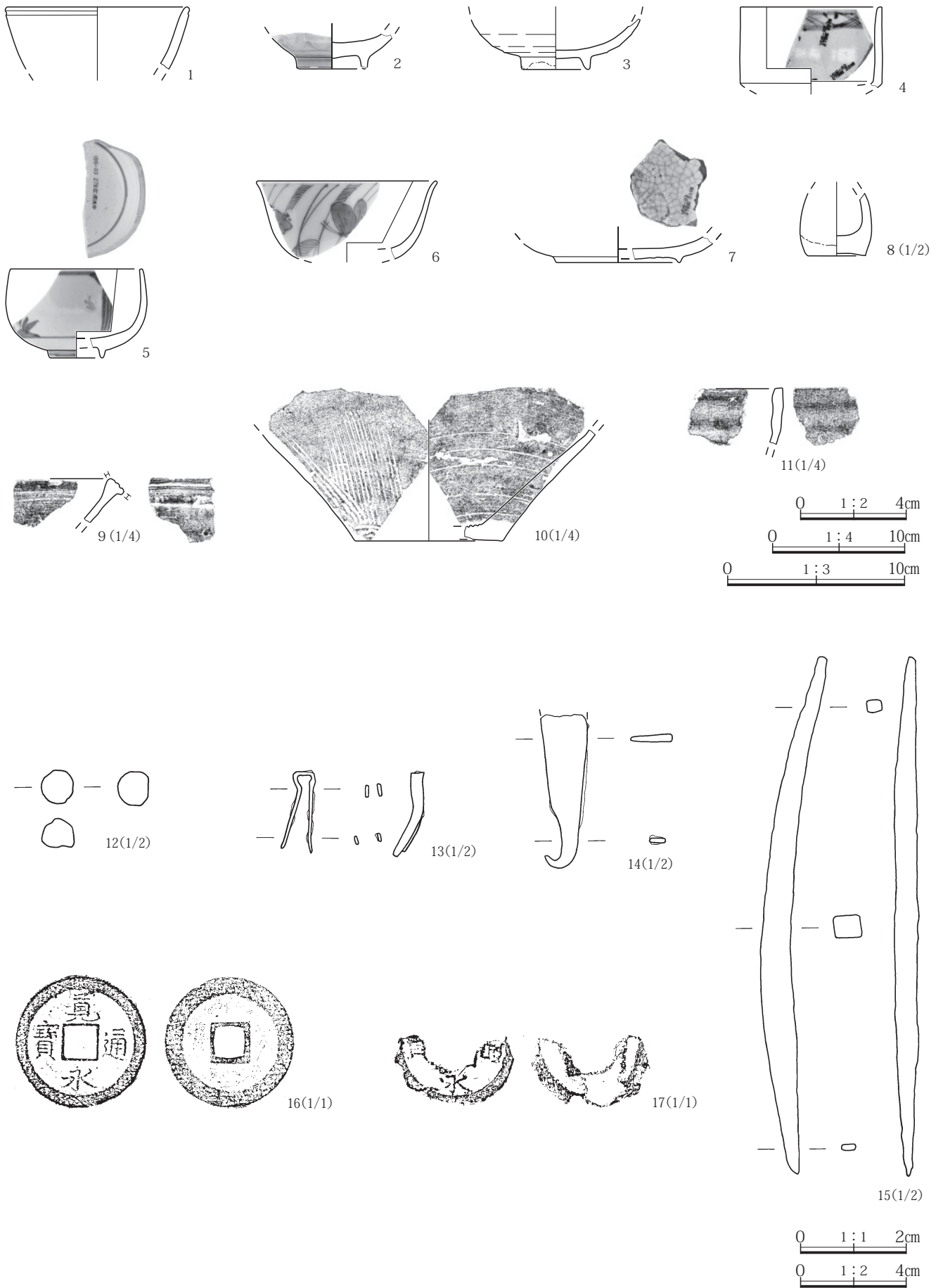
銭貨 16・17の2点で、共に寛永通宝。

第3章 久々戸遺跡



第77図 ヤックラ 平・断面図

第4節 検出された遺構と遺物



第78図 遺構外出土遺物

第3章 久々戸遺跡

第19表 畑一覧表

遺構名	位置		規模(m・㎡)			畝の状況(畝長:m 畝幅・高:cm)				面する遺構(畑)			
	中・小グリッド	国家座標	長軸	短軸	面積	畝方向	畝長	畝間幅	畝間数	北側	段差	南側	西側
1・49号畑	68区 B~H-17~23	X=60,667~691 Y=-105,704~728	25.0	17.5	(335.43)	N-78°-W	17.5	48.0	51	北側	段差	南側	—
										東側	2・5畑	西側	4道
2号畑	67・68区 Y~D-16~20	X=60,660~678 Y=-105,698~715	15.6	13.3	(167.53)	N-67°-W	13.3	48.0	33	北側	5畑	南側	—
										東側	1溝	西側	1・49畑
3・4号畑	67・68区 R~B-13~22	X=60,648~684 Y=-105,668~705	34.5	23.0	(611.76)	N-66°-W	23.0	43.0	80	北側	段差	南側	—
										東側	25・26畑	西側	2溝
5号畑	67・68区 W~C-19~23	X=60,673~689 Y=-105,690~709	13.6	13.1	162.73	N-28°-E	13.6	43.0	15	北側	段差	南側	2畑
										東側	1溝	西側	1・49畑
6・7・8号畑	67・68・77・78区 S~D-22~4	X=60,684~714 Y=-105,673~709	31.0	24.4	591.33	N-23°-E	24.4	48.0~ 50.0	63	北側	10~15畑	南側	段差
										東側	16・17畑	西側	9畑
9号畑	68・78区 A~D-23~3	X=60,690~710 Y=-105,702~715	25.0	7.5	(12.25)	N-14°-E	25.0	50.0	15	北側	—	南側	段差
										東側	8畑	西側	—
10号畑	77・78区 W~A-3~6	X=60,710~723 Y=-105,688~700	10.2	8.8	(86.55)	N-60°-W	8.8	50.0	20	北側	11畑	南側	8畑
										東側	13畑	西側	—
11号畑	77区 T~X-6~11	X=60,720~740 Y=-105,679~695	21.6	7.6	(241.93)	N-60°-W	7.6	52.0	40	北側	—	南側	10畑
										東側	12畑	西側	—
12~15号畑	67・77区 O~X-25~10	X=60,698~738 Y=-105,659~692	30.0	23.5	(646.92)	N-33°-E	30.0	50.0	46	北側	—	南側	6・7・8畑
										東側	1道	西側	10・11畑
16・17号畑	67・77区 N~T-20~4	X=60,677~712 Y=-105,655~678	33.5	13.0	(412.83)	—	—	—	—	北側	18畑	南側	段差・1道
										東側	30・31畑	西側	1道
18号畑	77区 K~Q-1~7	X=60,703~725 Y=-105,643~665	22.6	14.0	(243.36)	N-35°-E	14.0	50.0	46	北側	—	南側	17・31畑
										東側	29畑	西側	1道
19号畑	67区 A~G-10~14	X=60,639~651 Y=-105,603~624	21.2	14.9	(139.63)	N-47°-W	14.9	40.0	30	北側	—	南側	—
										東側	K11畑	西側	20・21畑
20・21号畑	67区 D~L-10~16	X=60,638~662 Y=-105,612~646	24.8	23.4	(442.86)	N-67°-W	24.8	48.0	46	北側	段差	南側	K8-5
										東側	19畑	西側	24畑
22・51・52号畑	67区 M~Q-7~14	X=60,624~652 Y=-105,648~667	26.2	16.7	(265.16)	N-65°-W	16.7	45.0	55	北側	23畑	南側	—
										東側	K8-1・2・5畑	西側	25畑
23・24号畑	67区 J~P-12~18	X=60,645~670 Y=-105,639~663	20.3	17.8	(345.9)	N-66°-W	17.8	45.0	44	北側	段差	南側	22畑
										東側	20畑	西側	26畑
25・26号畑	67区 N~U-12~19	X=60,647~675 Y=-105,654~680	25.7	17.0	(392.0)	N-66°-W	17.0	45.0	51	北側	段差	南側	—
										東側	22~24畑	西側	3・4
27・28・32号畑	67区 F~L-16~23	X=60,663~688 Y=-105,620~644	24.3	20.2	(417.93)	N-18°-E	20.2	45.0~ 47.0	55	北側	29畑	南側	段差・1道
										東側	—	西側	33畑
29号畑	67・77区 H~M-22~2	X=60,685~707 Y=-105,628~648	23.3	12.2	(166.13)	—	—	—	—	北側	—	南側	32・33畑
										東側	—	西側	18・31畑
30・31号畑	67・77区 L~R-19~2	X=60,675~706 Y=-105,647~668	32.8	10.0	(307.26)	N-60°-W	10.0	45.0~ 50.0	67	北側	18畑	南側	1道
										東側	29・33畑	西側	16・17畑
33号畑	67区 J~O-18~25	X=60,670~697 Y=-105,639~659	25.3	14.8	(281.4)	N-22°-E	25.3	48.0	30	北側	29畑	南側	1道
										東側	32畑	西側	30・31畑
34号畑	78区 N・O-1・2	X=60,703~707 Y=-105,755~758	3.6	1.8	(6.2)	N-53°-W	3.6	50.0	4	北側	—	南側	40畑
										東側	—	西側	3道
35・36号畑	68・69・78・79区 O~B-24~5	X=60,693~718 Y=-105,760~807	37.3	35.2	(657.88)	N-64°-W	22.7	49.0~ 51.0	62	北側	—	南側	3道
										東側	3道	西側	—
37号畑	68区 T~V-22~24	X=60,688~694 Y=-105,777~787	10.3	6.0	(51.9)	N-46°-W	6.0	48.0	22	北側	3道	南側	—
										東側	38・41畑	西側	3道
38・41号畑	68区 Q~U-22~25	X=60,687~698 Y=-105,764~780	18.3	7.2	(105.05)	N-50°-W	7.2	42.0~ 48.0	39	北側	39畑	南側	—
										東側	42・43畑	西側	3道
39号畑	68・78区 O~Q-24~1	X=60,694~700 Y=-105,757~766	9.3	6.4	(43.75)	N-59°-W	6.4	45.0	9	北側	40畑	南側	41・42畑
										東側	—	西側	3道
40号畑	78区 O・P-25~2	X=60,699~705 Y=-105,756~761	6.7	5.2	(22.93)	—	—	—	—	北側	34畑	南側	39畑
										東側	—	西側	3道
42・43号畑	68区 P~S-22~25	X=60,687~696 Y=-105,760~773	12.0	6.0	(61.1)	N-48°-W	6.0	45.0~ 47.0	31	北側	39畑	南側	—
										東側	44畑	西側	38・41畑
44号畑	68区 O~Q-22~24	X=60,686~692 Y=-105,759~765	7.5	3.0	(20.0)	—	—	—	—	北側	—	南側	—
										東側	5道	西側	42・43畑
45号畑	68区 N~P-22・23	X=60,684~691 Y=-105,753~761	7.5	4.0	(26.13)	—	—	—	—	北側	—	南側	—
										東側	46畑	西側	5道
46号畑	68区 L~O-21~23	X=60,681~690 Y=-105,744~757	9.9	8.5	(77.70)	N-51°-W	8.5	42.0	29	北側	—	南側	—
										東側	47畑	西側	45畑
47号畑	68区 I~M-20~23	X=60,676~689 Y=-105,734~749	12.8	9.0	(103.03)	N-51°-W	9.0	49.0	27	北側	—	南側	—
										東側	48畑	西側	46畑
48号畑	68区 G~K-18~23	X=60,671~687 Y=-105,725~740	17.0	9.8	(145.53)	N-62°-W	9.8	47.0	33	北側	—	南側	—
										東側	4道	西側	47畑

第4節 検出された遺構と遺物

遺構名	位置		規模(m・㎡)			畝の状況(畝長:m 畝幅・高:cm)				面する遺構(畑)			
	中・小グリッド	国家座標	長軸	短軸	面積	畝方向	畝長	畝間幅	畝間数				
50号畑	68・69区 V~C-22~24	X=60,687~694 Y=-105,786~812	5.4	19.4	(105.3)	N-0°-W	5.4	48.0	37	北側 3道・3ヤッケ	南側 57畑	東側 3道	西側 53畑
53号畑	69区 B・C-23・24	X=60,689~694 Y=-105,806~812	7.5	2.1	(9.4)	N-43°-W	2.1	48.0	3	北側 3ヤッケ	南側 57畑	東側 50畑	西側 -
54号畑	68・69・79区 Y~C-24・25	X=60,695~701 Y=-105,799~809	7.4	4.9	(22.3)	N-53°-W	7.6	45.0~ 50.0	11	北側 36畑	南側 3道	東側 36畑	西側 55畑
55号畑	69・79区 B・C-25・1	X=60,696~702 Y=-105,807~810	6.0	1.0	(4.3)	N-55°-W	1.0	48.0	10	北側 36畑	南側 3道	東側 54畑	西側 -
56号畑	78・79区 V~A-1~4	X=60,700~714 Y=-105,785~802	14.8	8.3	(120.3)	N-47°-E	8.3	48.0	19	北側 -	南側 36畑	東側 35・36畑	西側 -
57号畑	69区 B~D-22・23	X=60,687・689 Y=-105,805~812	6.9	1.1	(7.2)	N-14°-E	1.1	48.0	13	北側 50・53畑	南側 -	東側 -	西側 -
K8-1・2・5号畑	67区 H~P-7~13	X=60,625~648 Y=-105,628~662	28.7	20.5	(295.16)	N-59°-W	20.5	48.0	60	北側 21畑	南側 -	東側 -	西側 22・23・52畑
K10-1号畑	H11年度IV区 K10-1・2・3 は19号畑と接合	詳細は19号畑参照				N-46°-W							
K10-2号畑													
K10-3号畑													
K11号畑	67区 B-10	X=60,637~639 Y=-105,604~606	1.8	1.1	(1.26)	N-38°-W				北側 K12畑	南側 -	東側	西側 19畑
K12号畑	67区 A-10	X=60,638・639 Y=-105,601~603	-	-	(3.06)	-				北側 -	南側 K11畑	東側 -	西側 19畑

第20表 円形平坦面一覧表

遺構名	位置		平面形状	規模(m・㎡)			長軸方位	伴う畑	備考
	中・小グリッド	国家座標		長軸	短軸	面積			
1号円形平坦面	68区E-20	X=60,678~680 Y=-105,717~719	不正円形	1.9	1.67	2.53	N-30°-E	1畑	外縁溝は不明。
2号円形平坦面	68区B・C-17・18	X=60,666~668 Y=-105,706~708	円形	2.4		4.44	-	2畑	外縁溝あり。
3A号円形平坦面	67区X-17・18	X=60,666~668 Y=-105,693~695	楕円形	1.97	1.75	2.59	-	3畑	外縁溝あり。
3B号円形平坦面	67区T-16	X=60,661~663 Y=-105,674~676	円形	1.99		3.04	N-39°-E	3畑	外縁溝あり。平坦面内に畝間あり。
4号円形平坦面	67区U-21	X=60,680~682 Y=-105,680・681	楕円形	1.54	1.27	1.49	N-63°-E	4畑	外縁溝あり。
6号円形平坦面	67区T-23・24	X=60,691~693 Y=-105,674~676	楕円形	1.88	1.88	2.65	N-61°-E	6畑	外縁溝は不明。
7号円形平坦面	67区V-24・25	X=60,691~693 Y=-105,685~687	楕円形	1.88	1.74	2.61	N-27°-E	7畑	外縁溝あり。
8号円形平坦面	67・77区X-25・1	X=60,699~701 Y=-105,693・694	楕円形	2.06	1.90	2.98	N-0°-E	8畑	外縁溝あり。
9号円形平坦面	78区B-2・3	X=60,706~708 Y=-105,704・705	(円形)	(2.0)		(0.75)	-	9畑	外縁溝あり。
12号円形平坦面	77区U-7・8	X=60,727・728 Y=-105,680~682	楕円形	1.68	1.40	1.78	N-24°-E	12畑	外縁溝あり。
13号円形平坦面	77区V-4・5	X=60,715~717 Y=-105,685・686	楕円形	1.73	1.35	1.78	N-31°-E	13畑	外縁溝あり。
15号円形平坦面	77区S-7	X=60,724・725 Y=-105,672・673	楕円形	1.62	1.26	1.64	N-19°-E	15畑	外縁溝は不明。
19号円形平坦面	67区C-11・12	X=60,643・644 Y=-105,610~612	楕円形	1.76	1.72	2.47	N-39°-E	19畑	外縁溝は不明。
21号円形平坦面	67区I・J-11	X=60,642・643 Y=-105,634~636	不正楕円形	1.97	1.62	2.56	N-33°-E	21畑	外縁溝は不明。
22号円形平坦面	67区N・O-10	X=60,637・638 Y=-105,654~656	楕円形	1.33	1.11	1.19	N-89°-W	22畑	外縁溝は不明。
23号円形平坦面	67区O・P-15	X=60,657~659 Y=-105,658~660	楕円形	2.1	1.97	3.28	N-35°-W	23畑	外縁溝は不明。
26号円形平坦面	67区Q・R-16	X=60,661~663 Y=-105,667~669	円形	2.1		3.36	-	26畑	外縁溝は不明。

第3章 久々戸遺跡

遺構名	位置		平面形状	規模(m・m)			長軸方位	伴う畑	備考
	中・小グリッド	国家座標		長軸	短軸	面積			
27号円形平坦面	67区F・C-18	X=60,669~671 Y=-105,622~624	楕円形	1.63	1.62	2.44	N-0°-E	27畑	外縁溝あり。
28号円形平坦面	67区H-19	X=60,673~675 Y=-105,629~631	円形	1.85		2.61	—	28畑	外縁溝あり。
32号円形平坦面	67区K-20・21	X=60,679~681 Y=-105,641~643	円形	2.03		3.15	—	32畑	外縁溝あり。
33号円形平坦面	67区N-22・23	X=60,686~688 Y=-105,653	不明	不明		(1.43)	—	33畑	外縁溝あり。
35号円形平坦面	78区S-3	X=60,708・709 Y=-105,772~774	不正楕円形	2.10	(1.75)	3.01	N-58°-E	35畑	外縁溝あり。
36-1号円形平坦面	68区U・V-25	X=60,697~699 Y=-105,782~784	円形	1.65		2.27	—	36畑	外縁溝あり。
36-2号円形平坦面	79区A-1	X=60,701~703 Y=-105,801~803	楕円形	1.60	1.25	1.52	N-48°-E	36畑	外縁溝あり。平坦面内に 畝間あり。
43号円形平坦面	68区Q・R-23	X=60,688~690 Y=-105,767~769	円形	1.87		2.68	—	43畑	外縁溝あり。平坦面内に 畝間あり。
46号円形平坦面	68区M・N-21	X=60,681・682 Y=-105,751・752	円形	1.90		(1.59)	—	46畑	外縁溝あり。
49号円形平坦面	68区F-18・19	X=60,671・672 Y=-105,720~722	不正楕円形	1.76	1.76	2.46	N-17°-E	49畑	外縁溝あり。
51号円形平坦面	67区P-8	X=60,629・630 Y=-105,660・661	楕円形	1.16	1.15	1.05	N-27°-E	51畑	外縁溝は不明。
52号円形平坦面	67区P・Q-7・8	X=60,626~628 Y=-105,662~664	楕円形	1.52	1.32	1.82	N-28°-E	52畑	外縁溝あり。平坦面内に 畝間あり。
54号円形平坦面	69区B-25	X=60,697~699 Y=-105,804・805	楕円形	1.42	1.13	1.27	N-7°-E	54畑	外縁溝あり。
K8-5号円形平坦面	67区K・L-9	X=60,633~635 Y=-105,643・644	楕円形	1.68	1.49	1.93	N-34°-E	K8-5畑	外縁溝は不明。
K12-1号円形平坦面	67区A-10	X=60,637・638 Y=-105,601~603	円形か	2.14		1.44	—	K12-1畑	外縁溝あり。

第21表 道一覧表

遺構名	位置 中・小グリッド	区間	規模(m)		走行方向	検出面/時期/備考
			長さ	幅		
1号道	67・77区H~T-17~25、 O~S-1~7	屈曲-北	47.2	0.34~0.55	N-22°-E	1面 天明三年 1・2号石垣を伴う段差際。
		屈曲-東	60.5	0.32~0.85	N-73°-W	
2号道	67区T・U-21		4.6	0.35~1.3	N-49°-E	1面 天明三年
3号道	68・78区O~C-22~3	分岐-北	23.2	0.5~0.9	N-63°-E	1面 天明三年 2・3号ヤックラを伴う。
		分岐-南	9.0	0.5~0.9	N-32°-E	
		分岐-西	24.5	0.5~1.4	N-81°-W	
4号道	68区G・H-12~22		16.8	0.3~0.85	N-28°-E	1面 天明三年
5号道	68区O~P-22・23		4.8	0.54~0.82	N-37°-E	1面 天明三年

第22表 ヤックラ一覧表

遺構名	位置 中・小グリッド	平面形状	規模(m)			長軸方位	検出面/時期/備考
			長軸(径)	短軸	深さ		
1号ヤックラ	67区D・E-12・13	不整楕円形	3.3	1.95	—	N-32°-E	1面 天明三年 19・20号畑の区画境。
2号ヤックラ	68区U・V-24	不整楕円形	3.5	1.7	0.25	N-72°-E	1面 天明三年 3号道沿い。
3号ヤックラ	68・69区W~C-23~25	不整長楕円形	20.5	1.62	—	N-85°-W	1面 天明三年 3号道沿い。

第23表 遺構外出土遺物観察表(近世)

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第78図	1	龍泉窯系 青磁碗	口縁部1/9	口底 -	(10.3)	高	-	夾雑物含まない。 /灰白	口縁部外側1条の横線。内外面青磁釉。貫入入る。	15～16世紀。
第78図	2	肥前磁器 染付碗	底部1/2	口底 -	(3.8)	高	-	夾雑物含まない。 /灰白	外面二重網目文。内面と高台内無文。	18世紀中葉 ～後葉。
第78図 PL.34	3	瀬戸・美濃 陶器 碗	体部1/4、底部 完	口底 -	3.7	高	-	透明、黒色鈹物微 量含む。/灰白	体部外面下位、回転篋削り。高台端部を除き灰釉。貫入入る。	江戸時代。
第78図 PL.34	4	肥前磁器 青磁染付 筒形碗	口縁部から体部 1/8	口底 -	(8.0)	高	-	夾雑物含まない。 /灰白	口縁部内面簡略化した四方禪文。外面青磁釉。外面透明釉。	18世紀中葉 ～後葉。
第78図 PL.34	5	肥前磁器 染付小丸碗	1/4から1/8	口底 -	(7.5) (3.0)	高	5.0	夾雑物含まない。 /白	外面竹文か。口縁部内面2重圈線。底部内面1重圈線。見込文様欠損。	18世紀後葉 ～19世紀初頭。
第78図 PL.34	6	製作地不詳 磁器 染付端反碗	口縁部1/4	口底 -	(10.0)	高	-	夾雑物含まない。 /白	外面植物と蝶文か。口縁部内面細線文様帯を描く、底部内面細い1重圈線。	19世紀前葉 ～中葉。
第78図 PL.34	7	瀬戸・美濃 陶器 志野鉄絵皿	底部1/4	口底 -	(7.0)	高	-	白色鈹物少量含 む。/灰白	底部内面鉄絵。内外面に長石釉を厚く施釉。貫入入る。高台端部と高台内の窯道具密着部無釉。大窯第4段階後半から末。	16世紀後半 ～17世紀初頭。
第78図	8	瀬戸・美濃 陶器 御神酒徳利か	体部から底部	口底 -	2.2	高	-	白色鈹物少量含 む。/灰白	体部外面灰釉。内面と体部外面下位以下無釉。底部右回転糸切無調整。	江戸時代。
第78図	9	瀬戸・美濃 陶器 すり鉢	口縁部片	口底 -	-	高	-	白色鈹物含む。/ にぶい黄橙	残存部内面下端まですり目。口縁部肥厚し、下部は小さく突き出る。口縁部外側は2条の凹線。内外面錆釉。口縁部上下端部はやや摩滅。	江戸時代か。
第78図	10	瀬戸陶器 すり鉢	体部下位から底部 1/8	口底 -	(11.0)	高	-	鈹物含む。/にぶ い黄橙	内面16本1単位のすり目。体部外面回転篋削り。内外面錆釉。	江戸時代。
第78図	11	在地系土器 内耳鍋か	口縁部片	口底 -	-	高	-	鈹物含む。/橙	口縁部内外面輻輳目状の浅い窪みめぐる。信濃型内耳鍋か。	中世。
第78図 PL.34	12	金属製品 鉄砲玉	完形	長幅 1.2	1.2	厚重 9.07			全体に凹凸のある球形で、一面はつぶれたようにへこむ。表面は錆化し灰黒色から黒色。大きさに比し重量が重い。	
第78図 PL.34	13	銅製品 不詳	完形	長幅 3.0	1.8	厚重 2.14			幅4mm厚さ1mmの板状コの字状に折り曲げる。両端部は狭三角状に細くなる。表面は錆化し脆弱で加工痕等は確認できない。	
第78図 PL.34	14	鉄製品 鎌	破片	長幅 5.8	1.7	厚重 0.3 12.25			鎌の茎部分の破片。茎尻は細く絞り込み?形に折り曲げ目釘で固定する形態とみられる。刃側は破断し全体形状は不明。	
第78図 PL.34	15	鉄製品 不詳	完形	長幅 19.5	2.5	厚重 1.0 69.77			断面長方形の角棒状で、中央を外れた位置に最大幅を持ち両端に向かい幅・厚さを減じ細くなるが端部は劣化し尖るかとは不明。木質等の痕跡は見られない。	
第78図 PL.34	16	銅製品 銭貨	完形	長幅 2.476	2.445	厚重 0.125 3.00			寛永通寶。表は外縁・文字・郭は彫深く明瞭、裏面も外縁・郭とも彫深く明瞭。	
第78図 PL.34	17	銅製品 銭貨	破片	長幅 -	-	厚重 0.106 0.60			上側の半分を欠く銭貨で残存する通・永の文字から寛永通寶とみられる。残存する文字は明瞭だが、外縁・郭は劣化破損変形折れ曲がる。	

第5節 調査の成果(総括)

第1項 柄鏡形敷石住居について

本遺跡における縄文時代中期末葉期の柄鏡形敷石住居の検出は、先述したように1軒のみである。周辺遺跡での柄鏡形敷石住居の検出は数多く知られ、吾妻川を挟んだ対岸に位置する尾坂遺跡は、本遺跡と最も近く、同じ中位段丘面にあり、中期後葉から後期初頭期の柄鏡形敷石住居が多数調査されている(小野2015)。また、同じ吾妻川左岸では、上位段丘面にある長野原一本松遺跡、林中原Ⅱ遺跡、現在発掘調査中の東宮遺跡があり、本遺跡と同じ吾妻川右岸には、横壁中村遺跡、石川原遺跡で同時期の遺跡として知られている。

群馬県内での柄鏡形敷石住居の状況は、縄文時代中期後葉(加曾利EⅢ式期)から後期前葉(堀之内2式期)にかけて、普遍的にみられる住居形態で、敷石を伴わない柄鏡形住居も多くある。こうした状況は周辺県でも同様で、本遺跡地に隣接する長野県においても、同時期に同様な柄鏡形敷石住居の存在は多く知られている。

ここでは、本遺跡周辺の吾妻川沿いにある遺跡で検出されている柄鏡形敷石住居を比較してみる。

1. 周辺遺跡での柄鏡形敷石住居

周辺遺跡における中期後半から後期前葉にかけての柄鏡形敷石住居が検出された遺跡には、吾妻川左岸に西から坪井遺跡、長野原一本松遺跡、林中原Ⅰ・Ⅱ遺跡、上原Ⅳ遺跡、東宮遺跡、吾妻川右岸では吾妻川支流の熊川の段丘上に滝原Ⅲ遺跡、そして吾妻川沿いに西から向原遺跡、本久々戸遺跡、西久保Ⅰ遺跡、横壁中村遺跡、石川原遺跡と続き、吾妻溪谷を超えた上郷岡原遺跡が知られる。

以下、各遺跡における柄鏡形敷石住居の概要を記する。(第3図、第2表・文献参照)

坪井遺跡(文献11)では、中期後半から後期初頭の住居18軒の内、3軒が敷石住居(柄鏡形敷石住居は1軒)であり、中期末葉加曾利EⅣ式および後期初頭称名寺1式併行(加曾利EⅤ式)期の住居である。

長野原一本松遺跡(第2表No.23 文献18)では、中期後半から後期前葉の住居245軒の内、柄鏡形敷石住居は20軒、敷石を伴わない柄鏡形住居15軒、敷石住居1軒、敷石を伴わずに張出し部をもつ住居3軒、僅かな張出し状の入口部をもつ住居8軒が検出されている。柄鏡形敷石住居および柄鏡形住居は中期末葉から後期前葉期にみられ、敷石住居は中期末葉期、張出し部をもつ住居は加曾利EⅢ式期、僅かな張出し状の入口部をもつ住居は加曾利EⅡ・Ⅲ式期にみられる。また、遺存状況の比較的良好な柄鏡形敷石住居に、4区17号住居(加曾利EⅣ式期)、5区60・77号住居(堀之内1式期)が挙げられる。

尾坂遺跡(第2表No.3 文献19)では、中期後半から末葉の住居5軒内、4軒が柄鏡形敷石住居である。敷石の遺存状況の比較的良好な住居に、5・6号住居(加曾利EⅢ式期)、8号住居(加曾利EⅣ式期)が挙げられる。

林中原Ⅰ遺跡(第2表No.43 文献22)では、後期前葉堀之内2式期の柄鏡形敷石住居が1軒検出されている。

林中原Ⅱ遺跡の国道部分(第2表No.44 文献9)では、中期後半から後期前葉の住居40軒の内、柄鏡形敷石住居は4軒(加曾利EⅣ式~堀之内1式期)検出されている。また、僅かな張出し状の入口部をもつ住居は加曾利EⅢ式期に3軒みられる。敷石の遺存状況の比較的良好な住居に、51区13号住居が挙げられる。なお、県道部分については、現在、整理が進められている。

上原Ⅳ遺跡(第2表No.42)では、当事業団の調査(文献16)で後期前葉の住居4軒の内、2軒の柄鏡形敷石住居(堀之内2式期)検出されている。敷石の遺存状況の比較的良好な住居に、1号住居がある。また、長野原町教育委員会の調査(文献13)で後期前葉堀之内式期の敷石住居が1軒検出されている。

東宮遺跡(第2表No.18)では、現在、発掘調査が進められている中で、後期前葉の柄鏡形敷石住居が数軒検出されている。

滝原Ⅲ遺跡では、調査面積が狭いものの中期末葉加曾利EⅣ式期の柄鏡形敷石住居が1軒検出されている。

向原遺跡(第2表No.6 文献27)では、検出された住居5軒の内、2軒が柄鏡形敷石住居であり、中期末葉から後期前葉堀之内1式期の住居である。敷石の遺存状況の比較的良好な住居に、C区6号住居がある。

久々戸遺跡は本報告であり、先述してきたように中期

末葉加曾利E IV式期の柄鏡形敷石住居(1号住居)が1軒検出されている。

西久保I遺跡(第2表No.26 文献31)では、検出された中期後半から後期初頭の住居5軒全てが敷石住居のようであるが、柄鏡形になるかは不明。

横壁中村遺跡(第2表No.12 文献15)では、中期後半から後期前葉の住居197軒の内、柄鏡形敷石住居は60軒、敷石住居4軒、敷石を伴わずに張出し部をもつ住居1軒、僅かな張出し状の入口部をもつ住居2軒が検出されている。柄鏡形敷石住居は中期後葉末期(加曾利E III式新段階)に現れ、中期末葉から後期前葉期を主体とし、敷石住居は中期後葉末期および中期末葉期、張出し部および僅かな張出し状の入口部をもつ住居は加曾利E II・III式期にみられる。また、遺存状況の比較的良好な柄鏡形敷石住居に、20区111号住居(加曾利E III式新段階期)、29区16号住居(加曾利E IV式期)、10区10・18区13号住居(称名寺1式期)、18区15・29区6号住居(称名寺2式期)、20区47・29区3号住居(堀之内1式期)、20区70・71号住居(堀之内2式期)が挙げられる。なお、後期中葉加曾利B式期の柄鏡形敷石住居も1軒検出されている。

石川原遺跡(第2表No.16)では、平成20年度の発掘調査で柄鏡形敷石住居を含む中期後半から後期前葉の住居18軒が検出され、現在、発掘調査が進められている。

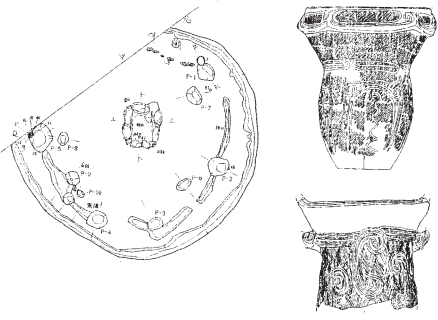
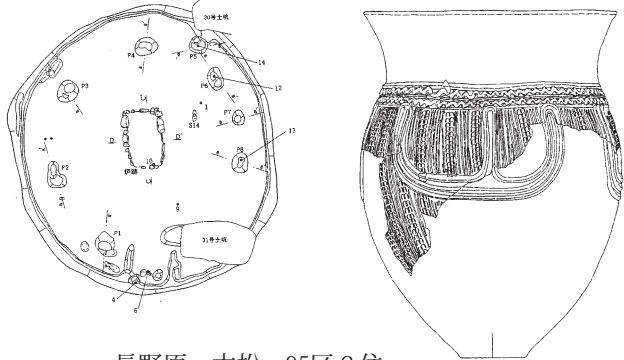
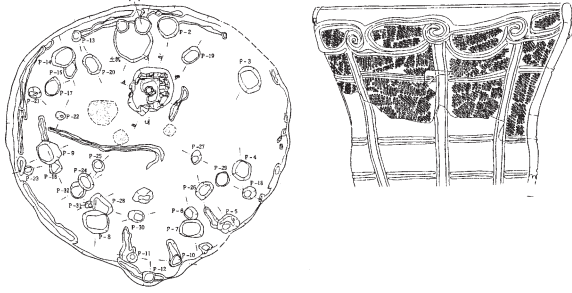
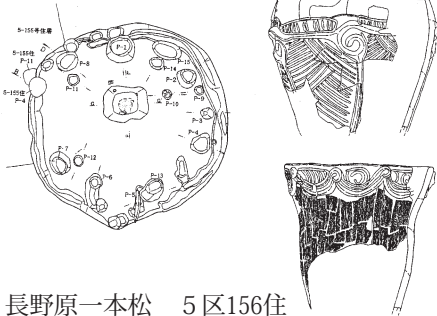
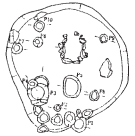
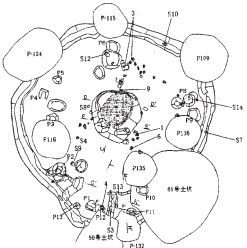
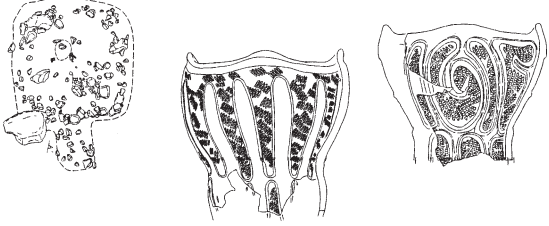
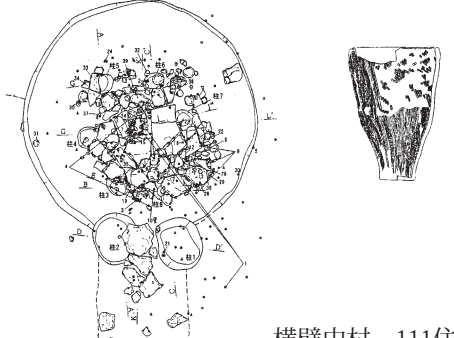
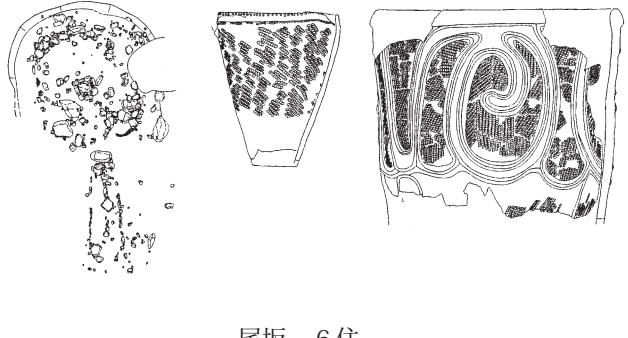
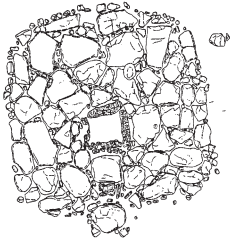

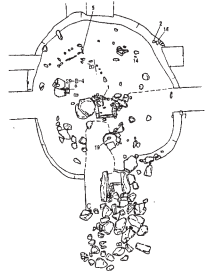
上郷岡原遺跡(第2表No.22 文献21)では、中期後半から後期前葉の住居17軒内、12軒が柄鏡形敷石住居であり、後期初頭の称名寺式から後期前葉堀之内2式期にかけての住居である。敷石の遺存状況の比較的良好な住居に、Ⅲ区J1号・J6号住居(称名寺1式期)、Ⅳ区J1号住居(堀之内2式期)が挙げられる。

以上、周辺遺跡で検出された柄鏡形敷石住居を概観してきたが、その古い段階としては加曾利E III式新段階期に現れ(横壁中村遺跡20区85・111・119号住居、30区28号住居)、加曾利E IV式期から堀之内2式期にかけて普遍的となり、堀之内2式期以後に激減する状況で、加曾利B期にまで残存することが明らかとなった。群馬県内南部と比較すると、柄鏡形敷石住居の存続時期は概ね合致するようであるが、当地域では敷石をもたない柄鏡形住居が極めて少なく、大半が柄鏡形敷石住居であることが指摘でき、地域の様相の違いとも考えられよう。

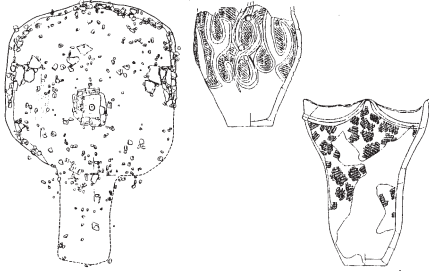
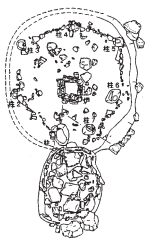


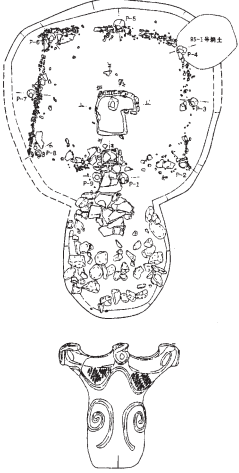
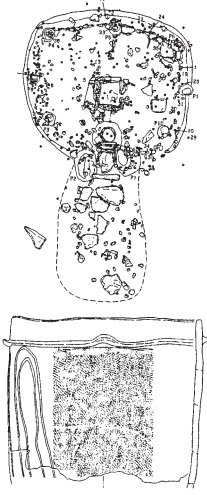
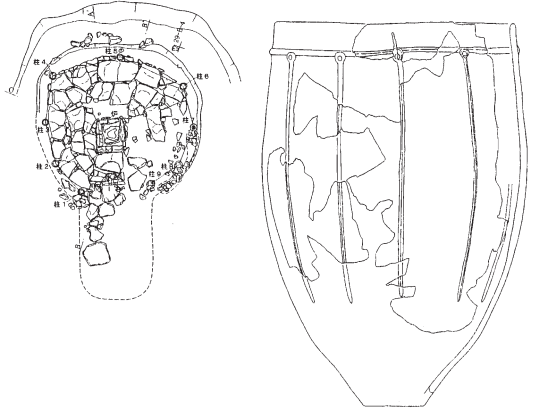
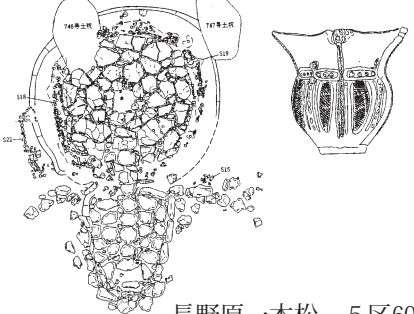
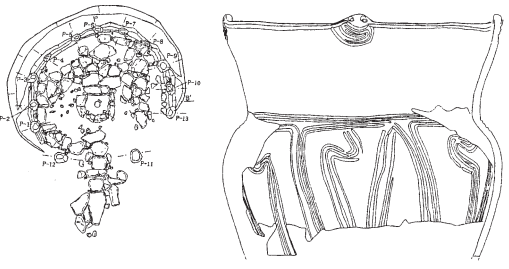

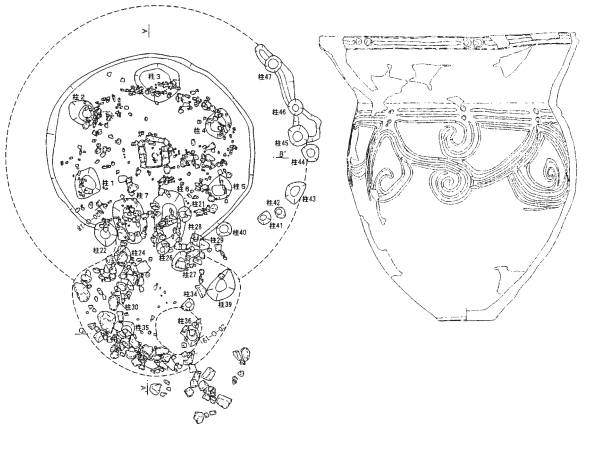
一方、柄鏡形敷石住居の形状にも、時期的な変化が現れているようである。主体部の形状は、円形および方形を基本としているが、堀之内2式期には横長の楕円形がみられる(横壁中村遺跡20区70・71号住居)。主体部の敷石形状は、加曾利E IV式期～称名寺式期を中心に六角形を呈する住居を多く見ることができものの、主体部の掘込み形状は円形ないし円形に近い形状をとる。張出し部の形状では、堀之内式期にそれまでの形状とは異なる形状がみられる。張出し部が大きく膨らむ形状となり、主体部との連結部分が括れるような形となる住居で、長野原一本松遺跡5区60号住居、横壁中村遺跡20区47・70・71号住居が挙げられる。

視点を変えて、柄鏡形敷石住居の出現期前をみると、張出し部をもつ住居として長野原一本松遺跡5区21・31号(加曾利E III式期)や95区10住居等がある。さらに、僅かな張出し状の入口部をもつ住居(形状は卵形を呈する住居が多く、炉は長軸の奥側に寄る位置にあり、入口部は対ピット様となる縦長な溝状の穴が左右対象に付く)は、加曾利E III式古段階期の住居に多く、長野原一本松遺跡95区5・12・13・18・38・47・56・57住居等が挙げられる。同様な入口部をもつ古い時期の住居としては、加曾利E I式期の長野原一本松遺跡95区6号住居がある。こうした様相からみる住居変遷は、僅かな張出し状の入口部をもつ住居が先行し、次いで張出し部をもつ住居の存在の後に、柄鏡形敷石住居が成立していることが理解できよう(第79～81図)。

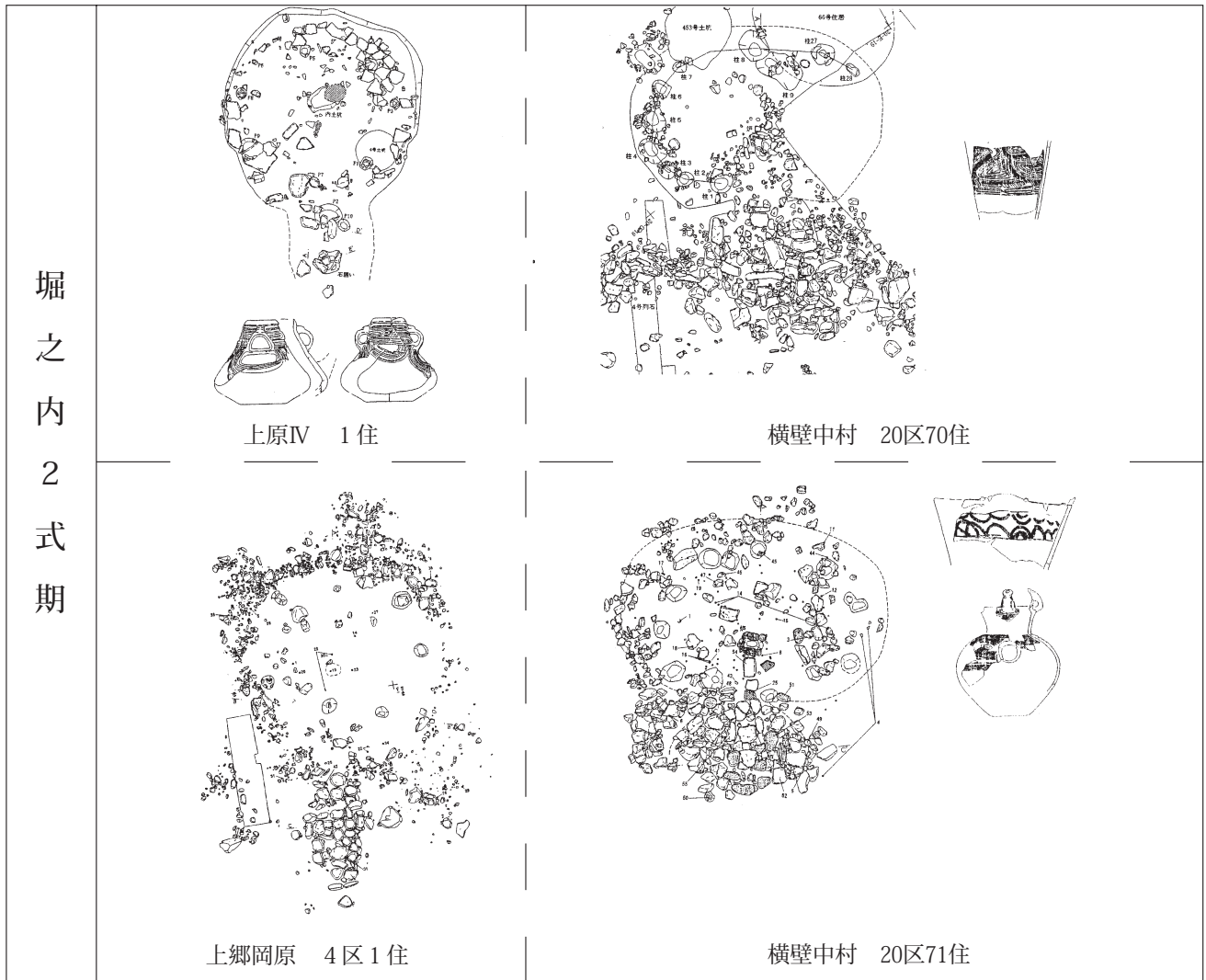
他方、本地域で出土する当概期の土器には、長野県側の土器の出土量も多く、色濃く地域性を現している。そこで、長野県側の柄鏡形敷石住居について、水沢教子氏の論考註1があるので触れておく。屋代遺跡群で検出された中期後葉の住居を分析する中で、2b期(大木9a式古相・加曾利E II式)、3a期(大木9a式新相・加曾利E III式古段階)、3b期(大木9a～9b式・加曾利E III式古段階)、3c期(大木9b式・加曾利E III式新段階)、4期(大木10式古・加曾利E IV式段階)の5段階に細分し、住居の形態として五角形・方形・円形の主体部がランダムに出現し、敷石の類型も一元的ではないとしながらも、その中に2つの流れを説いている。その一つは、五角形住居を中心とした系列で、柄鏡形住居が(有段)五角形形態を含む竪穴住居の中から発生し、同時に方形・円形住

<p>加曾利E I・II式期</p>	 <p>長野原一本松 95区12住</p>	 <p>長野原一本松 95区6住</p>	
<p>加曾利E III式期</p>	 <p>長野原一本松 95区47住</p>	 <p>長野原一本松 5区156住</p>	
	 <p>長野原一本松 5区21住</p>	 <p>長野原一本松 95区10住</p>	 <p>尾坂 5住</p>
	 <p>横壁中村 111住</p>	 <p>尾坂 6住</p>	
<p>加曾利E IV式期</p>	 <p>向原 C区6住</p>	 <p>長野原一本松 4区17住</p>	 <p>横壁中村 16住</p>

第79図 周辺遺跡における中期後葉～後期前葉の住居変遷(1)

称名 寺式 期	 <p>林中原Ⅱ 51区13住</p>	 <p>横壁中村 18区13住</p>	 <p>上郷岡原 3区1住</p>	 <p>上郷岡原 3区6住</p>
	 <p>長野原一本松 95区19住</p>	 <p>横壁中村 10区10住</p>	 <p>横壁中村 29区6住</p>	
堀之内 1式 期	 <p>長野原一本松 5区60住</p>	 <p>長野原一本松 5区77住</p>		
	 <p>横壁中村 29区3住</p>	 <p>横壁中村 20区47住</p>		

第80図 周辺遺跡における中期後葉～後期前葉の住居変遷(2)



第81図 周辺遺跡における中期後葉～後期前葉の住居変遷(3)

居に特徴的であった面的な敷石が五角形住居柄部に導入され、柄鏡形敷石住居が完成された過程を示す。もう一つは、五角形系列からの柄鏡形住居の成立と併行し、円形・方形住居を中心とした系列で、円形敷石住居の敷石形態を踏襲した住居が、同じく円形主体部の系譜を引く対ピットと柄部(外縁を枠状に棒状礫などが巡る)を取り入れ、円形敷石住居→柄鏡形敷石住居という流れがあるとしている。さらに、これら2系列から外れるものが存在することも指摘している。その上で、柄鏡形敷石住居成立前後の周辺状況として、千曲川水系、犀川水系、諏訪盆地・八ヶ岳西南麓の様相を比較し、千曲川水系における柄鏡形敷石住居の成立について説いている。

この水沢氏の論考で注目されるのは、千曲川水系では五角形の住居形態は少なく、諏訪盆地・八ヶ岳西南麓で主体を占め、犀川水系にもかなり目立つという点で、長

野県側の土器色の色濃い当地域でも五角形の住居形態は見当たらない。やはり、出土土器が示すように、千曲川水系の上流域に展開する郷土式土器が多く出土する点でも頷けよう。その一方で、諏訪盆地・八ヶ岳西南麓での小張出付住居は、本稿で示した「僅かな張出し状の入口部をもつ住居」と、入口部に対ピット様の縦長な穴が左右対象に付く点でかなり類似性が高い。やはり、出土土器を介することで、その関連性を紐解く材料となり得よう。今後の研究に、期待したい。

註1 水沢教子 2002「千曲川水系における柄鏡形敷石住居の成立 —長野県更埴市屋代遺跡群の研究その1—」『長野県の考古学Ⅱ 長野県埋蔵文化財センター研究論集Ⅱ』長野県埋蔵文化財センター

2. 柄鏡形敷石住居の出入口部について

本遺跡1号住居の詳細については先述した通りであるが、ここでは柄鏡形敷石住居の張出し部に設けられた出入口部について、他遺跡例と比較する。

近隣地域における張出し部に設けられた出入口施設の最も良例な柄鏡形敷石住居として、長野県小諸市三田原遺跡7号竪穴住居(第82図)の報文(長野県埋蔵文化財センター 2000『三子塚遺跡群 三田原遺跡 岩下遺跡 石神遺跡群 郷土遺跡 東丸山遺跡 西丸山遺跡 深沢遺跡群』長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書52)によると、住居の全長は6.52mで、主体部の主軸長4.22m、幅4.50m、張出し部の主軸長2.30m、最大幅2.04m、住居の全長6.52mを測り、主体部の床周縁はテラス状となり、テラス直下に床の縁石が巡る。炉は石囲炉で、内部に炉体土器をもつ。連結部には框石を設け、張出し部の床は平石で敷石され、端部壁面は一部を除き石積み(根石は立積み、上部は小

口積み)となる。この端部壁面の一部(西壁北側)は、外側に僅かに突出し、壁面は石を2段に横積みした階段状をなしており、住居の出入口と考えられる。住居の時期は、後期初頭称名寺1式期である。

本遺跡1号住居の張出し部の場合、床面は主体部から連結部を経て、張出し部へと石敷が概ね平坦に続き、使用される石は、板状礫が多用され両壁面は地山礫を利用しながらも石積み(立積み、野面積み状3段)が施され、先端部も同様となる。ただし、東壁の北側(張出し部先端寄り)には壁の立上り(石積み)が無く、その先に続く石列の存在等から、この位置を住居の出入口部と想定した。

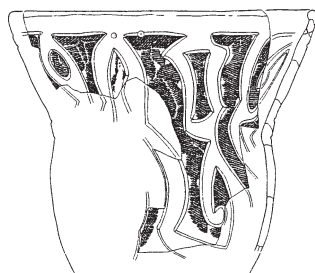
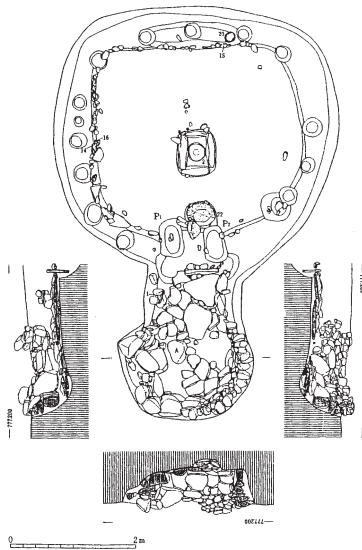
以上、本遺跡1号住居と三田原遺跡7号竪穴住居を比較すると、両者共に柄鏡形となる主体部における柱位置等の基本構造が共通し、特に張出し部左側壁面の先端寄りに出入口部が設けられている点で大きく共通する。先の周辺遺跡での柄鏡形敷石住居では、明らかな出入口部を見出すことはできなかった。しかし、ここに挙げた両遺跡の住居例は、柄鏡形住居における出入口部を示す資料として、今後の研究に繋がることが期待される。

第2項 天明泥流下の遺跡全体像

天明三年の浅間山噴火に伴う泥流で被災した天明三年期の各種遺構は、これまでの平成7・9～11・15年に行われた発掘調査において、各調査時の調査範囲全体に検出され、遺構の主体をなす天明三年期の畑が段丘の緩斜面に広がっていた状況が明らかとなっている。今回の平成27・28年調査においても、同様な遺構が連続と検出され、天明三年期の本遺跡の全体像がより明らかとなった。以下に、その全体像を示す(第83図、付図2参照)。

1. 畑

検出された各種遺構から、畑は道や段差・石垣によって大きく区画され、その区画内に耕作単位を違えることで、さらに細かな区画が見てとれ、そうした畑が遺跡地である北向きの緩斜面一体に連続と続いている様が窺える(付図2)。畑を大きく区画する、或いは地境には、南側斜面際(山地との変換部)に東西方向に延びる「草津路」



第82図 長野県小諸市三田原遺跡7号竪穴住居

を基に、「草津路」から緩斜面を下るように北側(吾妻川方向)へ細い道が幾筋も延びる。また、緩斜面を横切るような細い道、さらには斜面地であるが故に平坦な面を作り出すための段差も確認できる。

そうした細い道や段差によって区画された畑には、畝と畝間が無数に並ぶ。各畑の畝(畝間)の方向は、等高線に沿う方向にある畑が大方である。しかし、それに反して、緩斜面のより緩い比較的平坦な場所では、等高線に直交する方向に畝が向く畑がある。特に、平成27年度調査で検出した1・2号石垣を伴う東西方向の段差以北では、畑面がより平坦にあり、等高線に直交する方向の畑が多い。こうした状況の中で、畑の単位をどのように考えるかという問題がある。今回の平成27・28年度調査で検出された畑の内、20・21・K8-1・K8-2・K8-5号畑は平成9～13年度調査のK8-1～4号畑に続く畑で、東西の両側を細い道で画された南北方向に長い畑である。また、22～24・51・52号畑は、平成9～13年度調査のK6-2号畑に続く畑で、東側を細い道で画された南北方向に長い畑。19号畑は、平成9～13年度調査のK10-1～3号畑に続く畑で、東西の両側を細い道で画された南北方向に長い畑である。K11号畑は、平成9～13年度調査のK11-1～3号畑に続く畑で、畑の北隅に当たる。同様に、1・49号畑、46・47号畑、37号畑、50・57号畑は、それぞれ平成7年度調査の畑の続きと考えられる。むしろ、こうした畑の纏まりが、一つの畑単位と考えた方が良いと思われる。

一方、畑面には、多くの円形平坦面が付随している。この円形平坦面は、形状が概ね円形を呈し、径2m前後を測るものが多く、周囲に溝が廻るもの・無いもの、平坦部中央が凹むもの・凹まないもの、内部に畝間がおよぶもの・およばないもの等といった、幾種類かに分類できる。こうした円形平坦面については、吾妻郡内の民俗例にある「ハンギリオケ」を用いて、堆肥や人糞と種を混ぜ合わせ「アワセゴイ」や「タレゴイ」をつくるムギ・ヒエ等の播種に関連するものとして、多毛作の間作時に次の作物の作業準備を行った場所の痕跡として捉える考え方もある。

畑作物については、先に刊行された『久々戸遺跡・中棚Ⅱ遺跡・下原遺跡・横壁中村遺跡』(財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第319集 2003)の自然化

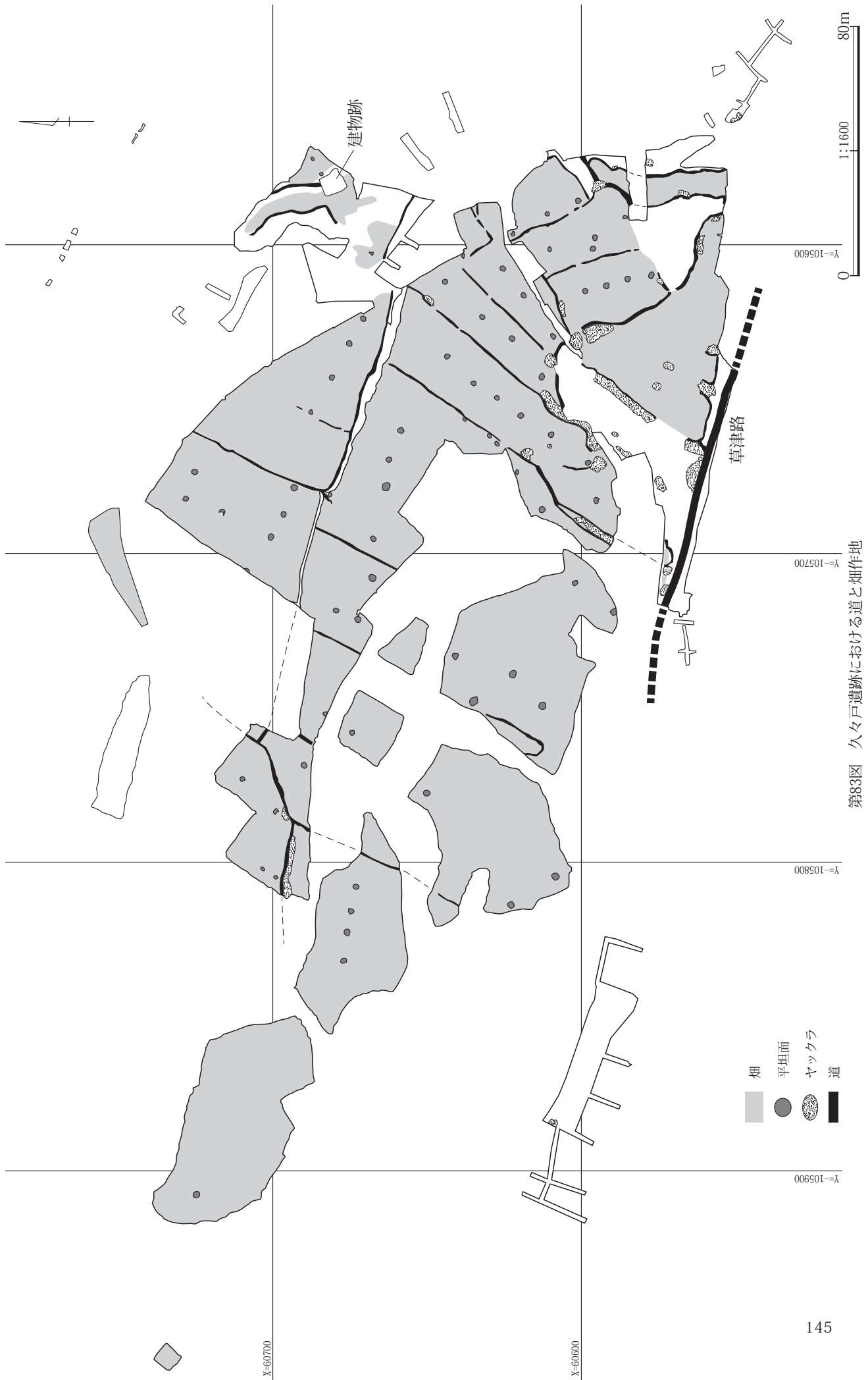
学分析(植物珪酸体分析)では、本遺跡の天明泥流下の試料にイネ科栽培植物のイネ、オオムギ族、ヒエ属型が検出されており、農作物としてそれらの作物が対象であった可能性が高い。ただし、天明泥流下に広がる畑の状況からすると、畑に栽培する陸稲の可能性も含むが、イネの密度が低い値であったことからすれば、むしろイネよりもムギ類やヒエの栽培の可能性があろう。また、中棚Ⅱ遺跡(第2表No.11)V区での畑の畝に残された空隙が、サトイモと考えられる栽培作物の痕跡であることが判明している。

本遺跡に広がる天明泥流下の畑作物は、その畝間の幅から畝幅を推測すると、畝幅の異なる畑の区画が存在する。その顕著な畑が、平成27・28年度調査の5号畑であり、周囲の畑と明らかに異なる。畝幅の違いは、作物の種類の違いを意味すると考えられることから、明らかに複数種の作物が対象とされていたものと考えられる。さらに、泥流被害による荒れた状態とは異なる畑の区画が点在する。その区画には、平成27・28年度調査の16・17号畑、29号畑、44・45号畑、それと平成9～13年度調査のK12号畑が挙げられる。後世の開削(攪乱)等によると思われるが、44・45号畑とした区画については、区画面全体に薄くAs-Aが堆積し、隣接する46・38号畑の畝間のある状況とは異なる点や、5号道に面して他の区画より幅狭であることから、耕作されていない間地であったものと考えられよう。

2. 道

先述してきたように、本遺跡の南側斜面際(山地との変換部)には、大戸宿・関所や大須賀宿を経た信州街道から分岐し、吾妻川に架かる琴橋へ通じる「草津路」が東西方向に延びる。平成11年度調査において、路面にAs-Aが堆積し、東側から西側への緩い傾斜をもって下る天明三年期の「草津路」を、長さ80m(最大幅2.4m)にわたって現道下に検出している。この「草津路」から、緩斜面を下るように畑へ向かう北側への細い道が幾筋も延びる。また、緩斜面を横切るような細い道、さらには平坦な面を作り出すための段差際にも細い道が、畑の境を縦横に延びる。これら細い道は、そのほとんどが畑道である。

注目されるのは、天明三年期の「草津路」が、現在に



第83図 久々戸遺跡における道と畑作地



第84図 明治6年の久々戸遺跡周辺絵図(吾妻郡長野原町壬申地引絵図を加工)

至っても同じ位置に踏襲されていることである。以前、高崎市上滝榎町北遺跡で検出されたAs-A下の道・水路が、明治初期の村絵図に描かれた道・水路と、ほぼ同じ位置に一致することが知られている^{註1}。同様な視点で、本遺跡を明治6年の吾妻郡長野原町壬申地引絵図と見比べると(第83・84図)、全てが一致する訳ではないが、蛇行する吾妻川の右岸に本書で扱った1・2号石垣を伴う段差、3号道とした北側から南側および西側へ延びる三叉の道、そして「草津路」が見て取れる。やはり、被災した後も、根幹となる道や区割りは極めて踏襲されて現在に繋がっていることを物語っている。

註1 谷藤保彦 2002「天明三年浅間山噴火後の耕地復旧について —高崎市上滝町周辺の遺跡調査から—」『研究紀要 20』群馬県埋蔵文化財調査事業団

3. ヤックラ

ヤックラは、不要な礫を集積した場所である。この集積場所が設けられる位置は、第83図に示したように、各々のヤックラが独立するような形で、畑の地境で畑道の脇を選定し(代表例として、平成27年度調査1・2号ヤックラ)、個々では余り規模が大きくないのが特徴である。しかし、畑脇の耕作していない斜面や(平成9～13年度調査3・24号ヤックラ)、段差となるような場所では(平成27年度調査3号ヤックラ)、それに沿うように長く集積されている。こうした行為は、耕作の邪魔にならない、より近い場所を選んでいることに他ならない。

4. 建物

平成15年度調査において、1段低い段丘面に1棟検出されたのみで、対岸の尾坂遺跡のような屋敷は存在しないようである。

第3項 まとめ

本遺跡の調査は、平成7年度の発掘調査以降、これまで断続的に発掘調査が進められ、その全体像が大凡つかめる状況となった。平成15年度までの調査では、天明三年の浅間山噴火に伴う泥流で被災した畑を主体とした天明三年期の各種の遺構が検出され、その成果も広く知られるところであった。今回の平成27・28年度調査に至っては、それまでの天明泥流下の畑はもとより、新たに縄文時代、弥生時代、そして古代から中世にかけての遺構が検出された。このことは、この場所が古くから利用されてきた場所であることを示しており、各時代の遺構研究もさることながら、地域史を考える上でも大きな成果であったと言えよう。

以下、各時代ごとに記する。

1. 縄文時代

縄文時代の遺構としては、中期末葉期の柄鏡形敷石住居1軒、後期の土坑4基が検出された。柄鏡形敷石住居は極めて遺存状態が良好で、しかも出入口部が明確に解る状態にあり、県内でも数少ない良例に含まれる。土坑は、後期初頭と後半期の遺構であった。遺構外出土土器をみると、早期の押型文土器から前期中葉、中期初頭・中葉・末葉、さらに後期中葉および後葉の土器といった幅広い時期にわたっている。検出された遺構数は少なかったものの、縄文時代早期以降に何らかの形で縄文人が活動していたことが窺えよう。

2. 弥生時代

検出された2基の土坑は、出土した土器および出土状態から、墓坑である可能性が極めて高い。近接する尾坂遺跡においても同時期の同様な遺構が検出されており、遺跡間の関係も含めて今後の研究課題の一つとなろう。特に、この地域での弥生時代中期の遺跡は多く、これまでも八ツ場ダム調査で検出されているところであり、集落域と墓域という視点からも興味深い研究課題である。

3. 古代から中世

奈良・平安期の住居は検出されていないが、古代から

中世にかけての陥し穴とされる同形状の土坑が19基検出された。その配置に規則性はなく、伴う遺物もないことから不明な点が多い。他遺跡でも、数十基単位で検出されている遺跡もあり、その時期も含め地域の特性を考える必要があるだろう。

4. 近世(天明三年期)

天明三年期の本遺跡地は、南側の山裾に信州街道から分岐した「草津路」が東から西へと延び、先の吾妻川に架かる琴橋へと通じる。この「草津路」から望む景観は、北側に緩く傾斜する段丘面一面に畑が広がり、畑にはヒエ等の作物が青々として風に揺れ、一段低い畑面に建つ小屋の屋根が畑の先端に見える。さらに、その向こうの吾妻川を挟んだ東寄りの先には、尾坂遺跡の村落が木立に見え隠れする。そして西側には、吾妻川の対岸に遠く長野原の宿の屋根が。さらに、その向こうの山並みの奥には、白根の山々が霞むように見えたであろうことが、これまでの調査成果から浮かび上がってくる。

そのような長閑な景観も、浅間山の噴火により、その姿は一変する。鎌原村を襲った火砕流は、その後、吾妻川へと流れ込んで泥流となり、吾妻川を下る泥流は川を溢れさせ、さらには川の沿岸の田畑や村々を埋め尽くしていく。その被害の状況は、甚大であったことは多くの記録に残されている。

その後の復旧・復興の末に、現在の姿があるわけであるが、一連の発掘調査を通じて当時の姿を復元できれば大きな成果と言えよう。

報告書抄録

書名ふりがな	うえはらさんいせきかっこに・くぐどいせきかっこさん
書名	上原Ⅲ遺跡(2)・久々戸遺跡(3)
副書名	ハッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	50
シリーズ名	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書
シリーズ番号	627
編著者名	佐藤元彦・津島秀章・谷藤保彦
編集機関	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行機関	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行年月日	20170310
作成法人ID	21005
郵便番号	377-8555
電話番号	0279-52-2511
住所	群馬県渋川市北橘町下箱田784番地2
遺跡名ふりがな	うえはらさんいせき
遺跡名	上原Ⅲ遺跡
所在地ふりがな	あがつまぐんながのはらまちおおあざはやしあざうえはら
遺跡所在地	吾妻郡長野原町大字林字上原
市町村コード	10424
遺跡番号	0043
北緯(世界測地系)	363258
東経(世界測地系)	1384026
調査期間	20150901-20150930
調査面積	380
調査原因	ダム建設(町道)
種別	集落
主な時代	平安
遺跡概要	縄文・弥生-土器・石器/平安-集落-住居1+竪穴遺構3+土坑11+焼土遺構2+ピット4/ 近世-溝
特記事項	弥生時代中期初頭の土器、長野・北陸地域に由来する凸帯付四耳壺片が出土。
要約	吾妻川左岸最上位段丘面に位置する、鍛冶工房を中心とする平安時代の集落。長野原町教育委員会による2011年調査時の未調査部分を調査した。
遺跡名ふりがな	くぐどいせき
遺跡名	久々戸遺跡
所在地ふりがな	あがつまぐんながのはらまちおおあざながのはらあざくぐど
遺跡所在地	吾妻郡長野原町大字長野原字久々戸
市町村コード	10424
遺跡番号	0200
北緯(世界測地系)	363228
東経(世界測地系)	1383910
調査期間	20150701-20151231、20160401-20160430、20160701-20160730
調査面積	9,522
調査原因	ダム建設関連
種別	生産/集落
主な時代	縄文/弥生/古代/江戸
遺跡概要	集落-縄文-住居1+土坑4-土器・石器/弥生-土坑2-土器・石器/平安-土坑19/近世-畑・道5・ヤックラ3
特記事項	縄文時代中期末葉期の柄鏡形敷石住居。弥生時代中期初頭の土坑および土器。
要約	吾妻川右岸の中位段丘面に位置し、縄文時代中期から後期、弥生時代中期の集落遺跡であり、天明三年(1783年)の浅間山噴火に伴う泥流下に江戸時代の畑が広がる。

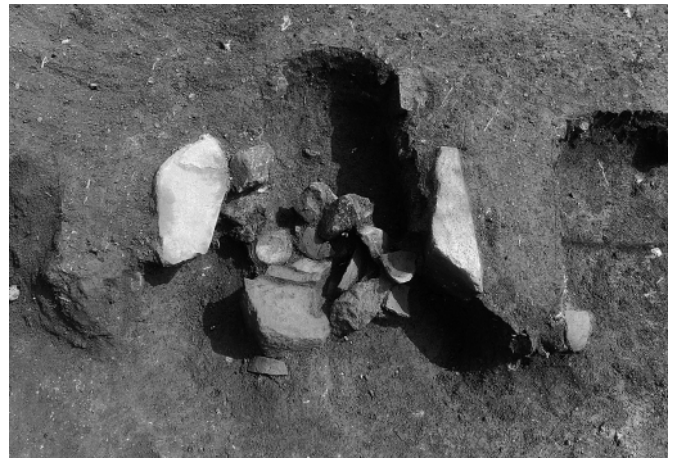
写真図版



1 上原Ⅲ遺跡遠景 南東上空から



2 1号竪穴住居全景 南西から



3 1号竪穴住居カマド全景 南西から



4 1号竪穴住居カマド土層断面B-B' 南西から



5 1号竪穴遺構全景 南東から



1 2号竖穴遺構全景 北東から



2 3号竖穴遺構全景 東から



3 4号竖穴遺構全景 南西から



4 11号土坑全景 南から



5 12号土坑全景 南東から



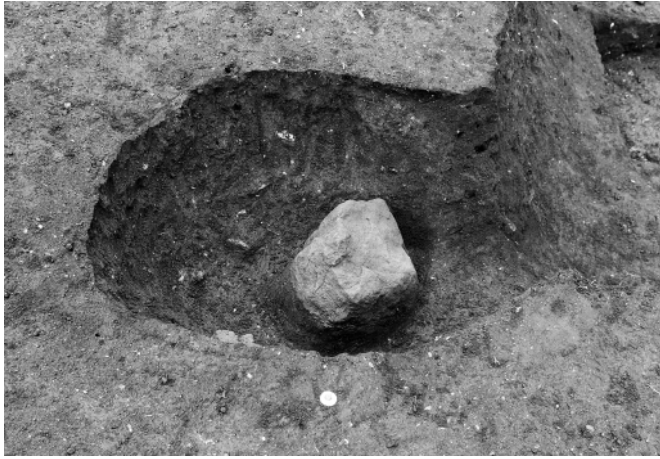
6 13号土坑全景 南東から



7 14号土坑全景 南から



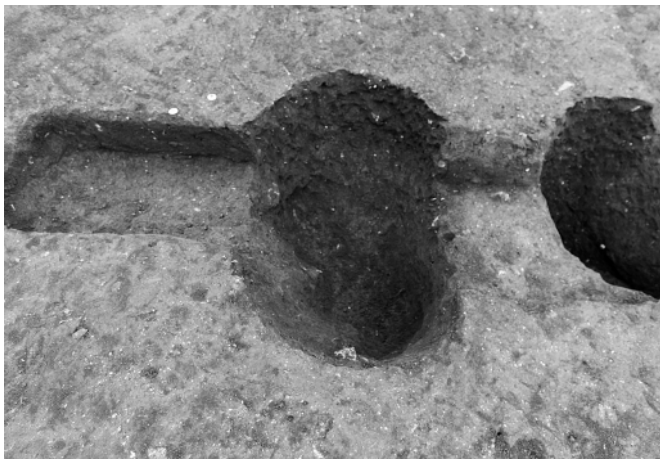
8 15号土坑全景 南東から



1 16号土坑全景 南西から



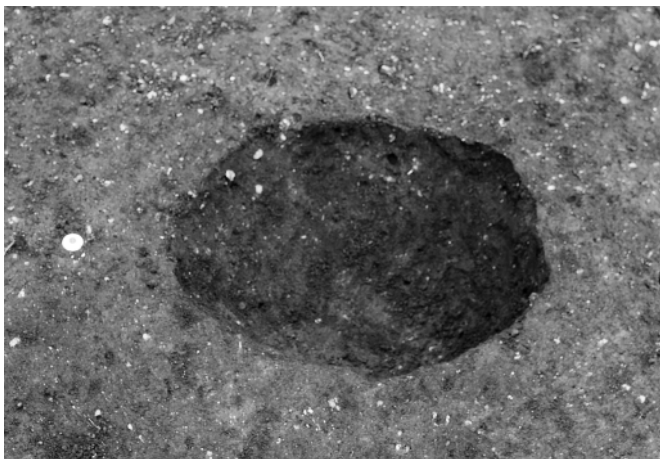
2 17号土坑全景 南東から



3 18号土坑全景 南東から



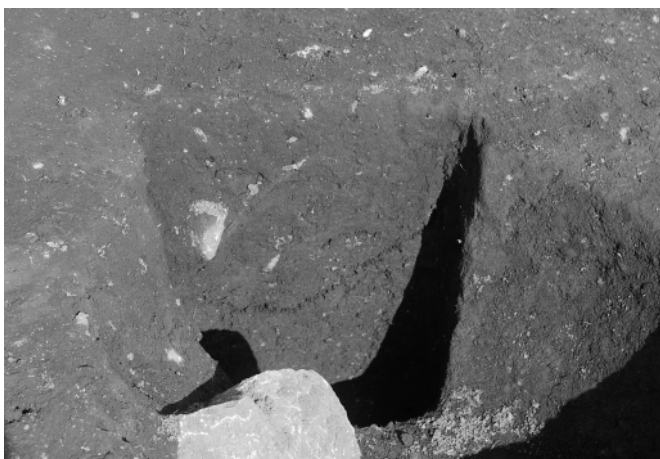
4 19号土坑全景 南東から



5 20号土坑全景 南東から



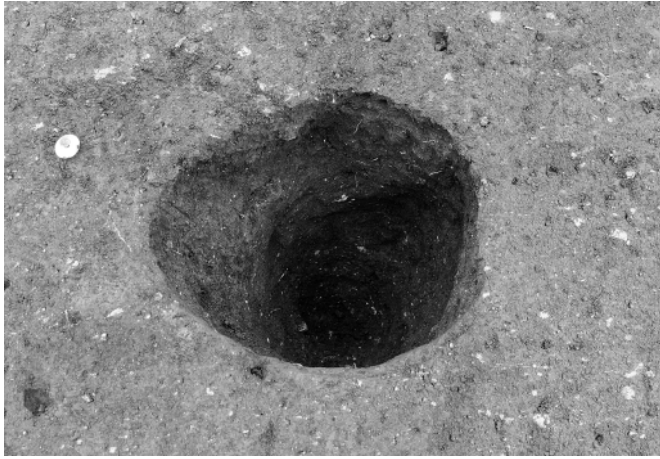
6 21号土坑全景 南東から



7 22号ピット土層断面 南西から



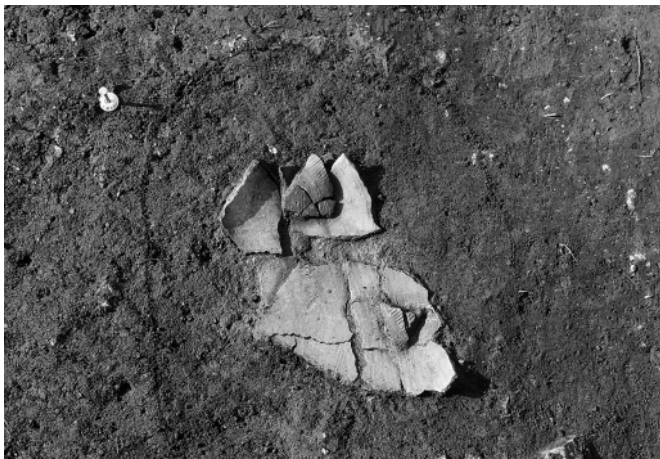
8 23号ピット全景 南から



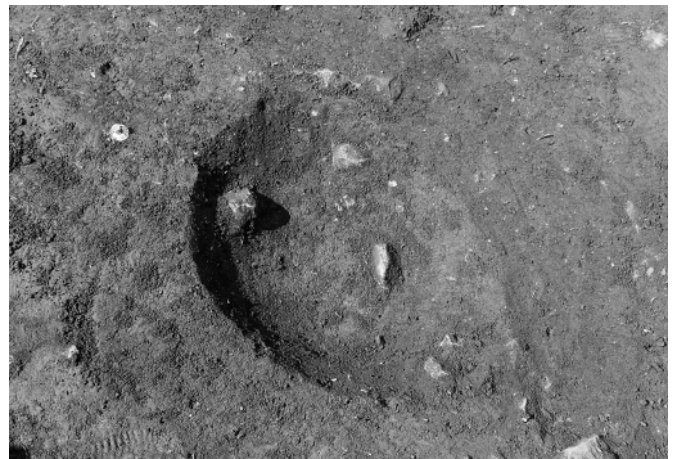
1 24号ピット全景 南から



2 25号ピット全景 南東から



3 1号埋設土坑遺物出土状態 南東から



4 1号埋設土坑全景 南東から



5 1号焼土遺構全景 南東から



6 2号焼土遺構全景 東から



7 2号溝全景 南西から



1住1



1住2



1住3



1住4



1住5



1住6



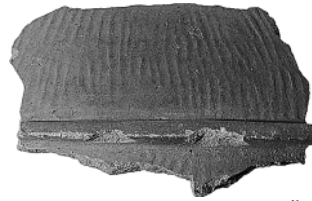
1住8



1住9



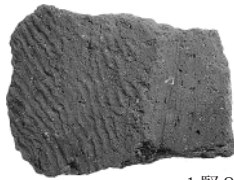
1住10



1住11



1 豎1



1 豎2



11土1



遺構外1



遺構外2



1 埋設土1



遺構外3



遺構外4



遺構外5



遺構外6



遺構外7



1 調査区 遠景 北から



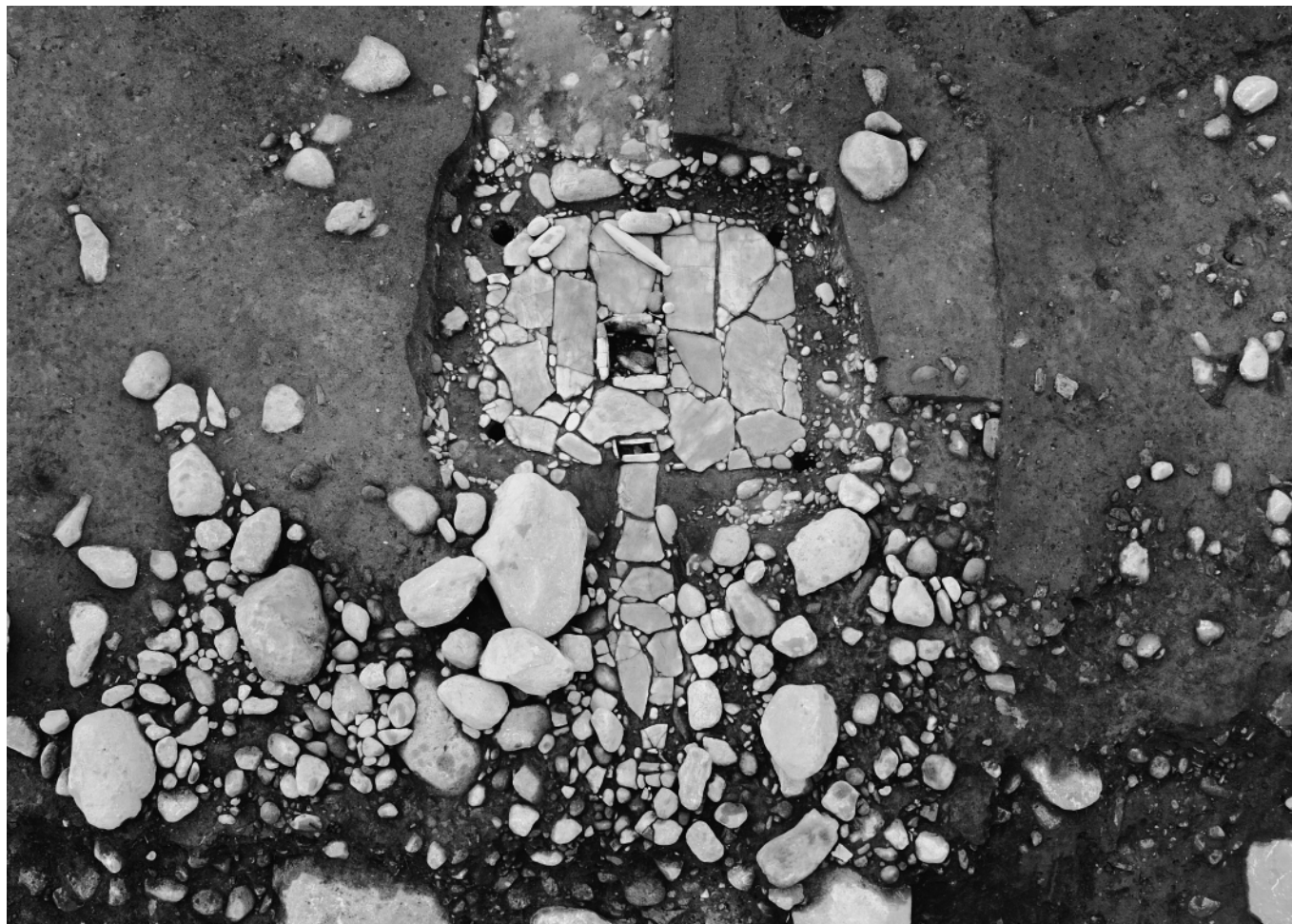
2 調査区 遠景 西から



1 B区2面 調査区全景 北西から



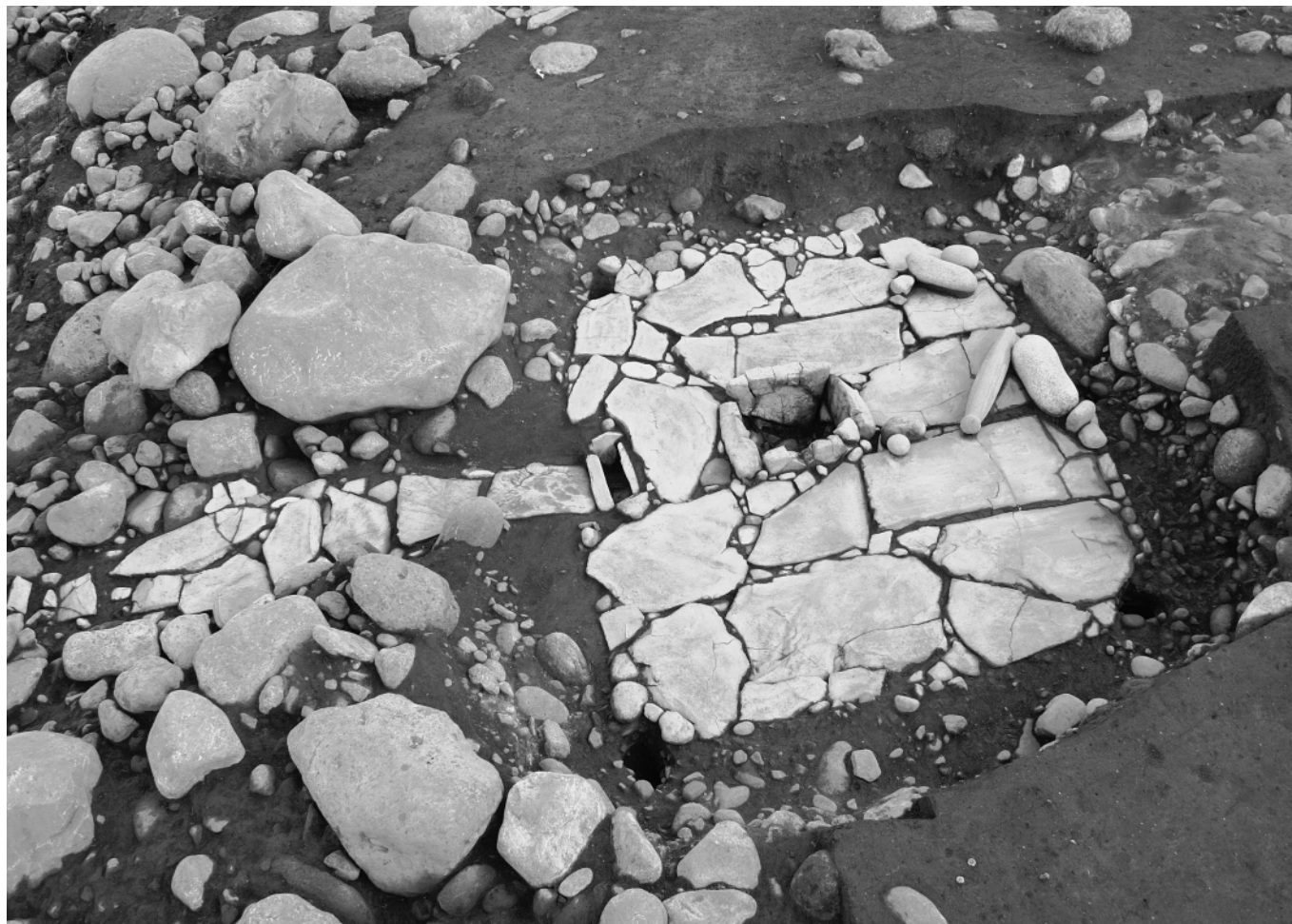
2 B区2面 1号住居全景 北から



1 1号住居 全景 北東から



2 1号住居 全景 南東から



1 1号住居 全景 北西から



2 1号住居 全景 南西から



1 1号住居 床敷石除去後 南西から



2 1号住居 下部構造全景 南西から



1 1号住居 敷石状況と石棒出土状態 東から



2 1号住居 土器出土状態 西から



3 1号住居 張出し部西側壁(崩落状況) 東から



4 1号住居 張出し部西側壁(床石除去前) 東から



5 1号住居 張出し部西側壁状況 南東から



6 1号住居 張出し部先端壁状況 南から



7 1号住居 張出し部西側壁(床石除去後) 北から



8 1号住居 張出し部西側壁(床石除去後) 南から



1 1号住居 張出し部から続く入口部石列 北西から



2 1号住居 張出し部から続く入口部石列 北から



3 1号住居 張出し部先端と入口部石列 東から



4 1号住居 入口部石列 南東から



5 1号住居 炉 東から



6 1号住居 副炉 東から



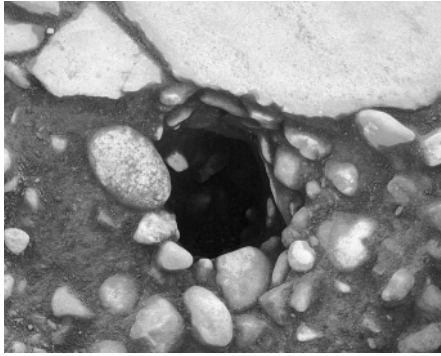
7 1号住居 P-1(敷石際)南から



8 1号住居 P-1(敷石下)南から



9 1号住居 P-1(掘り方)南から



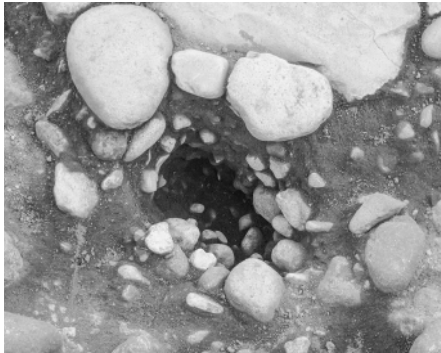
1 1号住居 P- 2(敷石際)南西から



2 1号住居 P- 2(敷石下)南西から



3 1号住居 P- 2(掘り方)南西から



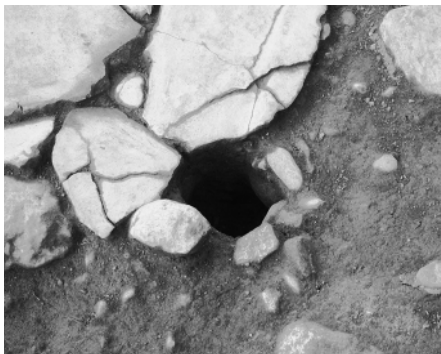
4 1号住居 P- 3(敷石際)北西から



5 1号住居 P- 3(敷石下)北西から



6 1号住居 P- 3(掘り方)北から



7 1号住居 P- 4(敷石際)東から



8 1号住居 P- 4(敷石下)東から



9 1号住居 P- 4(掘り方)北東から



10 1号住居 P- 5(敷石際)東から



11 1号住居 P- 5(敷石下)南東から



12 1号住居 P- 5(掘り方)南東から



13 1号住居 P- 6 南から



14 1号住居 P- 7 南から



15 1号住居 P- 7(掘り方)南から



1 A区2面 土坑群全景 東から



2 B区2面北側 土坑群全景 南東から



1 1号土坑 南東から



2 2号土坑 南西から



3 3号土坑 南西から



4 4号土坑 南東から



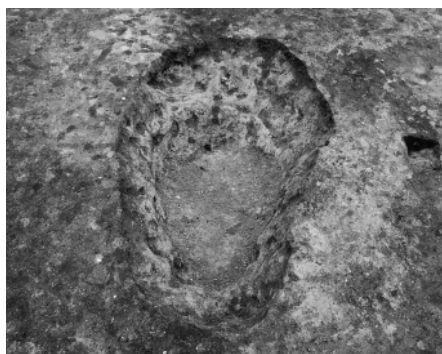
5 5号土坑 西から



6 6号土坑 西から



7 7号土坑 北西から



8 8号土坑 南から



9 9号土坑 南東から



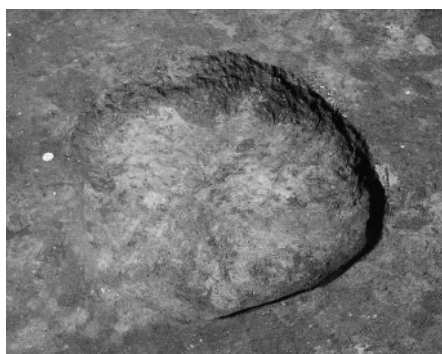
10 12号土坑 遺物出土状態 南西から



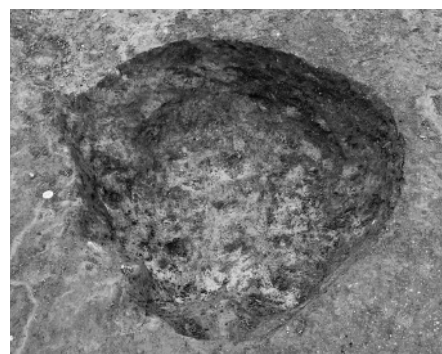
11 12号土坑 西から



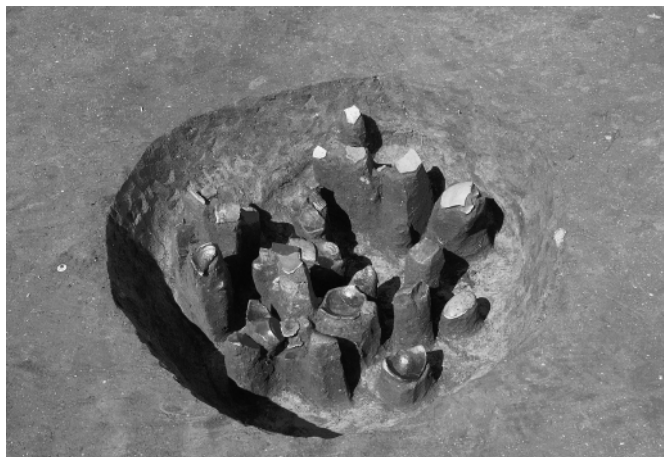
12 13号土坑 南から



13 14号土坑 南西から



14 15号土坑 東から



1 16号土坑 遺物出土状態 東から



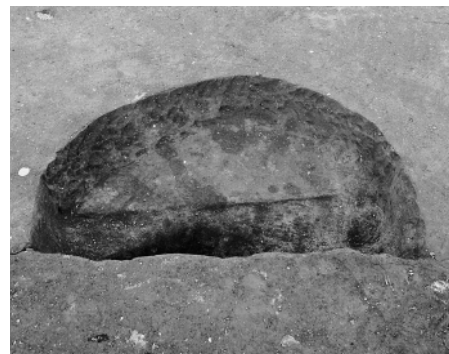
2 16号土坑 東から



3 18号土坑 南西から



4 20号土坑 東から



5 21号土坑 西から



6 22号土坑 南西から



7 24号土坑 西から



8 25号土坑 南から



9 26号土坑 北から



10 27号土坑 北から



11 28号土坑 西から



12 42号土坑 礫出土状態 南西から



13 43号土坑 南西から



14 46号土坑 北東から



1 47号土坑 南から



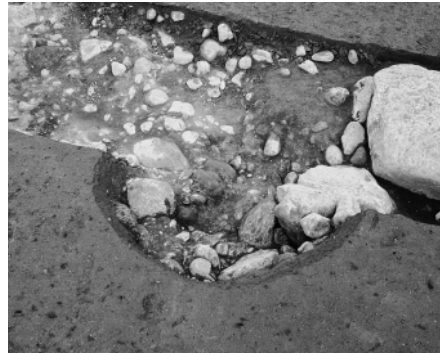
2 48号土坑 北東から



3 51号土坑 北から



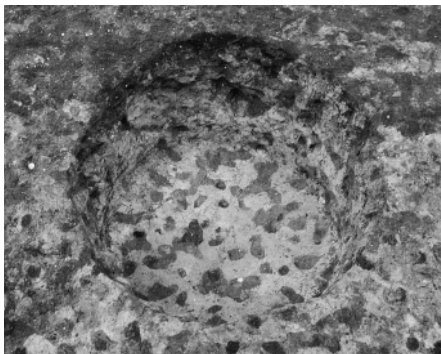
4 52号土坑 北西から



5 53号土坑 西から



6 54号土坑 東から



7 55号土坑 南西から



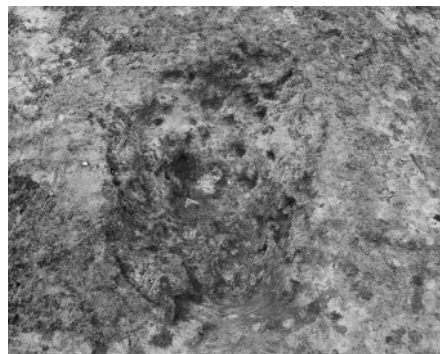
8 56号土坑 北西から



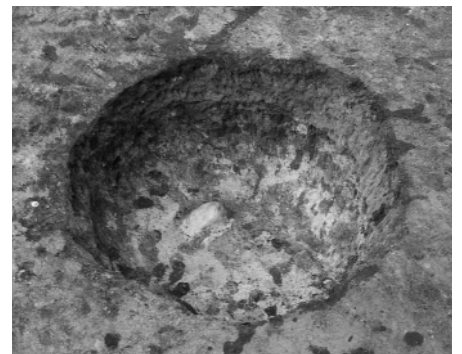
9 57号土坑 南西から



10 58号土坑 南から



11 60号土坑 東から



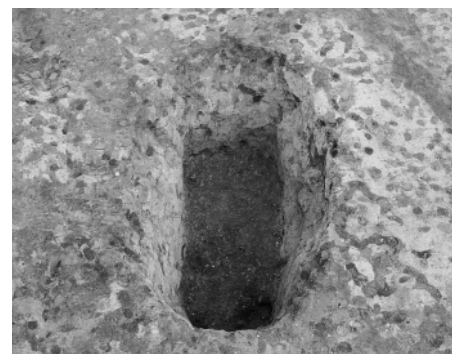
12 61号土坑 南から



13 62号土坑 南から



14 63号土坑 北から



15 64号土坑 西から



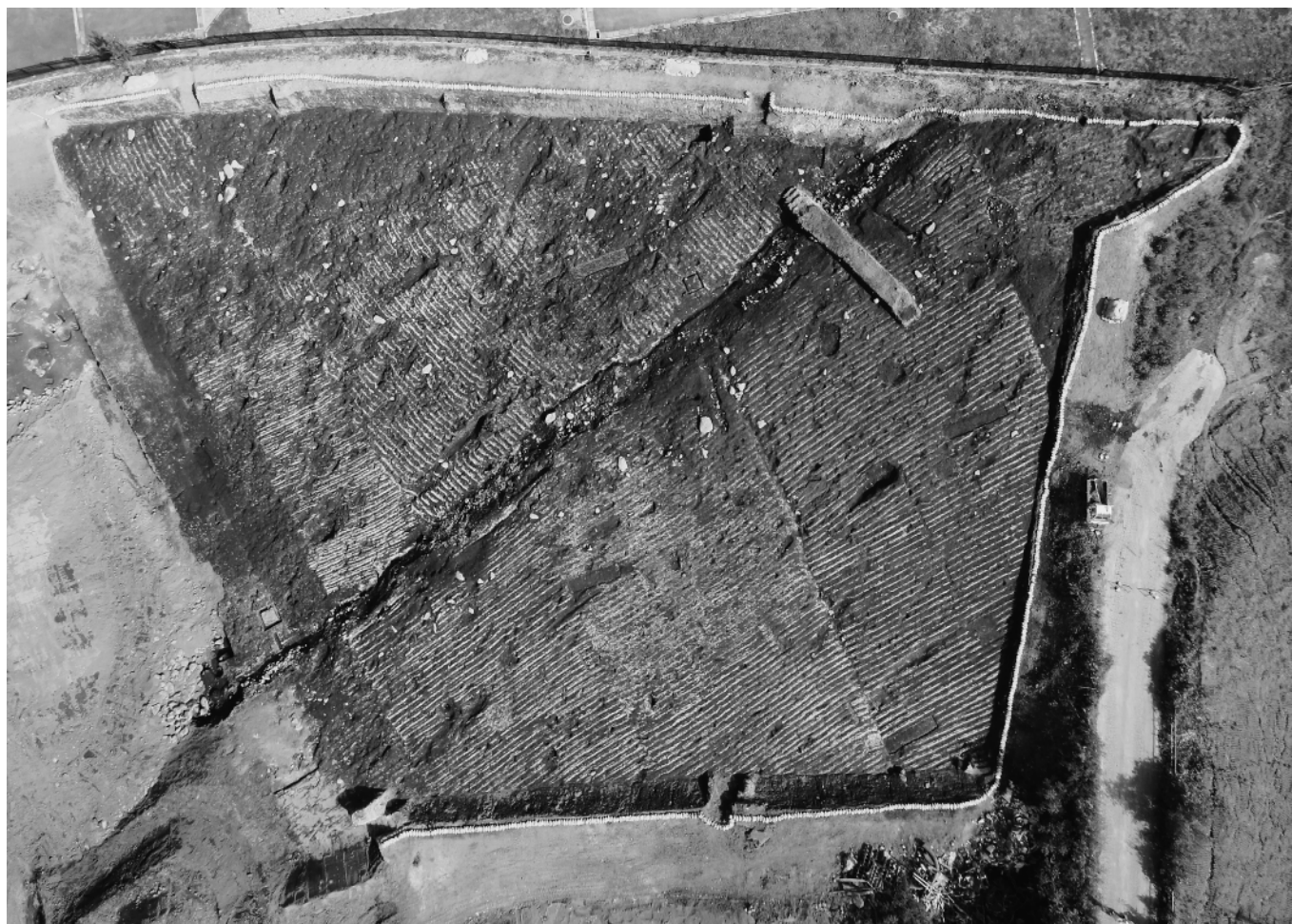
1 A区1面 調査区全景 北から



2 A区1面 As-A泥流下畑全景 上空から



1 B区1面 調査区全景 北から



2 B区1面 As-A泥流下畑全景 上空から



1 C区1面 As-A泥流下畑全景 北西から



2 C区1面 As-A泥流下畑全景 上空から



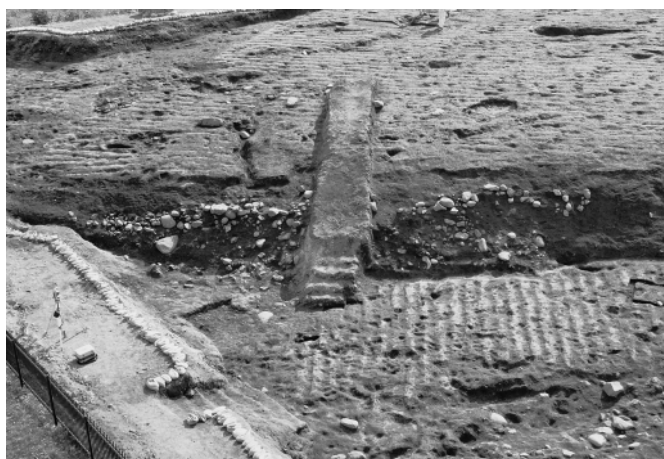
1 9号畑 検出状況 北東から



2 15号畑 畝(畝間)端部 北から



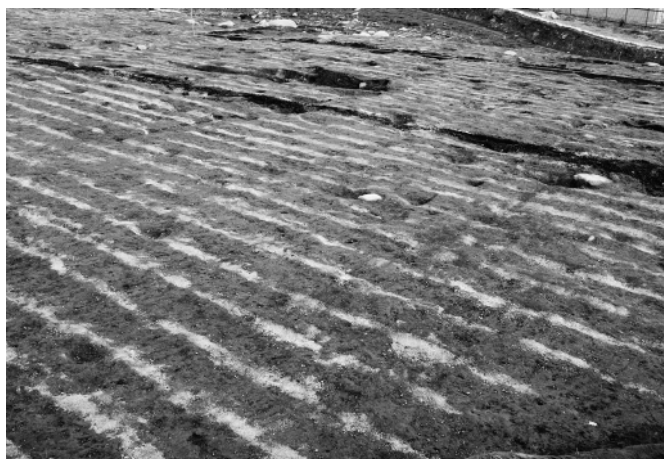
3 上段畑(20～24号畑)検出状況 南東から



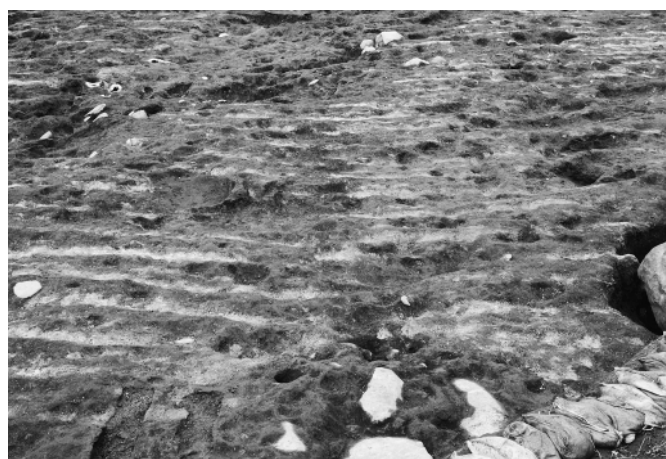
4 上段畑(20号畑)・下段畑(27号畑)検出状況 北から



5 20号畑 土層断面 南西から



6 K 8-5・21号畑 検出状況 南から



7 37・38号畑 畑境 南西から



8 44・45号畑 検出状況 北東から



1 47号畑 作業痕 北西から



2 48号畑 検出状況 南西から



3 K 8-1・51号畑境 検出状況 東から



4 K 8-2・51・52号畑境 検出状況 東から



5 K 8-5・22号畑 検出状況 南東から



6 K 8-5・22号畑 畑境 南西から



7 5号畑 畝・畝間土層断面 南から



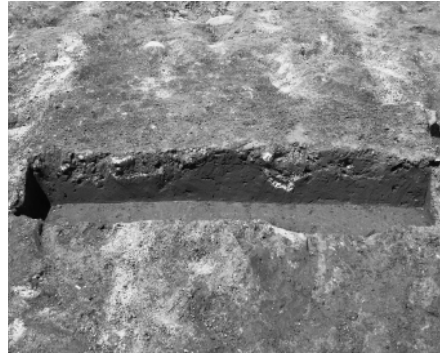
8 6号畑 畝・畝間土層断面 北から



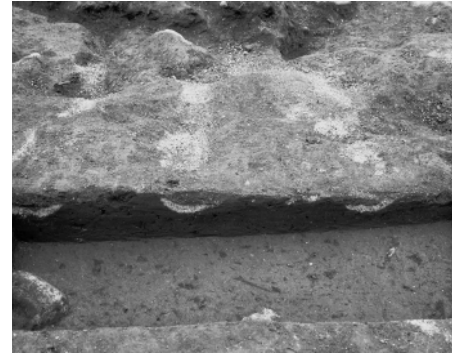
9 8号畑 畝・畝間土層断面 北から



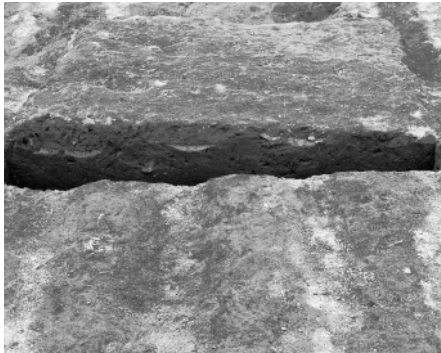
1 9号畑 畝・畝間土層断面 北から



2 10号畑 畝・畝間土層断面 東から



3 12号畑 畝・畝間土層断面 北から



4 22号畑 畝・畝間土層断面 西から



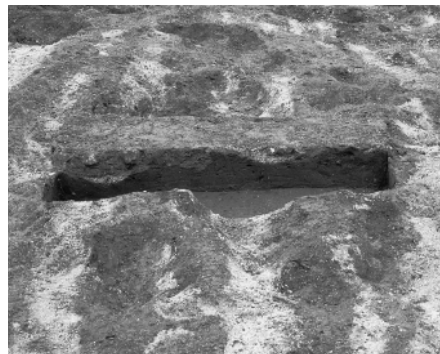
5 23号畑 畝・畝間土層断面 南西から



6 26号畑 畝・畝間土層断面 東から



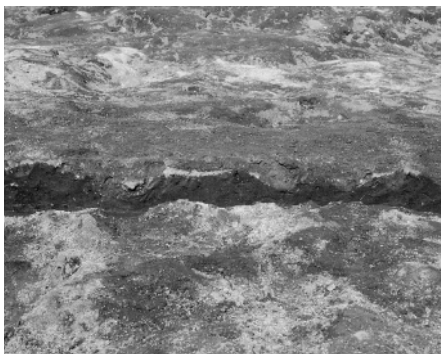
7 29号畑 畝・畝間土層断面 南西から



8 30号畑 畝・畝間土層断面 西から



9 31号畑 畝・畝間土層断面 西から



10 32号畑 畝・畝間土層断面 南から



11 35号畑 畝・畝間土層断面 東から



12 37号畑 畝・畝間土層断面 西から



13 38号畑 畝・畝間土層断面 東から



14 45号畑 畝・畝間土層断面 東から



15 46号畑 畝・畝間土層断面 東から



1 47号畑 畝・畝間土層断面 西から



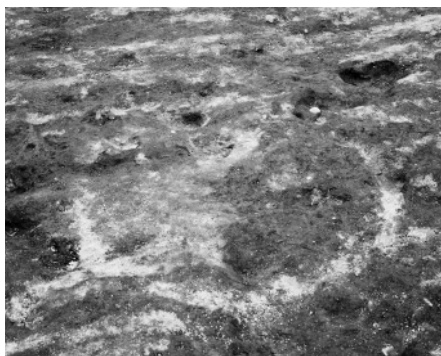
2 48号畑 畝・畝間土層断面 東から



3 K8-5号畑 畝・畝間土層断面 南東から



4 1号円形平坦面 東から



5 2号円形平坦面 東から



6 3A号円形平坦面 北東から



7 3B号円形平坦面 東から



8 4号円形平坦面 北東から



9 6号円形平坦面 東から



10 7号円形平坦面 北東から



11 12号円形平坦面 北東から



12 13号円形平坦面 北東から



13 19号円形平坦面 西から



14 21号円形平坦面 東から



15 22号円形平坦面 南西から



1 23号円形平坦面 南東から



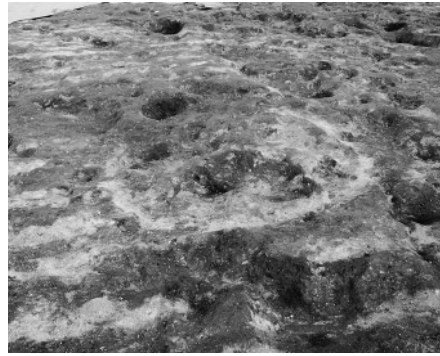
2 26号円形平坦面 東から



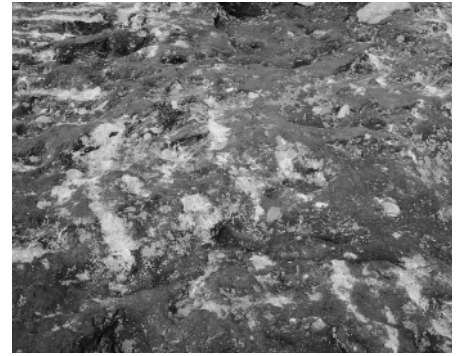
3 27号円形平坦面 東から



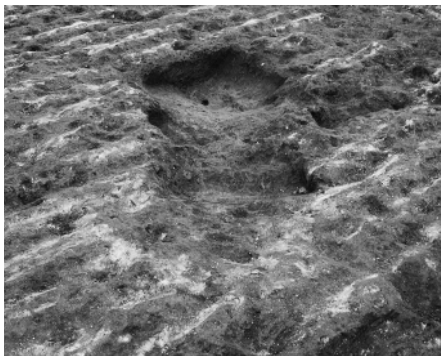
4 28号円形平坦面 東から



5 32号円形平坦面 西から



6 33号円形平坦面 南から



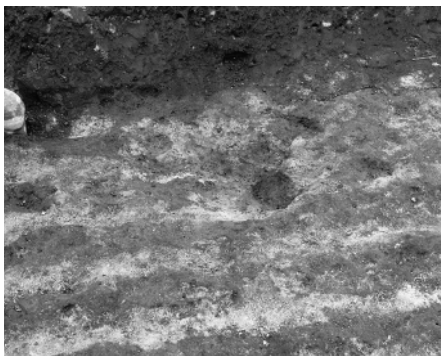
7 35号円形平坦面 東から



8 36-1号円形平坦面 北西から



9 43号円形平坦面 南西から



10 46号円形平坦面 北東から



11 49号円形平坦面 北西から



12 K 8-5号円形平坦面 南西から



1 上段畑(1・4・5号畑)と下段畑(6～9・16号畑)との段差 北東から



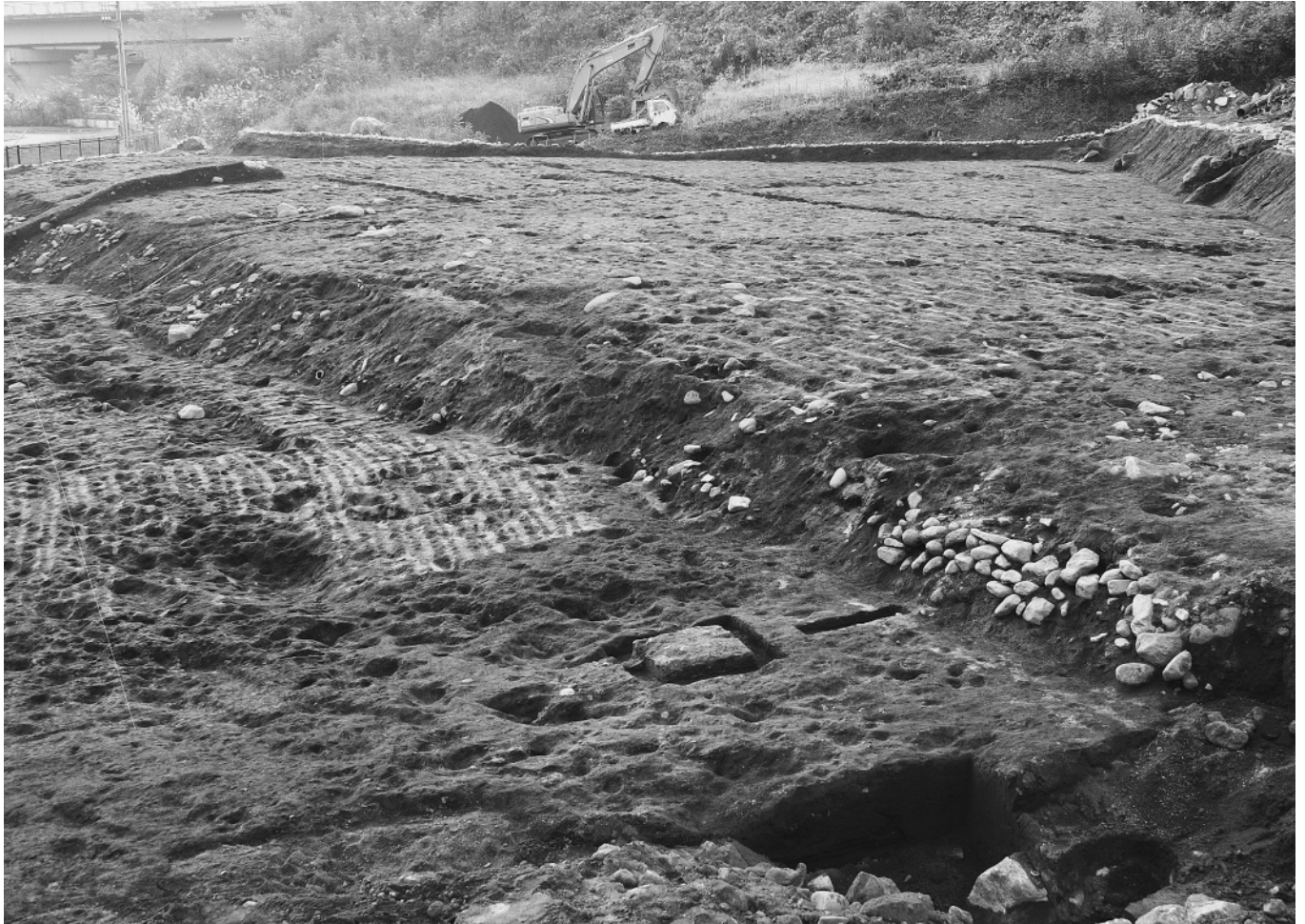
2 上段畑と下段畑との段差 東から



3 段差石垣状況(1号石垣) 北東から



4 段差に伴う柵列(2号柵列) 西から



1 上段畑(20・24・26・4号畑)と下段畑(27・28・33・30・16・6号畑)との段差 西から



2 上段畑と下段畑との段差 東から



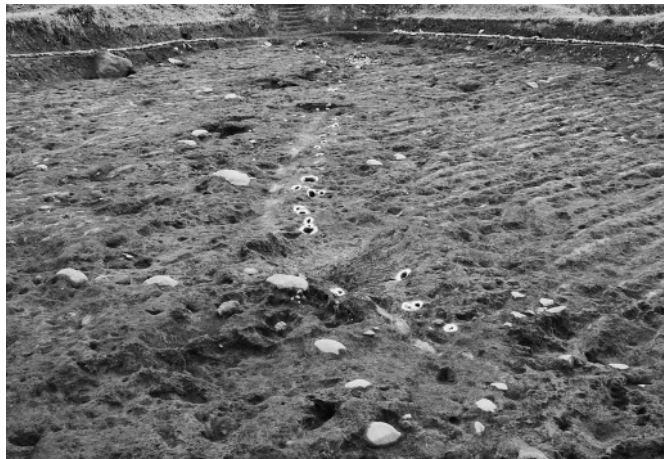
3 段差石垣状況(2号石垣) 北東から



4 2号石垣状況(東側) 北東から



5 2号石垣状況(西側) 北東から



1 3号道 東から



2 4号道 北東から



3 5号道 北東から



4 21・23号畑 畑境 北東から



5 1・2号溝 南西から



6 1・2号溝に伴う杭列 南西から



7 2号ヤックラ 西から



8 3号ヤックラ 南から



1 H28年度調査 1面 As-A泥流下畑全景 西から



2 H28年度調査 1面 As-A泥流下畑全景 上空から



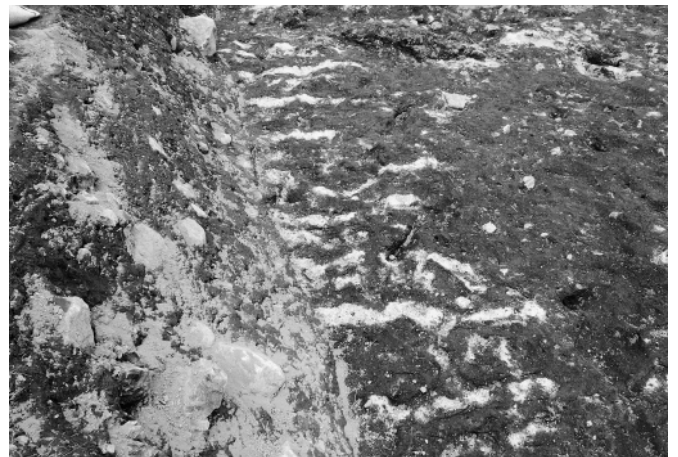
1 36・54号畑 検出状況 南東から



2 50号畑 検出状況 東から



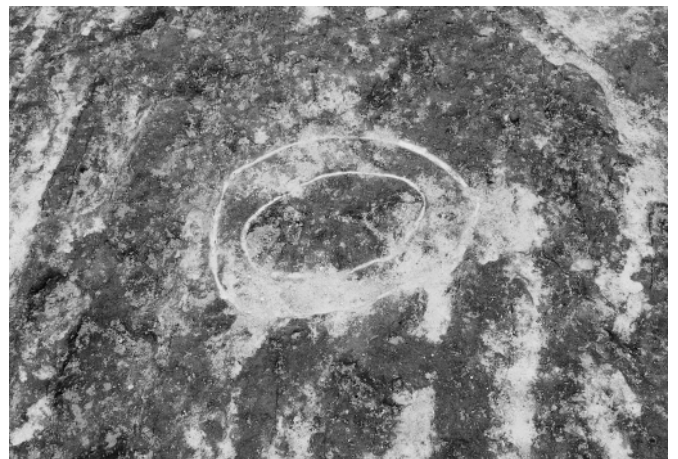
3 36・52・53号畑 検出状況 南東から



4 55号畑 検出状況 東から



5 36-2号円形平坦面 南東から



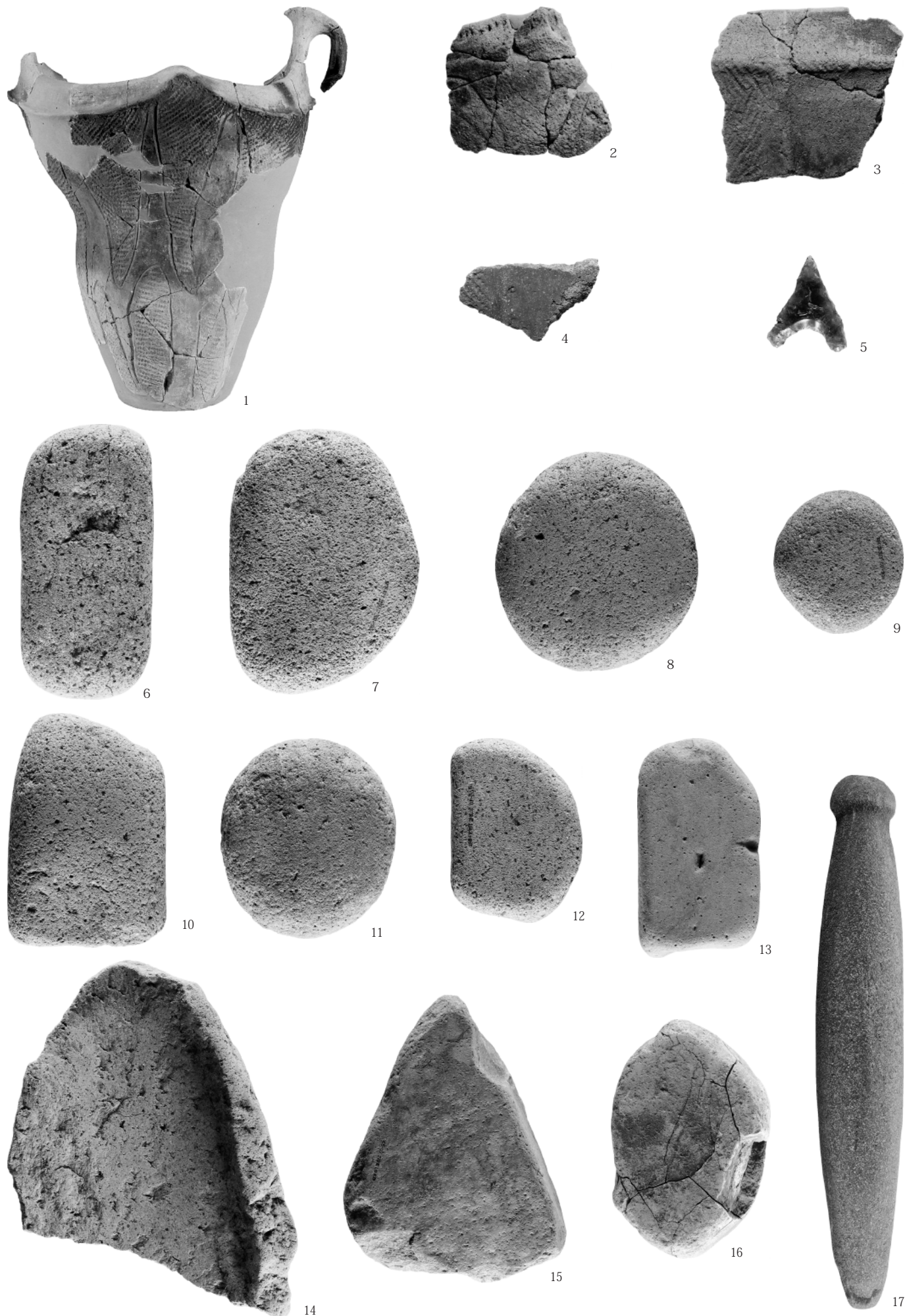
6 52号円形平坦面 南東から

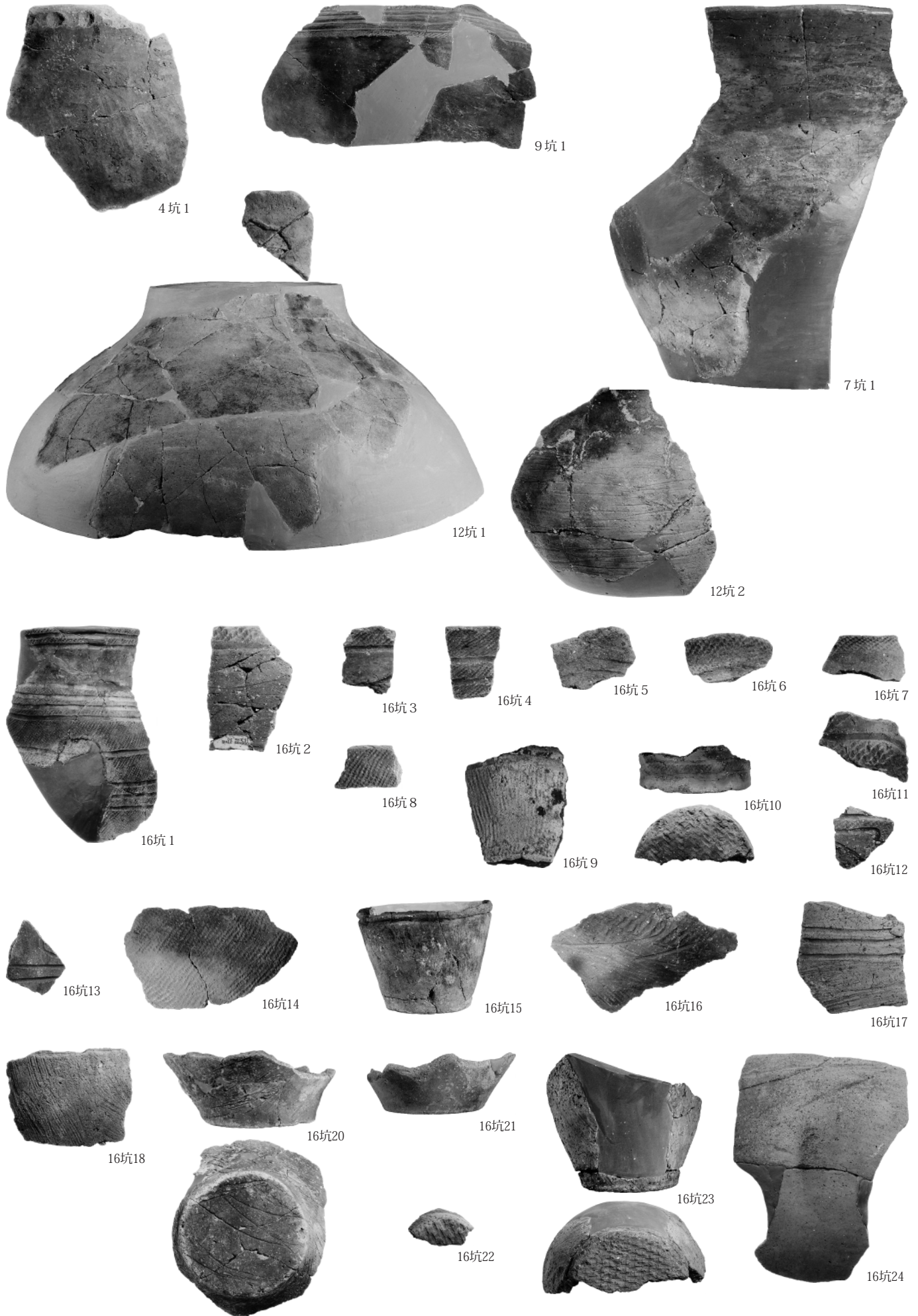


7 3号道・3号ヤックラ 東から

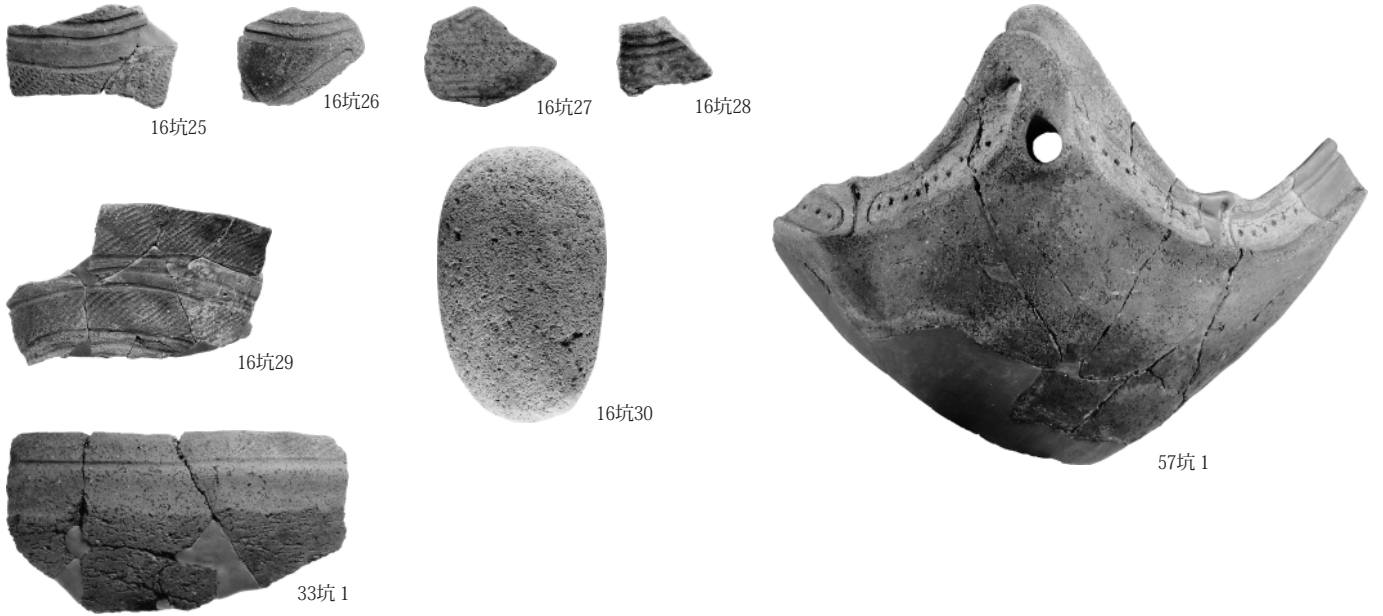


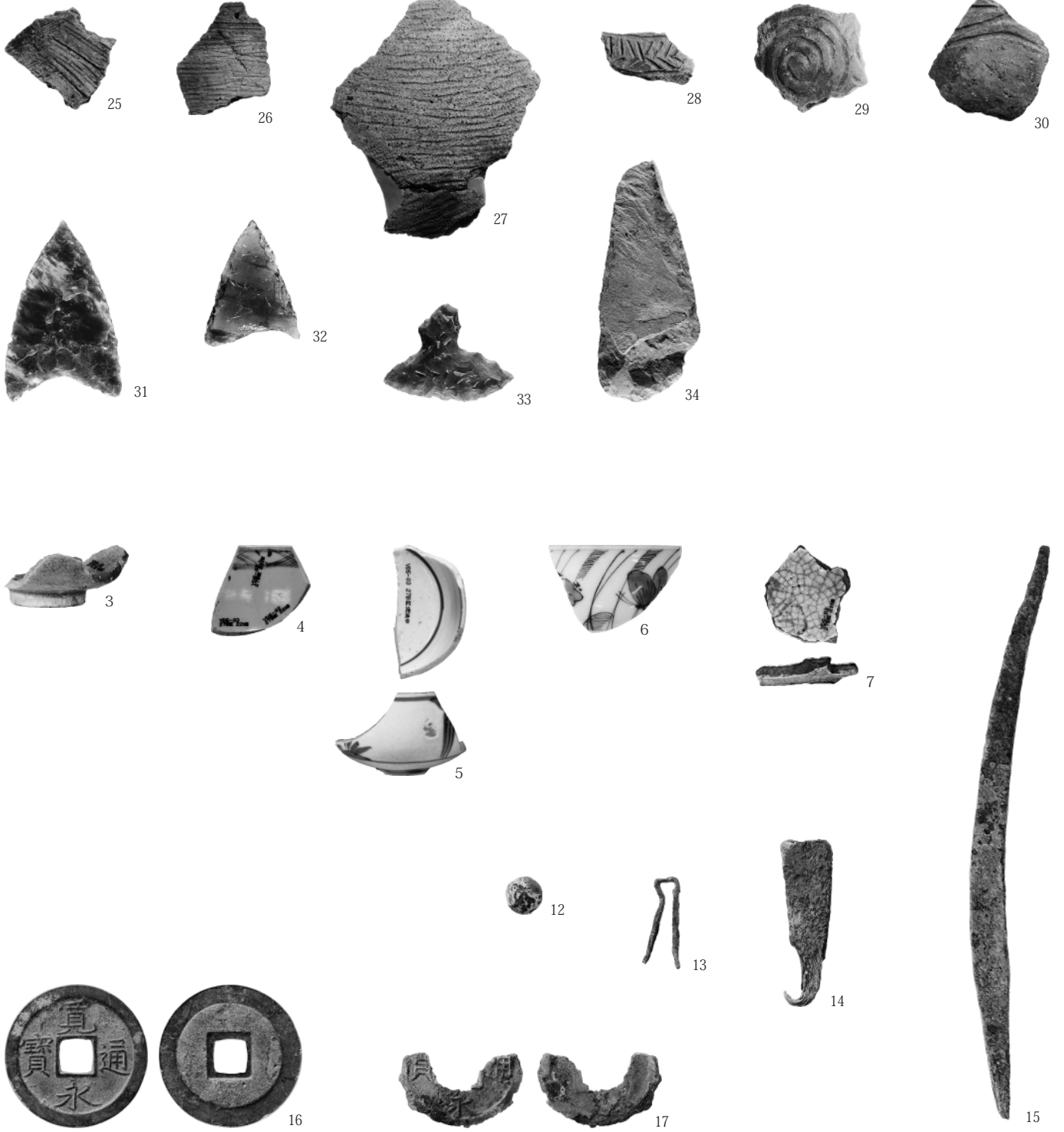
8 第2面遺構確認トレンチ 東から





久々戸遺跡





久々戸遺跡 出土遺物

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書 第627集

上原Ⅲ遺跡(2)・久々戸遺跡(3)

ハツ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第50集

平成29(2017)年3月3日 印刷

平成29(2017)年3月10日 発行

編集・発行／公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

〒377-8555 群馬県渋川市北橘町下箱田784番地2

電話(0279)52-2511(代表)

ホームページアドレス <http://www.gunmaibun.org/>

印刷／川島美術印刷株式会社

久々戸遺跡(3)

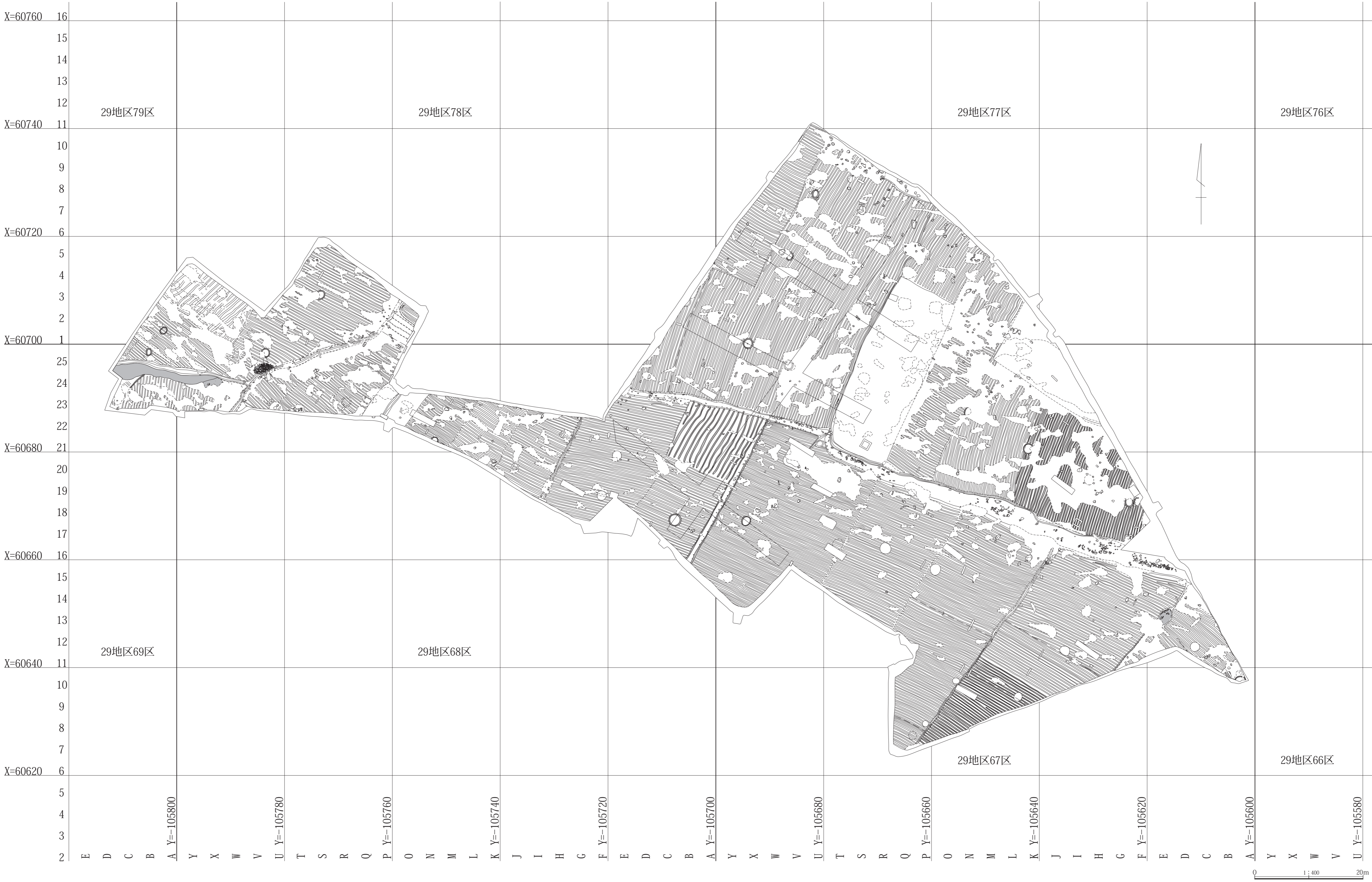
八ッ場ダム建設工事に伴う

埋蔵文化財発掘調査報告書第 50 集

付図－1 全体図 (1 : 400)

付図－2 全体図 (1 : 800)

久々戸遺跡 付図-1 1/400



久々戸遺跡 付図-2 1/800

